徳島の剣道

特報

第41号

1.《特別寄稿》
　長谷川 智(修験道)　森 慎吾(杖道)
2.新範士誕生
3.全国スポーツ少年団剣道交流大会優勝
4.全国薬業剣道大会二連覇
5.みなと小松島社会人大会の創設

徳島県剣道連盟

快挙!!　大塚製薬全国薬業剣道大会二連覇

みなと小松島社会人大会の創設

第１回大会優勝　城北ＯＢⅠ

巻頭言

不適切な言動に見て見ぬふりをしない環境を！

徳島県剣道連盟 会長 藤川和秋

令和六年十二月三十一日（火）の徳島新聞に「徳島県軟式野球連盟が不適切な言動に警告カード」と題し、指導者や保護者が行った試合中の罵声や不適切な言動に対し審判員が「すだち君警告カード」を交付し警告するとの内容で、マナー向上とスポーツハラスメント対策として、令和七年一月一日から導入するとの内容でした。警告を受けた者は即時退場処分となり、また交流サイト（ＳＮＳ）への誹謗、中傷などの投稿も対象に含めるとし、厳しい処分が課されます。指導者の行き過ぎた言動に対し、連盟に対策を求める投書があったことをきっかけに導入を進めていたとのことでした。要するに観戦者、指導者、監督は選手の目線に立って応援や指導を行って行くこと。そして大会等で不適切な言動が見られた場合、大会関係者は「見て見ぬふりをしない」ことが大切であるということです。剣道界も所属チームに関係なく剣道大会等においても、大会役員、審判員が不適切な言動を指摘できる環境を作って行く必要があるように思います。

少子化の中、剣道教室の剣士は徳島県剣道連盟にとっては大切な宝です。連盟全体で少年剣士を育てていくという共同意識が必要です。その前に一番大事なのは、それぞれの剣道教室での指導者、保護者、子供達の共同意識が重要です。指導者は、高み目線で一方的にやらせるのではなく、子供達が主体性を持って剣道に取り組めるよう指導、育成していくことが、今の時代、スポーツ界で生きていける重要な要素だと思います。

ＤＳＰＯのコーチングアシスタント資格名称変更に伴う動画の中で、体罰や暴言が無くならない理由として

○悪いことだと知っていながら体罰、暴言に代わる指導方法を知らない（勉強不足）

○自身の怒りの感情をコントロールできない（スキル不足）

○教育の一環として保護者の同意があれば許されるといった誤解（認識不足）

を上げています。剣道連盟会員の皆さん、今一度全日本剣道連盟が制定した剣道の理念を思い起こして下さい。「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」ということ。そして、剣道指導の心構えとして「剣道は、時代を超えて学び合う道である。」と説いています。少子化の現在、少年剣士の心情に寄り添った指導が求められているのです。

令和七年は、連盟会員皆さんが現状を互いに認識し、協力しあって目標に向けて前進して行きましょう。

『徳島の剣道 第四十一号』目次

巻　頭　言……藤川　和秋……1

《特報一》特別寄稿
修験道から発想した身心技法……長谷川　智……5

《特報二》新範士誕生
居合道範士号拝受にあたり……坂本　憲一……10
坂本先生範士受称おめでとうございます……安田　勝裕……14
坂本先生おめでとうございます……大石　雅生……15
坂本憲一先生の世界……木原　資裕……17

《特報三》全国スポーツ少年団剣道交流大会優勝
第四十七回全国スポーツ少年団剣道交流大会に優勝して……河田　清実……19

《特報四》全国薬業剣道大会二連覇
第二十一回全国薬業剣道大会優勝……綾部　文明……23

《特報五》みなと小松島社会人大会の創設
第一回みなと小松島社会人剣道大会を開催して……園田　慎吾……28

顕彰一覧

剣道有功賞
剣道有功賞をいただいて……塩田　善治……33
わが恩師　受賞のよろこび……高木　壽史……35

少年剣道教育奨励賞
少年剣道教育奨励賞を受賞して……藤川　和秋……37
少年剣道教育奨励賞を受賞して……松村　和宏……39

スポーツ功労賞
スポーツ功労賞を戴いて……松田　久司……41

生涯スポーツ賞
生涯スポーツ賞を受賞して……中村　稔裕……43
令和六年度徳島県中学校剣道優秀選手……44
令和六年度徳島県高等学校剣道優秀選手……45

先生を偲ぶ
剣道範士 大澤譲二先生を偲ぶ……原田　勝……46
大澤孝彰先生を偲んで……久保　宜明……48
大澤孝彰先生との思い出……山本　泰史……50
鎌田恵先生を偲ぶ……米倉　滋……52
鎌田恵先生を偲ぶ……村井　正志……54

全国講習会報告
続・日本剣道形から考える……平野　誠司……56
第五十九回剣道中央講習会報告……山室　雅幹……60
剣道授業協力者講習会に参加しての所感……青木　博志……65

剣道に役立つ医学知識
剣道における感染症対策の今後……佐々木克哉……67

大会・行事所感
中四国地区稽古会……木下　裕康……69

各種大会に参加して
第七十二回全日本都道府県対抗剣道優勝大会に出場して……西田　凌介……70
第十六回全日本都道府県対抗女子剣道大会に参加して……山﨑　砂織……71
第二十二回全日本選抜剣道八段優勝大会に出場して……玉田　晋作……73
全国高等学校剣道選抜大会に出場して……橋本　和馬……75
全国高等学校選抜大会に出場して……森長　未来……76
インターハイに出場して……藏本　望海……78
インターハイに出場して……中村　莉音……80
全国中学校剣道大会に出場して……中岡　亮仁……82
全国中学校剣道大会に出場して……橋本　愛生……83
第七十二回全日本剣道選手権大会に出場して……岩原　潤哉……85
第六十三回全日本女子剣道選手権大会に出場して……岩原　千佳……86
パナソニック杯第十八回全日本都道府県対抗
少年剣道優勝大会に参加して……山本　泰史……88

第七十回記念全日本東西対抗剣道大会に出場して……玉田　晋作……92
第七十回全日本東西対抗剣道に参加して……山名　信行……94
第六十六回全国教職員剣道大会に参加して……大石　哲生……96
四国教職員剣道大会に参加して……野村　翔輝……97
国民スポーツ大会を通して……山室　和士……100
第六十八回全国警察剣道大会に参加して……六條　洋二……102
第七十二回全国青年大会出場について……堀田　紘佑……104
全国青年大会に出場して……澤田　菜摘……106
剣道が教えてくれたもの……谷本　遙……108
剣道を通して学んだこと……平野　大翔……109
剣道に恩返しをすること……岸田　敏春……110
第四十六回全日本高齢者武道大会に参加して……松本　憲二……112
第三十回徳島県健康福祉祭(県ねんりんピック)開催状況……松本　憲二……114
第三十六回全国健康福祉祭とっとり大会(二〇二四)に参加して……兵頭　新平……116

随　想

唯一無二の阿南武道親交会……坂本　信幸……118
徳島県武道館の思い出……藤本　辰夫……121
退職から九年を振り返って……中山　繁輝……123
私と剣道……藤本　常己……125
垂ネーム……受川　東……128
不染汚……岩木　一功……130

称号・段位合格者

七段に合格して……床嶋　亮……133
感謝の七段合格……武藏　純郎……134
七段に合格して……松本　憲二……135
剣道七段に合格して……森本　武夫……136
七段昇段の御礼……西堀　和文……137
剣道七段に合格して……泊　利治……139
七段に合格して……川島　誠右……141
剣道七段に昇段して……小笠原　徹……143
昇段するまでの道のり……清水　英典……144
七段審査に合格して……福永　康浩……145
剣道七段に合格して……湯村　義喬……147
六段審査に合格して……白木恒二郎……148
六段に合格して……田村　健明……150
六段に合格して……原　知永……151
六段審査合格に至るまで……大城　幸子……153
六段審査に合格して……蛇目　英樹……154
剣道六段審査に合格して……浅田　光貴……155
六段審査を振り返って……鈴木　千尋……156
六段審査に合格して……梶　浩人……158
六段昇段を経て……鈴木健太郎……160
六段審査に合格して……後藤田萌愛……161
継続は力なり……井川　理之……163
剣道練士に合格するまで……安藝　智子……164
称号・段位合格者一覧……165

居合道部会

活動報告

居合道部会活動報告……満壽　良史……170

講習会報告

第五十一居合道中央・地区講習会報告……坂本　憲一……172

大会・行事所感

全日本居合道大会に出場して……満壽　良史……174

称号・段位合格者

称号・段位合格者一覧……176
居合道五段をいただいて……大石　雅生……176

居合道六段審査に合格して……鎌田　貴……178
随　想
「丁寧」ということ……林　由美……180
道場紹介
修武館道場に於ける居合稽古……武田　修典……182
剣道と居合に出会って……川人　政利……184
杖道部会
《特別寄稿》
私の杖道観……森　愼吾……186
活動報告
杖道部会より……米倉　武志……189
講習会報告
杖道中央・地区講習会を受講して……筒井　勇……190
四国地区杖道講習会(高知)参加報告……徳山　豊……192
黒郷先生講習会……中尾　幸雄……194
第十一回広島杖道大会及び交流稽古会に参加して……筒井　勇……196
称号・段位合格者一覧……198
称号・段位合格者
杖道会に入門して……久保　隆司……198
杖道初段を受審して……郡　忠明……199
随　想
ぶらり九州　武道探訪の旅……一村　昌和……201
杖道について……秦　章代……205
がんばろう徳島
専門部報告
事業部……平尾　満紀……207
審査部……生田　浩章……209
強化部……白木　洋一……210
少年部……臼木　崇……213
女子部……竹内佳代子……214
審判部……冨浦　廣志……216
中体連……松本　真治……218
高体連専門部……河野　寿仁……220
大学連……木原　資裕……223
高齢剣友会……松本　憲二……225
徳島県剣道稽古場所一覧……226
居合道　道場案内……229
令和六年度　大会記録……230
徳島新聞に見る戦いの跡……254
令和七年度　昇段審査学科試験問題・解答例……281
令和七年度　徳島県剣道連盟行事予定表……295
令和七年度　審査実施計画表……297
徳島県剣道連盟審査資格・審査料等……299
編集後記

表紙題字　堀江幸夫
（元徳島県剣道連盟名誉会長・故人）

さし絵　村嶋恒徳
（茨城県在住）

《特報二》 特別寄稿

修験道から発想した身心技法

山伏・一橋大学非常勤講師　長谷川　智

長谷川 智と申します。縁あって、二〇二四年七月十三～十四日、大学連主催の講習会で「修験者に学ぶ心と身体の使い方」というワークショップを担当させていただきました。本稿では、その講習会の実施記録を中心に報告させていただきます。

一　自己紹介

私は、山伏にして体育教師です。山形県出羽三山で修行した羽黒派古修験道先達（二十度位）の山伏です。山伏は半僧半俗、里では、いくつかの大学で保健体育の非常勤講師、健康体操クリエーター&指導者をしています。「技術の向上と人間形成」をテーマに、山の修行で得た智恵と技を学生や一般の方々に伝授しています。

子どもの頃から、「河原のススキがフッと揺れるのを見て、悟れるような人間になりたい」と求道的な道に憧れていました。侍のようになりたいと思い、剣道の専門家養成コースがある筑波大学に進み、剣道部に入部しました。日本一厳しいといわれる稽古に耐え、試合に出るメンバーに選ばれたい、日本一になりたいと、がむしゃらに剣道に取り組みました。ところが、競技に徹して編み出した技を「邪道」と言われてしまいました。

では、「正道とは何か?」「剣の理法の修錬による人間形成の道とは?」「正しい剣道をしていれば、本当に良い人になれるのか?」「そもそも良い人になるとは、どういうことか?」という疑問に取り憑かれ、苦悩する日々が続きました。

そんな時、武道学会で聴いた、湯浅泰雄先生（当時、筑波大学哲学科教授）の「気・修行・身体」という講演に、心を奪われました。「東洋的修行」、特に密教的ヨーガは、身心変容の技と心がダイレクトにつながっていると感じました。これが自分の求めていた道だと確信し、剣道から離れ、「東洋的修行」に活路を求めました。先輩や仲間からは、「よく剣道を辞められるな」と驚かれましたが、自己矛盾を抱えたまま、剣道を続けることはできませんでした。以来四十年、修行を中心とした日々を過ごしています。

修行生活を続ける中で、「身体を通して、心を育てること」が、少し見えてきたように思います。そして、「技術の向上と人間形成」のための具体的な身心技法を開発してきました。最近、その身心技法に興味を持ってくださる剣道関係の方から、発表と指導の機会をいただくことが増えてきました。今更おこがましいと思

う気持ちもありますが、剣道から離れたからこそ見えてきたこともあると思い、恩返しのつもりでお話させていただいています。

二　大学連主催講習会「修験者に学ぶ心と身体の使い方」

今回の徳島での講習会も、その一つです。

講習会では、いつも皆さんに西洋的な体育だけではなく、日本の伝統的な身心技法の一端に触れていただきたいと思っています。

修験道は、様々な整体術・武道・芸道の源泉です。修験道の修行で知った心と身体の使い方は、大学の体育の専門教育を受けた私にとって、未知の世界でした。初めて、出羽三山神社主催の「秋の峰」という山伏修行に参加した時のことです。峰中堂という修行道場で、山伏仲間に腰痛を治してもらったのですが、痛くない、心地好い方向に関節を動かすだけで、不思議と痛みが軽減したのです。後で調べてみると、それは「操体法」という整体術でした。日本に昔から伝わる逆モーション療法という、無痛の整体術を橋本敬三医師が集大成したものです。

体育の世界では、「痛いところは筋肉がこわばっているから、ストレッチして筋肉を伸ばす」、あるいは「筋肉が弱いから、筋トレで筋肉を強くする」というのが常識ですが、それとは全く違うアプローチにビックリしました。

以来、調べてみると、日本には伝統的な整体術、整体法が多数あることがわかりました。それらを私なりにアレンジして、「ナンバ式骨体操」「ホネナビ関節体操」「山伏整体」として、皆さんにお伝えしています。

㈠　痛くない動きで、身体のバランスを整える

それらの自己整体法の基本コンセプトは、痛くない動きで、身体のバランスをとっていくというものです。

まず、身体を前後に曲げて、その時の痛みや違和感、気持ち良さを感じます。「前後に曲げて、気持ちいいのはどちらですか?」と問いかけると、多くの方がキョトンとします。西洋的な体育では、どれだけ曲がるかは考えても、どちらが気持ちいいか、痛いかを感じながら動くことなどありません。そこで、身体の感覚に注意を向けながら、もう一度、前後に曲げてもらいます。そして、気持ちいい方、痛くない方、何ともない方を二～三回、気持ちよく曲げてもらいます。

一般的には、痛みのある方、違和感のある方を伸ばしたり、動かしたりしますが、痛みは、身体が発する危険信号、「やめてくれ～」の合図です。「イタきもちいい」も「イタ（痛）」がついているからダメです。純粋に気持ちいい方、あるいは何ともない方を動かした後、またチェックのつもりで、前後に曲げてみます。多くの場合、痛みが軽減したり、良く曲がるようになっています。気持ち良さをてがかりに、身体のバランスを整えていきます。

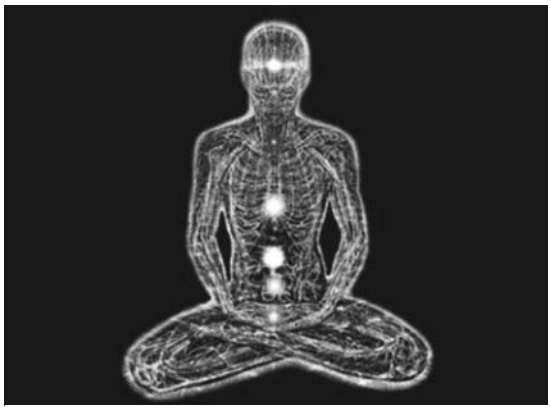
他にも、「筋肉を意識するのではなく、骨・関節を意識する」「部分を使うのではなく、全身を連動させて動かす」など、注意の置き所を変えるだけで、身体を上手に使うことができます。私

は、これを身体観、運動プログラムの書き換えと言っていますが、実は、伝統的な武道の身体運用法に回帰することでもあります。

㈡　心の体操（チャクラの心境を実感するワーク）

心と身体のつながりを実感し、統合させていく身心技法です。「技術の向上と人間形成」を体認するための身心技法の核となるものと考えています。

二〇一四年、一橋大学の古武術の授業で、学生が杖術の「四方突き」をしていた時のことでした。自分の情けない心を懺悔するような気持ちで「四方突き」をしたところ、肩の力が抜け、下丹田が充実した状態で、非常に速くスムーズに杖が扱えたのです。私自身、それを見ていて、心のあり様がこんなにも大きくパフォーマンスに影響するものかと驚きました。ならばと、密教ヨーガのチャクラ理論に則って、様々な心のセッティングと気の流れ、身体の動きの関係を実験的に調べていきました。



チャクラ（人体の中枢）

チャクラ理論は、人間の心理的発達段階の一つのひな型です。丹田という概念とも一致しています。チャクラとは、エネルギーの中枢で、「現実の体と心」と「より深層の身心」をつなぐ入口です。それぞれのチャクラが活性化した時に拓ける心境があり、それは個人的な意識の領域から利他の心、それをも超えた大いなるものとつながる境地まで広がっていきます。試行錯誤の末、二〇一六年に「心の体操（チャクラの心境を実感するワーク）」として、ある程度体系化し、その後も進化させつつ現在に至っています。

「剣を学ばんとするものは、まず心から」と、よく言われます。しかし、若い頃の私は、目先の技術習得、勝負に注意がいきがちで、なかなか面と向かって心の問題に触れることはありませんでした。武道の技を極めることが、人間形成の道に通じるであろうことは、理屈ではわかっていても、実際にそれを身の実感をもって理解することは難しいと思っていました。それはそれ、これはこれとなりがちでした。

それが、東洋的な修行を続けてきた今、「技を極めたかったら心を磨け！」「勝ちたかったら心を磨け！」ということが、確信できるようになりました。もちろん、私自身、修行の途中です。我欲を捨てきれませんし、修羅の心に振り回されることもあります。懺悔の日々です。ですが、自戒の念を持ちつつ、私なりに「心の大切さ」をお伝えしたいと考えています。

以下に、その一部をご紹介させていただきます。

◎リスペクト（敬意をはらう）

武道は礼を重んじ、「礼に始まり、礼に終わる」と教えられます。しかし、多くの場合、意味もわからず、その実効性も得られ

ないまま、ただやっているのではないでしょうか。

道場に入る時、出る時に礼をする。道具を大切にする。稽古相手、試合相手に対して、敬意をはらう。そして、自分自身の身体と心を大切に扱う。その必要性、大切さを身の実感をもって理解してもらいたいというのが、ねらいです。

【ワーク1】

椅子に座っている人を立たせる。

イラっとした気分で、無理やり立たせようとすると、思わず抵抗されます。ところが、相手をとても大切に思って、リスペクト（敬意）の気持ちをもって立たせると、自然に立たせることができます。さらに、相手に対して手を合わせて（合掌して）、リスペクトの気持ちを増幅させてから、立たせようとすると、更にスムーズに立たせることができます。

【ワーク2】

竹刀の剣先を打ちます。

剣先に集中して、外さないように打ちます。次に、竹刀をとても大切に思って、打ちます。心の持ちようによって、どんな違いがあるか試してみてください。

リスペクトの想いでやると、パフォーマンスが上がるということを身の実感をもって理解すると、虚礼ではなく、本心からの「礼」の気持ちが立ち上がってくると思います。

◎三つの丹田

剣道だけでなく、武道において、下丹田の充実が大切というのは、よく耳にするところです。私も、様々な錬丹法を指導しています。また、私は「東洋的修行」を通して、中丹田、上丹田の存在を知りました。そして、下丹田の充実だけでなく、中丹田、上丹田を合わせた三つの丹田を充実させることが大切だと思うようになりました。下丹田の充実だけだと、エネルギーが暴走して、ただの暴れん坊になってしまう危険性があります。そのエネルギーをみんなのために使う慈悲・慈愛の心（中丹田）と、正しい方向に使うための智恵（上丹田）も一緒に合わせ持つことが必要です。三つの丹田を意識して、バランス良く使うことを目指して欲しいと思います。

最後に、最近開発した、下丹田の充実法をご紹介します。

【ワーク3】

相撲の腰割りのようなポーズをとります。肩を下げて、大きなボールを持ち上げるように構えます。ペアの人に、二の腕を押してもらいます。下丹田にエネルギーが集約する感覚を感じてください。

まず、同じ構えをしながら、「気力」「気合い」と思ってみてください。より一層、エネルギーの充実が感じられることでしょう。しかし、ともすると、肩に力が入ってしまいます。

次に、「愉快な心」「子どものような無邪気な心」を取り出してみてください。すると、肩の力が抜けて、下丹田が充実した上虚下実の状態になります。

昭和の剣聖と言われた中倉清先生が、「稽古のコツは、愉快にやること」と仰っていたそうです。若い頃、何度か稽古をつけていただきましたが、伸び伸びと実に楽しそうに稽古していらっしゃったお姿が思い出されます。

三　おわりに

今回、講習会にご参加くださった、剣道、居合道の指導者の方々とお話させていただきました。現場で指導するにあたって、人間形成の側面をどう位置づけるか、どう指導するかに苦慮していらっしゃるとお聞きしました。特に、子ども達には、頭ごなしに強制することは、かえって害になることもあります。ややもすると指導者の前でだけ、大人の目があるところでだけ取り繕う、表裏の使い分けが上手な人間になってしまう危険性があります。「良い心」と「良い剣道」、そして「勝つ剣道」が一致するためには、どうしたらいいのか。剣道を学ぼうとする皆さんには、身の実感をもって理解を深めていってもらうことが大切だと思います。「心の体操（チャクラの心境を実感するワーク）」が、その一助になれば幸いです。

鳴門教育大学の木原先生をはじめ、お世話になりました皆さまに、心よりの感謝を込めて。どうもありがとうございました。

《特報二》 新範士誕生

居合道範士号拝受にあたり

居合道部　坂本憲一

全日本剣道演武大会は、全国の剣道人（剣道・居合道・杖道の三道）が一年間の修練の成果を披露すると共に、参加者同士の友好親善を図るを目的として、明治二十八年以来開催されている全剣連の伝統的行事の一つであります。

本大会は、今回、百二十回目にあたり、五月二・三・四・五日の四日間、京都武徳殿で開催されました。居合道部門の演武会は五月二日、私の大会参加は六段錬士の資格を得てから数えて今回で二十七回目となります。

今回もコロナ禍対策が構じられ、場内では、観客を避け、演武はすべて全国にネット配信されました。また、私自身が、範士称号の申請をさせて頂いていたこともあり、演武では緊張感がいつもより一層高ぶったのを覚えています。演武終了後は、称号審査の結果発表を待たずして、その日のうちに帰省の途に着きました。

翌日、連休を利用し県外から帰省していた倅夫婦を高松空港に送っていった帰路、「範士合格おめでとう」の一報が携帯に入って参りました。

私自身、初めての申請であり、合格にはまったく無縁のものと思っておりましたことから、発表の事は気にも止めておりませんでした。まさに青天の霹靂、突然の知らせにしばらくは事の成り行きが飲み込めず唖然とする時間が流れました。

居合道範士の称号申請には八段を取得後、八ヶ年の期間を要します。私自身、その資格が出来ていたとは言え、範士申請には、いまだ時期尚早と思っておりましたところ、日頃からご指導頂いている範士の先生方から、言葉を同じくして「八段を取得してから、日々の練習を怠っていなければ、申請すべき」との助言を頂きました。何よりも勇気付けられましたのは、三木名誉会長、藤川会長から申請についてご快諾を頂いたことであります。そして、会長様には推薦の労を執って頂きました。

範士修得より、半年が過ぎましたが、その間、錬士号の審査員、全日本居合道大会における七段優勝戦の主任審判員を仰せつかるなど大役を務めさせて頂きました。範士の付与基準は、「剣理に通暁、成熟し、識見卓越、かつ、人格徳操高潔なる者」と示されており、改めて範士としての責任の重さをひしひしと感じる昨今で御座います。

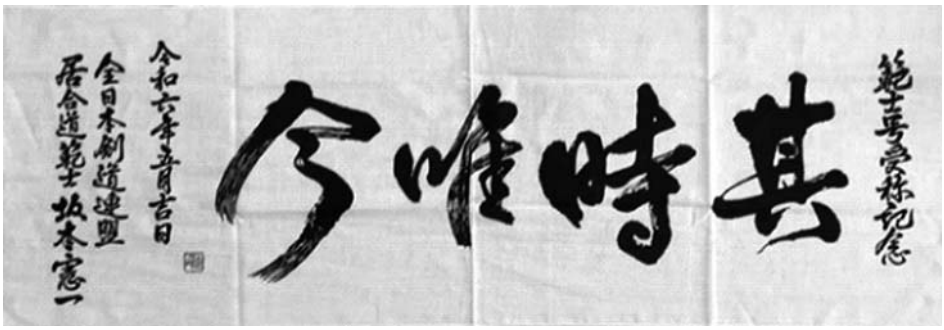
範士拝受の記念の品には、手ぬぐいと風呂敷を用意させて頂きました。手ぬぐいには、武士の生き様を誌した名著『葉隠聞書巻二』の一節「唯今其時其時唯今也」から、末尾の四文字「其時唯

今」を知人の書家、成蹊書道令峰会 泉令峰（吉岡明代）先生に揮毫して頂き、これを染め抜きました。この言葉は、時には優柔不断になる自分を戒めるため座右の銘として使っているもので御座います。

一方の風呂敷には現代刀匠、無鑑査河内國平（河内道雄）師匠揮毫の「武」の字を染め抜きました。これは「戈」を「止」める、すなわち、「武」は、武術の究極の教えを象徴する文字と解して、この一文字を選ばせて頂いた訳で御座います。

居合道を修行するにあたって、私なりに常に感じておりますことは、居合道を修練することにより、身体と精神が錬磨され、それに伴って刀法の技術も向上されていくという先人の教えであります。特に居合は、「勝負は鞘の内」とあります。この究極の教えは、むやみに刀を抜き人を傷つけたり、己をも傷つけたりすることを深く戒めるもので、刀を抜かずして事を未然に防ぎ戦わずして勝つ、すなわち、行き着くところは和順泰平を旨とする教えです。

しかしながら、私は未熟です。いつが来たらこのような境地になれるのでしょうか。これからは、武人として先人の貴重な教えを旨として、自己の錬磨を怠ることなく、範士の称号に恥じないよう専心努力してゆくつもりです。そして、居合道を志す人たちに居合道の本道を正しく伝承して行き、斯界発展に微力ながら尽くして参りたいと存じております。　今後とも宜しくご支援ご指導のほどお願い申しあげます。



弐

弐

坂本憲一先生の経歴

1　剣　歴

昭和２２年１２月　７日　阿波市市場町八幡字町屋敷４１で出生
昭和５７年　５月　１日　野口直之教士七段に師事
昭和５７年　３月　７日　居合道初段合格
昭和５８年　３月　６日　居合道二段合格
昭和５９年　５月２０日　居合道三段合格
昭和６１年１２月　７日　居合道四段合格
昭和６３年　５月１０日　岩田憲一範士八段に師事
昭和６４年　７月　８日　古谷昇教士八段より古伝組立を修得
平成　元年１２月　３日　居合道五段合格
平成　６年　７月１７日　居合道六段合格
平成１２年１１月１８日　居合道七段合格
平成１４年１１月２７日　居合道教士の称号受領
平成２８年　５月　３日　居合道八段合格
令和　６年　５月　２日　居合道範士の称号受領

2　実　績

昭和５６年４月阿波居合道伝習会創部
平成２年～平成２６年、全日本居合道大会出場回数１２回（五段～七段）
（平成９年鹿児島大会六段の部ベスト８・平成１７年千葉大会七段ベスト８）
全日本居合道大会　監督回数５回（第４５・５１・５２・５３・５４回）
大阪居合道大会・優秀賞７回（第４１・４２・５２・５３・５４・５６・５７回）
高知居合道大会・優秀賞３回（第３９・４２・５２回）
香川居合道大会・優秀賞２回（第４１・４２回）
宇和島大会・優秀演武大会長賞（第３７回）
東北日本居合道大会・優秀賞５回（第３５・３６・３７・３８・３９回）

3　賞　罰

令和２年度徳島県表彰（文化財保護活動に貢献）
令和５年度文部科学大臣表彰（地域文化功労者表彰）

坂本先生
範士受称おめでとうございます

阿波支部長　安田勝裕

坂本先生、範士受称おめでとうございます。私は剣道連盟阿波支部長をしておりますが、阿波居合道伝習会の会員でもあります。剣道では、坂本先生のお父様にも大変お世話になりました。

徳島県剣道連盟阿波支部の春・秋の練成会には、先生をはじめとした阿波居合道伝習会会員の皆様に御参加いただき、開会式後に全剣連居合、古流無双直伝英信流、無双直伝英信流古伝組太刀を演武して頂いております。そうしたことが縁で、十年前、阿波居合伝習会の練習を見学に行きました。その時、先生は、会員が演武する技前について、分かり易く一つ一つ説明され、加えて練習に必要な袴・襦袢着・帯等、道具類の説明もされました。見学に来たつもりの私は、あまりにも分かりやすく親切な説明のため、有無を言わせず即入会となりました。

そして一年後、坂本先生から自宅に近い支部道場（伊沢公民館）で受験日前一ヶ月間、毎週半日マンツーマンで特訓していただき猛練習の末、初段に合格できました。また、入会時、五十過ぎの私が会員の中で一番若かったのには驚きでした。その後、同会新設役の広報係になり、市の広報誌等を活用して、普及活動に努め、現在では高校三年生で三段を取得するなど、若手会員も増えています。

ここで、坂本先生の人となりに触れてみます。先生の剣歴では、昭和五十七年居合道初段に合格されて以来、平成十二年に居合道七段までストレートに合格されています。また、大学時代、恩師から郷土の刀を通して歴史を学ぶ大切さを教わり、仕事の傍ら、室町時代から海陽町に伝わる「海部刀」や江戸時代以降から現代まで徳島で知られた刀剣の歴史を研究されたということでした。

なぜ、坂本先生が初段から七段までストレートに合格したかについて、独断と偏見で私なりの所見を述べてみます。

㈠　一番、居合に迫力があり、姿が美しい。・・・講習会の段別の集団演武では、腰が据わり安定感が有り、立ち振る舞いの姿が美しく際立った。

㈡　古流への造詣が深く研究熱心。・・・全剣連居合だけでなく、師伝の古流を正しく伝承し、特に武道史の研究に余念がない。

㈢　刀への造詣が深い。・・・海部刀を始めとした郷土刀の研究で知られ、特に郷土色豊かな海部拵など、刀の外装（拵）には卓越した知識があり、自ら柄巻きを手掛けるなど、それらを居合道の指導に生かしている。

余談ですが、私は歯科医です。刀剣の刃文について付言してみますと、歯科のファイルという切削器具の合金組成にマルテンサイト相という結晶構造があります。日本刀の熱処理によりできる

刃縁に現れる結晶組成も同じマルテンサイト相とのことで、現代の科学が、日本刀の鍛錬技術に追いついたという感想を持ちます。

範士称号受称祝賀会に先生が用意された記念品の揮毫者は、五十年来の友人の書家ということで、ある時その先生にお会いする機会を得て、坂本先生の印象を伺ったところ、先生は芸術的な視点で物事を達観していたとのことです。

日本文化の継承者、居合道の継承者等、様々な表現はありますが、そういう言葉にぴったりの先生のこれからの活躍を期待しております。また、先生には、廃れ行く日本人の心、武士道精神についての伝搬者であって欲しいと願うところであります。

坂本先生 おめでとうございます

阿波居合道伝習会　大石雅生

坂本先生、居合道範士号受称おめでとうございます。

今回の朗報に、私達阿波居合道伝習会の会員達は失礼ながら皆一様にびっくりしました。聞けば、全国で合格者三名との事。尚、びっくりです。これも、先生のこれまでの地道な活動と居合道に取り組む姿勢が高く評価されたものと皆一様に喜んでおります。

私と先生の直接の関わりは、六十代になって居合道を再開した時点からの事ですが、それ以前から先生を存じ上げていましたし、時々お会いした時にご挨拶をさせて頂いておりました。というのも、先生の御尊父「故・坂本祐二」先生に二十代の頃から大変お世話になっておりました。御尊父は、長年徳島県剣道連盟の役員を務められ、中でも二十年の長きに渡り県西部の審査担当としてその事務局をされておりました。その頃、「大石、大石」と事あるごとに声を掛けて頂き、審査の事・各種大会運営の事・人生の生き方までいろいろとご指導頂いたものです。その時、時折口にされたのが「息子は、刀が好きみたいだ。」ということでした。事実、先生は今「徳島県銃砲刀剣登録審査委員」をなさっておら

れます。

時を経て、縁あって先生にご指導頂くようになりました。その際、感じた事は御尊父とよく似ておられるなあとつくづく思いました。御尊父は、阿波の歴史をよくご存じで、各所に出向いて資料を集めたり拓本を取ったりと、ご自宅の一室は剣道関係・歴史的関係書類でいっぱいでした。ご子息の先生も、御尊父に劣らず自らの足で県内をくまなく調査されております。徳島県文化財巡視委員・徳島市立徳島城博物館協議会委員・徳島県立城西高校社会人講師・阿波市文化財保護審議委員他などの任に付かれ、令和二年度県知事表彰（文化財保護活動に貢献）・令和五年度文部科学大臣表彰（地域文化功労者表彰）を受賞されております。また、刀剣の中でも極めて外装すなわち拵えに造形が深く、鍔・鞘・柄・柄巻き等全てご自分で作られ、本職と何ら変わらぬ腕前です。ご自宅の作業場にお邪魔すると、大小様々な道具が置かれ、また市販されていない必要な道具はご自身で工夫され使われていました。御尊父が言っていた、「息子は、刀が好きみたいだ。」の言葉を思い出し、（なるほどなあ）とつくづく思った次第です。またある日、幕末の剣士「佐藤兵馬」（美馬市穴吹町）の墓に案内した時、その拓本を取られました。私は、拓本を取るのを見たのは初めてでしたので新鮮な気持ちでした。また、徳島県南部に伝わる海部刀。その特徴を語る先生の顔は、いきいきとしています。他の名刀との違いなど、実に詳しく教えてもらいましたが十分に理解ができていなくて申し訳ありません。

さて、肝心の居合の方となると、ある時こんな事がありました。制定居合の四本目柄当ての時、下げ緒にゆとりを持たせていれば良かったのですがそのまま続行。柄当てにいった瞬間、下げ緒が鞘と帯に挟まり刀身だけが抜き出てしまい左手親指を六針縫う怪我をしてしまいました。先生は、床の血を拭き取りながら「大丈夫か？」と心配して下さり大変ご迷惑をお掛けしました。その後は、刀の扱い方に細心の注意を払うようになったのは言うまでもありません。そして、抜きつけ・納刀を如何に正確にできるか、今も日々挑戦しています。

範士となられた今、先生は否応なしに全剣連の主催行事等に出向かれる事と思います。健康には十分気をつけられ、後進の育成、居合道の普及・発展のために寄与されます事を心からご期待申し上げ祝文とさせて頂きます。この度は、本当におめでとうございました。

坂本憲一先生の世界

阿波居合道伝習会　木原資裕

平成二十七年一月、徳島県剣道連盟の稽古始めの場（松茂体育館）で、坂本先生の居合演武を最前列で拝見することができ、その迫力と見事な立振舞に魅了され、これからの剣道修業のあり方に悩んでいた私は、坂本先生の居合を学びたいと思うに至りました。私自身、二十歳の学生時代に、大学体育授業に居合道があり、剣道部の仲間とともに受講し、初段をいただいておりました。しかし、授業を受け、初段をいただいたものの、その頃の私は竹刀での剣道試合で勝つことに熱中しており、静的な居合の立振舞に興味が持てませんでした。それから、四十年後の六十歳の時に、坂本先生の見事な居合に出会い、六十歳の手習いとして、居合を再開することになりました。

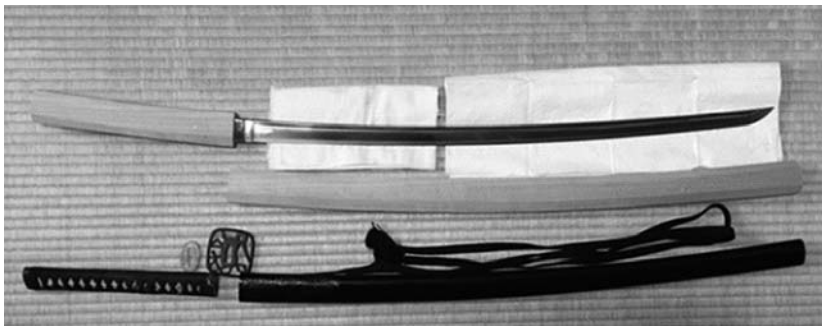
私が弟子入りした折りの坂本先生は、ちょうど居合道八段審査に向けて、精進されている時期ではありましたが、私の勤務する鳴門教育大学に来て下さり、学生・大学院生とともにご指導をいただきました。その中で、先生の演武をビデオで撮影し、ＤＶＤを作製、その立振舞を何度も視聴し、私自身の居合道の基本イメージ作りをさせていただきました。

その翌年平成二十八年五月三日、京都武道センターでの居合道八段審査では受審者百四十二名中、合格者六名（合格率四％）の一人になられています。幸いにも私は当日、武道センターへ応援にかけつけることができ、先生の豪快にして見事な演武を観客席から拝見することができました。合格の瞬間を弟子の一人として見届けることができたことは、この上もない喜びでありました。

また、この度は八段合格から八年後（令和六年五月）の最短での範士号受称、誠におめでとうございます。また、私自身、最高位の師匠を持てたことをありがたく思えた時でもありました。

この範士八段は剣道・居合道・杖道における最高の称号段位であり、「武」の一道においてこの位に到達するのは至難のことであることは周知のことでありますが、坂本先生はさらに文武両道の達人でもあります。その「文」の一端を以下に列記します。

・本身の刀身作製以外の刀に関連する柄巻き・鞘作り・金具（鍔・はばき・頭・縁・目貫・小柄・笄等）の作製は専門職人なみの知識と技能をもたれています。私も夏場の汗対策として、替鞘が必要と感じ、坂本先生のご指導をいただきながら、白鞘を作製しました。また、居合刀等への銘刻印修錬の一環として、私に真鍮の名札を作製していただきました。



・刀剣の鑑定に関する専門的知識を修得されており、文化庁の銃砲刀剣登録審査員を担われています。その長年にわたる多大な貢献により、令和五年十一月に「地域文化功労者表彰」を文部大臣より受けられています。

・徳島城博物館や海陽町立博物館等の刀剣に関する企画や学芸員の指導を担い、刀剣の持つ魅力や価値を発信されています。

・阿波市文化財保護審議委員を務められ、文化財の指定・保存・活用について調査審議されています。

また、坂本先生は令和三年に徳島県杖道部会創設の発足メンバーとなられ、居合道八段でありながら、杖道初心者として、杖道の修錬に取り組み、いつもは坂本先生が居合指導されている青木茂生先生と徳山豊先生から、杖道指導を受けられています。ご自身がどのような立場にあろうとも、学ぶべきことは素直に学ぶこの柔軟な姿勢と旺盛な探究心によって、上記のような坂本先生の世界が作られているように思います。

末筆ながら、この度の範士号受称を心よりお祝いするとともに、ご健康に留意され、益々のご発展をお祈りします。

《特報三》全国スポ少大会初優勝

第四十七回全国スポーツ少年団剣道交流大会に優勝して

監督（徳島剣清塾）河田清実

令和七年三月二十八日～三十日に第四十七回全国スポーツ少年団剣道交流大会が開催され、徳島県代表として、阿南市チームが出場し、悲願の全国優勝することができました。

五人のメンバーは以下の通りです。

先鋒【四年生の部】野村拓未（徳島剣清塾　四年生）
次鋒【五・六年生女子の部】髙橋明里（徳島剣清塾　五年生）
中堅【五・六年生男子の部】大西　光（那賀川剣道教室わかあゆ会　六年生）
副将【五・六年生女子の部】岩浅　詩（徳島剣清塾　五年生）
大将【五・六年生男子の部】宮武颯詩（徳島至誠館　六年生）

一昨年はベスト十六、昨年は第三位という好成績を修めているので、今年もという期待があり、プレッシャーを少し感じていました。そこでメンバーの他道場指導者の了承を得て、強化計画を立て、一月から三月まで徳島剣清塾が参加する岡山県や兵庫県での練成大会に他のメンバーも一緒に参加してもらいました。二月下旬には那賀川町に四国および岡山県・滋賀県・和歌山県のスポーツ少年団の代表チームに声かけをし、練習試合を実施しました。また、大会一ヶ月前からは週三回の剣清塾の稽古に他道場の二人も一緒に参加してもらって、メンバー同士の親睦も深めることができました。

試合は各都道府県の代表四十八チームが、三チーム一組の予選リーグ戦を実施し、各組一位の十六チームが決勝トーナメントを行うという形式で行われました。試合時間は通常の二分間ではなく三分間でした。

予選リーグは、福岡県と兵庫県の強豪道場が主になっているチームで、私自身内心では予選リーグ突破は厳しいかもしれないと思っていました。しかし、そこを接戦で抜けることができました。そこから、神奈川県・鹿児島県・愛媛県と強豪をチームワークで競り勝ちました。決勝戦は北海道Ｂ（北海道の選抜チーム）でした。一対一の勝ち数・取得本数が同数での大将戦となりましたが、終了間際に大将・宮武の目の覚めるような面すり上げ面が見事に決まり、会場が大歓声に包まれる中、優勝が決まりました。感動の一瞬でした。

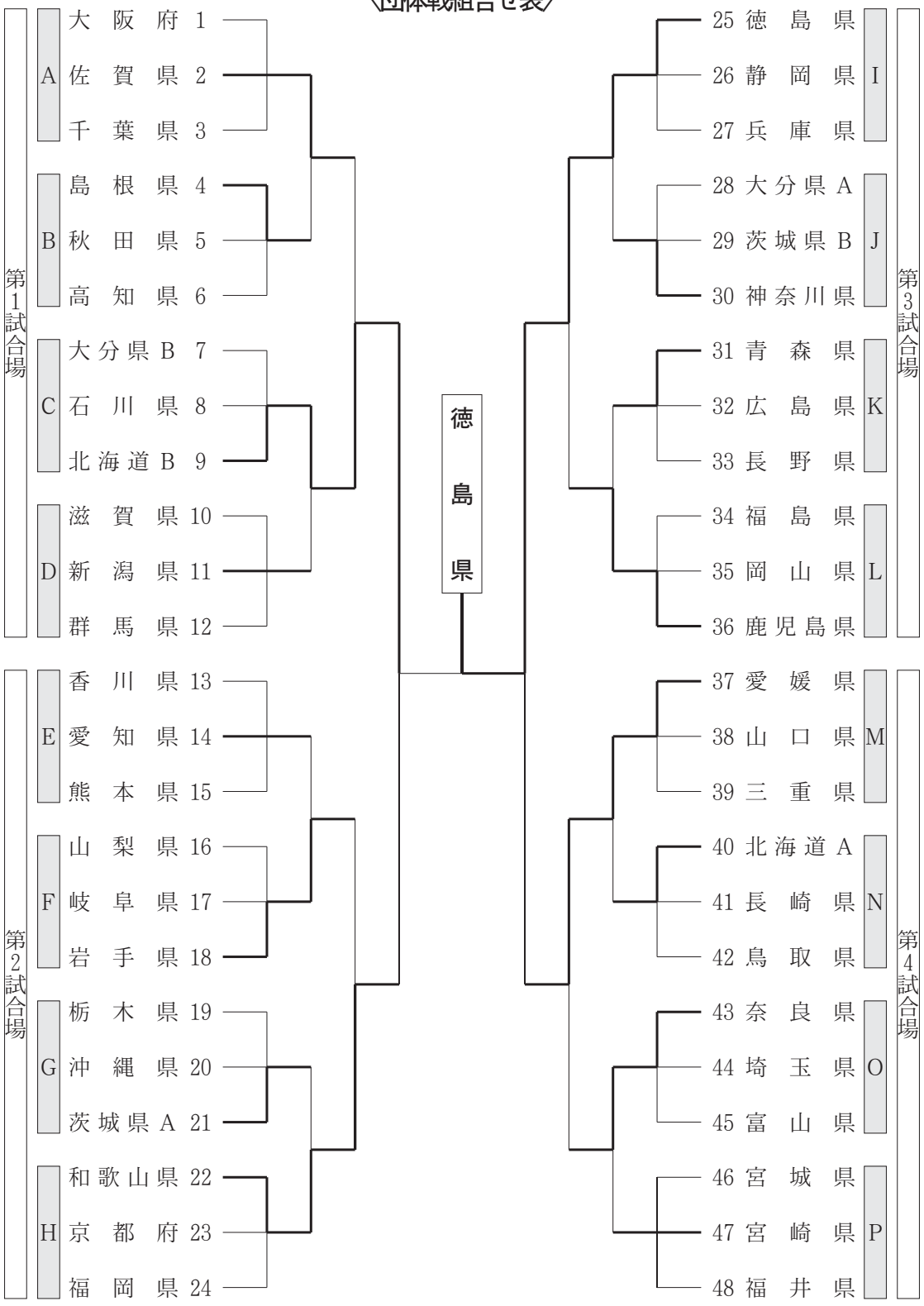
全六試合がすべて接戦でした。メンバー全員が一丸となり、結束したチームワークで戦い抜いて勝ち取った日本一でした。

中学生の個人戦には徳島県代表として男子・柏原健人（養武館）

と女子・茨木里音（徳島少年剣道教室）の二名が出場しました。柏原君も茨木さんも、ともに予選リーグ二勝で決勝トーナメント進出を果たしました。しかし、二人とも決勝トーナメント一回戦で強豪選手と対戦し、延長戦で惜敗しています。ちなみに二人に勝った選手が男女それぞれ個人優勝となっています。また、柏原君も茨木さんもベスト十六となり、敢闘賞表彰を受けました。

これまでご指導・ご支援していただいた各教室・道場の指導者・保護者の皆様、阿南支部の指導者の方々、そして、徳島県剣道連盟の先生方にお礼と感謝を申し上げまして、ご報告とさせていただきます。

〈団体戦組合せ表〉


第1試合場
A
大阪府 1
佐賀県 2
千葉県 3
B
島根県 4
秋田県 5
高知県 6
C
大分県B 7
石川県 8
北海道B 9
D
滋賀県 10
新潟県 11
群馬県 12
第2試合場
E
香川県 13
愛知県 14
熊本県 15
F
山梨県 16
岐阜県 17
岩手県 18
G
栃木県 19
沖縄県 20
茨城県A 21
H
和歌山県 22
京都府 23
福岡県 24
徳島県
第3試合場
I
25 徳島県
26 静岡県
27 兵庫県
J
28 大分県A
29 茨城県B
30 神奈川県
K
31 青森県
32 広島県
33 長野県
L
34 福島県
35 岡山県
36 鹿児島県
第4試合場
M
37 愛媛県
38 山口県
39 三重県
N
40 北海道A
41 長崎県
42 鳥取県
O
43 奈良県
44 埼玉県
45 富山県
P
46 宮城県
47 宮崎県
48 福井県

《試合結果》

予選リーグ 1

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	対戦結果
徳島	野村	高橋	大西	岩浅	宮武		6 / 3
静岡	前嶋美	大石	前嶋	川合	西村		4 / 1

予選リーグ 2

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	対戦結果
徳島	野村	高橋	大西	岩浅	宮武		7 / 3
兵庫	竹内	田島	松脇	土井	三木		4 / 1

決勝トーナメント　1回戦

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	対戦結果
徳島	野村	高橋	大西	岩浅	宮武		5 / 2
神奈川	森環	藤林	八代	塚本	森瑛		2 / 1

準々決勝

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	対戦結果
徳島	野村	高橋	大西	岩浅	宮武	宮武	4 / 2代
鹿児島	福島	加藤	木原	濱口	田之上	田之上	4 / 2

準決勝

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	対戦結果
徳島	野村	高橋	大西	岩浅	宮武		5 / 3
愛媛	渡辺	近藤	大平	渡辺	國松		5 / 2

決勝戦

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	対戦結果
徳島	野村	高橋	大西	岩浅	宮武		4 / 2
北海道B	深澤輝	渡辺	及川	深澤玲	佐藤		3 / 1

《特報四》全国薬業剣道大会二連覇

第二十一回全国薬業剣道大会優勝
―二連覇―

大塚製薬剣道部部長　綾部文明

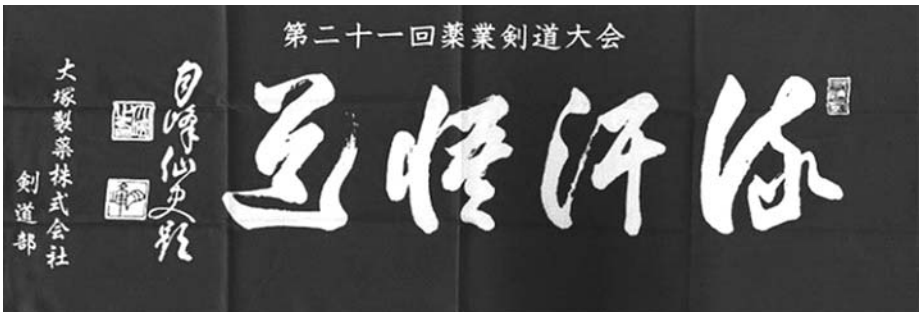
令和六年九月十四日とくぎんトモニアリーナ（徳島市立体育館）にて第二十一回全国薬業剣道大会が盛大に開催され、大塚製薬株式会社剣道部が二年連続で団体戦優勝を成し遂げました。令和二年から弊部師範としてご指導下さっている米倉滋先生をはじめ、これまで弊部員を支え育てて下さった関係者の皆様、弊部活動を温かく見守って下さる徳島県剣道連盟の皆様、そして準備・当日運営から選手として活躍して下さった弊部員の皆様に厚く御礼申し上げます。令和五年つくばで開催された第二十回大会では大塚製薬チームとして初出場初優勝を果たし、優勝杯を初めて四国徳島に持ち帰ることができました。本大会は平成十三年つくばにある製薬企業を中心に第一回大会が開催され、各社剣道部が所属する薬業剣道連盟主催、幹事社は各社持ち回りで開催されています。過去の開催地は、関東十五回、関西四回、九州一回、そして今回の四国初開催でした。また第一回大会の参加企業は四団体でしたが、現在は二十五団体（約百名）の規模となりました。大会長はエーザイ株式会社にてアルツハイマー型認知症進行抑制剤「アリセプト」を開発し、現在同志社大学教授である剣道教士七段杉本八郎先生です。このような歴史ある大会を開催するにあたり、弊部は大会運営経験がなく人数も不足しているため、徳島県剣道連盟・日亜化学工業株式会社剣道部の先生方に審判員及び補助員をご協力いただき無事に大会を終えることができましたこと、重ねて厚く御礼申し上げます。ご協力いただいた徳島県の先生方は次の通りです。

（審判長）米倉滋先生、（大会参与）近藤亘先生、（専任審判員）木原資裕先生、竹内佳代子先生、園田慎吾先生、富永ますみ先生、原田敏也先生、安藝智子先生、江口大祐先生、紅露喜代美先生、阿井恵子先生、（専任会場係）徳重清久先生、珠野真由美先生、金森純子先生、舛田浩一先生、泉仁平先生、（事務局）小野勝先生、蛭田昭美先生、玉置樹里先生、（御支援）山本泰史先生、井川理之先生

大会前日は、会場設営中に自由稽古会を設け、徳島に前日入りした多くの剣士が交流しました。大会当日、午前中に個人戦（女性部門・成年部門・壮年部門）、午後から企業対抗団体戦、合同稽古会、その後ホテルで懇親会を開き、同業他社の方々と剣道を通じて大いに親睦を深めました。個人戦では成年部門に参加した弊部員全員が初戦に勝利し、中村隼人選手が準優勝、富田哲平選

手と富田将太郎選手が第三位と大健闘し、弊部選手の実力と層の厚さを存分に発揮できました。団体戦では四チーム四ブロックの予選リーグにおいて大塚製薬Bチーム（大将　櫻井一志、副将　吉野雄三、中堅　新井博文、次鋒　井川友暉、先鋒　湯浅滉平）は一勝二敗し予選敗退、大塚製薬Aチーム（大将　矢野一輝、副将　櫻木鉄也、中堅　中村隼人、次鋒　富田哲平、先鋒　富田将太郎）は三勝し一位通過となりました。決勝トーナメントでは昨年準優勝チームとの準決勝戦にて、一敗三分の大将戦で矢野選手が見事に二本勝ちを収めて代表戦となり、代表戦でも矢野選手が相手の竹刀を吹き飛ばす勢いの飛び込み面で見事に決勝進出を果たしました。決勝戦でも、先鋒戦で富田将選手が見事な二本勝ちで勢い付け、続く次鋒戦でも富田哲選手が同じく小手と面の見事な二本勝ちを収め、二勝一敗二分で念願の二年連続となる優勝を飾りました。徳島で二連覇を達成でき感無量です。大会終了後の合同稽古会では、教士八段　米倉滋先生、教士八段　近藤亘先生、教士八段　田頭啓史先生（インセプチュア株式会社）、教士八段　原義克先生（エーザイ株式会社）に御指導頂き、懇親会では、徳島の美味しい料理とお酒、最後に蜂須賀連ご協力の下、阿波踊りを皆で楽しみました。

弊部は平成二十二年櫻井一志初代部長のご尽力により社内サークル活動の一つとして正式認定され創部されました。創部以来十五年にわたり、県内外の剣道大会や剣連行事への参加、新人勧誘や運営引継ぎなど継続的な活動に取り組んできました。この度の二連覇は、選手の実力が存分に発揮され素晴らしい活躍によるものです。また手前みそではございますが、十代から七十代まで幅広い年齢層の部員が経験や人脈に基づきそれぞれの立場でできる事に取り組んだ結果でもあり、長年の取り組みの集大成であると自負しています。世代だけでなく、剣道歴や実績、知識経験も様々で、剣道を高める人、広める人、伝える人、楽しむ人、色んな形を理解し支え合い、自分の持ち場で光り輝く存在になれるように剣道を継続しています。立場も個性も十人十色ですが我々には一つの共通認識があります。弊部の面タオル「流汗悟道」は、大正十年徳島県鳴門の地で大塚製薬工業部を創立された大塚グループ創業家の初代、大塚武三郎氏が大切にされた精神を表す言葉の一つです。〝単なる知識だけでなく、自らが汗を流し実践して感じることの中に本質がある。また、物理的に汗を流すことが重要なのではなく、仕事に対して情熱を打ち込み内的に精神的に燃え上がった貴い汗を流すことによって、本当に人間の生くべき道を悟るのだ〟我々は実業団剣道部として剣道に対する理解を深め社会貢献できるよう、徳島県剣道連盟の一員であることを誇りに今後も元気いっぱい活動を継続してまいる所存です。今後ともご理解ご支援賜りますようどうぞ宜しくお願い申し上げます。


第二十一回薬業剣道大会
大塚製薬株式会社
剣道部

第21回 薬業剣道大会

〈団体戦予選リーグ結果〉

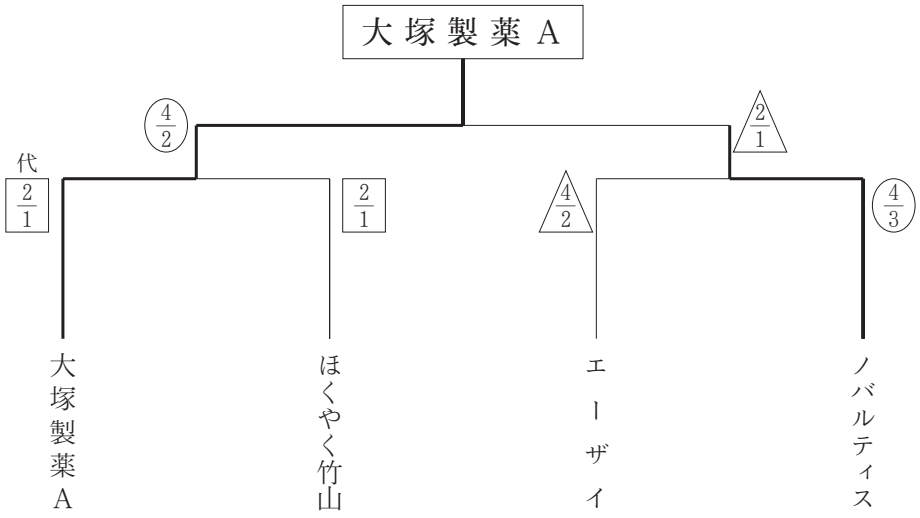
	小野薬品B	大正製薬	大塚製薬A	混成A	取得点数	総勝者数	総得本数	順位
小野薬品B		0/0	0/0	0/0	0	0	0	4
大正製薬	5/3		1/1	2/1	2	5	8	3
大塚製薬A	10/5	5/3		9/5	6	13	24	1
混成A	8/4	5/3	2/0		4	7	15	2

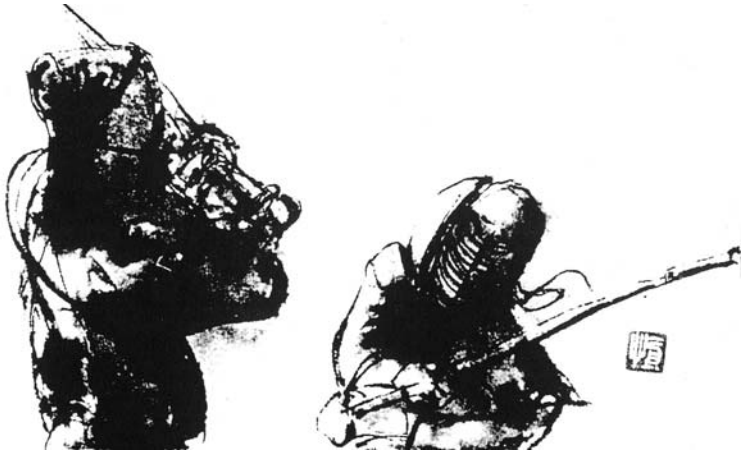
	ほくやく竹山	アステラスA	第一三共	混成B	取得点数	総勝者数	総得本数	順位
ほくやく竹山		8/4	7/4	7/3	6	11	22	1
アステラスA	0/0		3/1	3/2	2	3	6	4
第一三共	0/0	3/2		5/2	2	4	8	2
混成B	2/1	0/0	6/2		2	3	8	3

	翔薬	エーザイ	アステラスB	混成C	取得点数	総勝者数	総得本数	順位
翔薬		3/2	6/3	7/3	5	8	16	2
エーザイ	3/2		7/5	6/3	5	10	16	1
アステラスB	1/0	0/0		3/1	0	1	4	4
混成C	1/0	2/0	6/3		2	3	9	3

	小野薬品A	ノバルティス	大塚製薬B	混成D	取得点数	総勝者数	総得本数	順位
小野薬品A		4/1	3/2	6/4	4	7	13	2
ノバルティス	7/3		5/2	7/4	6	9	19	1
大塚製薬B	1/1	4/2		9/5	2	8	14	3
混成D	0/0	2/1	1/0		0	1	3	4

〈団体戦決勝トーナメント結果〉





《特報五》みなと小松島社会人大会の創設

第一回みなと小松島社会人剣道大会を開催して

小松島支部　園田慎吾

令和七年二月二四日、小松島市立体育館におきまして、第一回みなと小松島社会人剣道大会を開催いたしましたので、ご報告させていただきます。

ちょうど一年前、高木先生の呟き「小松島支部主催の社会人大会をやりたい」「大会の名前はみなと小松島社会人剣道大会」「実行委員長は園田で」という鶴の一声からでした。小松島支部では県大会レベルの大会を開催した実績はなく、実行委員会の発足から始めました。発足後は、各種案内文書の作成やプログラム作成など、大会要項の協議をはじめ、ゼロからのスタートとなりました。普段は大会に参加する側ですので、大会を開催し運営する方々のご苦労を実感いたしました。大変な部分もありましたが、関係者の協力、支援もあり、改めて小松島支部の団結力を感じながら準備を進めることができました。

大会当日は、小松島市長　中山俊雄様、県連会長　藤川和秋様はじめ多くの来賓の方々にご臨席を賜り、参加四一チーム・一二三名の選手が活気あふれる試合を繰り広げ、盛大な大会になりました。

本大会は、徳島県内の大会では初となる出場選手による相互審判、チーム編成としては男女混成・女子単独でも出場可能という試合形式で開催いたしました。大きな問題もなく運営も円滑に行うことができました。

大会後には、選手や観戦していた方々からも楽しい大会だった。今後も大会を続けて行って欲しいという、有難い言葉も掛けていただきました。第一回大会ということもあり、参加いただいた方にはご不便をお掛けしたこともあったかと思いますが、今回の反省点を活かしながら、来年以降も大会は継続して開催したいと考えております。今年同様に多くの方にご参加いただきますようお願い致します。

また、補助員は小松島市内の中高生にお願いしており、観客席にも市内道場に通う多くの小学生が応援に駆けつけていました。間近で恩師や指導して頂いている先生方の試合を見学できたことは、今後の自分自身の剣道にも役立ったと思います。また、小松島支部としましても本大会が未来を担う若者たちへの橋渡しとなり、志を継承してもらえる大会となれば幸いと考えております。

最後になりましたが、本大会を開催するにあたり、徳島県剣道連盟はじめ関係団体の多くの皆様にご協力、ご支援いただきましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

簡単ではございますが、本大会の結果報告と御礼とさせていた

だきます。

〈試合結果〉準決勝・決勝

準決勝　徳島刑務所Ａ　一－二　城北ＯＢＩ

準決勝　蔵本 黒蛇　三－〇　わかあゆ会（龍）

決　勝　城北ＯＢＩ　三－〇　蔵本 黒蛇

初代優勝杯を手にしたのは、城北ＯＢＩチーム（監督：福多先生、西田選手・竹内選手・森選手）でした。

開会式の様子

主催した小松島支部のメンバー

優勝：城北ＯＢ　Ⅰ

準優勝: 蔵本 黒蛇

第三位: 徳島刑務所A

第三位: わかあゆ会（龍）

令和六年度　顕彰一覧

剣道有功賞（全日本剣道連盟）

○　**塩　田　善　治**

昭和四十七年四月に徳島県立高等学校教員に採用され、高校において剣道指導を積極的に推進し、優秀な選手を育成すると共に、平成四年に全国教職員剣道大会において運営委員長として、平成五年の国民体育大会においては剣道競技運営副委員長として重責を全うした。また、平成二十七年から徳島県剣道連盟の審議員を務め、現在も継続中であり、徳島県剣道連盟の運営に尽力し、その貢献は大である。

少年剣道教育奨励賞（全日本剣道連盟）

○　**鴨島少年剣道教室**（指導者代表　藤川和秋）

昭和四十九年四月に道場を設立してから五十年間にわたり道場を運営してきた。現在は、徳島県の西部三市の少年剣道教室と連携し、合同稽古会、錬成大会を主に開催するなど地域との交流も重視し、その活動は県西部の中核として他の教室の模範となっている。

○　**松紀和会道場**（指導者代表　松村和宏）

指導者の本社ビル二階に松紀和会道場を開設し、十年間剣道教室を運営してきた。道場生には、小・中・高校生と県内でも優秀な選手を多く育成し、その指導力は素晴らしいものがある。また、徳島県内剣道道場連盟にも加盟し、道場生には全国での活躍の場を提供するなど、幅広く活動している。活動方針に人財の育成を掲げるとともに、剣道の普及発展に尽力し、生涯剣道の実践及び少年の健全育成に大いに貢献している。

旭日双光章（スポーツ振興功労）

○　**西　谷　肇　一**

多年にわたり、連盟の役員として、円滑な運営をはじめ、自ら剣道八段としての剣道修行に精進するとともに、国体選手強化にも尽力し、連盟の発展に多大な貢献をしている。さらに、徳島県スポーツ協会の理事として、県内スポーツ全般にわたる普及発展に尽力している。

徳島県スポーツ功労者表彰（徳島県スポーツ協会上申中）

○　**松　田　久　司**

徳島県剣道連盟理事として十年間務め、研心館道場、脇町少年剣道教室で約三十年間少年の指導に携わるとともに、八十四歳の現在も県下社会人剣道大会において大将として出場するなど剣道に前向きに取り組んでおり、地域の剣道の普及発展に大きく寄与しておりスポーツ功労者として十分に値すると認め推薦する。

徳島県スポーツ指導者表彰

○ **中　西　　実**

二十二年間、阿南少年剣道教室において青少年の指導育成に努め、永年にわたり阿南市スポーツ少年団剣道競技のコーチとして尽力し、本年三月の第四十六回全国スポーツ少年団剣道大会には監督として出場し、第三位の成績を収めるなど抜群の指導力を発揮している。よって、スポーツ指導者表彰に十分に値すると認め推薦する。

徳島県スポーツ奨励表彰（徳島県スポーツ協会）

○第四十六回全国スポーツ少年団剣道交流大会

三位　**阿南市チーム**　**岩　浅　　詩**
山ノ井　夏　希
棚　橋　爽　斗
山　本　　京
河　田　淳　紀

徳島県スポーツ優秀者表彰（徳島県スポーツ協会）

○第七十二回全日本学生剣道大会

準優勝　**岩　原　潤　哉**（鹿屋体育大学）

○第四十三回全日本女子学生剣道優勝大会

準優勝　**岩　原　千　佳**（筑波大学）

○第七十一回全国高等学校剣道大会女子個人

ベスト八　**中　村　莉　音**（富岡東高校）

徳島県生涯スポーツ賞表彰（徳島県スポーツ協会）

○ **中　村　稔　裕**

刑務官として奉職し、全国矯正職員武道大会に四回出場するとともに、徳島県剣道連盟理事・審議委員等を四十四年間務め現在相談役に至っており、また中学校、大学の部外指導者として青少年の指導に現在も尽力し、平成二十年からは徳島県剣道連盟高齢剣友会理事、副会長として手腕を振るうなど徳島県における生涯剣道のあるべき姿として模範となるものであり、生涯スポーツ賞に値するものと認め推薦する。

剣道有功賞

剣道有功賞をいただいて
―学剣連の思い出―

阿波支部　塩田善治

此度、令和六年度県剣道連盟のご高配を賜り、全日本剣道連盟から有功賞を戴くこととなり、有難く思うと共に心より感謝を申し上げます。

私を剣道の道に誘って頂きました細川昭典先生が平成十八年に有功賞を授与されており、「徳島の剣道」二十三号に寄稿されております。その十八年後に不肖の弟子で先生にはとても及びもつきませんが、有功賞を頂くことになりました。身に余る光栄です。

久勝中学校では細川昭典先生、脇町高校では滝下勝先生に、基本を大事にする指導を受け、国士舘大学を卒業後は高校の教員として、子供を指導しながら六十五年が過ぎました。その間には、全国都道府県大会、全国教職員大会、国民体育大会等に選手・監督として参加しつつ、日々部活動の指導に励んで参りましたが、指導をすることの難しさを痛感しました。また四国大会等への監督・審判員として参加した時には県外の高校生のレベルの高さを嫌というほどに思い知らされ、悩みもしました。

三十歳代となり、県内若手教員の指導者が増え、充実してきた時、高体連剣道専門部の先生方と競技力向上を目指して、何かやろうと相談し、県内高校生の強化合宿を計画しました。徳島農業高校（現城西高校）を会場として、県外優秀校一校を招待して二泊三日の強化練習会を実施しました。指導者のいない高校の剣道部にはリーダーを集め、効果的な練習方法や基本を教え、それを各高校へ持ち帰ることにより、チーム力の向上の一端として県内高校生の実力向上を目指したものでありました。また、この強化合宿後に県外遠征を実施するという指導方針が確立され、以後四十年以上継続されております。今も県内剣道指導者の一大行事として定着しています。

徳島県学校剣道連盟（以下学剣連）発足当初より会員として参加し、多くの思い出があります。

徳島県に平成五年国民体育大会剣道競技の開催が決定し、前年の平成四年の国体リハーサル大会として全国教職員剣道大会を誘致することから始まりました。平成元年八月、福岡県行橋市で大澤譲二県剣連理事長を中心とした誘致活動を行った結果、全国学剣連本部より了承を得る事ができました。県学剣連は勝沼信彦会長、細川昭典理事長の指揮の下、大会運営、公認審判員講習会（二泊三日）の計画、選手強化に分かれ、県学剣連会員及びＯＢを含め、総力を挙げて取り組みました。大会に参加された選手の

皆さんも活躍されました。高・大・教委の部で福多雅英先生は前年優勝に続き第三位入賞、女子の部では古川（現大内）久美子先生が五年前の寺西（現竹内）加代子先生以来の優勝と立派な成績を挙げられ、国体リハーサル大会を成功裏に終了することができました。

翌平成五年第四十八回国民体育大会剣道競技は、リハーサル大会を土台として、県剣道連盟堀江幸夫会長、柏原浩理事長を中心にして、県剣連・徳島市・小松島市・国体事務局合同の大会運営となりました。競技では、少年男女の部は小松島市立体育館で、成年の部は城北高校体育館で、それぞれ開催されました。成年二部では、（玉田・鈴木・那倉）が優勝、少年男子で（松村・川添・佐藤・近藤・泉）が準優勝を果たし、成年で（飯田・平野・近藤・美馬・大澤）が第三位、少年女子で（猪尾・陶木・楠木・酒巻・大城）が第五位入賞という素晴らしい成績で総合優勝を成し遂げ、大きなトロフィーを飾ることができました。その時の様子は、三十余年が過ぎた今も私の心に深く刻まれ良き思い出となっています。

少子化が叫ばれて久しく年々歳々児童生徒数の減少の一途となっており、今こそ県剣道連盟の長期目標を設定しつつ、会員全体の目標を明示して頂きたいと願うばかりです。一同が心を一つに団結して力を発揮すべき時だと思います。全国規模の大会を開催すれば、そこは県剣連の力の見せ所です。全国大会経験者がいる間に、次の時代に伝承することも大事であると思われます。

私も喜寿となり残された人生も少なくなってきましたが、青少年の指導を含め、今後とも剣道界に貢献できるよう日々精進していきたいと考えております。

わが恩師　受賞のよろこび

徳農教え子の会　高木壽史

令和七年三月一日に塩田善治先生の全剣連剣道有功賞受賞記念の祝賀会をホテルサンシャイン徳島にて、徳農教え子の会・脇高芳越剣友会の合同（計二十五名）で開催しました。剣道有功賞とは一九九五年（平成七年）に設けられ、剣道の発展・普及に尽力された功績に対して全剣連から贈られる大変すばらしい賞です。このような賞をいただいた恩師を持つことができたことを誇りに思っております。

先生の挨拶の中で徳島農業高等学校と脇町高等学校の繋がりについてのお話がありました。初めて聞く先生のお名前もありましたが、須見先生・細川先生・下村先生・柴田先生・笠井先生・中尾先生と名だたる先生方が出てまいりました。お話を伺っていて感じたことは、ご縁・繋がり・感謝だと思いました。

徳農教え子の会は十四名。言うまでもなく全員先生の教え子です。ただし、今回ご出席の徳農城西剣友会会長の立川先輩は塩田先生が徳農赴任時には徳農を卒業されていましたが、大学入学以降、塩田先生のご指導を受けておられ、塩田先生の教え子として自認されています。剣道を続けている四名は大会会場等で先生とお会いする機会はありますが、あとの十名は先生との久しぶりの再会です。先生は一人一人の席を回られ昔話や近況の話に花を咲かせているように見受けられました。

芳越会からは十名。先生は芳越会の会長をされているということと年に一度、十二月にＯＢ会を開催されるということを伺っています。昔は怖かった先生でもありますが、終始にこやかな笑顔で過ごされているのを拝見し、私も心が和みました。これも先生のお人柄だとしみじみと感じました。先生よりいただいた面タオルに書かれている『初心』という言葉を目にして、改めて初心を忘れず、ご縁や繋がり、そして感謝の気持ちを大切にしていきたいと感じた祝賀会でもありました。

本会を開催にあたり、芳越会の柴田先輩・河野君、徳農教え子の会・岩本君には大変お世話になりました。そして参加をしてくださった諸先輩方、後輩の皆様ありがとうございました。

終わりに会のお開き前に撮ったすばらしい笑顔の集合写真を添付します。

初心
令和六年度
全日本剣道連盟
剣道有功賞受賞記念
十二月吉日
塩田善治

塩田先生祝賀会

少年剣道教育奨励賞

少年剣道教育奨励賞を受賞して

鴨島少年剣道教室　指導者代表　藤川和秋

昭和四十九年四月に、鴨島少年剣道教室が創立され令和六年度で創立五十周年となる大きな節目に、全日本剣道連盟より鴨島少年剣道教室に「少年剣道教育奨励賞」を戴き、誠に有り難うございます。昭和四十九年に平尾勝美先生が同教室を立ち上げ、以後、笠井恵之先生、三木毅先生を経て現在私が四代目道場長を努めさせて頂いています。

指導者の先生や保護者の皆様のおかげで、現在中学生三名、小学生・幼児十八名の合計二十一名が道場生として在籍し、毎週火曜日、木曜日の二回、鴨島第一中学校の剣道場で稽古を行っています。また、毎週土曜日は、吉野川市立川島中学校体育館における徳島県剣道連盟麻植支部の合同稽古会に参加し、支部内の他の剣道教室の子供達と一緒に楽しく稽古させて頂いています。このほか年末の十二月三十一日には、二年越しの稽古の機会を設け、その年を剣道の稽古で終り、新年を剣道の稽古で迎えるという年越し稽古を道場で行っており、参加は小学生から大人まで自由参加とし、年々参加者が増えてきています。「継続は力なり」の言葉のごとく道場生には剣道の稽古に自主性を持って参加していく姿勢や取り組みができるよう指導に努めています。

なお、苦しい稽古だけではなく、保護者の皆様の協力を得て、十二月にはクリスマス会を開催したり、楽しいゲームを取り入れた「お楽しみ会」も機会あるごとに行い、道場生同士での仲間意識も育ってきています。

創立から五十周年が経過し、少子化が進んでいる現在、道場生を獲得するのも容易ではありませんが、今後とも現在の道場生、指導者の先生方、保護者の皆様、教室を支えて頂いている地域の関係者の皆様と一緒に力を合わせ、道場生の成長を願い、鴨島少年剣道教室の運営、指導に頑張って行きたいと思います。

最後になりますが、今回の受賞は、剣道連盟の先生方をはじめ関係者の皆様のご支援、ご指導の賜と心からお礼を申し上げ、受賞の投稿とさせて頂きます。

第 3 回三木杯争奪少年剣道大会における道場生

年越し稽古の参加者

少年剣道教育奨励賞を受賞して

松紀和会道場　松村和宏

この度、松紀和会道場が少年剣道教育奨励賞を賜りました。受賞に際しまして、推薦をしてくださいました徳島県剣道連盟の先生方に心より御礼申し上げます。

これを機に少し、松紀和会道場について語らせてください。松紀和会のロゴマークをご覧ください。子どもたちの道着の右腕に、金色に輝く二対の鳥が向かい合って羽ばたく姿の刺繍をしてあります。これは、向かい合う剣士（人）が互いに切磋琢磨し、高め合い、空高く羽ばたいて欲しいという、私の願いを込めたデザインとなっております。

松紀和会道場は二〇一六年に発足し、今年で九年目です。まだ歴史も浅い道場ではありますが、数多くの子どもたちが、我が道場を巣立ちました。松の木を敷き詰めた床には、道場に来てくださった剣士の汗とともに、みなさんの熱い情熱も染み込んでおります。私はこの純粋な未来ある子たちの人生に一瞬でも携わる人として、重責があります。

習いにいらっしゃる子たちは、それぞれ目標が違います。剣道に対する心の温度も違います。子どもと保護者の目標のズレもあります。小学生の段階で全国大会で優秀な成績を収めてくる生徒もいれば、強くなりたい気持ちはあってもメダルを貰ったことなく終えていく生徒もいます。

でも、私の信念、そして、これまでの私の恩師たちの教えからも言えることは、『美しい剣道』であること。勝つために崩れたフォーム、小手先で勝つ剣道を教えてはいけない。無駄のない美しい剣道は、身につくまで時間がかかりますが、私の生徒は、美しい剣道であって欲しいと思っています。生徒一人一人、成長するタイミングも違えば、性格も違うので、その子に寄り添いながらの指導を心掛けています。

また剣道の礼儀作法は、武道の中でも一流だと思っています。生徒の保護者が、こんな話をしました。「剣道の大会に初めて行った時、場内アナウンスが始まった途端、子どもたちが動きを止め、正座して聴く姿は圧巻でした。剣道の礼儀作法の素晴らしさに、心が震えました。」と。礼儀作法ができる。これも剣道の素晴らしさのひとつです。

勝っても負けても常に相手への敬意を忘れない。『打って（勝って）反省。打たれて（負けて）感謝。』この剣道の精神が全世界の人の心に響けば、もっと平和な世界が広がるでしょう。

私が世界を変えることはできませんが、この小さな道場から、大きな志を持った生徒が育ってくれることを願います。

1991
MAZKIWA

スポーツ功労賞

スポーツ功労賞を戴いて

剣道教士七段　松田久司

永年、少年剣道教室に関わってきたことが評価れたことを有難く、うれしく思っております。

〝子供達あっての剣道教室〟を忘れぬように、そして子供達が、巣立った後に「楽しかった、面白かった、良かった、ためになった」と思い起こしてくれることを願って来ました。幸いにも今日まで、これといった事故も問題もなく来れたことを指導の一端を担う者として有難く感謝をしております。

剣道を始めたのは高校一年の時でした。入学時、脇町高校に剣道部はありませんでした。一年先輩の人達から剣道部を創りたいので参加しないかと誘われ、賛同しました。同級生にも声を掛け、早々と剣道部創設が認められました。

スタート時点の部員は五・六人でした。脇町警察署の武道場を借り、半分は畳の間で柔道部が稽古をしていました。部員の中で防具を持っているのは主将一人だけでした。これではどうにもなりません。とりあえず木刀を持ち寄り、初段の主将の指導で日本剣道形を繰り返し稽古をしました。

今振り返っても、「形のための形」にならぬようにと、理合を説きながらの指導は立派であったと思います。剣道形についての考え・骨格はこの時に身に付いたと思っています。防具がそろったのはスタートから二ヶ月近くも経っていたでしょうか。それからは熱心に地稽古に取組みました。卒業時は二級でした。

卒業後は剣道とは全く無縁の暮らしが続きました。

昭和三十年代末に公務員となりました。あれは、昭和四十年代中頃だったでしょうか、帰りの車中で夕刊を開くと、なんと脇高剣道部がインターハイの全国大会に出場とあります。「うそー」、と思い、「まさか」と思って読み返しました。でも、冷静に考えてみると。主として郡内の中学校の優れた選手が入部し、滝下勝先生が指導にあたられたのならこれもありかと納得しました。

〝よくやったな、頑張ったな！〟と誇りにも思い、うれしくもありました。

三十七歳の時、職場の健康診断で「不整脈」ありと指摘され、禁酒、禁煙、適度なスポーツをと指導されました。禁酒禁煙が無理ならせめて節酒節煙をとも言われました。節酒・節煙を心掛けてはいたものの、不整脈を身体が感じる程ではなかったためか、それまでの生活習慣が急に改まる程のものではありませんでした。

スポーツなら剣道と、早速地元脇町の「研心館」に入門しました。第一日目、勇んで切り返しをやったところ、「せこい」のな

んの（この言葉は県外では使わない方が良い様です）。たったの一回でへたり込みました。あとは見取り稽古です。二日目、三日目、四日目と同じ状態でした。

さすがに気恥ずかしさもあってそっと外に出て、入口近くの床机に寝転びました。満点の星空でした。世間的には、まさに男盛りと言われる年代です。それにもかかわらず、一回の切り返しでダウンとは……。あまりにも情けなく奈落の底に落ち込んで行くような心情でした。あと一日か二日こんな状態なら剣道を止めようと決意しました。寂しい、哀しい決意でした。

ところが、神は私を見捨てませんでした。五日目だったか六日目だったか、なんと一回目の切り返しで顔といわず頭といわず身体中から汗が噴き出しました。それにもかかわらず、苦しくありません。続けて二人目の人と切り返しをやり、休むことなく地稽古をやりました。実に十八年ぶりの試合稽古です。四、五分間の申し合いでしたが、終わると、次の人が目の前に立っています。この人とも地稽古を済ませることが出来ました。うれしさが込み上げて来ました。落ち込みがひどかったために喜びはひとしおでした。

満点の星空の下での想いと、この日のことはずっと記憶に残っています。剣道が出来るということはこれほどうれしいことなのかと思い知った一日でした。

脇町内の稲武館と研心館が合わさって脇町少年剣道教室となりました。柴田先生の元で子供達や中高校生、高段者、中段者、低段者の人達が稽古に励んでいます。

研心館時代に竹刀を合わせて稽古をした人達、久次米さん、青木さん、大石さん、そして私と、教師七段となっています。他にも六段になっている人が二人おります。いつの間にか高齢者となっていました。いつまで続けられるものか判りませんが、足腰の立つ間は「生涯剣道」を目途として剣道に親しみ、楽しみたいと願っております。

生涯スポーツ賞

生涯スポーツ賞を受賞して

中村稔裕

この度、生涯スポーツ賞を受賞いたしました。身に余る光栄と深く感謝申し上げます。これも徳島県剣道連盟会長藤川先生始め、諸先生方の御支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

私は、令和七年で八十三歳になります。まさに光陰矢の如しであり、過去の思い出は喜・怒・哀・楽どれも忘れがたいものばかりです。昭和三十一年、中学二年生（高浦中学校）の時初めて竹刀を握って以来、約五十年間剣道を続けて参りましたが、四十八歳の時病気におそわれ、一年間入退院を繰り返した後に心臓の手術をするというアクシデントがあり、その後三年間全く竹刀を握る事が出来ませんでした。その後、養生のかいあり医師から剣道再開許可を頂き、今日に至っております。

剣歴としては、中学二年生の時高橋静男先生から剣道の基本を教えて頂き、久保勇先生他、多数の先生方の御指導のおかげで中学三年生時名西郡で団体優勝し、県下大会に出場しましたが当時は学生（中・高・大学）の剣道大会が禁止されており（翌年から禁止解除）、撓競技でありました。試合内容は剣道であるものの、着想は体操服上下、道具はフェンシングの道具にそっくり、袋竹刀と違和感を感じながらの試合でした。果して、今徳島県で撓競技で試合した人が何人いるでしょうか。主審の「勝負三本始め！」も今は死語となってしまいました。最も苦しかったのは高校三年間の稽古でした。石井・須見両範士先生をはじめ、外部の先生方が常時四～五人、これに担任教諭二人が加わり、それはすごい稽古の一言でした。血の小便が出るのは普通、途中水分の補給が禁止されていたため、やせ細ってしまいました。結果として高二・高三は県下で敵なし、インターハイに団体・個人で出場することができ、最も充実した時でした。高校卒業後、仕事の都合で十年間剣道からはなれましたが、二十七歳で再び剣道を始めました。平成十四年に定年退職するまで三十三年間矯正施設で剣道を続けて参りました。年齢が八十歳になった途端右ヒザ痛におそわれ、医師の診断結果治らないとの冷めた返事。今はビッコをひきながらの剣道で周囲の方に迷惑をかけているのではないかと心配しています。しかし、持って生まれた性格というか、面をつけいざ立合うと「さあいくぞ！きてみろ！」という気持ちがむくむくと湧き上り夢中になってしまいます。こうして剣道が続けられるのも高校時代に激しい稽古があったからこそと思っております。最近になっていつ引退しようかと考えたりするものの、まだいけるぞ！とどこからか聞こえてきます。八十歳を過ぎた高齢剣士、余命は大事に、余生は楽しく……。皆様今後ともよろしくお願い致します。

令和６年度　徳島県中学校剣道優秀選手

No.	男子	学校名
1	中岡亮仁	徳島
2	川添将義	徳島
3	坂本楓	徳島
4	西尾育真	徳島
5	川野滉治	徳島
6	阿井輝	那賀川
7	西岡葵士	那賀川
8	柏原健人	那賀川
9	尾畑伶音	那賀川
10	山名統也	那賀川
11	坂井蓮	徳島文理
12	大和智哉	徳島文理
13	岸田俊春	徳島文理
14	石川健人	徳島文理
15	中野漣	鷲敷
16	瀬戸夏希	阿南
17	谷崎柊二郎	木頭
18	原瑛大	小松島
19	渡辺多津磨	小松島
20	高橋優魁	城ノ内
21	鹿子陽史	鳴教大附属
22	藤﨑悠	相生

No.	女子	学校名
1	橋本愛生	徳島
2	茨木里音	徳島
3	大原実結	徳島
4	桑田愛加	小松島
5	福岡鈴	木頭
6	岩浅花	富岡東
7	上村優亜	富岡東
8	長尾悠世	石井
9	片岡穂香	県立川島
10	加統美羽	国府

令和６年度　徳島県高等学校剣道優秀選手

No.	男子	学校名
1	本庄創思	富岡西
2	中根朔	鳴門渦潮
3	石川元喜	鳴門渦潮
4	大﨑遥稀	鳴門渦潮
5	中野璃玖	鳴門渦潮
6	西岡優太	阿南光
7	玉垣一樹	阿南光
8	山下悠人	阿南光
9	和泉皓大	阿南光
10	樫原陽	阿南光
11	増尾優輝	阿南光
12	熊澤翔生	阿南光
13	佐藤輝和	徳島文理
14	片岡恭二朗	徳島文理
15	桑田隆希	徳島文理
16	藏本望海	城北
17	橋本和馬	城北
18	篠原嵩也	城北
19	渡邉大樹	城北
20	板東煌真	城北
21	三宅遼	徳島科技
22	次原玄	徳島科技
23	福池謙信	徳島科技
24	前田優真	川島
25	大塚伶斗	川島
26	北尾唯人	川島
27	藤井武士	川島

No.	女子	学校名
1	中村莉音	富岡東
2	山﨑春菜	富岡東
3	福岡詩	富岡東
4	河部未羽	富岡東
5	横山舞	富岡東
6	森長未来	富岡東
7	金谷咲	富岡西
8	後藤彩祢	徳島文理
9	赤池ひなた	城北
10	近藤真桜	城北
11	國見菜々	城北
12	小柏美音	城北

先生を偲ぶ

剣道範士 大澤譲二先生を偲ぶ

徳島県剣道連盟　顧問　原田　勝

令和六年六月九日（日）偉大なる、勝負の巨星が九十四歳の天寿を全うしその生涯を閉じ永遠の眠りに就かれました。

大澤譲二先生と私の出会いは昭和四十一年旧木頭村にて譲二先生の尊父・大澤善二郎先生に縁あって剣道の指導を受ける事が始まりとなります。善二郎先生は旧木頭村和無田の実家と徳島市の家を頻繁に行き来しており、その送迎を常に私が行っていました。旧木頭村出原には大和錬心館第一道場があり、徳島市城南町には大和錬心館第二道場があり、両道場とも善二郎先生が館長を務めておられました。そのようなご縁で譲二先生には機会ある度に稽古をつけて頂いておりました。

特に記憶に残っているのは、昭和四十五年三月二十六日、大和錬心館の十名が九州一周九日間の武者修業に行く事になり、同行させて頂いたのも今では譲二先生との懐かしい思い出の一つです。大分県を皮切りに九州各地の道場等で毎日、朝・昼・晩と一日三回、最初は道場の方々とまず一本勝負から始まり、それから稽古をして、また最後に一本勝負をする毎日が九日間続きました。その中で譲二先生だけは武者修行中全戦全勝の戦果であり、なかでも鹿児島県では県警の特錬員数名全員を負かしており、勝負強さを発揮していました。

また、昭和五十三年ごろには堀江幸夫先生は理事長から会長になられても、下村富夫先生を伴い旧木頭村の大和錬心館へ毎年数回は来られて、稽古をつけて頂いておりました。両先生が木頭へ来られるのは山里の自然の中で酒を飲むのが真の目的のようでした。特に春は旧木頭村北川の高の瀬峡より剣山山系を眺めながら谷川での蕗（ふき）の新芽を入れたあめごの石焼が両先生共に大好物でした。何時も酒は青竹を切った竹の筒で酒の燗をして飲み、夏は木頭出原の河原で鮎の石焼きで同じように青竹を切り酒の燗をして飲むのがいつの間にか慣例となっていました。その時の徳島市より旧木頭村までの送迎と石焼きや青竹の器作り等のお世話係りが譲二先生と私の役目となり数年続きました。当時、譲二先生は徳島の錬心館で夜は一般の稽古、夕方は少年の稽古でした。その当時は木頭の大和錬心館には少年の部がなかったので善二郎先生、譲二先生のご指導を頂きながら少年の部を立ち上げ、徳島の大和錬心館に負けないようにと年間三六五日の稽古を目標として少年の指導を始めましたが、実際の稽古日数は年間三百日前後でした。

その時期、譲二先生は剣道の範士を目指して堀江先生や下村先生等に稽古をお願いし、毎日六時間の稽古をこなしていました。

そのころ私は堀江幸夫先生、下村富夫先生の依頼により居合道をやるよう再三要請されており、迷っている時、私に「居合道の範士を目指して頑張って見ろ」と背中を押してくれたのが譲二先生でした。私が運良く若くして居合道の範士を頂く事ができたのも譲二先生の強い助言のおかげであると深く感謝を致しております。

善二郎先生は七十二歳の若さでご他界されましたが、何時も善二郎先生の持論は「剣道の修業には段位も称号もいらない。剣道は強くなれ、居合は上手くなれ、弱い剣道は竹刀を持っての踊と同じだ。」との考えを生涯貫きました。その影響なのか譲二先生は常に戦えば必ず勝の信念を持ち続けた正に勝負の鬼でした。その先生も歳と病には勝てず、令和二年三月末をもって徳島の大和錬心館は閉館となりました。それからは少し気弱になり勝負の鬼でもやはり人の子だったのか、晩年には私が死んだら使っていた剣道の防具一式等は生まれ故郷の木頭の大和錬心館で道場が続く限り保存をしてほしいと言い残しました。生者必滅、会者常離は世の常とは言え、譲二先生のご逝去の報にはつくづく世の無情を感じる出来事でした。譲二先生には衷心より安らかなご冥福をお祈り申し上げますと共にまだまだ未熟な大和錬心館の私たちを天国より見守り下さいますようお願い申し上げまして追悼とさせて頂きます。

昭和45年３月26日　九州一周武者修行に出発の朝　大和錬心館にて

大澤孝彰先生を偲んで

徳島大学医学部剣道部部長　久保宜明

徳島大学医歯薬学部剣道部名誉師範であられる大澤孝彰先生が令和六年六月九日にご逝去されました。夏の大会前、お盆の期間は蔵本道場を使えず部員が中央武道館で稽古をしていた際、隣で稽古をされていた徳島錬心館の船城先生にお声をかけていただき、大澤先生のご家族からの文書を渡され、大澤先生が亡くなった旨をお伝えいただいたそうです。拝見した文書には、去る六月九日に大澤先生が九十四歳の生涯を閉じられたこと、「静かに生涯を閉じる」という大澤先生の思いが綴られていました。大澤先生が蔵本道場に定期的にご指導に来られることになったのは私の学生時代ですので、過去の部報をもとに当時を振り返りたいと思います。

大澤先生が週一回月曜に蔵本道場にご指導に来られることになったのは一九八六年秋で、当時私は医学科五年で主将退任直後でした。当時医学部部長の勝沼先生とOB会長の天満先生の要請にご賛同いただいたと伺っております。私自身引退後で、月曜の稽古にどのくらい参加できていたか記憶は定かではありませんが、少なからずご指導いただいたと記憶しています。蔵本道場の稽古では、他の高段の先生方とは異なり、大澤先生自らグイグイグイと前に攻めて来られ、打っていけば返される、打たなければ先に打たれるという状況でした。どうしたらいいのかわからないまま一生懸命かかるのみでしたが、大澤先生に重ねてご指導を受けるうちに、面の打ちが伸びるようになった、体が腰から前に出るようになったと上達を実感するようになりました。

勝沼先生の応援に行った四国四県剣道大会などで大澤先生の試合も直に拝見させていただきましたが、大澤先生は常勝だったと記憶しています。ある試合では、表からわずかに回り込むように小さく三歩攻め、ほとんど動いていない相手に綺麗にすぱっと決められた小手は今も記憶に鮮明に残っています。一九八七年に徳島で主管した中四国医科学生剣道大会の個人戦では、勝気にはやって力んで格下相手に敗退した後、宴席で「打つ気になれば打てばいいんだ。」とシンプルにご指導いただきました。同年の追い出しコンパの二次会では、私たち卒業生を前に先生の若いころのご体験をサービス精神旺盛に語っていただいたお話（残念ながら紙面に書ける内容ではございません）を今も忘れることはありません。

大学卒業後、徳島県社会人剣道大会に徳島大学医学部OBチームの一員として出場させていただいた際（写真）には、大澤先生から激励の言葉をかけていただきました。卒業四年目の一九九一年には徳島大学医学部OB虎チームが念願の初優勝することができました。私自身は先鋒として勝利にあまり貢献できませんでしたが、強豪チームとの決勝戦では、一本取られた後に何とか一本

取り返すことができ、試合後大澤先生に「先鋒の引き分けが大きかった。」と褒めていただいたことを覚えています。私が大澤先生にご指導いただけたのは一年余りの期間でしたが、大澤先生の教えは私の剣道、そして人間形成の礎になっていることを実感しております。

第17回徳島県社会人剣道大会（1988年）ソイジョイ武道館前にて
前列中央から向かって右に、勝沼先生、井上先生、大澤先生、筆者

二〇〇一年五月に稽古終了後、立ち上がる際に心筋梗塞の発作にみまわれましたが、しばらく療養された後には再び蔵本道場にご指導に来ていただきました。徳島大学病院の循環器内科に定期的に受診されておられ、たまたま担当医が大学の同級生だったことから、彼からも適宜情報をもらいつつ、外来の待合で時にお会いしお話をさせていただきました。二〇〇八年に名誉師範になられるまで長きにわたり、多くの徳島大学医歯薬学部剣道部部員をご指導いただきましたことを心より感謝申し上げます。また、大澤先生とご一緒に蔵本道場にお越しいただきご指導いただきました徳島錬心館の先生方にもこの場をおかりし厚く御礼申し上げます。

第41回全日本東西対抗剣道大会（1995年）西軍大将として優勝
西軍監督・岩永正人先生（大澤先生の右・武専出身）より送って下さった写真

大澤孝彰先生のご冥福をお祈りいたします。

大澤孝彰先生との思い出

徳島支部　山本泰史

恩師である範士八段　大澤孝彰先生のご活躍は枚挙に暇がないため、先生との思い出を綴ることとしたい。

私は、小学三年生の時に〝徳島錬心館〟に入門した。先生の指導方針（道場訓）は〝大和（誰とでも仲良くすること）〟の精神で礼法、礼節を重んじ、文武両道で豊かな人間性を涵養することでした。また「勝負は時の運。小手で負けたのなら、それよりも速い面を打てばよい。山本の長所は面なのだから、それを伸ばしなさい」と個々の適性に応じたご指導だった。試合で負けて叱られたことは一度もなく、勝った時は選手の力、負けた時は先生の責任ともおっしゃられていた。

当時、通っていた中学校の体育館床がコンクリートで顧問も剣道未経験だったため、中学三年間、道場での先生との稽古が主で、基礎力（ほぼ〝面打ち〟のみ）を鍛えていただいた。当時、国体強化指定校であった城ノ内高校進学時、西谷先生のもとで精剣することを大変喜んでくださった。高校時は、なかなか道場に通えなかったが、大学在学中、徳島に帰省した時は、必ず先生に稽古をお願いして、ヘトヘトになるまで稽古をつけていただいた。

社会人になってからも道場に通い、多い時は週三回稽古をつけていただいた。体力には自信があったが、どんなにぶつかっても

平成元年11月
徳島錬心館記念大会における刃引き日本刀での日本剣道形演武
写真中央が大澤先生（左が中学３年時の筆者）

弾かれ、いつしか道場の隅に追われ、気がきれたところに一閃。稽古後の爽快な疲労感は、鮮明に覚えている。運よく六段・七段ともに初挑戦で合格した時は、〝よぉーやった〟と満面の笑顔で褒めていただき、昇段祝には、金の盃とケーキをいただいた。先生から「蝋燭（ろうそく）の数が、なんで八本かわかるか？」と問われ、答えられずにいると「八段合格もそこまできている。がんばれよ」と大病と闘いながらのご高配に涙を流しながら先生と握手したことが昨日のことのように思い出される。

お亡くなりになった年の初めに先生から寒中見舞いをいただき、裏一面に〝少年剣道が一番大事〟と大きく書かれていた。大澤先生の教えを継承しながら、その時代に合った少年少女への成長支援を天命として邁進する決意である。

大澤先生　本当にありがとうございました。御恩を次世代に紡ぎます。ご冥福をお祈りいたします。

合掌

鎌田恵先生を偲ぶ

副会長　米倉　滋

一　はじめに

剣道をこよなく愛し、情熱をもって高校剣道の普及と発展にご尽力された鎌田恵先生が令和六年二月二十日八十九才で逝去されました。

鎌田先生には、高校在学中のみならずこれまで長年ご指導をいただきました。ここに鎌田先生を偲んで先生の人となりを紹介させていただきます。

二　鎌田先生との出会い

私が先生から指導を仰ぐようになったのは、昭和四十八年四月からです。阿南工業高校入学から二週間ほど経った日、体育の授業中に体操部の顧問から体操部の練習を見学にくるよう勧められていたため、放課後体育館に赴いたところ体育館を共用して剣道部が練習をしていました。

このとき剣道部の指導をされていたのが、剣道部師範の清原栄先生と顧問の鎌田先生でした。清原先生には私が加茂谷中学校在学中何度かご指導をいただいていましたが、鎌田先生とは初対面でした。

私自身、中学校で三年間剣道部に在籍していましたが無級で、小柄であり長距離自転車通学のため剣道部に入部することを断念していました。しかし、両先生にお言葉をかけていただき「頑張ってやれるところまでやってダメなら退部しよう」と思い入部を決意しました。

三　清原先生との二人三脚

当時の剣道部員は約二十名で、一年後の昭和四十六年八月に徳島市内の城北高校で開催される全国高校総体に向け、清原先生との二人三脚で指導されていました。

鎌田先生は昭和九年九月一日徳島市でお生まれになり、昭和四十三年四月から剣道部の顧問となられ剣道具を付けての直接指導はしなかったものの、部員の学習面や生活態度、礼儀、さらに道場での稽古の取り組みなどについて厳しく指導されました。

部員は、成績が下がったり生活態度が乱れると職員室に呼ばれその理由や今後の在り方など叱咤激励を受けました。

一方、清原先生は地元阿南市出身で剣道教士七段（後に範士授賞）昭和四十四年三月阿南市内の小学校長を退職後、鎌田先生が熱心に勧誘され師範としてお迎えし、私達を指導して下さるようになりました。

四　進路指導

両先生の熱心なご指導にもかかわらず、目標としていた全国高校総体や団体に出場できず失意にくれていた三年生の秋、阿南警察署の岡本憲三先生から鎌田先生を通して徳島県警に奉職しないかとの勧誘があり、両先生が来訪され両親を説得していただき、同級生の近藤亘（後に徳島県警剣道師範）君と共に徳島県警に奉職し、その後剣道と共に人生を歩むこととなりました。

五　養武館顧問

平成七年徳島県警を退職後、会社員として勤めながら平成九年養武館を開設し、顧問に鎌田先生をお招きしました。先生は、道場生によく「道場に入ると、剣道以外のことは考えず一生懸命練習に励みなさい。」と話され、集中力をもって真剣に練習に取り組むことを指導していただきました。

なお、道場の前にかかげている「養武館」の看板の文字は鎌田先生の染筆によるもので開館にあたり鎌田先生から寄贈していただきました。

六　終りに

このように鎌田先生は私にとって生涯を通しての師匠であり、今の私があるのも先生のおかげと感謝しています。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

鎌田恵先生を偲ぶ

阿南支部　村井正志

昭和三十七年、鎌田恵先生が阿南工業高校（現阿南光高校）に赴任され、徳島東工業高校（現徳島科学技術高校）を退職されるまで約三十年間、剣道部顧問として活躍された。その間、全国高等学校剣道大会、団体・個人各六回出場、国民体育大会剣道競技単独チーム二回出場（宮崎国民体育大会剣道競技総合三位）四国大会連続十二回出場及び四国大会での入賞等、素晴らしい成績を残された。

昭和六十三年には、全日本剣道連盟より錬士授与、また平成五年には全国高校体育連盟剣道専門部より、全国高校体育連盟剣道部の諸活動ならびに斯道の普及発展貢献に際し、優秀指導者賞が授与された。

ところで、私たちの高校時代、剣道の技術指導は主に外部指導者の故剣道範士清原栄先生であった。顧問である鎌田恵先生は剣道経験者ではなく、部員への指導は主に、生活面を含めた心の面（精神面）での指導であった。しかし、先生は稽古がある日には必ずと言ってよいほど、部員たちよりも早く道場に入り、部員たちを出迎えるほどであった。率先垂範、そのような先生の姿から、私たちも常に緊張感を持ち、日々の稽古に励むことができた。当時の先生の指導には技術面を超えるものがあった。

また、先生は、故剣道範士清原栄先生のお言葉『敬（けい）忘（わす）不（れず）』、つまり敬いの道を忘却せずという生き方を大切にし、私たち部員に剣道の修練を通して、人間としての正しい生き方、あるべき姿を示していただいた。先生の教えにより、中身の濃い充実した三年間を送ることができた。

卒業後も、私たちの行く末をいつも気にかけ、その後のＯＢ会や同期会など、機会あるごとに参加し、共に盃を酌み交し、高校時代の教え子との思い出話や剣道談義で花を咲かせた。このように、師弟関係の枠を超えたお付き合いもしていただき、先生は私たちの人生において生涯の師として大きな支えとなってくれた。

現在私も緑寿を超え、自分の時間に余裕が持てるようになった。先日も在りし日を想い、ふとこんな言葉が脳裏に浮かんだ。それは、『出会い』である。出会いとは、人生において重要な役割を果たす言葉である。そして不思議な縁を持つ言葉である。

今の自分があるのも、人との出会いからである。その出会いがほんの僅かでも違えば、間違いなく今の自分はない。特に、中学高校時代の恩師との出会いには、その人自身の生き方を大きく左右する力がある。私にとってそんな大きな、大切な出会いが鎌田恵先生であったのは紛れもない事実である。

鎌田恵先生、本当にお世話になりました。そして、ありがとうございました。これからは、どうぞゆっくり休んでください。

鎌田恵先生のご冥福をお祈り申し上げます。　合掌

鎌田　恵 先生を偲ぶ会　令和 6 年12月15日　於 ロイヤルガーデンホテル

全国講習会報告

続・日本剣道形から考える
～剣道秋季講習会（日本剣道形指導）を振り返って～

警察支部　平野誠司

令和六年度の剣道秋季講習会は、午前中に剣道試合審判法を冨浦先生が担当され、午後からの指導法は昨年に引き続き日本剣道形を私が担当することとなった。

実技指導を始める前に、以前参加した西日本中央講習会で福本副会長の講話の一部をご紹介し導入とした。

皆さん一人一人、剣道と出会い、夢や憧れを持ち、いろんな価値ある体験を重ねながら、笑い、涙を流し、また感動し、勇気をもらいながら、剣道という真剣勝負の中で、素晴らしい瞬間を体験されてきたのではないかと思います。

剣道は生涯剣道、「老いて尚強し」という奥の深い世界です。指導者として剣を交えながら、その素晴らしい体験、その思いを伝えることがとても重要なのです。

また、指導者としての体験とは、過去のものではなく今継続する体験が必要です。加齢とともに失われていくものを追わず、今の自分の心身の統一を求めていくところに、「三無の剣」の実践、生涯剣道の意図するところがあります。そして、ともに学び、ともに確かめ合うという師弟同行の中でなければ剣道の真髄は共有できません。指導者のエゴで、押し付けた指導であったり、無茶な内容を強要する指導は慎まなければならないのです。こういった意味でも、剣道人口の減少という現実を踏まえ、剣道人としての振る舞い、また指導者としての指導のあり方をもう一度考え直すことが、今の現在する問題となっているところであります。

試合や審査は奨励の一手段であり、目的でないことはご承知の通り。新しい時代に本当の剣道の価値とはどういうものか。剣の真髄を見失うことなく奨励する難しさです。

勝負、試合は楽しい。しかし、稽古は厳しい。そこを乗り越えてこそ、素晴らしい一本、美しい一本が生まれます。人生も同じで、美しいこと、綺麗なことだけでなく、苦しいこと、辛いこと、悲しいこと、悔しいことがあるからこそ、それを乗り越えて人生は輝くのです。同時に感謝の気持ちも膨らみます。こういった剣道の貴重な体験を、次世代の子供たちと共有できれば素晴らしいことだと思います。

剣道をやりたいなあと外から見ている子、いよいよ剣道を

始めた子、勝ちへの執着が芽生えだした子、剣道を専門に習おうと決意した子、指導者としての立場になった子、剣道を職として選択した子、少年育成に生き甲斐を持つ先生、高段位の境地を求める先生等々。それぞれの人生の瞬間において、指導者がこの剣道の真髄を如何に表現して寄り添うことができるか、現代の活人剣を次世代に残すことに繋がるものと信じます。

日本の剣道は、長い歴史の中で理合や精神作用に深い内容を持つまでに発展してきた日本の伝統文化である。その修練方法は、剣道形によって攻防の理を知り、防具をつけ竹刀で打ちあうことで実戦的に補完することによって修得されてきた。しかしながら、近年では竹刀稽古で乱れたところを剣道形で修正する、または昇段審査に付随する位置付けとなっていると嘆かれる先生方も多い。

剣は心なり、心正しからざれば剣また正しからず
剣を学ばんと欲すれば、まず心を学ぶべし

幕末の剣聖、島田虎之助先生が喝破されたように、現代となった今でも剣道修練で大切なことは「心を正す」という剣の心を外すことはできない。昭和五十年には剣道理念を制定し、剣道を正しい方向へ導く指導方針が今もなお継続されている。

剣道の競技人口、特に少年剣士の普及から見ると、昭和四十年代から五十年代にかけて最盛期を迎え、小・中・高、更には大学、社会人に至るまで各種大会が大盛況となり、平成の時代は勝利至上主義を掲げて突っ走ってきた。戦後、スポーツとして再開し、試合で勝つ（相手に勝つ）という目標は剣道本来の姿をつい見失ってしまうくらいに普及効果が大きかったのである。

五年前には新型コロナウイルス感染症が拡大して世の中の動きが一時的にストップし、物事の見方や価値観が見直される機会となった。剣道界においても例外ではなく、感染症対策として鍔迫り合い等の接近する攻防が見直された。

功を奏したことは、この暫定的な試合審判方法により、かねてから懸念されていた姑息な近間の攻防を、単に審判員が反則として捌くだけでなく、試合者相互が如何に正々堂々と勝負するか、試合の中でその剣の心を表現するために審判員と試合者双方の認識をすり合わせていく作業が重ねられたことであった。

遠い間合から堂々と攻め合い、機会を探りあって捨て切った技を繰り出す。「打てるところは打たれるところ」という日本剣道特有の「諸手剣の理」は、「やるかやられるか」という一瞬の判断を常に求められる厳しさがある。

この勝負という場面で、「ずるをしない」「ごまかさない」「独りよがりにならない」という自分と向き合う心を育むことができれば、これが相手を思いやり、また感謝する心にも繋がっていく。こうして剣道を通して得た一人一人の体験や実践がやがて剣道のすばらしさとして発信され、これからの時代に必要とされる豊かな心へと導いてくれるのではないかと期待するところである。

話を日本剣道形に戻すと、従来から剣道形の指導展開といえば、

〈部分から全体、易から難、単から複〉という構成要素の組み立て方式がほとんどであった。しかし、形稽古が修練の中心であったという意味合いからしても、「剣道形は技の稽古」として剣道修練の中核的位置付けにしたいところである。指導に取り入れたもの、それはまず相手と合気となって正面で向かい合うという剣道の対人性を理解してもらうところから始めることとした。

確かに剣道形の大小十本から理法を学ぶには、まずは解説書のとおり動くことできること、ここが第一である。理法でいう刀法は、竹刀ではなく日本刀（木刀）をもって構え、手の内、剣先、鎬の使い方、そして漸突の円運動を理解することである。他にも竹刀剣道と違った感覚がある。竹刀剣道が踏み込み足（練度が上がるとすり足も使うが）での打突であるのに対し、日本剣道形では全てすり足で行う漸突となる。すり足打突の気剣体一致は、後ろ足の引き付けが要であり、片足が移動すれば必ずもう片方の足も正しいところへ移動させる。そして、その移動もできるだけ素早く完了させることによって、打突を担う振り上げ振り下ろしもスムースにまた瞬息となる。これは身法にも通ずる大切なところである。

参考までに、踏み込み足打突では左足で踏み切って体全体を送り出し、右足が床を踏み込んだ瞬間に竹刀が部位を捉えている。ここで踏み切った左足は素早く右足後方に引付けられ、前傾した体勢を立て直すとともに相手の側方を抜けていくのである。

よく見られる指導展開であれば、〈部分から全体、易から難、単から複〉の説明で時間が経過し、さあこれからという場面で終了となる。次の機会もまた同じような展開となると、剣道形が剣道修練の中核とならない所以、いつも他人任せになる所以はどうもこの指導展開にあるように思われる。

また、今回は約（おおよそ）九歩の間、この立ち合いの間からお互いに三歩入る。この「漸突攻防の間」への詰め方は、特に最後の三歩目が肝心となる。入ったところは生死の分かれるところ、まさに真剣でなければいけない。こういった意識の中で剣道形が繰り返されると合気状況はますます深まり、ポンプアップしていく集中力の中、自己浄化作用が生み出されていく。

更には目付の問題。正面で向かい合うという場面で目付は『観（心）の目強く、見（眼）の目弱く』という教えがあるが、柔らかく、引っ掛かりなく、遠山を臨むような気持でうららかに相手の額の真ん中を見つめるようお勧めする。

〈見－視－観〉を考えると、「見」は肉眼的なものをみる働き、「視」は心に問題意識をもってみる働き、「観」は全身全霊を総動員してものをみる働きとして、単に額の真ん中を見つめるのではなく、相手を突き抜けて無限大の空間に馳せる、遠くを近くに、近くを遠くにみるような気持ちが大切とこれまた奥が深い。

目付を重視した合気状況は、やがて約束事を超えたように自分の感覚と重なり合っていく。気がつけば、はっと我に返り集中から解放される。この快感、剣道形っておもしろいという思いがこみ上げてくるであろう。

日常性から一線を画したところに剣道がある。剣道形から竹刀稽古へ波及する新しい感動が巻き起こることを期待したい。漸突と打突の有効性を兼ね備えた剣道を正しく伝承していくには、剣道形の修練は欠かせないのである。

令和六年度
第五十九回剣道中央講習会報告

警察支部　山室雅幹

はじめに

本講習会は、剣道の普及・発展のため、全日本剣道連盟と各都道府県剣道連盟及び全国組織剣道関係団体との意思の疎通を図るとともに、新型コロナウイルス感染拡大の中で、指導法・審判法について共通の理解を得ることを目的とする。

日程　令和六年四月六日・七日の二日間

会場　神戸市中央体育館

【網代会長挨拶】

全日本剣道連盟の決定事項を的確に伝達する、最も重要な講習会である。新型コロナはまだ終息していない。全日本剣道連盟は、引き続きガイドラインをしばらく継続して事業を推進していく。

この講習会で講習生は、年度の重要な事柄を持ち帰り、各団体にしっかり指導して頂きたい。

【講義内容】

一　令和六年度全剣連事業計画

【中谷専務理事】

本年度は、伝統文化としての剣道の正しい普及と更なる剣道の質の向上を図るため、指導・教育体制を強化し、以下の重点事項を実施する。このほか、主催・共催各大会をはじめ、審査会、講習会等の充実を図る。

㈠各大会は、京都演武大会有観客)、国民スポーツ大会（佐賀県)、世界選手権大会（ミラノ）等は予定通り実施する。

㈡審査会は、北海道、宮城、沖縄、山梨での審査会を復活する。

㈢講習会は、後援講習会の復活 、指導者育成中央講習会 二回（八段)、審判法東西研修会（東日本・西日本）女子指導法講習会二回

㈣後援大会（山梨剣連七〇周年記念・全日本女子選抜七段優勝大会、甲府市初）

㈤倫理に関するガイドライン（概略説明）

①居合道金銭授受問題の記述を削除

②身体的・精神的暴力（バイオレンス）行為等について

○指導者が稽古に名を借りて、力をふるってとの訴えが時にある。稽古を騙るこのような行為は絶対許されないことを指導者は自覚すべきである。

○剣道は『子弟同行』という言葉がある。剣道の稽古において、師と弟子が志を同じくして修行すること、剣道修行の

望ましい姿とされている。『剣道指導要領』より。とすれば、師（指導者）が弟子の人格までも損なうような暴力、暴言は絶対にしてはならない。

③差別・プライバシーについて性的指向及びジェンダーアイデンティティを理由とする不当な差別を行ってはならない。

④ガバナンス（適正な組織運営）、コンプライアンス（法令・全剣連規則・ルール含む）

⑤剣道人口の減少（暴力、体罰、その他ハラスメントの根絶を行なう必要がある）

⑥無くならない不祥事

二　ガイドラインを踏まえた試合・審判の留意点並びに今後の展開

【香田講師】

㈠新型コロナ感染症は収束していない。

㈡暫定審判法により剣道が良くなっている。（継続）

㈢審判規則・細則が変わるものでは無いが運営の手引きの改正は八月ごろ発表予定あり。

㈣試合者は、面マスクまたはシールドを着用する。

㈤審判員は、マスクは着用しない。但し控え席でのマスクは個人の判断による。

㈥境界線間際において試合者相互が、つば迫り合いから分かれる場合、場外にでるようであれば止めをかける。

㈦反則内容の説明は、試合者及び観衆にも理解できるようにジェスチャー等も交えながら明確に知らせる。（公正を害する行為等）

三　木刀による剣道基本稽古法

【濱崎講師】

㈠日本剣道形と竹刀剣道の中継ぎ的役割の稽古法である。

㈡指導者は、木刀による基本稽古を指導できるようにする。

㈢打突部位を明確に発声する。

㈣打突後は油断することなく相手に正対し、間合いを考慮しながら『中段の構え』となって残心を示させる。

㈤残心とは、一般に、打突後油断せず相手の反撃にも対応できる身構え、気構えをいう。

㈥基本九『指導上の留意事項』打ち落とし技『胴（右胴）打ち落とし面』の『掛り手』の動作について

【原本】

『掛り手』は左足からやや左斜め後ろにさばくと同時に、相手の木刀を自分の木刀の刃部の『物打』付近で斜め右下方に打ち落とし、すかさず右足を踏み出して正面を打つ。

【講習会料】

左足からやや左斜め後ろにさばくと同時に、刃部の『物打』付近で斜め右下方向に打ち落とし、すかさず右足を踏み出して正面を打つ。

※指導上の留意事項

『掛り手』は左足からやや左斜め後ろにさばくので、体は斜め右方向を向く。
まっすぐ振りかぶり刃筋正しく刃部で真下（下方）に打ち落とす。

四　指導法

【松田講師】

㈠講習会の目的、剣道の普及・発展のため、全日本剣道連盟と各都道府県剣道連盟および全国組織剣道関係団体との意思の疎通を図るとともに、新型コロナウイルス感染拡大の中で、指導法・審判法について共通の理解を得ることを目的とする。

㈡指導法の重点事項『剣道の理念』をより深く認識し、高い水準の剣道を目指すために『指導法講習における【重点事項】』を踏まえた指導法の普及を図る。

㈢『新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法』を指導する。

①正しい鍔迫り合いから間を切る方法
②一般の崩しから技をしかける方法

五　稽古会の在り方

【全講師】

稽古とは、『古を稽える』先人の教えについて工夫、研究するという事である。鍛錬、錬磨、修錬、修行の意味もある。
したがって、剣道の稽古は、単に技術の上達を図ったり、身体を丈夫にすることばかりでなく『すべての道に通ずる心理の探求と、人としての在り方を考える』という目的を達成する意味がある。

六　感染症対策並びに剣道の安全性

【宮坂講師】

㈠新型コロナ感染症は、収まりつつあるがおそらくこの社会から暫くの間、消えない。

㈡新型コロナ感染症の重症化の割合は、大きく減ったが、オミクロン株が流行して以来、感染者が急増しこのため第八波で重傷者・死者は最も多くなった。

㈢高齢者、八十歳程度の方は、免疫力が低下、持病があるためワクチンの効果が十分に出ず結果として重傷者・死者が多くなる。最近の死者の九割が七十歳以上の高齢者である。

㈣子供、若者の新型コロナ感染は、病状は軽いと言われているが実際はかなりの後遺症問題がある。

㈤新型コロナ感染は、若い世代から年代の高い方に広がる傾向がある。

㈥稽古時には、面マスクまたはシールドを着用する。

㈦シールドの下部の隙間を塞ぐと、飛沫飛散の防止に大きな効果を得ることができた。

㈧飛沫の吸い込みを避けるためには、通風・換気が重要である。

七　女子委員会（女子委員会活動内容とお願い）

【佐藤講師】

㈠幼少年剣道の活性化を目指す女子ブロック講習会（北海道・北信越・近畿・沖縄）を実施する。剣道の特性や楽しさを伝えると共に女性指導者の人材育成を図る。

㈡令和六年度少年女子ブロック講習会（関東・東海・中国・四国）を実施する。

㈢女子代表者による全国リモート会議を実施する。

㈣女子審判法講習会や女子審判研修会を通して審判技能の技を高めると共に、各種大会の活性化を図る。

㈤広報活動を通して、女子剣道の発展及び活性化を図る。女子八段審査一次合格者のコメントなど（剣窓に掲載）

八　日本剣道形

【中田講師】

㈠共通理解

①中段の構えの延長とは、棟の鍔元と切っ先を直線で結んだ延長をいう。

②太刀一本目、打太刀正面打ちを抜かれた剣先の高さは下段程度。

③太刀四本目、双方切り結ぶ位置は、およそ身体の中央部、剣先は、正面の高さ。

④太刀五本目、仕太刀の中段の構えは、一挙前に出し先は、やや斜め下。

⑤太刀六本目、仕太刀がすり上げ小手を打ったとき、右足を踏み出し左足を引き付けるのを原則とするが、間合いによって引き付けなくても、踏み出したと解釈する。

⑥太刀七本目、仕太刀がすれ違いながら胴を打つときの方法。

○右足を右前に開いたとき刀を左肩上に振り上げ、左足を踏み出すと同時に胴を打つ。

○右足を開いても（体は移動させない）刀を振り上げず、左足を踏み出と同時に振り上げ振り下ろし、一拍子で打つ

（修練者の練度に応じて指導する）

⑦太刀半身の構えの刃先の方向

○中段半身の構えは、刃先をやや斜め下に向ける。

○下段半身の構えの刃先は、真下とする。

㈡まとめ

①日本剣道形解説書、講習会資料（日本剣道形）を熟読・精通する。

②日本剣道形の修練を通じて、剣道の原点である剣の理法を学び、剣道の正しい普及発展に役立てることが目的である。

③我が国の伝統文化として次代に正しく伝承しなければならない。その為に、平素から日本剣道形の修練に努める必要がある。

九　普及委員会『剣道の理念』理解の深化に向けて

【姫野幹事】

◎剣道の理念　『剣道とは剣の理法の修練による人間形成の道である』

㈠剣の理法とは、気剣体一致した打突を生み出すための心法、刀法、身法とが一体となっているもの。

㈡若い層にも理解されるように剣の理法を明確に示す。

㈢指導は、指導者の裁量に任せる。

おわりに

前記講習内容は令和六年五月六日(日)、ソイジョイ武道館におきまして、伝達させていただきました。

講師先生方からご指導いただき、私自身『正しく生きる』『正しい剣道』を目指し、精進していかなければと改めて感じることができました。

今後とも、皆様方のご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

剣道授業協力者講習会に参加しての所感
～中学校剣道授業におけるジレンマ～

小松島支部　青木博志

昨年（令和五年）に引き続き、令和六年九月七日、八日の両日、私は、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）において開催された全日本剣道連盟主催の「剣道授業協力者指導充実・資質向上講習会講師中央オリエンテーション」に参加させていただきました。

このオリエンテーションは、平成二十四年度、中学校の授業において武道が必修となったことに伴い、中学校からの要請により、授業を協力者として剣道専門家が授業に赴き、担当教師と協力して授業を進めるために必要な知識や技能を習得するための講習です。

私自身は、二回目の参加ということもあり、同オリエンテーションの趣旨や内容はある程度理解していましたので、戸惑うことも無く参加することができました。

講習の内容は前回とほぼ同じで、全剣連網代会長の訓示をはじめ、各講師の先生方からの座学と実技の講習を受けました。

中学校学習指導要領では、武道の授業において次の事項を身に付けることができるよう指導するとあります。

①知識及び技能

技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開すること。

②思考力、判断力、表現力等

攻防などの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考え方を他者に伝えること。

③学びに向かう力、人間性等

武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとすることなどや、禁じ技を用いないなど健全・安全に気を配ること。

これらをバランスよく学習させるために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を進める必要があるとしています。

本オリエンテーションでは、全剣連網代会長の訓示に始まり

一　コンプライアンスの徹底について

二　中学校剣道授業における安全指導

三　授業協力者に求められること

四　新型コロナウイルス感染症予防に留意した中学校における剣道授業の展開

五　スポーツ庁委託事業について

六　中学校部活動の地域移行の進捗状況について
七　剣道授業におけるＩＣＴの活用について
八　剣道授業における楽しい動機付け及び剣道具のある授業
九　公開授業報告（北海道、栃木県、広島県）
十　ブロック別検討

と、多岐にわたり講義がありました。

ＩＣＴを活用した授業や、楽しい動機付けとしての実技の進め方、事故防止の観点からの安全指導など効果的な授業の進め方について説明があり、また、公開授業の報告では、三道県において、素晴らしい授業が行われたとのことでした。

一方、ブロック別検討では、中学校からの授業協力者派遣の要請が無い、あるいは低調な都府県がかなり多いことも分かりました。

本県では、県教委と剣道連盟が連携し、予め、派遣を要請する中学校と、派遣される授業協力者、授業回数が明示されており、分かりやすく整理されています。

このように、授業支援に向けた体制や指導内容はよく考えられている反面、実際に授業支援を経験してみたら、年間十時限足らずの授業時間で、前述の指導内容を充足していけるのかという疑問が生じました。指導事項は剣道の技術だけでなく、思考力、判断力、表現力、人間性など多岐にわたっています。

要求される効果に対して、物理的に、あまりにも時間が足りないと思います。剣道が中学校の必修科目となって十数年、これまで授業を進めてきた中でジレンマを感じてこられた方も少なからず居られるのではないでしょうか。

しかし、そこは剣道の理念である。「人間形成」を念頭に、わずか数時間の授業であっても、剣道を通じて会得できる何かがあると信じて臨み、少しでも効果が得られるよう、自己研鑽と創意工夫により務めを果してこられた授業協力者の先生方に対し敬意を表する次第です。そして、今の「剣道授業」が続く以上、指導に携わる中学校担当教師と授業協力者は、今後とも、より効果的な授業を展開することに腐心することになります。

剣道に役立つ医学知識

剣道における感染症対策の今後

徳島県剣道連盟　医・科学委員長　佐々木　克哉

二〇一九年十二月に中国で始まった新型コロナウイルスは爆発的に広がり日常生活だけでなく、多くのスポーツ競技に影響を与えました。剣道においては審判法まで改正するに至り、剣道競技に多大な影響を与えました。

剣道は、競技の特性上、密接な接触や身体的な接触が避けられず、感染症対策は非常に重要な課題です。特に近年の新型コロナウイルスやインフルエンザの影響を受け、柔軟かつ効果的な対策が求められます。以下に剣道における感染症対策のポイントを示します。

一　基本的な衛生管理

第一に、基本的な衛生管理が重要です。稽古に入る前に、手洗いや手指消毒を徹底することが求められます。道場の入り口に消毒液を設置する事が望ましいです。マスクの着用についてはコロナが五類に移行後は義務ではなくなっています。マスク着用により飛沫感染はある程度は予防できますが空気中に浮遊するウイルスを防止することはできません。

フェイスシールド、マウスシールドも同様です。夏の暑い時期などは呼吸も苦しくなり、熱中症のリスクも高くなります。マスクは感染予防として万全ではないことを認識し、コロナやインフルエンザの流行期には積極的な着用を推奨し、流行期以外の時期は個人の判断で任意とするのが妥当と考えます。令和六年九月のガイドラインではマウスシールドかマスクのどちらかを着用するとなっています。基本的には口を覆うシールドを常に着用し、流行期にはマスクも着けるというスタンスでよいと思われます。

二　道場の清掃と換気

道場自体の清掃も大切です。道場の床は稽古前にモップがけを行い、埃が溜まらないように心がけが必要です。また、換気はウイルスの拡散を防ぐ上で非常に重要です。稽古の合間に窓を開けて換気を行い、新しい空気を取り入れるように心がけます。一般的なエアコンは換気にはならないので注意が必要です。

三　疲労と体調管理

稽古を行う際には、選手一人一人が自分の体調を十分に管理し、風邪やその他の感染症の症状がある場合は、無理をせず休むことが大切です。体調が優れない時や熱がある場合は、積極的に稽古

を欠席し、周囲への感染を防ぐ意識を持つことが重要です。「稽古をすれば治る」などの昭和の根性論はコロナ禍で一掃されました。指導者の皆様や親御さんも熱が出ているのに我慢して稽古する生徒を称賛し、体調不良で休む生徒を卑下するような認識は改める必要があります。

四　ソーシャルディスタンス

コロナ禍では当たり前のように叫ばれていたソーシャルディスタンスという言葉も今では死語になりつつあります。日頃から距離をとって会話する必要はないです。感染症の流行期にはウイルスの飛沫感染を防ぐ効果が期待できますが、今後はあまり意識する必要はないと考えます。

五　規制事項の遵守

令和六年九月一日に全日本剣道連盟から感染症ガイドラインが更新されました。現時点での感染症対策として非常に理にかなった内容となっています。指導者の皆様には一読いただき、ガイドラインを尊守する事で選手自身の安全だけでなく、周囲の人々の安全も守られる事を認識して頂きたいと思います。

ま と め

剣道における感染症対策は多岐にわたりますが、これらの対策を講じることで、選手一人一人が安全に剣道を楽しむことができ、競技の継続性が保たれます。今後も感染症の動向に応じて、柔軟な対応を心がけ、皆が安心して剣道に取り組める環境を整えていくことが求められます。

大会・行事所感

中四国地区稽古会

事務局長　木下裕康

令和六年十二月七日に行われた中四国地区稽古会について報告いたします。

例年、中四国地区稽古会は美馬市脇町のうだつアリーナで開催しておりましたが、今年は吉野川市鴨島町の日本フネン市民プラザに場所を移しての開催となりました。今回の稽古会には中四国九県から範士三名、教士二十名の八段の先生方と、県内外から七段以下の剣士五十五名が参加しての稽古会となりました。

稽古内容については、本県の教士八段吉田茂生先生の指揮により、

準備体操・素振り
七段以下の稽古
基本稽古
廻り稽古
八段以上の互格稽古
八段以上の指導稽古

と進み約二時間の稽古で終了しました。

今回の稽古会を見させて頂いて印象に残ったのは、八段以上の互格稽古で、岡山県の山根大二朗範士が打った面です。

先生は相手の動きに合わせて柔らかく構え面を打っておられましたが、その動きに無駄がなく、身体を前に移動したと思うと正確に鋭く相手の面を捉えておられました。それを見ていて何であんなに簡単に打てるのかなという思いで先生の手の動き、足の運びを見ておりましたが、結果的に私のような凡人には到底真似は出来ない。けれど、稽古すれば近づけるかもと言う素人っぽい結論に至りました。

今回も八段の先生方の稽古を見て、自分の竹刀の使い方、足の捌き方について参考になることが沢山ありました。

この稽古会は、毎年十二月の第一土曜日に行っており、参加資格として剣道連盟の会員で、段位に関係なく、大学生以上の一般会員となります。例年七段以下の参加者が五十名前後という状態であり、もう少し広く皆さんに稽古会を知ってもらい、稽古会に参加して頂きたいと思っております。八段の先生方の稽古を見、稽古をつけて頂くことで自分の剣道を見直す良い機会になると思います。

何か事務局だよりのような内容となりましたが、多くの剣友の参加をお待ちしております。

各種大会に参加して

第七十二回全日本都道府県対抗剣道優勝大会に出場して

中堅　西田凌介

令和六年四月二十九日エディオンアリーナ大阪にて、第七十二回全日本都道府県対抗剣道優勝大会に出場させていただきました。この大会は一般的な大会とは少し異なり、先鋒は高校生、次鋒は大学生、五将からは職業・年齢・段位によって構成された各県代表の選手が集まる大会でした。本県選手団は先鋒「尾畑涼月」選手、次鋒「岩原潤哉」選手、五将「玉井翔」選手、三将「山本義征」選手、副将「敦賀晋平」選手、大将「北村仁志」選手でした。私は中堅の教職員のポジションで出場しました。社会人になってこのような素晴らしい大会にまた出場させていただいたことに感謝申し上げます。

一回戦は沖縄県でした。結果は残念ながら惜敗してしまいましたが、徳島県選手団が一つとなってそれぞれが自分の納得できる試合ができたと思いました。私自身は思うような試合展開を運ぶことができず、悔いが残る形となってしまいましたが、良い経験をさせていただいたことに感謝しています。

大きな舞台になればなるほど緊張感や代表選手というプレッシャーが心の中で増大しますが、その時の自分の心構えをしっかりと作り、自分の一〇〇パーセントのパフォーマンスが試合で発揮できるようにすることが今後の課題の一つであると改めて確信することができました。その一つの解決策として自分自身の稽古場を確保することが大事であり、日々の積み重ねの中で課題を持って取り組むことがいかに重要なのかを感じさせられました。自分では理解できていることでも実際には行動にまで移すことができていないことは自分の中でも永遠の課題であります。今の私が一番感じられたことを僭越ではありますが、述べさせていただきました。

解決策は人それぞれ異なり、様々な稽古場でたくさんの剣士の皆様と稽古をすることで新たな気づきや表現の仕方、剣道についての考え方を学ぶことで自分の剣道の上達にも繋がると思います。今後、稽古をしていくなかで様々な課題の解決策を見つけながら稽古に励み、そして、いつかまた同じ舞台に立ち、徳島県に貢献できるような選手になりたいと思います。

本大会出場にあたり、熱心に御指導をしていただきました先生方、選手のサポートをしてくださった徳島県剣道連盟の先生方、そして個人的にはなりますが私の稽古場所である勤務校の徳島文理中高の生徒の皆さん、ありがとうございました。この場をお借りして感謝申し上げます。そしてこの感謝の気持ちを忘れずに今後とも精進していきたいと思います。これからも先生方の変わらぬ御指導御鞭撻を賜りますよう宜しくお願い致します。

第十六回全日本都道府県対抗女子剣道大会に参加して

阿南支部　山﨑砂織

この度、第十六回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会に出場しました。結果は神奈川県に〇－四で敗退。残念な結果となってしまいました。

私は、年齢的な不調があり、二年弱、剣道を休んでいました。そんな私に、羽ノ浦で共に稽古に励んでいた仲間は、何回も、「砂織、剣道をしよう」「一緒に頑張ろう」と声をかけてくれました。この声に勇気づけられ、また少しずつ剣道を始めました。

再開し始めた頃は、体が動かず嫌になりかけていましたが、そのような時に、都道府県大会の予選の話を聞きました。低迷していた自分のモチベーションを上げるためにも、予選に参加しようと決意しました。

どうにか予選は突破し、全国大会に出場することができました。剣道を始めるきっかけを作ってくださった方達に感謝しながら、約半年間、自分なりに全国大会に向けて稽古に励みました。

いざ大会当日。相手は、今年の世界大会に出場し優勝しているメンバーが三人も揃っている神奈川県でした。

先鋒の、富岡東の中村選手は、四国大会個人戦で二連覇を成し遂げています。序盤から攻撃し、惜しい技もたくさんありましたが、決まりません。最終笛と同時に小手が一本！と思いましたが、一本にならず引き分け。

次鋒は、筑波大学の岩原選手。徳島で剣道している人で知らない人がいないと言っても過言ではないほどの有名選手です。岩原選手も攻めの剣道で攻撃していましたが、惜しくも引き分け。

五将は徳島県警の後藤田選手。試合開始の声と同時に、相手の面に対して後藤田さんの出小手がさく裂！試合中盤に小手を返されはしましたが、終始攻めの剣道で引き分けとなりました。

中堅の山本選手、三将長谷川選手の相手は世界大会に出場している選手とのこと。それぞれ一歩も譲らず、おもい切った試合展開に見えました。しかし、二本連取され惜敗。

そして副将の前田選手。ご存知の通り、上段の名手です。取り返しに行くぞといった気構えで、相手に向かっていくも一瞬の隙に小手を先取され、そのまま試合終了。

大将は、山﨑。既に勝敗は決しているのにもかかわらず、思いきった試合ができず、二本連取され悔いの残る試合となってしまいました。

試合後、「本当に情けない、このままでは今まで支えてくれた方々に申し訳ない」という気持ちが溢れ、東京から帰ってきたその日からまた稽古に励みました。次こそは自分の納得できる剣道ができるように努力しようと、またさらに稽古に打ち込みました。

本大会を通して、家族や剣道仲間など、いつも支えてくれる存在のありがたさを再確認することができました。感謝の気持ちを忘れることなく、これからも剣道を続けていきたいと思います。いつもありがとう！

全日本剣道連盟より画像提供

第16回全日本都道府県対抗 女子剣道大会　試合結果

	先鋒	次鋒	5将	中堅	3将	副将	大将
徳島県	中村	岩原	後藤田 ㊁	山本	長谷川	前田	山﨑
神奈川県	松井	村田	諸岡 ㊁	高橋 ㊃㊋	松本 ㊁㊁	一本勝 ㊁ 平野	二見 ㊋㊁

第二十二回全日本選抜剣道八段優勝大会に出場して

徳島支部　玉田晋作

令和六年四月二十一日（日）、名古屋市中村スポーツセンターにおいて、標記大会に昨年に引き続いて二回目の出場を果たすことができました。

昨年の大会を振り返ってみると、初出場でしかも第一試合で東京の寺地種寿先生との対戦が組まれ、過度の緊張の中、無我夢中で攻め続け勝利し、二回戦まで駒を進めることができました。「よく頑張った。」と評価してくださる方も多かったが、自分の中では、果たして八段としての剣道が体現できたのかと疑問を抱きながら一年を過ごしました。幸いにもう一度この舞台に立たせていただく機会を得ることができ、今度は勝敗を意識することなく、日頃自分が目指している剣道を体現したいとの思いで大会に臨みました。

初戦の相手は、茨城県の本名和彦先生でした。本名先生は数年前に行われた茨城国体の大将として優勝される等、数々の大会で活躍され、身長が一八五センチメートルで、懐がとても深く感じる剣風です。この大舞台で、本名先生の攻めに恐れることなく、間合いを詰めることができるかどうか、一年間の修行の成果を試す絶好の機会でした。開始早々、本名先生の猛攻を受けましたが、何とか防ぐことができ、次第に落ち着いた攻防の試合となりました。応じ技を出しながら、間合いを詰めることができましたが、そこから有効打突になるような捨て切った技を出すことができず、延長となり長い試合となりました。延長三分が経過しようとしたところで、本名先生に誘われ中途半端に小手に出てしまったところに面を合わされ、初戦敗退となりました。試合終了後、緊張感から解放され放心状態で会場の廊下を歩いていると、私の試合を審判してくださったある先生が「いい試合だったな。」と一言声をかけてくれました。当然悔しさが残る結果でしたが、自分の目指そうとしている剣道が少しではありますが体現できたのかと、清々しい気分になりました。今後もこの試合でいただいた課題を克服し、自分の理想とする剣道に近づけるよう、更に精進を重ねたいと心に誓いました。

最後に、このような機会を与えてくださった全剣連の選考委員の先生方。また、日頃稽古をいただいている先生方、剣友の方々、毎日一緒に汗を流している徳島文理中学・高等学校剣道部の部員達に心より感謝申しあげるとともに、剣道の普及に寄与することで、微力ではありますが恩返しができればと考えています。

全日本剣道連盟より画像提供

全国高等学校剣道選抜大会に出場して

城北高等学校　橋本和馬

私たちは令和六年三月二十六日から二十八日にかけて、愛知県春日井市で開催された第三十三回全国高等学校剣道選抜大会に出場しました。全国ベスト八以上を目標としていた私たちは、日々の練習で全力を尽くし、心を一つにして全員で目標に向かって取り組みました。大会が近づくにつれて、緊張感も増し、いつも以上に気合いが入りました。前日に会場入りし、開会式に参加しているとき、「僕たちの代でもこの舞台に立つことができた」という実感が沸いてきました。

そして試合当日、一回戦で長野県代表の佐久長聖高校と対戦しました。佐久長聖高校は全国大会の常連校であり、対戦前は緊張していました。しかし、仲間と声をかけ合うことで自然と緊張が和らぎ、気持ちと粘り強さだけは負けないと思いながら試合に臨みました。先鋒戦は引き分け、次鋒戦は相面で一本を取られ負け、中堅戦は〇―一の状況で回ってきました。相手に隙はなく、手数が少ない中で焦って面を打ってしまい、小手を打たれて一本負けをしました。続く副将戦でも負けてしまい大将に繋げることができずに敗退してしまいました。

この試合を通して、緊張感のある中、相手にリードを許した状況で一本を取りにいく難しさを実感しました。どんな局面でも一本を取ることができる攻撃力を身につける練習をしていかなければならないと思いました。しかし、全国トップクラスの迫力ある試合を間近で見ることができ、この大舞台に立てたことが私たちにとって貴重な経験となりました。

高校で剣道を三年間続けて強く感じたことが「感謝の心をもつ」ということです。練習試合でいつもバスを運転して、一人ひとりの課題を真剣に指導してくださった大石先生、稽古をつけてくれた松浦先生や支えてくれている保護者の方々、仲間の支えがあったからこその活動だったと思います。特に仲間の存在が大きかったと思います。一つの目標に向かって全員が真剣に取り組み、お互いに声をかけ、励まし合いながら自分たちを高めていくことができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

剣道を通して得た経験を大切にし、感謝の気持ちを忘れずに、高校で学んだことを活かして夢に向かって進んでいきたいと思います。指導に携わっていただいた先生方や保護者の方々、本当にありがとうございました。

試合結果男子（城北）

男子団体トーナメント１回戦

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
城　北 （徳島）	多田	蔵本	橋本	渡邉	篠原	0 — 0
佐久長聖 （長野）	木下	高山	黒岩	村上	坪内	4 — 3

全国高等学校選抜大会に出場して

富岡東高校　森長未来

令和六年三月二十六日～二十八日にかけて、第三十三回全国高等学校剣道選抜大会が愛知県春日井市総合体育館にて開催されました。県予選で優勝し、選抜大会出場が決まると、「全国制覇」を目標に、毎日厳しい練習はもちろんのこと、数々の県外遠征にも参加し、技術向上とともに選抜大会に向けてチーム全員で意識を高めていきました。

迎えた全国選抜剣道大会。このチームで挑む初めての全国大会であり、私自身も初めての全国大会という大舞台に少し緊張しながらも今まで積み重ねてきたことを十分に発揮したいという強い気持ちで挑みました。今まで経験したことのない独特の雰囲気の中、みんなで声を掛け合いチーム一丸となって戦いました。

一回戦の相手は、大分県代表の佐伯鶴城高等学校。先鋒は果敢に攻め、相手が迷っていたところに思い切り面を飛び込み一本先取。その後も相手に隙を見せず戦い一本勝ち。次鋒、中堅と粘り強く戦い引き分け。副将、足を止めた所で相手に面を打たれ、相手が一本先取。しかし、相手が下に潜った所に上から面を打ち一本を取り返した。そのまま引き分けに終わり、リードして大将に試合を回すことができた。大将は、反則二回で一本を取られるも鍔迫り合いからの引き面で一本を取り引き分け。先鋒で取った一本を最後まで繋ぎ、二回戦に勝ち上がることができました。

二回戦の相手は、香川県代表の丸亀高等学校。先鋒、次鋒ともに一本負けで中堅、副将ともに積極的に攻めるも、相手も粘り強く引き分け。二対〇となってしまい、チームの勝負がついてしまいましたが、大将は最後まで戦ってくれました。中心の攻めを崩さず、相手が入って来ようとする所を鋭い面で仕留め一本先取。その後も相手に隙

を一切見せずに戦い一本勝ち。結果は負けてしまいましたが、この負けが私たちを更に強くし、インターハイ出場、全国制覇という新しい目標に向けて頑張ろうという気持ちにさせてくれました。改めて全国という大舞台で力を発揮することと、勝負の厳しさを痛感しました。しかし、ここまでやってきたことに悔いはなく、何よりも新チームになって一つの目標に向かって全員で頑張ってきた日々は、私にとってかけがえのない宝物です。

今、高校三年間を振り返ってみると、とても充実していたと思います。そう思えるのも今まで指導してくださった先生方や先輩方、大会等で応援してくださった保護者の方々のおかげです。また、仲間がいたから一人では乗り越えられないことも乗り越えることができました。本当に多くの人に感謝しています。ありがとうございました。嬉しい時より苦しいときの方が多かったと思いますが、剣道をしていなければこんなにも私にとって宝物になる経験はできなかったと思います。この感謝の気持ちを忘れず、今まで経験してきたことを生かし、日々成長できるように新たな地で頑張っていきます。

試合結果女子（富岡東）

1回戦　第五試合場　1日目　第2試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
富岡東（徳島）	福岡	山﨑	横山	山田	中村	3/1
	メ / 一本勝	/ 引き分け	/ 引き分け	▲ メ / 引き分け	メ / 引き分け	
佐伯鶴城（大分）	/ 一本勝	▲ / 引き分け	/ 引き分け	メ / 引き分け	反 / 引き分け	2/0
	下郡(陽)	宮﨑	江藤	伊東	山田	
試合時間	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	

2回戦　第五試合場　1日目　第6試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
富岡東（徳島）	福岡	森長	横山	山田	中村	1/1
	/ 一本勝	/ 一本勝	/ 引き分け	/ 引き分け	メ / 一本勝	
丸亀（香川）	メ / 一本勝	コ / 一本勝	/ 引き分け	/ 引き分け	/ 一本勝	2/2
	多田羅	楠見	高橋	福留	松本	
試合時間	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	

インターハイに出場して

城北高等学校　藏本望海

令和六年八月三日から六日に、大分県大分市で開催された第七十一回全国高等学校剣道大会に出場しました。三月の全国選抜大会は悔しい結果で終わってしまい、インターハイでこの悔しさを晴らすという思いで日々稽古に取り組んでいました。

私たちは昨年のインターハイで予選リーグ敗退でした。ベスト八以上を目標としていたので、新チームになってから攻撃力を上げ、全国大会でも勝ち上がれる地力をつけるという意識で、仲間と共に切磋琢磨しながら練習試合や厳しい練習に励みました。六月に行われた県総体では、決勝戦は代表戦までもつれ、接戦の末で勝利することができました。インターハイ出場が決まり安心しましたが、すぐに四国選手権大会やインターハイに向けて気持ちを切り替えました。

そして迎えたインターハイでは、全国トップレベルのチームと対戦できるというワクワク感と仲間を信じる気持ちをもって試合に臨みました。予選リーグ一試合目は熊本県代表の九州学院高校と対戦しました。先鋒が一本勝ちし、流れができたと思いましたが、中堅、大将が敗れ、一―二で惨敗しました。二試合目は大阪府代表の四天王寺東高校と対戦し、一―三で敗れました。ベスト八以上に進出するという目標は達成できませんでしたが、一勝の大切さや、一本の重さを改めて感じた試合になりました。強豪校から白星をあげることはできませんでしたが、自分たちの良さを十分に出せた試合ができたと思っています。

私たちがこのように剣道に打ち込めたのは大石先生をはじめ、松浦先生、城北高校ＯＢの方々からの熱心なご指導や、保護者からの応援やサポートがあったからだと思います。また、県外遠征は技術力の向上だけではなく、チーム力も高めることができました。

日々稽古できる環境や県外遠征に行けるという恵まれた環境を当たり前だと思わず、感謝しなければならないということを改めて実感しました。この経験を活かすためにも、周りの人への感謝を忘れず、苦しいときは厳しい練習を共に乗り越えた仲間の存在を思い出し、これからも頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

試合結果男子（城北）

Kリーグ　第１試合（第三試合場 第７試合）

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
城北（徳島）	大石	渡邉	橋本	藏本	篠原	1/1
	ド 一本勝	▲ 引き分け	メ メ ▲	引き分け	メ コ	
九州学院（熊本）	近本	竹本	山元	大平	森	4/2
試合時間	4分0秒	4分0秒	3分39秒	4分0秒	0分24秒	

Kリーグ　第３試合（第三試合場 第11試合）

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
城北（徳島）	板東	渡邉	橋本	藏本	篠原	1/1
	引き分け	▲ メ 一本勝	一本勝	一本勝	一本勝	
四天王寺東（大阪）	橋本	伽羅	コ ▲ 金丸	メ 今井	メ 石塚	3/3
試合時間	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	

男子団体予選リーグ結果（Kリーグ）

Kリーグ	城北（徳島）	九州学院（熊本）	四天王寺東（大阪）	得点	勝者数	総本数	順位
城北（徳島）		1/1	1/1	0	2	2	3
九州学院（熊本）	4/2		5/4	2	6	9	1
四天王寺東（大阪）	3/3	1/0		1	3	4	2

インターハイに出場して

富岡東高校　中村莉音

私たち富岡東高校女子剣道部は、八月三日から六日に大分県で開催された第七十一回全国高等学校総合体育大会（インターハイ）に出場しました。一年生の時から「全国優勝」を目標に掲げ、稽古を重ねてきた私たちは、今年の四国大会で優勝を果たし、自信を持って全国の舞台に挑むことができました。

インターハイの予選リーグでは、中村学園という全国優勝常連の強豪校と同じ組に入りました。組み合わせが決まった瞬間、厳しい戦いになることを覚悟しましたが、「絶対に日本一になる」という強い気持ちで、チーム一丸となって日々の稽古に励みました。

予選リーグ初戦、中村学園との試合は、非常に緊張感のある戦いでした。先鋒の一年生の伊藤は果敢に攻めましたが、相手の鋭い面に対応しきれず一本負け。次鋒の森長は冷静に相手の隙を突き、小手を決めて一本勝ち。続く中堅の横山は、惜しい技が何本もありながらも一本には繋がらず、引き分けとなりましたが、彼女の試合がチームの流れを作ってくれました。副将の福岡は、小手を取られて一本負け。勝敗の行方は大将である私に託される形となりました。

大将戦では、何度も機会を作り一本を狙い続けましたが、相手の守りが強く、最後の一本を取り切ることができず、引き分けに終わりました。結果として、チーム全体での勝利には届かず、私自身の実力不足を痛感しました。それでも、試合後には悔しさを胸に秘めながらも、今年のテーマである「笑顔」を忘れず、仲間たちと笑顔で大会を終えることができました。

目標としていた全国優勝には届きませんでしたが、この大会を通じて、仲間とともに挑むことの素晴らしさや、最後まで諦めない気持ちの大切さを学びました。特に、仲間たちが試合で見せた気迫と団結力には何度も助けられ、感謝の気持ちでいっぱいです。

三年間、親元を離れた生活は決して簡単ではありませんでしたが、剣道部の仲間や監督、そして両親の支えがあったからこそ乗り越えることができました。この経験を通じて、努力し続けることの大切さや、仲間とともに目標を追いかけることの素晴らしさを実感しました。

大学進学後も剣道を続け、高校では成し遂げられなかった全国制覇の夢を叶えるために努力を重ねていきます。また、剣道を通じて得た忍耐力や協調性をこれからの人生に活かし、どのような困難にも負けず前に進み続けたいと思います。後輩たちには、自分たちが果たせなかった全国優勝という夢を託し、さらに高い目標に向かって挑戦してほしいと願っています。

この三年間で得た経験や思い出は、私にとって一生の宝物です。これからも自分自身を成長させるために努力を惜しまず、夢に向かって前を向いて進んでいきます。

試合結果女子（富岡東）

Kリーグ　第 2 試合（第三試合場 第 9 試合）

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
中村学園女子（福岡）	川田	萩原	吉松	福岡	橋本	○ 2/2
	メ 一本勝	一本勝	引き分け	コ 一本勝	引き分け	
富岡東（徳島）	▲	コ ▲	▲	▲	▲	△ 1/1
	伊藤	森長	横山	福岡	中村	
試合時間	4 分 0 秒	4 分 0 秒	4 分 0 秒	4 分 0 秒	4 分 0 秒	

Kリーグ　第 3 試合（第三試合場 第11試合）

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
健大高崎（群馬）	塩谷	木村	飯島	福田	相田	○ 7/3
	メ メ 一本勝	一本勝	ド メ 引き分け	メ コ	コ コ	
富岡東（徳島）	▲					△ 1/0
	伊藤	森長	横山	福岡	中村	
試合時間	1 分56秒	4 分 0 秒	4 分 0 秒	0 分45秒	2 分33秒	

女子団体予選リーグ結果（Kリーグ）

Kリーグ	健大高崎（群馬）	中村学園女子（福岡）	富岡東（徳島）	得点	勝者数	総本数	順位
健大高崎（群馬）		△ 2/1	○ 7/3	1	4	9	2
中村学園女子（福岡）	○ 4/3		○ 2/2	2	5	6	1
富岡東（徳島）	△ 1/0	△ 1/1		0	1	2	3

全国中学校剣道大会に出場して

徳島中学校　中岡亮仁

僕は徳島中学校に入学し、仲間とともに「全国制覇」という目標を掲げ、日々練習に励みました。顧問の山本先生、久米先生のご指導の下、技術面、精神面などを向上させました。県外遠征にも積極的に参加し、強豪校との試合や錬成会など経験を積み上げるうちに、チームワークが高まり、手応えを感じるようになりました。

そして県予選では、初戦から接戦が続きました。一本の重みを全員で感じながら戦いました。準決勝、決勝と代表戦になり、先生や仲間の励まし、支えがあったおかげで勝利することができました。徳島中は三年ぶり、さらに男女ともに優勝するのは初めてでした。優勝が決まった瞬間、涙が止まりませんでした。

全中大会は、令和六年八月十八日～二十日、新潟市東総合スポーツセンター体育館で行われました。団体戦予選リーグは和歌山県代表西和中学校、岩手県代表花巻中学校との対戦でした。初戦の西和中学校は一対〇で勝利できましたが、花巻中学校には〇対一で負けてしまいました。西和中学校が花巻中学校に勝利し、三チームすべてが一勝一敗で並びました。勝者数により、僕たちはリーグ敗退という結果になりました。しかし、練習試合では一度も勝つことができなかった西和中学校に勝利できたことは僕たちの成長を少し感じました。

翌日の個人戦では初戦、島根県代表の選手との対戦でした。延長の末、返し胴を決め一回戦を突破しました。二回戦は宮城県代表の選手でした。延長戦が続き、我慢できず面を飛び込んでしまったところで返し胴を決められ、二回戦敗退となりました。

徳島中学校の選手としての引退が決まった瞬間、悔しくてたまりませんでした。けれど、その中で学んだことがたくさんありました。徳島中学校剣道部の一員として、仲間と一緒に剣道ができたことは僕の一生の宝物です。「全中」という夢の舞台で試合ができたのは、山本先生、久米先生、松本先生、少年剣道時代の先生方、そしていつも一番近くで応援してくれた保護者の方々のおかげです。本当に感謝しています。

僕は高校へ進学後も剣道を続け、「インターハイで優勝する」という新しい目標を持っています。その時には今まで学んだこと、先生方の教えを忘れずに努力していきたいと思います。本当にありがとうございました。

全国中学校剣道大会に出場して

徳島中学校　橋本愛生

私たち剣道部は新潟県新潟市にある東総合スポーツセンターで令和六年八月十八日から二十日に開催された全国中学校剣道大会に出場しました。この三年間、「全中出場」を目標に先生方の熱いご指導の下、日々厳しい練習、たくさんの遠征に仲間とともに取り組みました。

そして、中学校最後の県総体で全中への出場切符を掴み取ったときの気持ちは今でも忘れられません。徳島県代表として出場できる喜びと緊張感の中、全中までの間、さらに気持ちを高め、集中して練習に励みました。

全中当日、今までやってきたことを全て出し切ろうと決意し、会場入りしました。団体戦予選リーグの初戦は福岡県の古賀中学校でした。試合前のミーティングでは、「最後まで一人一人の気持ちを繋げて絶対に勝とう」と声を掛け合い、試合に臨みました。しかし、繋ぐ剣道ができず一対三で負けてしまいました。次の相手は福島県の北信中学校でした。一試合目の悔しさをバネに絶対勝つぞという気持ちで挑みました。全員の気持ちが一つになり、一対〇で勝つことができました。リーグ戦の結果、三チームすべてが一勝一敗で並び、勝者数により古賀中が決勝トーナメントへ進出しました。少しの差で決勝トーナメントに進めない悔しさと同時に、一勝の重みを強く感じました。予選リーグを突破するという目標は達成できませんでしたが、先生、仲間とともに全中の舞台で戦ったことは、生涯忘れることのできない貴重な経験となりました。

個人戦は一回戦、地元新潟県の選手でした。延長の末、面を取り、勝つことができました。二回戦は埼玉県の選手でした。一回戦同様延長戦となり、面を取られ負けてしまいました。個人戦では持久力の大切さと意地でも一本を取り切ることの大切さを

学びました。初めての全中は納得のいく結果とはなりませんでしたが、悔しさの中でこれからの課題や目標について深く考えることができました。

徳島中学校で剣道に向き合った三年間、苦しかったこと、楽しかったこと、嬉しかったこと、悲しかったこと、様々な日々を思い出します。先生方や仲間と過ごしてきた時間は私にとってかけがえのないものです。つまずいたとき、自分の剣道がわからなくなったとき、いつも一番近くで寄り添い、ご指導くださった山本先生。優しく見守りご指導くださった久米先生。中一のとき、女子部員が三名しかいない中、支えてご指導くださった松本先生。どんなときも一緒に励まし合い、厳しい練習を乗り越えた仲間たち。そして送迎や応援してくださった保護者の方々。これまで支えてくださったすべての方々のおかげでここまでくることができたことに感謝の気持ちでいっぱいです。これからも剣道を頑張っていきます。本当にありがとうございました。

第七十二回全日本剣道選手権大会に出場して

徳島支部（鹿屋体育大学四年）
岩原潤哉

令和六年十一月三日（日）、第七十二回全日本剣道選手権大会が日本武道館で開催されました。この大会は剣道を始めたときから「一度は出場してみたい」と思っていましたし、「何でもいいから日本武道館で試合がしてみたい」というのが私の夢でもありました。それが急に二つも叶ってしまい、自分が一番ビックリしましたが、徳島県のみなさんや大学の同期からもたくさんの励ましの言葉をいただき、良い準備をして試合に臨みたいと思いました。

十月に入り、対戦相手が発表されました。今年の世界選手権団体優勝メンバーで、今大会優勝経験もある東京都代表・竹ノ内選手と決まったとき、多くの方は「岩原の一回戦の相手はあの竹ノ内かぁ」と思われたかもしれませんが、私は内心「チャンス」と捉えていました。このチャンスには何の根拠もありませんが、とにかくそう思ってしまいました。それと、昨年の鹿児島国体に出場したとき、徳島県は東京都と対戦しており、そのときも星子選手と対戦していたので、このような大舞台で有名選手と対戦できる自分はある意味「持ってる」としか思えませんでした。

大会当日初めて日本武道館に立ち、感動と緊張でなんとも言えない気持ちになりましたが、大学の先輩方から「一回戦が竹ノ内やな。日本だけでなく、動画で全世界が注目してるぞ」と声をかけていただいたり、大学の監督である竹中健太郎先生からも「出場者の中で最年少のお前が、竹ノ内に返し胴を打っている未来が俺には見えるぞ」と予言までしていただき、リラックスできてとてもありがたかったです。

試合は、いつも通りを意識して始まりましたが、対峙したときから学生の試合では味わったことのない相手の「圧」を感じ、簡単に攻め入ることができませんでした。そんな張り詰めた状態が続いた約六十秒後、

相手初太刀の裏面を打たれ、先取されてしまいました。その後は、取り返しにいきましたが、最後まで見えない「圧」に押される形で一本が奪えないまま五分間が終了してしまいました。自分では見切ったつもりでしたが、後で動画を見返してみると、竹刀の先が鋭く伸びてくる一本であり、日本のトップで戦うためにはこのような技を確実に一本にすることが必要なんだと肌で感じることができました。

今回、私はこの場所でしか味わうことのできない日本のトップレベルの試合を体験し、学生剣道との違いや現在の自分の立ち位置を知ることができたことは、これからの生活や剣道において貴重な経験となったと確信しております。また大会終了後、優勝した竹ノ内選手から「一回戦が一番難しい試合だったよ」と声をかけていただきました。この言葉を竹ノ内選手のお世辞でなく本音と捉え、今まで取り組んできたことに自信を持ち、もう一度あの場所で輝けるよう今後も精進して参ります。

第六十三回全日本女子剣道選手権大会に出場して

徳島支部（筑波大学二年）
岩原千佳

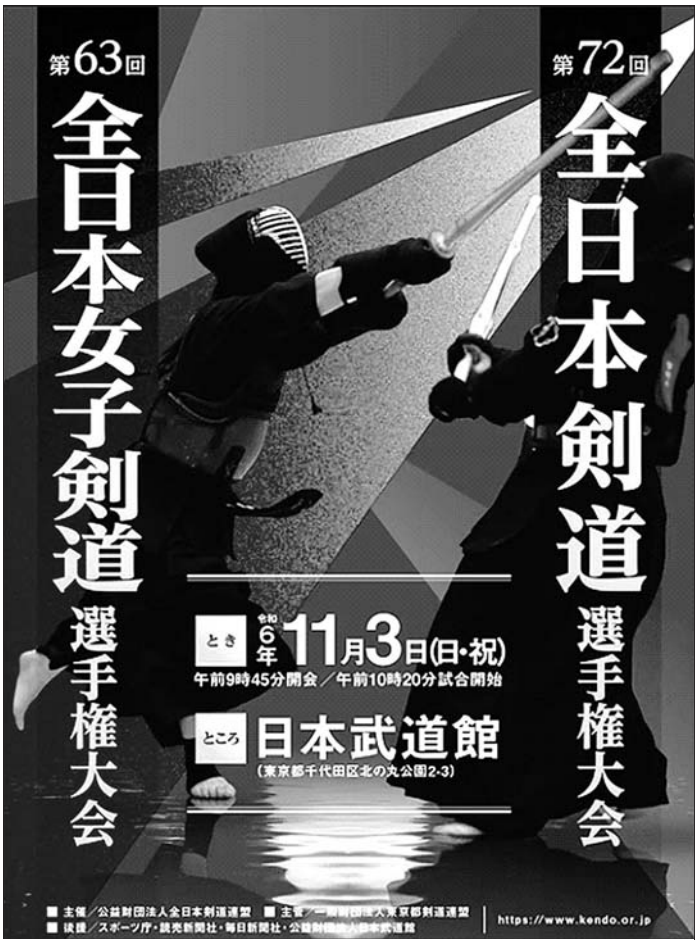
令和六年十一月三日（日）、第六十三回全日本女子剣道選手権大会が開催されました。本年度より日本武道館において男女同時開催となったことから、同じく予選を勝ち抜いた兄・潤哉とともに出場することができました。同時出場に私たち兄妹もビックリしましたが、それ以上に両親がビックリしており、同時開催のおかげで応援が一回でまとまってよかったと喜んでくれました。

大会に向けてこれといった特別な取り組みはしませんでした。対戦相手が今年の世界選手権大会メンバーでもある神奈川県代表の松本智香選手と決定しても、毎日の練習で竹中、川合というこちらも日本代表の両先輩に稽古をつけていただいていたので、気後れすることなく練習を積むことができました。ただ、大会一週間後に大学の全国大会も控えており、調整が難しいなとは感じていました。

大会当日は、同じ大学の仲間が多く出場していたこともあり、いつもの調子でリラックスして試合に臨めました。試合は立ち上がりに間合いを詰めると相手が下から打ってくる小手に若干やりにくさを感じ、「触らせてはダメだ」と思いながら進んでいきました。序盤から中盤にかけて、自分では手応えのある一本もありましたが、決めきらず、逆に終盤攻めきらず不用意に面に出たところに返し胴を打たれ、そのまま時間を迎えてしまいました。

今回は残念ながら一回戦敗退となってしまいましたが、今後上位進出を図るためには、もっと自分から攻めて機会を作って打つことや、打突の強度を上げる必要があると感じました。この経験を生かし、もっと成長できるよう今後も稽古を積んでいきたいと思います。

最後に、いつも徳島へ帰ると温かく声をかけてくださる先生方や剣道関係者の皆さま、いつも有り難うございます。また今回、中学校時代の恩師である兼松佳史先生には、お忙しい中わざわざ私たち兄妹の応援に駆けつけていただき有り難うございました。次は一回でも多く勝てるように頑張りますので、これからもご指導よろしくお願いします。



全日本剣道連盟より画像提供

パナソニック杯
第十九回全日本都道府県対抗
少年剣道優勝大会に参加して

小学生の部　監督　山本泰史

令和六年九月十五日おおきにアリーナ舞洲において、表題の大会が盛大に開催されました。本大会は、相手の優れた点を学び、友情を深め、県の代表としてふさわしい模範となる試合運びやマナーでの日本一も目指す大会です。今年も昨年同様、予選を勝ち抜いた五名が代表として選ばれました。

先鋒：宮武　颯詩（徳島至誠館）
次鋒：岩浅　詩（徳島剣清塾）
中堅：松浦　暖（日亜錬心塾）
副将：清水　春花（徳島剣清塾）
大将：高野　愛叶（徳島剣清塾）

選手選考会から本大会までの間、あまり時間はなかったものの、遠征などでチーム力を高め、各自課題に取り組み、万全の状態でのぞみましたが、結果は一勝一敗。予選リーグ敗退となりました。この悔しさを糧にして、〝理想は高く、姿勢は低く〟いつまでも謙虚で感謝の気持ちを忘れず、さらなる高みを目指して、挑戦し続けてほしいと思います。（参照次ページ：選手の感想文）

最後に、本大会にあたり徳島県剣道連盟の先生方をはじめ、たくさんの関係者の方から温かい御助言、御指導、激励の言葉を頂戴しました。本当にありがとうございました。

第３試合場　－　２試合目

	茨　城		徳　島
先鋒	小　島　悠　正	~~引分~~	宮　武　颯　詩
次鋒	野　本　　宙	㊀メ	岩　浅　　詩
中堅	前　堀　　咲	~~引分~~	松　浦　　暖
副将	鈴　木　泰　杜	~~引分~~	清　水　春　花
大将	海老原　　旬	~~引分~~	高　野　愛　叶

第３試合場　－　６試合目

	徳　島		福　井
先鋒	宮　武　颯　詩	㊀	吉　田　幸　彌
次鋒	岩　浅　　詩	~~引分~~	園　田　愛　心
中堅	松　浦　　暖	㊀	山　口　己　八
副将	清　水　春　花	㊀	野　村　　楓
大将	高　野　愛　叶	~~引分~~	岩　谷　明　依

小学生の部リーグ戦結果（Ｆブロック）

	茨城	徳島	福井	得点	勝者数	総本数	順位
茨城		○ 2/1	○ 4/2	2	3	6	1
徳島	△ 0/0		○ 3/3	1	3	3	2
福井	△ 1/0	△ 0/0		0	0	1	3

〈生徒の感想〉

先鋒　宮武颯詩

全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会に出場。本当に自分が代表選手でいいのだろうかと不安でいっぱいでした。しかし、日頃県内大会で対戦相手だった他の道場のみんなと、今度は同じチームの仲間同士として行動し、練成や県外遠征に参加することが、とても勉強になり、楽しく、そんな不安がすぐに消えていきました。遠征で県外の選手とたくさん試合ができて、自分自身の課題もたくさん見え、剣道がさらに好きになった気がします。一緒に戦い、応援してくれる仲間のおかげで最高のパフォーマンスをめざすため、体調管理にも気をつけた夏休みでした。

本戦で、目標にしていた予選突破ができなかったのはとても残念でしたが、チーム一丸となり戦えた経験は大変有意義でした。遠征、試合を通して、たくさんの方々の支え、応援に感謝の気持ちを強く感じています。ご指導いただいた監督の山本先生、錬成のたびに送迎してくれた家族の皆さん、大変お世話になりました。また、年下だけどいつも強気な試合で心強かった詩、いつもみんなを笑顔でなごませてくれた春花、チームを盛り上げてくれた愛叶、そんな個性的な色のチームをまとめて引っ張ってくれた暖。短い期間だったけれど、最高の思い出と経験をありがとう。みんなとの出会いとチームに感謝の気持ちでいっぱいです。またこれからの県内試合で再会し、共にがんばる姿をお互いに応援しあえることを楽しみにしています。

今回、貴重な全国大会出場の機会をいただき本当にありがとうございました。日々、けいこをつけてくれる剣道場での練習を、より大切にし、自分自身を成長させ、またいつかあのような大舞台に立てることを目標にして頑張っていきたいと思います。

次鋒　岩浅　詩

「あっ、打たれた。」
「あっ、取られた。」
私は、一回戦の茨城戦、次鋒で出場しました。とくいな面でせめようと思ったけど、状態がくずれて相手に面返しで二本取られました。試合が一瞬で終った感覚でした。自分がなにをしたいのかを考える事さえできなかったです。そして、同じ技でとられたのがとても悔しかったです。
二回戦の福井戦では、一回戦で面を打って返されたので思いきった剣道ができなかったので、本当の自分の試合ではなかったです。打っても打ってもきまらない小手や面、全国で一本も取れずに帰ってしまう絶望感で心がいっぱいでした。
自分のせいでチームが負けてしまったので仲間のみんなには、とても申し訳なかったです。その後に、全国の強豪の子達の剣道をみて、とても勉強になりました。強い子のせめ方、持ち方、立ちまわり方、試合の組み立て方、その子達は、自分の剣道がだせていると思いました。そこで、気付いたのは、その子達は、とてもいいライバルだけど、一番のライバルは、自分自身だということです。自分の一番の剣道ができないと、試合に勝つことが出来ないと思いました。
もう一度この大会に出て自分の剣道が思いっきり出来る様に、日々の練習から、強く高い意識を持ちがんばることが大切だと分かりました。
四人の仲間、監督の先生、保護者のみなさん本当にありがとうございました。

中堅　松浦　暖

私は都道府県対抗少年剣道優勝大会に出場して、一度限りのチームの仲間と共に励まし合い支え合いながら、「全力」で戦うことができました。一回負けたとしても次は絶対勝つ。そんな強い気持ちが試合に活かすことができたと思います。共に出場できた仲間に対しては、感謝しかありません。
このとても大きな舞台で試合をして、個人としては良い試合ができました。全国に広がり成績も残されていく名誉ある本大会での、「一勝」はとても嬉しかったです。
この大会までにとても熱心に、自分と向きあって指導してくださった私の恩師は技だけではなく、メンタル面まで色々なことまで教えてくださり、試合のときにはそばにいてくださるととても心強い最強の恩師です。この大きな大会に出場し、結果で恩返しできて、本当に良かったです。そして、一番に私のことを考えてくれ、本気で支えてくれた両親には感謝してもしきれないくらい感謝の気持ちでいっぱいです。
この大会でのチームのみんなとは全力で戦いに臨むことも仲間を最後まで応援し合うこともできたのでこの試合が終ったことには寂しさも少しはありましたが、やっぱりチームで頑張れたことに対しての喜びはとても大きな宝物です。目標としていたリーグ突破はできなかったけれど、チームで一勝できたのは、ご指導してくださった先生方や支えてくれた保護者の方々のおかげです。仲間と共に一つの目標に向かって頑張

るという事の大切さを学ぶことが出来ました。

これからも「今」を大事に突き進んでいきます。

副将　清水春花

まず、みんなと全国大会に行くことができて、すごくうれしかったです。全国大会を通して今まで以上に剣道を好きになりました。

結果は一勝一敗で予選リーグを突破することができませんでしたが、チームで一勝したのがとてもうれしかったです。大きな舞台で仲間と戦えたこと、他の県の代表選手たちと知り合えたこと、とても楽しく貴重な経験ができた全国大会でした。

私はこの大会で、他の選手からたくさんの刺激を受けました。自分よりも体格の大きな選手に果敢に攻める姿勢がとても印象に残っています。特に勢いのある面打ちです。気・剣・体の一致とはそのことをいうんだなと思いました。小さくても打ち負けない力強さ、素早い足さばき、間合いの取り方など自分に足りないものをもっともっと練習して身につけていきたいと思いました。そして、私も思いきりのいい剣道ができる様になりたいです。この大会で学んだことをこれからの練習や試合にいかしてがんばっていきたいと思います。

短い期間でしたが、かけがえのない仲間と出会い、こんな素晴らしい経験ができたことはとても大切な思い出となりました。

全国大会に連れてきてくださり、今までお世話になった全ての人に心から感謝しています。この貴重な経験を無駄にせず、日々努力していきます。

大将　髙野愛叶

ぼくは、この大会に出場して、自分にはもっともっと努力が必要だなと思いました。全国大会では、大将をさせていただきました。いつもとちがう仲間と一緒に戦う事に最初はとてもきんちょうしました。けれど、だんだん県外に遠征に行ったりして、みんなとコミュニケーションがとれて、とてもみんなと仲よくなれました。

ぼくは、全国大会前日の練習試合の時、大阪府Aの大将の桂木さんの試合がとても心に残っています。自分より速く竹刀がふれて、とても力が強い選手にどうやって勝とうか考えた時、いつも先生が言ってくださっていた、せめてかえしどうを打つ事を思いだしました。相手が面を打ってきた所にかえしどうを打ちましたが、打ちが弱かったので一本になりませんでした。とてもくやしかったです。

そして、本戦の時、相手は茨城県と、福井県でした。一試合目は、茨城県として、ぼくにまわって来る時に二本取られているじょうきょうでした。どうしても二本ほしいじょうきょうで、ぼくは引き分けてしまいました。ぼくが引き分けてチームは負けてしまったんだと思った時、チームのみんなが自分一人のせいじゃないと言ってくれたのが、今でも心に残っています。その言葉のおかげで、次の福井県との試合で、おちこまず、自分の剣道ができました。けっ

きょく、茨城県に負けてしまい、福井県には勝ちました。リーグは、突破できなかったけど、自分にとって、とてもいい経験になりました。

最後に、今まで教えてくださった先生方や応援してくださった剣清塾の友達、支えてくれた家族に感謝します。

第七十回記念 全日本東西対抗剣道大会に出場して

徳島支部　玉田晋作

令和六年九月十五日（日）、高松市総合体育館において、標記大会に出場を果たすことができました。

今年で七十回目となる東西対抗剣道大会は、全剣連において最も伝統のある大会です。思い返せば今から四十三年前の昭和五十六年九月、徳島市立体育館で第二十七回大会が開催されました。大会が近づくにつれ、新聞やテレビで取りあげられ気運が盛りあがり、私は当時高校一年生でしたが、徳島県剣道連盟全体が忙しく揺れ動いているように感じました。徳島県からは堀江幸夫先生、大沢孝彰先生、坂下彦之先生が出場され、私は二階観覧席から先生方の活躍を目の当たりにし、いつかこのような大舞台で試合をしたいと夢を抱きました。それから年月が流れ、今年の七月に福多雅英理事長から、東西対抗の西軍の六将として選考されたという知らせをいただきました。五十九歳での初出場となり、四十三年前に抱いた夢がかなうこととなりました。選考規定には、三将から中堅までは教士八段受有者で年齢六十歳以下の者となっています。慣例で二年連続での出場はないようなので、私にとっては最初で最後になるであろう東西対抗となりました。出場にあたり推薦していただ

いた徳島県剣道連盟と選考していただいた全剣連の選手選考委員会の先生方。また、いつも稽古してくださる先生方や剣友の方々、毎日一緒に汗を流している徳島文理中学・高等学校剣道部の生徒達に感謝申しあげるとともに、これまでの修練の集大成として、自分の剣道を体現し、勝利することで恩返しができればという思いで大会に臨みました。

対戦相手は岩手県の安達慶一先生でした。二年前の栃木国体で一度対戦したことがあり、その再戦となりました。序盤、相手の出頭面に咄嗟に反応し、少し体勢が崩れながらも小手を打ったところその技が有効打突となりました。二本目は、これまで磨いてきた面を出すべく、間合いを詰めて捨て切った面が有効打突となりました。自分の理想とする剣道が完璧とまでは言えませんが、ある程度は体現できた試合内容でした。終わってみれば十六対五で西軍の圧勝となり、その勝利に貢献することができました。

東西対抗のプログラムの選手紹介の戦績欄を見ると、世界大会や全日本選手権大会等の全国規模の大会で活躍した選手ばかりです。私は平成五年開催の東四国国体成年二部の先鋒として優勝した以外に、これといった戦績は残していません。しかし、六十歳目前で東西対抗に出場することができました。若かった時期には、思うような結果を残すことができず、随分悔しい思いをしてきました。しかしながらここ数年は自分でも想像していなかった結果を残せています。これは、試行錯誤しながら自分の理想とする剣道を追究するため多くの方々に稽古をお願いしてきた賜物であります。剣道は、歳を重ねても進歩し続けることができるものであると改めて感じています。

今後も理想とする剣道を追究し続けるとともに、微力ではありますが、剣道の普及に寄与することで恩返しができればと考えています。

第七十回全日本 東西対抗剣道に参加して

警察支部　山名信行

この度、高松市において開催された第七十回全日本東西対抗剣道大会に西軍の中堅として出場する機会を与えて頂きました。

本県からは私の他に、二十四将：大石真也先生、六将：玉田晋作先生が選出されました。

ご存知のとおり本大会は、全国の六段以上の選手から各セクションごとに選考され、この舞台に立てるだけで大変な名誉です。

私は本大会初出場であり、八段を拝受してまさか出場させて頂けるとは思いもよりませんでした。

そして前日会場入りした際には、会場の雰囲気と格式の高さに圧倒されそうになりました。

また、私の試合は八段戦の初戦ということだけでなく、相手は神奈川県警の高鍋選手という数々のタイトルを収め、日本を代表する選手でもあり、彼がどう二刀と戦うのかという注目も集めていました。

そのため、私は全国の二刀の代表として、しっかりと構え、気を錬った試合をしなければならないと非常に気負っていました。

そして前日の西軍での合同稽古を終え、監督である二子石範士から全体に向け、

「よそ行きの剣道はいりません。特に初出場の方、八段を取得され初めて出場される方、硬くなっては勝負になりません。思い切った勝負をして下さい。」

とまるで自分の心を見透かされているようでした。

その言葉を聞いてとにかく思い切った勝負をしようと心に決めました。

試合開始。

当然ですが相対する高鍋選手の圧は凄まじく、こちらの気が少しでも揺らげば直ぐにでも仕留められてしまう感覚に陥りました。

私も負けじと小太刀で攻め入ろうとしますが、絶妙な間で技を出されたり、巧みな足捌きで私の間合いにさせてくれません。

それでも、私の一番の武器は小太刀で攻め入ることです。

すると一瞬ですが、高鍋選手の手元があがるのを感じ無心で小手に切り込みます。

感触は捉えたと思ったのですが、審判の先生方の心を捉えることは出来ませんでした。

それから数合斬り結んだ後、お互いが間を詰めようとした刹那、小太刀で高鍋選手の竹刀を押さえ、無心の面を放ち、今度は高鍋選手の面と審判の先生方の心を捉えることが出来ました。

その後も果敢に攻めこみますが、高鍋選手の猛攻が凄まじく、間合いの中で息をこらえることができず、太刀の方の小手を切られてしまいました。

最後は試合終了直前に、此方も「勝負！」と腹を決めて小太刀で高鍋選手の竹刀を制しに行こうとしたところに、その上から電光石火の諸手突きで射貫かれてしまいました。

射貫かれた瞬間、「しまった」というよりは「やられた」という清々しい気持ちでした。正に心を射貫かれた一本でした。その後試合は、西軍が十六対五で勝利しました。

最後の表彰式で思わぬことが起きました。男子全三十一試合の中から、優秀試合賞に選出していただきました。

身体が弱く、祖父の希望で始めた剣道。幼い頃は毎回稽古に行くのが嫌で泣いてばかり。試合にも勝てず、特に学生時代も大きな実績もなく、二刀を始めた当初は周囲からは中々認めてもらえず、それでもただひたすらに工夫し、努力してきたことを認めてもらえたことが大変嬉しく思いました。

試合当日は、家族と京都の母も応援に来てくれました。試合には負けましたが、それ以上に得るものが大きな試合でした。

今後も精進を重ね、もう一度今大会に出場できる力を磨いて行きたいと思います。

第六十六回全国教職員剣道大会に参加して

阿南支部　大石哲生

令和六年八月十一日、茨城県神栖市かみす防災アリーナに於いて第六十六回全国教職員大会が開催されました。私にとってはかなり久しぶりに参加する大会であり、しかも全国大会であったため、他の先生方の足を引っ張らないように準備をしないといけないと思いながら、大会までの日々を過ごしました。

団体戦は、森康二先生、西田凌介先生、白木恒二郎先生、大石、玉田晋作先生で出場、個人戦は白木健一郎先生、長谷川愛実先生が出場されました。団体戦は滋賀県に〇－二で敗れ、個人戦では長谷川先生がベスト十六まで勝ち進まれました。団体戦は神奈川県が優勝、岡山県が準優勝、男子個人は福井県の林田選手、女子個人は同じく福井県の大西選手が優勝しました。

試合では体力不足、練習不足を痛感し、生徒と共に練習することの大切さを改めて感じ、また指導する立場として、試合に出る経験はこの先も必要だとも感じました。日々の仕事に追われ、なかなか稽古ができていませんが、他の先生方も同じような中で稽古に励んでおられるので、言い訳をせずにできる限りやっていこうと思います。

今回参加が決まったことで、同校に勤務する松川隆志先生、谷喜史先生、梶浩人先生、前年度までおいでた野村翔輝先生に稽古をつけていただき、大変励みになりました。今回、大会に出場する機会を与えていただいたことに感謝し、これからしっかり練習に励みたいと思います。ありがとうございました。

全国教職員剣道大会　対戦結果

団体トーナメント　2回戦　第3試合

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
徳島県	森	西田	白木	大石	玉田	1／0
滋賀県	八木	土田	奈須	原田	花房	3／2
試合時間						

（引き分け／一本勝　メ　ド　コ）

四国教職員剣道大会に参加して

板野高校教諭　野村翔輝

令和六年八月十九日、香川県満濃中学校にて第四十四回四国教職員剣道大会が開催されました。この大会の選手編成は次のとおりです。

監督：　一名
大将：　五五歳以上　一名
副将～三将：　五〇歳以上　二名
四将～中堅：　四九歳～三六歳　四名
八将～十一将：三五歳～二〇歳　四名
先鋒・次鋒：　女子　二名

この大会はコロナ禍前の開催以来、五年ぶりに開催されました。私自身、大学剣道以来の試合で、不安でありながらも四国四県の先生方と剣を交えることができることに気持ちは高ぶりました。日頃各学校において生徒の指導にあたりながら、自己研鑽を積まれた先生方十一人で気持ちを繋ぎ一戦一戦激闘をくりひろげましたが、惜しくも優勝を逃してしまいました。勝ち負けだけではない相手との駆け引きを感じることができ剣道の面白さを再確認することができました。

剣道の言葉で「勝ちに不思議の勝ちあり・負けに不思議の負けなし」という言葉があります。試合で偶然勝つことがあっても、偶然負けるということはなく、打たれた理由、打てなかった理由を考え改善し、次の勝ちに繋げていきたいと思います。

剣道から少し離れていましたが、この大会を機にもう一度自分の剣道に向き合いたいと強く感じました。この度、四国教職員大会の選手として参加させていただいたことを大変ありがたく思い、誌面をお借りして心からお礼申し上げます。

最後に、本県学校剣道連盟の皆様の今後益々の御精武と本大会が四国教職員にとって良き修練の場となり、有意義な大会となりますよう祈念いたします。

第一試合

		先鋒	次鋒	9将	8将	7将	中堅	5将	4将	3将	副将	大将	得点
徳島		長谷川	前田	濱田	野村	森	白木	林	山本	松本	大石	山田	╳
				▲		▲	▲						
			㊁ 一本勝			㊦ 一本勝		㊁ メ			㊦ 一本勝		4 (5)
香川				一本勝 ㊁	メ ㊦		一本勝 ㊧		一本勝 ㊦	一本勝 ㊦			5 (6)
					▲								
		佐藤	坂本	寒川	竹下玄	玉井	山下	松下	藤井	小林	鳥居	竹下真	◯

第二試合

		先鋒	次鋒	9将	8将	7将	中堅	5将	4将	3将	副将	大将	得点
徳島		長谷川	前田	濱田	野村	森	白木	林	山本	松本	大石	山田	◯
		㊧ 一本勝		㊦ メ		㊦ 一本勝		㊁ 一本勝		㊧ メ			5 (7)
愛媛			コ ㊁		一本勝 ㊁				一本勝 ㊦	メ	ド ㊧		4 (7)
		吉田	渡邊	本城	野口	岡田	菅	森	瀧本	樽古	山本	田中	╳

第三試合

		先鋒	次鋒	9将	8将	7将	中堅	5将	4将	3将	副将	大将	得点
徳島		長谷川	前田	濱田	野村	森	白木	林	山本	松本	大石	山田	╳
								▲▲					
		㊦ 一本勝					㊦ 一本勝		㊦ 一本勝	㊦			3 (4)
高知				一本勝 ㊦				一本勝 ㊨		コ コ		メ ㊁	4 (6)
		松本	松林	柿本	松田	岡崎	岡本	中澤	本田	寺﨑	米澤	濱田	◯

四国教職員剣道大会　対戦結果

	徳　島	高　知	愛　媛	香　川	勝点	勝者数	総本数	順位
徳　島		4/3	7/5	5/4	1	12	16	3
高　知	6/4		10/6	4/3	2.5	13	20	1
愛　媛	7/4	6/2		8/3	0	9	21	4
香　川	6/5	4/3	10/4		2.5	12	20	2

勝ち点について

勝ち→１点、引き分け→ 0.5点、敗け→ 0 点

国民スポーツ大会を通して

警察支部　山室和士

令和六年九月二十八日～三十日、神埼中央公園体育館において第七十八回国民スポーツ大会剣道競技会が開催されました。

本大会は、先鋒から大将まで年齢別で分かれており本県は、平野誠司先生を監督に

先鋒　山室　和士（警察）
次鋒　本田　和将（警察）
中堅　山本　義征（警察）
副将　山室　雅幹（警察）
大将　玉田　晋作（教員）

で臨みました。

私は本大会での試合は初めてであり、思い切って試合に臨もうと決めていました。また、父と初めてチームを組んで出場する大会だったのでとても楽しみでした。

一回戦は秋田県との試合でした。秋田県チームも先鋒と副将の選手が親子で出場ということで親子対決となりました。私は先鋒なのでチームに勢いが付くような試合をしようとしました。私の相手は学生の選手で一本勝負の気持ちで思い切るところは思い切っていこうと思いました。緊迫する展開の中、引き面を先取し、そのまま一本勝で先鋒戦が終了しました。次鋒の本田選手は飛び込み面や引き技等惜しい技を出すが一本負け。中堅の山本選手は返し胴、飛び込み面等の惜しい技を出すが引き分け。副将の山室選手は接戦でしたが出ばな面と引き胴で二本負け。大将の玉田選手は試合を優勢に進め、惜しい技を出すが引き分けでチームは一（一）―二（三）で惜しくも敗れてしまいました。

本大会に向けて強化練習や練習試合を行い、様々な方の支えの下、本戦に臨んだのでとても悔しかったです。

私は社会人になりまだ三年目で、警察剣道は展開も早く力も強いです。学生時代はスピードに頼っている部分が多く、ある程度感覚で剣道をしていました。今現在では技を繋ぎ、自分が先を取る事を意識しています。そして攻めの効いた有効打突が出来るように練習しています。考える事ができても実際に行うと出来ない事が多いです。悩む事ばかりです。その悩みを解決するにはもっと試行錯誤して稽古を行う事が大切だと思っております。本大会は全国のトップ選手がたくさん出場しており、その選手の試合を見ているとやはり自分のペースを崩さず攻めも強いです。試合をして学ぶ部分も多かったですが見て学ぶ事もたくさんありました。

本大会の為にたくさんのご指導をして下さった、先生方、先輩方には感謝の気持ちでいっぱいです。今後ともご指導の程、よろしくお願いします。

国民スポーツ大会　試合結果

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
秋　田	高橋	国安	鷲谷	高橋	佐藤	2 (3)
		㊁		㊋㊃		
徳　島	㊋					1 (1)
	山室	本田	山本	山室	玉田	

第六十八回
全国警察剣道大会に参加して

監督　六條洋二

令和六年十月二十一日、第六十八回全国警察剣道大会が日本武道館で開催されました。

私は同年四月、徳島県警察剣道特練員の監督に就任し、初めての全国大会となります。

本大会男子の部は、一部七人制の十二チーム、二部六人制の十八チーム、三部五人制の十八チームで争われ、勝敗によって毎年各部が入れ替わる過酷な大会となります。徳島県警察は昨年二部から三部に降格したことから今年は三部での出場となり三部優勝、二部昇格を目標に日々稽古を積み重ねてきました。また、本大会において平成二十九年から始まった三人制の女子の部にも初めて出場しました。女子の部は毎年出場する都道府県が増え、本大会には三十一チームが出場し、トーナメント戦により勝敗が争われました。

まずは男子の部一次リーグ、一試合目沖縄県警、二試合目福島県警との対戦となりました。団体戦では、まず先手を取り流れを掴み、状況によりそれぞれのポジションが必要な仕事をし、大将に繋ぎ勝負することが勝利への近道となります。しかしながら、一試合目沖縄県警戦では各選手の戦いは僅差であるものの勝負所で一本を取られるという苦しい試合展開、終わってみれば四対〇での敗北となってしまいました。二試合目福島県警戦は、気持ちを入れ直し前半先制するも、後半追いつかれ二対二の引き分け、一敗一分けとなり一次リーグ敗退が決定し、二部昇格ならずという結果に終わってしまいました。続いて女子の部、トーナメント一回戦は大規模県で有名選手揃いの千葉県警との対戦です。先鋒戦から各選手が積極的に展開するも力及ばず、三対〇で敗れてしまいました。

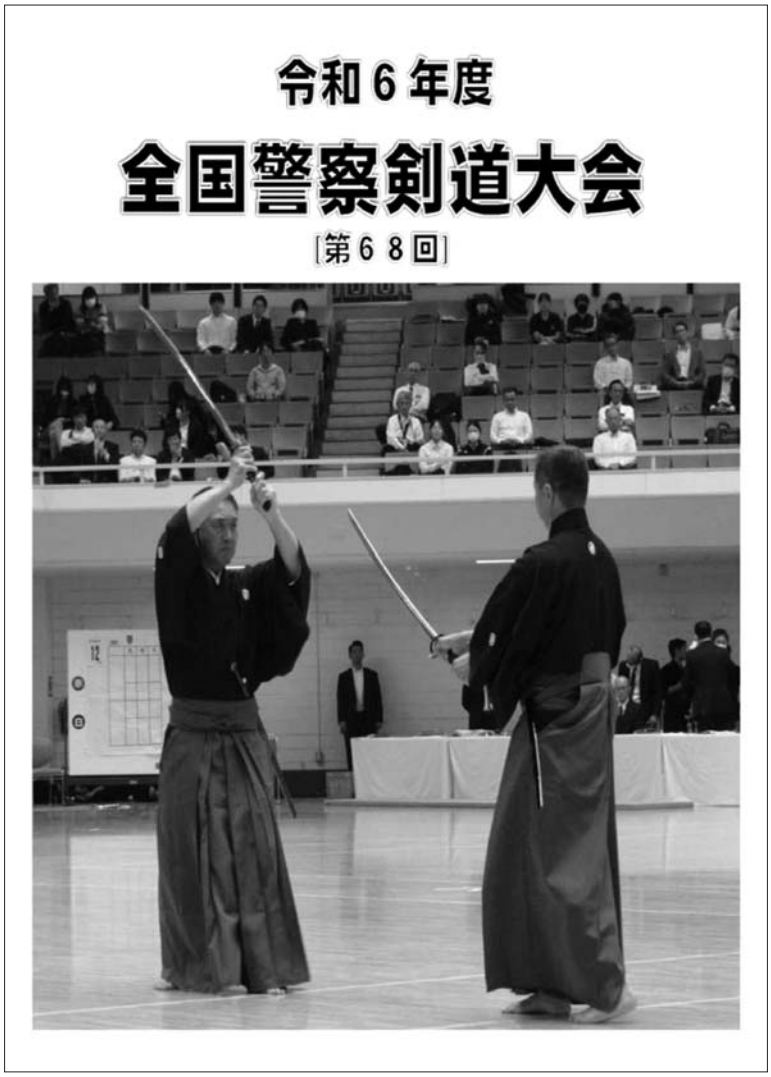
男女共に残念な結果となってしまいましたが、各選手の戦いはそれぞれ僅差であったと感じます。しかしその僅差が試合の流れを作り、勝敗を分けます。各人が自信と自力を付け、そこをいかに埋めていくかが今後の課題であると痛感した初めての監督としての全国大会となりました。

「稽古は試合のごとく、
　試合は稽古のごとく」

という言葉のとおり、限られた時間の中で毎日の稽古を疎かにせず、常に真剣に試合のつもりで稽古に取り組み、攻めを練り合うことが内面の強さに繋がります。また理合を学び経験し、厳しい打ち込みにより自力を付けることが自信となります。いかに普段からこのような気持ちで稽古に取り組むかが重要であると改めて確認することができました。

今回の結果を真摯に受け止め、課題を明確にし特練員が一丸となり、令和七年度全国警察大会に向けて三部優勝、二部昇格を目標に精進して参りたいと考えております。

今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。



本大会のプログラム表紙には前回大会で日本剣道形を打たれた
平野誠司先生（左）が掲載されています。

第七十二回
全国青年大会出場について

男子監督兼選手　堀田紘佑

令和六年十一月九日、十日に東京武道館にて開催された第七十二回全国青年大会に出場しました。

青年大会は年齢制限があり、私が参加出来る最後の年になるのでメンバーに入れて頂き感謝しております。メンバーは自営業、公務員、会社員、大学院生、専門学生と徳島県内で活動をしている方でチームを作りました。チーム編成等、声掛けをしてくださった小松島支部高木先生には感謝したいです。試合結果は団体戦、個人戦とも初戦敗退となりましたが、男子団体戦は本数負けと悔しい結果になりました。しかしチーム戦は出来たと思っております。団体戦で戦った相手チームとも試合後に挨拶して、交剣知愛の精神で剣道をする事が出来ました。改めて剣道の素晴らしさを感じる事が出来ました。

社会人になって全国大会に出るという経験は、素晴らしい経験になり、次に繋がると思いました。社会人で剣道をして県内の試合だけ出ていましたが、今回青年大会を知り、新たな目標になると思います。青年大会の事を知らない方もいると思うので、広めていく必要があると感じました。

学生時代はただ毎日の習慣で剣道をして毎日を過ごしていた思い出があります。今は仕事をして、家族もいる状況で支部の稽古会、徳島県内で剣友が集まり稽古をする状況、剣道が出来る環境は家族の支え、剣道仲間がいるから出来るのだと思います。私自身、他支部、道場によく稽古に行きます。そこで剣を交えて稽古を付けて下さる先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。いつも本当にありがとうございます。

私の出身は鳥取県ですが、鳥取県の知り合いに聞くと、剣道人口も減り、道場も減り、稽古をする機会がないと聞きました。私の知る限り、徳島県内では毎日稽古が出来る機会があると思います。その機会に自ら足を運んで稽古をする事は、家庭と剣道の両立だと思います。家族の理解があるからこそ稽古に励むことが出来ます。徳島県は剣道をするのにいい環境だと思います。私も今年度からは応援する立場なので、青年大会に出たい方々を支えられるお手伝いが出来ればと思います。私が所属する小松島支部の先生方にも青年大会に出場した時のお話を伺いました。やはり継承が大切だと感じました。今後は私がバトンを繋げていけるよう剣道を通じて交流を深めていきたいと思います。

最後に青年大会出場にあたり、稽古を付けて頂いた先生方、本当にありがとうございました。

全国青年大会　試合結果

〈男子団体〉

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
徳島県	佐藤	大西	生田	正村	堀田	2 1
	㊇		▲	▲ ㊍		
山形県	㊍ ▲▲▲	㊐㊍ ▲				3 1
	大川	石井	丸山	山口	庄司	

全国青年大会に出場して

阿南支部　澤田菜摘

令和六年十一月九日、十日に東京武道館にて開催されました第七十二回全国青年大会に出場させて頂きました。

高木壽史先生から声をかけて頂き、大学院、専門学生、社会人と職業も住んでいる地域も違う男子五名、女子三名が集まりました。

試合の結果は男女共に団体・個人戦初戦敗退となりました。勝負には敗れて悔しい結果となりましたが、大会出場を決めてから約三ヶ月間、自分なりにたくさん稽古をし、今できる自分の精一杯の力を発揮し、頑張ったなという気持ちで大会を終える事が出来ました。そう思えたのも高木先生の「楽しんで」という言葉をかけてもらえたからだと思います。

私自身、中学卒業とともに、剣道も一度卒業し、社会人になってまた始めたいわゆるリバ剣というものです。県外に就職し、そこでまた剣道と出会い、少年剣道に携わるようになりました。約十年ぶりに地元徳島に帰ってきて、小学生の頃にお世話になっていた那賀川剣道教室わかあゆ会に戻ることになりました。そこでたくさんの先生方と出会い、社会人になっても試合に出場する機会に恵まれ、あらためて日々の稽古の大切さを実感しました。試合に勝つことだけが目的ではない。試合に出るまでの過程や試合の内容それが大切だということ。負けても次に繋げていけるようにまた、日々の稽古に励んでいくということ。剣道はスポーツであってスポーツではない。幼い頃は意味がよく分かりませんでしたが、年齢を重ねていくにつれて少しずつですが意味がわかってきたように思います。剣道は幅広い年齢層の

方が共に剣を交えることができます。

今、あらためて青年大会に参加して、学生の頃とは違って年齢の離れたメンバーとチームを組んで試合に臨む新鮮さ、試合以外での楽しみやちょっとしたハプニングなど、すべては参加しなければ経験できない事だらけで、とても貴重な日々でした。

最期に声をかけていただいた高木先生、出場までにたくさん稽古をつけていただいた先生方、一緒に徳島県代表としてチームを組んでくれた選手の皆さんに感謝します。

次の世代に繋げていけるように、これからも日々、努力し続けていきたいと思います。

全国青年大会　試合結果

〈女子団体〉

				対戦結果
徳島県	西崎	田窪	澤田	0 0
長野県	㊐ 北村	㊋㊋ 齋藤	松沢	3 2

個人戦　全員　初戦敗退

令和五・六年度日本剣道少年団研修会の体験発表に四国支部代表として出場された方々の原稿を掲載します。

剣道が教えてくれたもの

佐古剣道クラブ　中学二年
谷本　遙
（令和五年度）

ぼくは小学校一年生から剣道を習い始め、中学校二年生になった今でも、部活とクラブの両方で剣道を続けている。苦しいこともたくさんあるけれど、仲間と剣道をすることが楽しく、自分が試合に勝って強くなっていくことが嬉しかった。しかし、小学生のときはあまり剣道と勉強の両立について悩んだことはなかったのに、中学生になってから学校の課題が増え、勉強との両立が苦しいと思うことが増えてきた。勉強に力を入れると稽古をする時間が十分に取れなくなり、試合で良い結果が出せなくなる。かといって稽古に力を入れると疲れてしまって勉強が思うように進まず、そのまま寝てしまう。どちらかの結果が残せないとき、ぼくはその他方を言い訳にして「大変だから仕方がない」と思うようになっていた。そしてどちらとも中途半端になっているような気がして、ぼくはもう一度剣道をしている意味についてよく考えてみた。

剣道をしてきて良かったこと、それは試合に勝つ嬉しさだけではなかったと思う。ずっと一緒に剣道をしてきた仲間に励まされて辛いことを乗り越えられたこと、うまくいかないときは一緒に考えてくれて心強かったこと、稽古の休み時間や試合の行き帰りにふざけて笑い合ったことなどたくさんある。今でも同じクラブの友達とは仲が良いし、時々試合でも会う他の道場の剣士とも声を掛け合い応援し、交流している。

また、剣道以外で辛いことがあったときは「ぼくはあれだけきつい稽古を乗り越えてきたのだ。これくらいこのことは大丈夫。」という気持ちで頑張ることができた。一人で何かをしなければならないとき、試合場に一人で立つ自分を思い出し、自分を奮い立たせることができた。そういうことが思い浮かんできた。ぼくはそれを忘れていた。

大切なのは試合に勝つことだけではない。剣道の理念を「剣の理法の修練による人間形成の道である」としているように、剣道を通して、礼儀や作法を学び、それを人生に活かすことが剣道をすることの意味なのだとぼくは思い出した。勉強も剣道も一生懸命頑張って、それで良い結果が出なかったとしてもその努力を続けていくしかない。その努力を続けていくことこそが大切にしなければいけないことなのだ。

これからの人生において、ぼくは何度も辛いことやどんなに努力してもうまくいかないことに直面するだろう。そんな時、自分と向き合い、卑怯なことをせず、これまでの自分を思い出して進んでいくこと教えてくれたのが剣道なのだ。先生が教えてくれたのは正しくまっすぐに剣を振り、一歩一歩進んでいくこと。仲間が教えてくれたのは、ぼくには一緒に戦ってきた仲間がいて、剣道を続けていく限り支えてくれること。ぼくはこのことを思いながら、これからも剣道を続けていきたい。

剣道を通して学んだこと

佐古剣道クラブ　小学五年
平野大翔

ぼくは、二年生の夏に剣道を始めました。剣道を始めたときは、人前でしゃべることが苦手で、みんなと仲良くなるまでにかなり時間がかかりました。だから剣道を始めて一番しんどかった事は、大きな声を出すことでした。何度も先生に指導されながらけいこをしました。すると、少しずつ声が出てくるようになりました。そして、大きな声でけいこをすることが当たり前になりました。苦手なことも意識して、けいこを続ければ、出来るようになり、もっと頑張ると当たり前になり、そして、自分のやることに自信が持てるようになることを学びました。

また、礼節も教わりました。先生からの指導で「礼節を大切にしなさい」とよく言われます。試合で勝つとうれしくて気分が良くなり、堂々とクラブのみんなのところに帰ってくることが出来ます。負けるとくやしくて、少し態度が悪くなり、相手に礼をちゃんと出来なかったことがありました。その後、先生から「剣道の試合は対戦する相手がいて、審判や多くの人が関わってくれてはじめて出来るんじゃ、勝っても負けてもそれは変わらん、どんなときも忘れたらあかん」と指導され、対戦相手や審判の先生方のところに謝りに行ったことがあります。ぼくは大変なことをしたんだなぁと思って、家に帰って剣道について調べました。

剣道は勝負の場においても「礼節を尊ぶ」ことを重視する。お互いを敬う心と形の礼法指導によって、節度ある生活態度を身につけ、「交剣知愛」の輪を広げていくことを指導の要点とする。ということが分かりました。少し難しくて母さんに聞くと、「剣道は勝負をすることで相手のことをもっとわかり合えるようになって友情が深まる。そして、自分の生活を反省することが大切なんじゃない」と教えてくれました。そんなことを考えるようになってからは、ぼくは知らない人にでも、きちんとあいさつが出来るようになりました。学校の授業でも、大きな声で発表出来るようにもなりました。今では、学校の先生の手伝いもはずかしがらずにすすんで出来るようになりました。

最近、けいこのある日は、早く行って準備をしたり、けいこが終わった後は、片付けを一番に終わらせるようにがんばっています。すると、みんなも僕と同じように早くけいこに来るようになってきました。けいこが始まるまで、みんなでタイヤ打ちをしています。自分が良いと思うことをすることで、みんなの行動も良くなっていくことがうれしくなってきました。ふだんの生活でも、良いと思ったことは進んでチャレンジするようになりました。今年チャレンジした事は、学校の宿泊訓練で校歌を歌うとき、指揮に立候補したことです。だれも手をあげず、なかなか決まらなかったので、思い切って手をあげました。指揮をするこ

とに決まってからは、休み時間に先生と一生けんめい練習をしました。本番はとてもきんちょうしたけれど、練習どおりうまく出来ました。

ぼくが剣道を通して学んだことはたくさんあります。やる前からあきらめず、真面目に取り組むと少しずつ出来るようになっていくということ、そしてそのことが自分の自信になって、こわがらずにチャレンジ出来るようになることです。また試合では団体戦もあって、自分のことだけではなく、仲間といっしょに戦うことで、自分の役わりを考えて仲間のために戦うことの難しさと大切さを学びました。ふだんの生活のこともありすぎて、剣道のすごさがどんどん分かってきました。

来年は、六年生になります。みんなといっしょにがんばって強くなれるように、最上級生としてチーム全員のことを見ながら、家族や先生、保護者の皆さん、他のチームの先生方や仲間達みんなに感謝して、剣道を続けていきたいと思っています。

剣道に思返しをすること

佐古剣道クラブ　中学三年
岸田敏春

僕は、小学校一年生から剣道を始めました。剣道をやろうと思ったきっかけは、二つありました。一つめは、兄弟がやっていたから何となくやってみよう。で、二つめは、稽古している人を見て、「かっこいい選手だな」と心のなかで憧れがあったことで剣道を始めました。

剣道をしていると学べることはたくさんあります。挨拶や相手を重んじる気持ちなどの「礼儀」を学ぶことです。他には、姿勢が良くなるなど忍耐力がつくなど日常生活にも使えるものがたくさん身に付きます。

小学校三年生ぐらいまでは、先生から何度も指導されていた礼儀や挨拶の大切さを全く気にとめず、ただ、競技として剣道に取り組み、稽古をしていました。そしてある大会に出場した個人戦でのこと、実力をあまり発揮できずに負けた僕は、試合中や試合が終わってから、ふてくされ、態度を悪くしていました。その様子を、別の試合場で審判をされていた先生が見られていて、わざわざ離れている僕のところまでおいでたとおもうと「負けても、相手に対して最後までしっかり敬意を払いなさい」と叱られました。試合で負けてもそこまで叱られたことのない僕は、「負けた相手になぜそんなことをしなくてはいけないのか?」と心のなかで思い、なかなか素直になることが出来ませんでした。その時はその大切さをあまり理解できず、分かっていなかったので、大会が終った後、家でインターネットを使って調べました。すると、あるサイトにこう書いてありました。

剣道の試合では相手がいて、その相手に技を試すので、その試せる相手がいることに対して感謝をしなくてはいけない。相手に敬意を払い、その存在を重んじる必要がある。

そのとき、僕は当たり前のことだけど、その当たり前のことを疎かにしてはいけないんだと思いました。次の日からこのことを念頭において稽古をするようにしました。すると、稽古が終わった際に自分の心のなかで日々違ったこと、例えば「応じ技が上手く使えた」とか、「着装がビシッと決まった」、「チームの仲間に良いアドバイスが出来た」とか、本当に小さなことでも達成感を味わえることが出来るようになりました。

他に剣道をやっていて驚いたことは、自分でもびっくりするような大失敗をして試合に負け、「これはおもいっきり叱られるぞ」と思っていたら、褒めてくれたことです。理由は、「ミスすることは誰にでもある。負けても良い試合内容だった。よく頑張った。」と言われたのです。僕は、スポーツは勝つことが全てだ、と思っていたので本当に驚きました。先生から教わった「剣道は武道である」ということ、勝つことが全てではない。ということに納得し、感動することが出来たのです。

時間が経って僕は、中学生になりました。中学生になると、小学生の時よりも力が強くなったり、頭を使って試合ができるようになってきて、自分が思った通りの試合運びができる、勝てるようになることで、剣道がより楽しくなりました。そうしているとあっという間に三年生になり、道連の全国大会予選に破れ、全中出場こそはと臨んだ県総体も結果を残せなくて、試合が終わったあとは、とても悔しかったです。しかし、これまでの教えを振り返ると、全力を尽くせたので後悔をすることはないし、次の目標に向けて頑張ろうと思えるようになりました。

剣道をしていて楽しかったことや辛く、苦しかったことはたくさんありました。いま思うとチームメイトやライバルといった仲間達がいたから乗り越えられたと感じます。これからは、一層先生方や家族や仲間達に感謝をしながら剣道をしていきたいと思います。そうして剣道を続け、立派な人間、剣道人になって、剣道の素晴らしさを広めていきたい、そうすることで剣道に恩返しをしたいと思います。

第四十六回全日本
高齢者武道大会に参加して

徳島県高齢剣友会　事務局
松　本　憲　二

第四十六回全日本高齢者武道大会が令和六年六月三日（月）、日本武道館で開催され、本県から美馬勝行・兵頭新平・松村和宏・吉田昌彦・武田俊文が団体戦に出場し、澤井勝之・東徳美・松本憲二・高木壽史が個人戦に出場しました。男子団体戦には二十六県、女子団体戦には十五県、男子個人戦には寿組（八〇歳以上）九六名をはじめ特組（七五～七九歳）一〇九名、A組（七〇～七四歳）一三七名、B組（六五～六九歳）一四七名、C組（五五～六四歳）九五名、女子個人戦には七二名が出場し、熱戦が繰り広げられました。

本県勢の結果は次の通りです。

男子団体戦

一回戦　徳島　二―二（代）群馬
先鋒：武田選手終了間際に面を決められ
惜しくも一本負け
次鋒：吉田選手面を決め、胴を取られ同
本数となるも面を決め勝利
中堅：松村選手優勢に運ぶも時間切れで
引き分け
副将：兵頭選手終了間際に胴を決められ
惜しくも一本負け
大将：美馬選手開始早々小手を先取し一
本勝ち

結果二勝二敗一分け勝者数、所得本数とも同数により代表者戦、代表者戦は大会規定により最初に引き分けた選手が代表戦に出場となるため引き分けた松村選手が代表戦に松村選手優勢に試合を進め出頭の小手を決め一本取ったかに見えたが、旗一本しか上がらず、そこを相手が面を打ち決められ悔しい敗戦となりました。

男子個人戦

澤井選手、美馬選手、武田選手、松本選手
予選リーグ敗退
兵頭選手（特組）
予選リーグを突破して決勝トーナメント
一回戦高知県渡辺選手に面を決められ一
本負け相手の渡辺選手は特組優勝
東　選手（A組）
予選リーグを突破して決勝トーナメント
一回戦長野県小笠原選手に小手、胴を決め二本勝ち、二回戦広島県三好選手に面を決め一本勝ち、三回戦栃木県小田選手に面、胴を決められ二本負け、この試合に勝てば三位以上に入賞、相手の小田選手はA組優勝
吉田選手（A組）
予選リーグを突破して決勝トーナメント
一回戦神奈川県青木選手に面二本を決め二本勝ち、二回戦神奈川県森川選手に面を決められ一本負け
高木選手（C組）
予選リーグを突破して決勝トーナメント
二回戦から長野県小林選手に先に面を決められるも落ち着いて面二本を決め勝利、三回戦静岡県神尾選手に面、小手と決められ二本負け、この試合勝てば三位以上

に入賞、相手の神尾選手は三位以上各先生善戦しました。

翌日は、はとバスで東京観光、皇居前広場（楠木正成像～二重橋前）散策～東京ディズニーリゾート（ヒルトン東京ベイ）にてランチ～浅草観音と仲見世を散策、仲見世は平日にもかかわらず多くの観光客（ほとんどが外国人）で混雑していましたが楽しく東京を巡ることができ、都会の喧騒と伝統の静寂を味わうことができた一日となりました。

第三十回徳島県健康福祉祭（県ねんりんピック）開催状況

徳島県高齢剣友会　事務局
松本憲二

第三十回県健康福祉祭剣道交流大会が令和六年九月二八日（土）鳴門ソイジョイ武道館で開催され各支部から徳島県高齢剣友会会員三十九名、十三チームが参加し盛大に開催されました。大会は十三チームが参加する団体戦（年齢制限なし）と年齢に応じて組み分しての個人戦が行われました。

今回演舞、日本剣道形を打太刀珠野真由美先生、仕太刀紅露喜代美先生が披露し見事な演武に終了後大きな拍手が沸き起こり、本大会に花を添えていただくことができました。

大会結果

〈団体戦〉

優　勝　徳農・城西剣友会（森直行、高木壽史、岩本一彦）

準優勝　鳴門（谷博、木原資裕、櫻井一志）

第三位　芳越会（藤本辰夫、吉田昌彦、柴田宗志）

合同A（澤井勝之、長崎秀信、森肥佐雄）

〈個人戦〉

特組（七十五才以上）

優　勝　佐野博志

準優勝　兵頭新平

第三位　西堀和文、川人　護

A組（七十才～七十四才）

優　勝　吉田昌彦

準優勝　富田　正

第三位　乾　清孝、藤本辰夫

B組（六十五才～六十九才）

優　勝　月岡陽市

準優勝　近藤敏晴

第三位　松本日出夫、柴田宗志

C組（六十才～六十四才）

優　勝　高木壽史

準優勝　櫻井一志

第三位　岩本一彦、近藤浩文

＊団体戦優勝の徳農・城西剣友会、個人戦優勝した吉田先生、高木先生二は連覇を達成しました。

徳島県健康福祉祭剣道交流大会

仕太刀 紅露喜代美先生　打太刀 珠野真由美先生

第三十六回全国健康福祉祭
とっとり大会（二〇二四）に参加して

板野西支部　兵頭新平

上記大会が、令和六年十月十九日（土）～二十二日（火）までの間、開催されました。剣道は、十八日（金）～二十日（日）の間で鳥取県立武道館で開催され、徳島県チームは、以下の選手で出場しました。

先鋒　高木　嘉史（六十三歳）
次鋒　松本日出夫（六十九歳）
中堅　藤本　文義（七十三歳）
副将　東　徳美（七十五歳）
大将　兵頭　新平（七十五歳）

大会結果

予選リーグは、十六ブロックで（大阪市、徳島県、熊本県、名古屋市）の四チームで行い徳島県は大阪市と熊本県と当たり、大阪市とは引き分け、熊本県に敗れ、目標の予選リーグ突破は出来ませんでした。決勝トーナメントに進出したのは熊本県でした。

大会中は天気が悪かったため観光もできず、夜は居酒屋で長時間の反省会になりました。最終日は決勝トーナメントの試合を見学して帰ってきました。ちなみに、熊本県は決勝トーナメントでも勝ち進み、準決勝で優勝した鳥取Aに敗れベスト四（三位）になっております。

大会を終えてまず、チームの選手のみなさん、各自頑張って頂きありがとうございました。私は、日頃健康に留意し楽しみながら剣道をやっておりますが、今大会大将で出場させていただき、試合の結果を見て、試合に出る以上は勝てる剣道も必要かなと実感しております。今後はこの経験を活かし精進したいと思っております。今後とも、皆様のご指導よろしくお願いいたします。

全国健康福祉祭とっとり大会　試合結果

第４試合場　第16試合　16ブロック

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	結果	代表戦	主審
徳島県	高木	松本	藤本	東	兵頭	1 0		出雲大輔
			メ					
熊本県		一本勝 メ	メメ		メメ	5 3		副審 徳永 二子石 晶貴
	髙木	髙本	本田	石丸	本田			
試合時間	４分00秒	４分00秒	３分24秒	４分00秒	３分00秒			

第４試合場　第４試合　16ブロック

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	結果	代表戦	主審
大阪府	濵田	西川	角谷	原	村岡	4 2		徳永 貴
		メコ	メメ					
徳島県	メメ		▲	ドメ		4 2		副審 出雲大輔 二子石 晶
	高木	松本	藤本	東	兵頭			
試合時間	２分00秒	２分８秒	０分46秒	０分32秒	４分00秒			

随想

唯一無二の阿南武道親交会

剣連審議員 兼 阿南武道親交会副会長
坂本信幸

発端は、平成九年の忘年会の席で神原常経先生（銃剣道・剣道）が、少林寺拳法の達人天羽幸敏先生に以前から考えていたことを提案したところから始まった。「我国の武道は世界に誇る精神文化であるが、各道の外に現れた技、構え、武具は様々で交流もほとんどないのが現状である。阿南で各道の交流する場があれば全国にも例を見ない組織だと思いますが、先生のお考えはいかがでしょうか。」諸手をあげて「そうだそうだ」と同意していただいた天羽先生の行動は早かった。まず、県剣道連盟会長の遠藤一美先生は大賛成。柔道の重鎮是松蒋先生、居合道の桑村春美先生に声をかけ神原先生も加わり、たちどころに代表者及び役員を決定し、平成十年八月に第一回合同演武大会が初代遠藤一美会長のもと阿南市立武道館で行われた。名称は「阿南武道親交会」とした。

阿南武道親交会は、日本の武道を志す会員相互の親睦を深めると共に、阿南市の武道の普及、振興、発展並びに社会教育（特に青少年の健全育成）に寄与することを目的としており、剣道、柔道、銃剣道、居合道、少林寺拳法、空手道、日本拳法そして合気道の八つの武道で構成されている。ここでは、よくお互いを理解し合い、尊敬の心で結び合った唯一無二の親交会である。平成十年に設立して以来二十六年の歴史を重ねてきた。毎年、合同演武大会を阿南市武道館で開催し、各道のアピール、練磨された実技の披露、実技体験会、講演会、研究会などを展開している。

設立二十周年となる平成二十九年五月、第二代神原常経会長のもと記念行事として一〇〇余名が参加して旧土佐街道を歩き、峠道阿千田越えを体験した。山道の整備に汗を流し、「あせんだ峠の会」会長より峠と古道の話を聴き、空手道と少林寺拳法の皆さんによる野外での迫力のある演武披露を行った。

また、合同演武大会は八月、阿南市情報文化センター「コスモホール」で来賓を招き行われた。会長が「武道を語る」として講演され、その後スポットライトの当たる舞台で各道の演武が披露された。演武を見る度に、武道の多様性と独創性に驚嘆する。

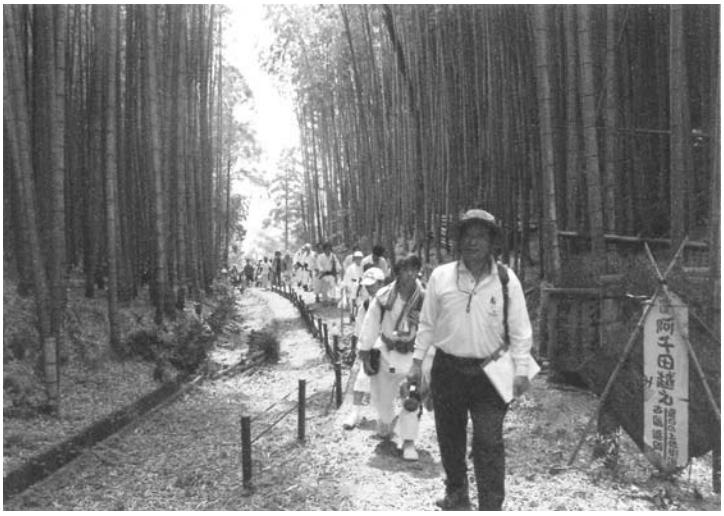
令和二年新型コロナウイルス症候群の緊急事態宣言による活動制限で、親交会活動が中止された。三年後の令和五年には第五類移行したが、コロナ禍は残り、インフルエンザ禍も発生しているなか、令和六年三月に審議委員会を実施し、親交会活動を再開した。令和六年度総会が四月に行われ役員改選で、少林寺拳法の齋藤豊志大導師正範士八段が三代目会長になられた。会則の改正、インスタグラムにアカウントを作り活動情報の発信、市の広報誌での練習生の

募集、地元テレビ局の取材等に着手した。更なる飛躍を期し、阿南市の武道の普及、振興、発展並びに社会教育に寄与するという決議がなされた。

阿南武道親交会は武道を修めることにより心身を錬磨し、技の上達を目指す人たちの集まりである。武道とは、それぞれの技によって自分や弱い者を守り、相手を制する術であることは勿論であるが、道徳的に高い人間形成を目標としているところにこそ武道の特異性があり、それは世界に類を見ない精神文化である。伝統文化として先人は多くの徳目を掲げている。代表的なものを挙げてみると、約束は忠実に守る。困難に立ち向かう勇気を持つ。礼儀や礼法を守り相手を尊重する。無駄を省き質素な生活を心がけるなど、何百年かをかけて育てられた武道の精神は、現在も脈々として受け継がれて我々の心に生きつづけている。

現在、私たちの周りでは多くの問題が起きている。地球温暖化や天変地災、国対国の利害の争い、社会や地域の個人的な不公平・不満による対立など、複雑多岐にわたっている。しかしその解決策は、日本固有の精神文化である武道の中に見つけることができるのではないだろうか。対人関係での間合の測り方。正義を貫くための決然たる勇気。利害に迷わぬ無私な行動。差別しない和やかな心。自然と共存する穏やかな気持ち。そして人間の我慢強さも讃えられてきた。今後、青少年の皆さんが一人でも多く武道に親しんで、心身を鍛え人生の糧にしてもらいたいと思う。武道の心が政治経済をはじめ、学校や家庭などのあらゆる分野に生かされ、幸せな社会が築かれることを願っている。

合気道
少林寺拳法
銃剣道



徳島県武道館の思い出

板野西支部　藤本辰夫

かつての徳島県武道館は徳島市の助任橋南詰橋のたもとにある城山公園駐車場にありました。昭和三十五年八月、戦後全国ではじめて建てられた徳島県立の武道館（以下「県武道館」と言います）は、現在の徳島県立中央武道館が昭和六十三年八月に落成するまでの間、徳島県の柔道、剣道、弓道等武道の中心としての役目を担っていました。県武道館は鉄筋コンクリート造の風格のある構えで玄関前には立派な三メートルを超すソテツが植えられていました。また、県武道館の床は松板が張られており、その板の幅は広く厚くて真っ黒に光っていたのをいまでも鮮明に思い出せます。

私は昭和四十五年四月に徳島大学剣道部へ入部したのですが、当時、徳島大学には武道館など剣道の稽古をする場所がなかったので、この県武道館で週に六日剣道の稽古をすることになっていました。その頃、県武道館には徳島支部の先生方を始め県下の名だたる剣道家が毎日のように代わる代わる集って来られていました。

県武道館で日々稽古されていた先生方には堀江幸夫先生、三木只雄先生、大沢孝彰先生を始めとして警察官、教員、実業団等の県下のそうそうたる剣士が集い、お互いに切磋琢磨されていました。

先生方の中には私の思い出に残るユニークな先生方がたくさんおられました。

当時、館長をされていた岸憲四郎先生は八十歳を超えた高齢にもかかわらず、お酒をこよなく愛されていて、ご自分で様々な果実酒を漬けておられました。冬になると稽古に来られなくなる小松先生は私に「藤本君な、わしは冬になると、谷底へ落ち込んで行くような気がして稽古ができんようになるんじゃ」と細身の体の先生がその頃はずいぶんと細身だった私に話されました。

大沼繁太朗先生は小柄であったのに、私がいくら面を打っていっても当たらずヒョイと、胴に返されてしまうのでした。

熊本淳一先生は「それ、面といけー」と掛け声を自分に掛けて、遠間から面を打つのが得意でした。

また、山田姓の先生が四人もおられ、新六郎先生、仁先生、富康先生、武雄先生と名前で呼ぶことも懐かしく、それぞれ趣の異なった剣風だったのが思い出されます。

現在の徳島県剣道連盟の先生方は、当時は若さあふれる新進気鋭の若武者で、熱心に稽古に励んでおられた様子も、昨日のことのように浮かんできます。

我々学生の指導や稽古をして下さったのは徳島の剣道史に残る強者ばかりだったことが、得がたい貴重なことだったのだと今更ながら感謝申し上げます。ところで、稽古が終わると厳しく鍛えてくださる先生方が、「藤本君ちょっと行くか」と声を掛けて下さり、橋を越えた先にある鮨屋でごちそうをして下さり、貧乏学生であった私にとってぜいたくで楽しいひとときを過ごさせていただくこともありました。

また、社会人になってからは堀江先生を中心に行なわれていた朝稽古会に毎朝参加させていただき、午前七時から八時頃まで約一時間の稽古が私の日課となりました。一月二日の稽古始めの後は、各々一品ずつ酒のあてを持ち寄り、武道館の二階の畳の間で新年会をするのが恒例の行事でした。私の青春時代は県武道館と共にあったと言っても過言ではありません。

しかし、昭和の終わる頃に県武道館は武道人口が増すにつれ手狭になり、また耐震性に問題があるということで取り壊され、移転することを聞かされました。それを知った私は、古き良き思い出が消えていくようないい知れないさみしさを覚えました。

思い返せば若い頃高齢者の先生方が稽古に一生懸命励まれる姿を見ながら、剣道とは歳を取っても現役並みの稽古をしなければならない、何と過酷な武道なのだろうと思っていました。しかしながら、自分がその年齢になって、最近では全く違った見方ができるようになりました。それは、剣道は高齢になっても老若男女を問わずに一緒に稽古ができる、なんてすばらしい武道なのだろうと。

「歳を取ったらこんなになるんや」ではなく「歳を取ってもこんなになれるんや」と若い人たちに夢と希望を持ってもらえるように、まだまだ体力と精神力の続く限り剣道を頑張りたいと思う今日このごろです。

退職から九年を振り返って

徳島至誠館　中山繁輝

私は九年前、徳島文理中学・高校を退職し、上京した。東京では品川区剣道連盟に所属し、連盟稽古会や中野区にある興武館の稽古に参加していた。

興武館館長の小澤博先生（剣道教士八段）は日体大ＯＢであり、師範の梶井好文先生（剣道教士八段）は私の日体大時代の一学年先輩である。

稽古は日本剣道形に始まり、基本稽古・地稽古・掛かり稽古・素振りと大変内容が充実しており、会員の中には実力のある社会人・外国人剣士が稽古に励んでいた。また、後に新型コロナウイルス感染症対策委員長を務めた尾身茂先生も会員であり、何回か稽古をさせて頂いた。

上京から二年後、小澤先生の剣道セミナーがスコットランドのエジンバラとイギリスのオックスフォードの二箇所で開催されることになり、私もスタッフとして同行した。セミナーには開催地だけでなく、小澤先生と親交のある方々がヨーロッパ各地から駆けつけていた。また、翌年韓国で開催された世界選手権のイギリス代表監督や選手も参加し、レベルの高いセミナーとなった。私は日本剣道形演武や基本指導など貴重な経験をすることができ、十日間の短い日程ではあったが、充実した思い出に残る旅であった。

その後、社会では新型コロナウイルス感染症が蔓延し、興武館もしばらく休館となったが、無声による独自の形稽古に取り組み、いち早く稽古再開を果たした。その頃、私は父の入院や死去が重なった為、興武館の稽古に参加できなくなったことは心残りであった。

コロナ禍も終わり、稽古が再開した頃、私は品川区剣道連盟の地域普及部のアドバイザーとなった。小学校での剣道授業や指導者養成講習会での指導、大会審判や審査会審査員も務めた。また、品川区内の四支部対抗や四区大会（品川区・大田区・目黒区・港区）の選手として出場した。四区大会では二度の優勝を果たした。一昨年の優勝時には私が大将で出場し、監督は水上薫先生（品川区剣道連盟副会長・剣道教士八段）が務めた。先生は日体大の二学年後輩であり、大学以来勝利を目指して共に熱く戦えたことは喜びであった。

また、徳島へ帰る一年前には品川区剣道連盟から派遣され、区立中学校で部活指導を担当することになった。部員たちはいつも一生懸命稽古に取り組み、見事ブロック予選を勝ち抜いて、東京武道館で行われた夏の都大会に出場できたことが良き思い出となっている。

東京での八年間は、剣道を通してたくさんの方々と交流を深め、特に品川区剣道連盟や興武館の先生方には大変お世話になり、暖かく接して頂いたことに感謝の気持ちでいっぱいである。

私は一昨年九月、徳島へ帰り、再び館長として指導することになった。道場はすで

に令和元年より、高木壽史先生が中心となり武藏純郎先生・大城健作先生・大城幸子先生の指導陣で再スタートを切っていた。また、一昨年より上田宏司先生が加わり、適切なアドバイスや指導を頂き心強い存在となっている。

本年度から道場連盟に加盟し、初の全国大会に出場した。また全日本都道府県少年大会や全国スポ少大会に県代表選手として出場することができた。先輩たちの活躍は後輩たちの励みとなり、指導者の活力となっている。このような結果が出せたことは、再スタートからねばり強くご指導頂いた先生方のお陰である。

退職から九年が経とうとしている。いよいよ人生のラストスパートである。これからも道場生の成長を楽しみに、少年剣道指導に全力を尽くす覚悟である。

最期に、徳島県剣道連盟の益々のご発展をお祈りして拙文を閉じる。

私と剣道

三好支部支部長　藤本常己

この度（徳島の剣道）への寄稿依頼を受けましたが、私は中学校卒業以来三十六才で剣道を再開した為、諸先生方の様な輝かしい剣歴はありません。又、剣道の素質も運動能力も持ち合わせて無く、稽古に励むしか、剣道上達の道はありませんでした。

第四十四回徳島県社会人剣道大会で三好支部の副将で出場して、第三位になった事ぐらいが剣道での唯一の好成績です。

剣道との出会い

私は池田第一中学校に統合前の佐馬地中学校出身で同級生十名程でした。そこで、剣道部に入部し、三年間剣道を続けました。統合前の中学校（佐馬地中学校・三縄中学校・出合中学校）の中で夏期総体への出場を三校で争い、優勝して初めて三好郡大会への出場になります。

私の佐馬地中学校は池田第一中学校の校内予選で優勝し、三好郡予選への出場を決めました。当時三好郡内でも十校位の中学校で剣道部があり、徳島県総体への出場を争いました。

佐馬地中学校は三好郡の大会でも優勝して、県大会への出場を決めました。又、個人戦は各中学一名しか出場出来ず、池田第一中学からは団体戦五名以外の選手が出場し、個人優勝を果たしました。県大会へは私は大将で出場しましたが、結果は覚えていません。

高校は貞光工業高校へ進学しました。しかし、自宅が池田町の山間部で遠方のため通学に時間がかかるので剣道部への入部は諦めました。

中学以来剣道から遠ざかっていましたが、結婚して長男が川崎剣道教室に小学三年生で入部したのを機に平田照男先生に勧誘され再び竹刀を握る事になりました。

これまでに指導を受けた先生方

徳島県剣道連盟会長
　藤川和秋先生（三好警察署赴任時）
川崎剣道教室　平田照男（教士六段）
　山下敏雄（五段）
山城剣道クラブ　合田秀實（教士七段）
三好淳志館　増田和広（教士七段）
箸蔵剣道教室　萩田奉弘（錬士七段）

私とともに高段者を目指した先生方

川崎剣道教室　喜多一幸（教士七段）
　堀川　修（錬士六段）
山城修練クラブ　島尾眞旦（教士七段）
　下川修一（錬士六段）
三好淳志館　庄嶋　亮（錬士七段）
　湯岑昭彦（錬士六段）

四人の子供達との剣道

私には四人の子供がいます（男一名、女三名）。長男は中学生の時から川崎剣道教室と三好淳志館に週三回夜の剣道教室に行き私と一緒に稽古をしました。三年生の総

体で三好郡の大会で団体優勝をして県大会に出場ベスト八まで進出しました。

私が剣道をしている関係で娘三人も小学校一年生から剣道を習い始め小中学校の各大会で好成績を収めました。三人とも徳島県剣道の中学校の優秀選手に選ばれました。

次女は剣道で川島高校に進学、一年生より試合に出場し県大会、四国大会にも出場しました。高校の優秀選手にも選出して頂きました。

私自身人並み以上に負けず嫌いの所があり、剣道を始めた以上は徳島県内で取得できる最高段位の五段までは取りたいと川崎剣道教室以外でも山城修練クラブ、三好淳志館にも足を運び週四、五回の稽古を行いました。

私が三好支部の事務局、堀川先生が会計をした間、初段以下の審査会の手伝いに出向き、朝稽古で審査員の先生にもご指導を受けました。特に美馬支部の青木茂生先生にはかわいがって頂き、構え、打突の機会、残心の重要性など色々と御指導をいただきました。良き指導者に恵まれ、五段まで一回で合格する事が出来ました。

三好支部の先生方より六段も受審することを勧められ、六段に向けての稽古を始め、三回目の挑戦で六段に合格することができ、さらに、教士七段まで上り詰める事が出来ました。

大阪府高槻市松が丘剣友会との交流

私には三才上に剣道家の兄がいます。高槻市剣道連盟で副理事長をしている三好久夫（剣道教士七段）です。兄は佐馬地中学・辻高校で剣道部に所属し、高校卒業後は日本運送に就職し、実業団剣道部で大阪府の大会や近畿大会で優勝し、高壮年の全国大会個人戦でベスト八まで進出した実績があります。

兄は私が剣道を再開した事をとても喜んでくれました。私が剣道を再開したことで池田に帰省した時は川崎剣道教室にも顔を出してくれる様になりました。兄から川崎剣道教室と松ヶ丘剣友会との交流を相談され、高槻から池田に来て頂く事になりました。当時の支部長の高橋先生にお話をした所、川崎剣道教室で無く三好支部で受け入れるとの事になりました。藤川和秋先生も丁度三好警察署に赴任せれていた時であり、藤川先生にも協力を依頼しました。

当日は松ヶ丘剣友会の剣道愛好家の皆さんが大阪から大型バスで大挙池田に来て頂き、池田総合体育館で藤川先生の指揮の元、交流試合・合同稽古会が行われました。高槻からは元大阪府警の吉村鼎先生（範士八段）もおいで頂き、三好支部の先生方も貴重な体験ができたと思います。夜は三好市長も懇親会に出席頂き、松が丘剣友会の剣道愛好家の皆さんと剣道談話で酒を酌み交わす事が出来ました。

その後、今度は川崎剣道教室から高槻に出向いていき、松ヶ丘剣友会との交流が行われました。次の日は子供達と楽しくUSJで一日を過ごして帰省しました。私が剣道を始めた事がきっかけとなり高槻の剣道連盟の剣道家の方と交流が出来たことが貴重な経験となりました。

只、残念な事に私を再び剣道の道に導いて頂いた平田照男先生が令和三年に亡くな

られました。さらに、少子化の影響で川崎剣道教室、池田第一中学校が無くなり非常に残念です。

これからは時代に合わせて剣道を楽しみたいと思います。徳島県剣道連盟の先生方にはこれからもご指導よろしくお願いします。

生徒が多くいた当時の川崎剣道教室の鏡開

私と兄と私の子供たち

垂ネーム

鳴門支部　大麻錬成館
受川　東

私が剣道を始めたのは小学校三年の時、今は医者をしている二つ上の先輩が隣に引っ越してきた時で、剣道をすれば賢くなるという母親の理屈で、自転車で片道三十分、真っ暗な道を週三回通い続けました。中学校、高校と剣道部に所属しましたが指導者の先生はおらず、専ら生徒同士の稽古でした。

大学進学時に剣道を続けたいなという思いはあったのですが、一年浪人をしたため丸二年間のブランクがある上に、強豪校の剣道部の厳しい稽古を見て、自分ができるところではないと思い、剣道から離れていきました。胴着や防具も後輩に譲り、剣道との関わり合いが全くない生活となりました。その後、幾度となく引っ越しをしましたが、なぜか「川之江　受川」の垂ネームだけはずっと持っていました。学生時代は貴重品袋、社会人になってからは給料明細をいれていました。

約二十年前、徳島で家を建てた時、岩本和彦先生（板野東支部）にお世話になり、学生時代剣道をしていたことを話すと、是非一緒にやりましょうと誘っていただきました。二十年以上遠ざかっていたため、再び始めるには抵抗があったのですが、今剣道をしている人たちも、何らかの理由で剣道から離れ、再び始めている人が多いことを聞き、それならば、まあ健康のためにもと思い剣道具一式を購入し、「川之江　受川」の垂ネームをつけ、とりあえずこの防具の減価償却が終わるまでは続けようという気持ちでした。体は四十歳なのに頭は高校の剣道部のままなので全くかみ合わず、何度か肉離れにもみまわれ、仕事の都合で月数回しか稽古に行けませんでしたが、道場の人たちの温かい励ましで、なんとか続けている状態でしたが、愛媛転勤となり、北島には行けなくなりました。

愛媛の単身赴任時代は仕事が終わってからの暇を持て余し、会社の同僚に教えてもらい、丹原の道場で稽古をさせていただき、週末に徳島に帰る際には地元川之江の道場で稽古をさせてもらうこともありました。川之江の道場には当時お世話になった大久保先生がおられ、高校の一学年上の加地晋一郎先輩もおられたため、少剣時代から三十年以上が経ちふたたびここで稽古できる時間を楽しむことができました。

単身赴任が終わり徳島に帰ってきたとき、子供たちが大麻錬成館の部員募集のチラシをもらってきて、「これお父さんがしよるやつやろ、僕もしたい」ということで、長男、次男とともに大麻錬成館にお世話になることになり、今へと続いています。

いつかまた剣道をしたいという気持ちは、ずっと持っていた垂ネームがきっかけになったのではないかと思っています。

三十歳で徳島にきて誰も知り合いがいない中、剣道を始めたことで、「川之江　受川」の垂ネームを見て地元が一緒で声をかけてくれた方々、少剣や大会等を通じ知り

合った先生方、子供の強化訓練を通じて知り合った先生方、子供の部活の先生方や保護者の方々と、剣道を通じどんどんと交流が広がっていきました。子供たちの剣道仲間とＢＢＱをしたり、地元では数十年ぶりに先輩方と同窓会をして当時の思い出を語ったり、剣道が縁での催し事が生活の多くを占めているのが現状です。また三人の息子たちが皆剣道を続けたことは、親としてはこのうえなくうれしいことだと感じています。少剣から高校までいろんな意味で楽しませてもらいました。息子が大阪に遠征に行った際、息子の垂ネームを見て声をかけてくれたのは二十年ぶりの前職の同僚で、懐かしさと巡りあわせに驚いたこともありました。

年を重ねていくにつれ体は思うように動かなくなり、いつまでたっても打たれ続けていますが、これからもこのスタンスで、子供たちも含め〝剣道仲間〟と楽しい時を過ごせていければいいなと思っています。

追伸

徳島にきてすぐ仕事で知り合った方に、剣道をされてるそうですねと話したところ、「徳島県剣道連盟理事」の金の名刺をいただき、その肩書と風貌に怖れ、剣道の再開が三年くらい遅れた気がしてます。（今では大変よくしていただいています）

不染汚（ふぜんな）

警察支部　岩木一功

令和六年を締めくくる八段審査に挑戦するため、徳島を発つ十一月二十三日の徳島空港の一コマですが、搭乗前に日本航空の手荷物預け場所で女性係員の方が、竹刀袋に名札を貼付する際、

「剣道の大会に行かれるのですか？」

「竹刀袋の文字はなんとお読みになるのですか？」

と笑顔で尋ねてこられました。この竹刀袋には「不染汚（ふぜんな）」の三文字が刻まれていた。私がこの「不染汚」に出会ったのは、昭和五十八年三月に高校を卒業して大阪体育大学に進学した十八の歳でした。

恩師である作道正夫先生（大阪体育大学元師範）が好まれた言葉で、福井県の曹洞宗の大本山「永平寺」を開いた道元禅師が書き著した「正方眼蔵」の書の中で、人間の哲学を説いた言葉です。

大学の道場に先生が直筆された木彫りの「不染汚」が飾られていました。その当時はよく理解できていなくて、上級生の平野誠司先輩（現徳島県剣道連盟副理事長）にお聞きしたところ、「何ものにも染まらず、人に流されず本来の自分を見失わないこと」と説明してもらって、「かっこいいなぁ」と思ったことを記憶しています。この竹刀袋は、卒業後の平成二十二年に、大阪体育大学の寒稽古に参加した際、学生が「不染汚」入りの竹刀袋を販売していたことから、記念にと購入したものです。

この日本航空の係員の女性には、簡単に読み方と意味を説明して徳島を発ちましたが、「不染汚」は、意外と知っている人は少なく帰県後に再度、参考文献を紐解きましたので、皆さんにご紹介したいと思います。

〇仏教クラブのコラムから抜粋

「不染汚」とは、「世俗的な欲望や煩悩などの汚れに影響されず、清らかな心を保つ状態のこと」と解説してあります。

不染汚の心を得るためには、修行をしなければなりませんが、修行は目標達成の手段だけではないのです。たとえば、学生は毎日勉強をし続けますが、それが「〇〇大学合格」という目標のためだとしたら、不合格になった瞬間に、勉強したことの意味が無くなってしまいます。しかし、たとえ〇〇大学は不合格になっても、「勉強した」という事実は、人生に沢山の恵みをもたらしてくれるのです。修行も人生も同じです。何かをするときは、只々一心となって取り組むことです。坐禅なら只管打坐、念仏なら専修念仏と言えましょうか。

ただひたすらに費やした一刹那、一刹那が、「今ここに」という生命を生み出し、自分を育て、「今」の積み重ねが素晴らしい未来へとつながっていくのです。この継続が自己開拓の道となって自分を成長させてくれるのだと思うのです。（例会案内より　文：鈴木顕道）

○曹洞宗東海管区教化センター（禅センター）のホームページから抜粋

「不染汚といふは平常心なり」平常心とは善悪を思わず、是非を論じない日常の喫茶喫飯の平常坦然の心をいい、汚れの無い不染汚の心をいうのである。平常心とは、「こころ」だけの問題ではありません。身心ともに平常こそ仏道であります。起つ、座る、泣く、笑う、食べる、眠る、これら一々が平常心是道でなければなりません。

剣聖宮本武蔵の武道の奥義を説いた「五輪書」によれば武蔵は生涯六十余回試合をしたが一度も破れたことがなかったといいます。この書には「兵法の道においては、心の持ち方は、平常の心と同じでなければならない。ふだんであれ、戦闘のときであれ、いつも変わりなく、心を広く、真っ直ぐにし、むやみに緊張せず、また少しもたるむことなく、心を偏らせてはならず、心を中道におき、また心を静かにたゆたわせ、そのたゆとう心を一瞬もとどめてはならぬ。」とあります。

しかし、如何に剣聖武蔵といえども日常の心身の鍛錬は人一倍であったといわれております。日常の修練こそ人間に心のゆとりを与え、平常心を保たせるのであります。

（正法眼蔵神通の巻より）

なるほど、つまり、剣道で例えるならば、昇段を目的とした修行（稽古）ではなく、これまで自分が修行した剣道観の軸がブレないように、周りに流されず、欲を出さず、妬まず、淡々と日々創意工夫して平常の心で稽古に励む（剣道を続ける）ということが「不染汚」でしょうか？剣道家は稽古を継続していることが重要です。稽古で汗を流した事実は、その過程で沢山の先生方と出会い、人生に沢山の幸福をもたらす…。私も今年で還暦を迎え、まだまだ修行は道半ばでありますが、自らの老いを見つめ、無いものねだりをせず、また、無くなっていくものを深追いしたりせずに今を永劫回帰に精一杯生きる「一瞬懸命」で充実した豊かな心を育みたいと初心を得た気分です。剣道ってすばらしい、剣道っていいなぁ～とつくづく思います。

「不染汚」の三文字　が刻まれた竹刀袋

参考文献

・仏教クラブのコラム　例会案内より「文：鈴木顕道」

・曹洞宗東海管区教化センターのホームページ「正法眼蔵神通の巻」

日本航空の女性係員の心遣いがうれしい（一期一会）

作道先生から頂いた巾着

称号・段位合格者

七段に合格して

三好支部　庄嶋　亮

令和六年四月三十日、京都審査にて七段に合格することができました。私にとって七段は、剣道を再開した二十年前からの大きな目標でした。その目標を達成できたのは、普段から一緒に稽古している淳志館の先生方、またご指導いただいた三好支部の先生方のおかげです。本当にありがとうございます。

今回の京都審査での立合いを振り返ると、落ち着いて相手を見て、「合気になろう」とできたことが良い方向に働いたと思います。一人目は出端面、二人目はすり上げ面が初太刀で決まりました。一人目の方とはしっかり合気になった感覚があり、お互いギリギリまで我慢して間を詰めて面を打ち合いました。打ち出した瞬間は「出遅れたかな」とも思いましたが、体が反応できていたのか、面を捉えたのは私の竹刀の方でした。二人目の方は間を詰め切る前に打ち込んで来られましたが、とっさにすり上げ面で応じることができました。いずれの初太刀も、剣道の勝機でいう「後の先」である「反射」的に技が出せました。思い返すと一年前、七段に初挑戦した時は、一発合格したい、という気負いから相手が見えておらず、一人目の初太刀で面返し胴を決められ頭が真っ白になり、その後は何をやっているか分からないまま審査が終わってしまいました。今回はそうだけはならないように、とにかく相手をよく見て心の余裕を持ち、合気になることに専念しました。ともすれば相手を見過ぎて消極的な剣道となってしまうことも考えられますが、お相手にも恵まれ、良い結果につながりました。

小学二年生から剣道を始めて四十年、途中十年のブランクはあるものの、よくここまで剣道を続けてきたなと思います。人それぞれ剣道観はあるでしょうが、私にとって剣道とは「重り（バラスト）」のようなものだと最近感じています。バラストとは船のバランスをとり安定させるための重りのことです。重りは無い方が楽に速く走れるかもしれませんが、ちょっとした波で転覆してしまう危険があります。私にとって剣道は、人生を安定させるための、良い意味での「重り」です。学生の頃は稽古がきつくて毎日逃げ出したかったし、今でも夏の暑い日、冬の凍える日の稽古は気が重いです。しかし、きつい稽古を通して強い心と体を得られたこと、剣道を通じて今でも多くの人とつながりが持てることは、人生の大きな財産であり、また「今日も稽古があるな」と思うと自然と背筋が伸び、心と体を整えておかなければならない、と一本軸が通る気がします。剣道という重りがあったおかげで、私は安定し充実した人生が送れてきたのだと感じています。

二十年前、新参者であった私を温かく迎え入れてくださった三好支部の先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。今後も、微力ながら地域剣道の継承と三好支部の発展に力を尽くしていきます。これからもよろしくお願いします。

感謝の七段合格

小松島支部　武藏純郎

令和六年四月新緑が美しい古都京都における剣道審査に於いて七段を授与されることになりました。仕事の都合もあり、京都だけと決めて今回で二回目、なんとか合格することができました。これも、日頃より指導や助言を頂いている先生方、小松島市部の仲間、それと共に汗を流しがんばっている徳島至誠館の先生方や子供達のおかげであり心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

最初の挑戦は一年前令和五年の審査会でした。小松島支部の稽古会や至誠館道場で、高木先生、大城先生と充分に稽古をして頂き本番に臨みましたが〝不合格〟。原因は、「まさかないだろう」と勝手に思い込んでいた「朝一番一人目の立合い」であったために早く試合場に入り、用意しなければとの気持ちの焦りが立ち合いに出てしまい、攻め急ぎ、攻めきれていないのに打突をしてしまった事だと思います。この事から集中するメンタルの大切さと準備の大切さを痛感しました。

前回の反省から今回は午後からの審査でしたが、車で早めに現地入りして運動公園内をランニングで体を温めてその後試合場で素振り、すり足など充分でき、時間に余裕もあり、意識を集中することが出来ました。

実際の立ち合いでは〝発声は大きく攻め急がずにしっかりと打ち切る〟を意識してのぞみました。一人目、二人目とも内容はあまり覚えていませんが、声で気力を充実して攻め込んで崩れたところを打突できたと思います。結果発表が張り出され、自分の番号を見つけた時は本当に嬉しく、高校卒業で剣道から離れ、十年程ブランクがあった私が再開してから二十五年、剣道を続けてきたからこその到達点であり喜びであると感じました。

今回、目標としていた七段に合格させていただき改めて思ったことは、合格することは自己努力だけの事ではなく、本当に多くの方々の協力や理解や応援があってこそ達成されるという事です。今回、支部の稽古会では立川支部長や先生方が稽古やアドバイスを熱心にして下さり、至誠館の稽古会でも多くの先生方に基本や技の練習を中心に一分半の立ち合い稽古を何度もして下さいました。

また、合格の報告に自分のことのように喜んでくれた中山館長、同じく喜んでくれた恩師の福多先生、その他も多くの先生方が電話やメールでお祝いの言葉を下さいました。このすべての方々が恩人であり、色々な人との出会いで私は育てられて今があるのだと感謝の心を忘れず、今後は皆様に頂いた御恩を少しでもお返し出来ますよう頑張って参りたいと思います。各先生方には今後とも変わらぬ御指導をよろしくお願い申し上げます。

七段に合格して

小松島支部　松本憲二

今回京都での審査開始時間は五十七歳以上午前中、五十六歳以下午後からと審査を受ける時間が今までと逆になりました。高齢者は朝が元気？理由は分かりませんが午前の審査は私には気持ちの上でも追い風となりました。

さて、過去の審査からの反省点、課題を見ると今までの審査は良いところを見せようと思うあまり打つべき機会を逃がし、有功打突を出せずに終わっていたり。また、打とうとする気持ちが優先し、攻防なく打突してしまい、相面となり。有功打突につながらない無駄打ちが多かったと思います。この事から今回の審査で挑んだことは「姿勢、溜め、打ち切る、初太刀を取る」です。このことを考えて稽古をしてきました。

姿勢は安定感があり無理なく相手の動きに対応できる自然体を稽古前の鏡で確認し、稽古中においても時々意識して直していく、溜めについてはまだよくわかっていませんが、攻めて下がらないで前に出ることを意識した稽古を。打ち切るには、相手の応じ技を恐れ打ちが中途半端にならないよう一旦仕掛けた技は捨て身で打ち切ることを心がける等基本に返った稽古をしてきました。

いざ審査では一人目は女性でした。応じ技を打たさない気持ちで攻め続け相手が面を打ってきたのを返し胴で初太刀を取ることができました。二人目の初太刀は相面となりましたが、私の大きな面が先に打つことができたと思います。今回の審査では攻防に負けず攻め続けた事、また初太刀を取り、打ち切ることができた事が合格の要因になっているのかなと思います。

終わりになりますが、七段合格にあたっては小松島支部、羽ノ浦での稽古、阿南高専での朝稽古、高齢剣での稽古と多くの先生方、剣友に稽古をつけていただいた結果だと思います感謝しかありません。

高齢者（六十五歳）となりましたがまだまだ剣道は道半ばです。生涯剣道と言われるように、高齢剣の先生方を手本にして、これからも身体と相談しながら無理なく楽しく、また向上心をもって剣道を続けていきたいと思います。

剣道七段に合格して

麻植支部　森本武夫

令和六年四月三十日、京都の審査で剣道七段に合格することができました。前回はコロナ禍の中で、審査会場の外でも中でも竹刀を振ることさえ禁じられており、審査順も年齢の若い順にされており、高齢者は午後からの審査であった。その為早くから行って時間待ちをしていたので審査が始まっても準備運動もできず、身体が思い通りに動けませんでした。

ところが今回は高齢者順に審査をしてくれたので、早くから会場入りができ準備運動もできました。六段に合格できた時は相手を攻めて、打たせて、それに対する応じ技で対応できたので、今回もそのように対応しようと考えていました。

立合い一人目については、触刃の間で発声し、徐々に攻めていき、相手が打ってくるのを期待したが、相手も高齢者のため、お互いに同じ考えをしていたのか打ってきてくれませんでした。その為、近間となり良い打ちはできませんでした。二人目についても同じ様な攻め方となり、近間となってしまい、このままでは合格できないと思い、間をあける必要を感じました。しかし、まっすぐ下がると不利になるので、左に寄るような動きで左足を下げ、間を触刃の間にとり、ここで少し遠間ではあったが、思いっきり打ち込んでいこうと決心し、左足をかため、踏み切ると同時に左手と右足を連動するように相手の面に飛び込んだところ、うまい具合に相手の面をとらえることができました。その時これをものにしなければいけないと思い、剣先を前にし、三歩程通り抜け、振り返って残心をとりました。しかしながら、面一本だけではダメだと思い、もう一本打たなければいけないと考え、時間もなかったので、すぐに攻めて、基本の面打ちを審査員に見てもらうような気持ちで、同じように遠間から思いっきり面に飛び込んだところ、相手が前に出てきたので、これもきれいに面をとらえることができました。この時も審査員へのアピールのつもりで、三歩程通り抜け、振り返って、残心をとりました。この後すぐに「ヤメー」の声がかかりました。

私の実技合格は、立合い二人目の終了時間間際の飛び込み面二本があったからだと思います。近間からの有効打突の無い打ちでは合格はできなかったと思います。実技合格後、剣道形の審査がありましたが、これは稽古したことがうまくできました。

私が剣道七段に合格できたのは、鴨島少年剣道教室での藤川和秋先生の熱心な御指導、並びに、井後先生、住友先生、山出先生との繰り返し行った基本打ちの稽古、また、麻植支部の先生方や子供達との合同稽古、さらに臼木崇先生が御指導されている、木曜日の高齢者剣道教室の先生方の御指導のおかげだと感謝しています。三十七歳から子供と一緒に鴨島少年剣道教室で剣道を始め、気が付けば、三十六年経っていたという感じです。これからも七段に相応しい

技量を身に付ける様努力すると共に今迄の経験を、子供達の指導に役立てたいと思います。今後共、御指導のほどよろしくお願い致します。

七段昇段の御礼

板野東支部　西堀和文

昭和四十一年に高校生で二段を取りました。その頃は高校生では二段までしか取得できなかったと記憶してます。その後は、年に一回の小さな剣道大会に出場するために、大会前に一ヶ月程度稽古に参加するくらいでした。その他の期間は剣道から離れ、ラグビー・サッカー・バレーボール等球技ばかりやっていました。

小学生のサッカークラブの指導を長くやっていましたが、東京に赴任が決まったことを期に、サッカー指導を辞任し、サッカーは止めて剣道だけをしようと、三十年ほど前に買った剣道具を持って東京に単身赴任しました。

赴任先の宿舎の近くに小学校があり、その体育館で竹刀の音が、覗くと少年の剣道教室でした。その剣道教室に入れてもらい大人の稽古にも加わらせてもらいました。その剣道教室には八段の素晴らしい先生がおられ、この出会いがとてもありがたかった。

その後、三十年ぶりに昇段、四段を取得出来ました。日々剣道を楽しんでいましたが、ある日突然に左足首に強烈な痛みがあり足首の軟骨が潰れるという厄介な怪我を負ってしまいました。そのため正座ができなくなり、居合いや剣道形の一つ「五行の形（小野派一刀流）」等が一切できなくなってしまいました。一番の難題は剣道で踏み込みが出来なくなったことで、右足を強く踏み出す打ち込みができないため、飛び込み面が打てなくなってしまったことです。足を強く踏み出さずにどうしたら攻めて面や小手を打つことができるか、この難題をなんとか乗り越えられるまでに十年以上の年月が必要でした。

定年後徳島に帰り、剣道ができる場所をあちこち当たり、いろいろな稽古場を覗かせていただきました。徳島剣連板野東支部

会員となり、高齢剣に入会させて頂きました。あちこちの稽古場に加えていただき、定年後の年金生活に入ってからは剣道漬けの日々を過ごしました。

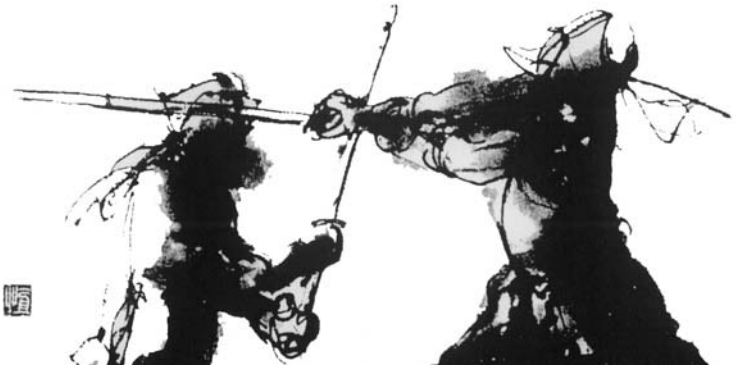
踏み込みができないままなんとか剣道らしくなって徳島で五段に挑戦しました。結果は不合格。高齢剣で稽古をつけていただいている先生方が審査を見ていろいろアドバイスを頂きました。今考えるとやはり姿勢が悪かったものと思います。再再度の五段挑戦でやっと五段に。その後もあちらこちらの稽古場でいろんな先生方からご指導を頂き六段昇段の資格ができたとき、県剣連の昇段審査のための講習会で八段の先生から、出小手を打つときに相手の右、自分は左に裁く打方をやってみたら、とアドバイスをいただき、横への動きが苦手な私だったのですが、当時川内中学校の部活指導をしていたので、中学生相手に横の動きを稽古しました。六段審査時、審査員の目の前でこの小手が見事に決まりました。その功か否かはともかく六段昇段となりました。

その後の六年間はともかく姿・形のいい、格好いい剣道をしたいと多くの先生方にご指導を受けていました。七段審査の半年くらい前、竹刀の振り方、左右の力のバランス等に疑問が生じ、高齢剣でいつも稽古をいただいている先生に質問しました。このときお二人の先生がおられたのですが、このお二人のご指導が私の面打を変えてくれました。審査までの約半年この面打を身につけるべく日々稽古しました。審査当日実を結びました。教えていただいた打方どうりに面が打てました。審査の日の剣道はなんとか七段らしい、いい剣道が出来たかな、と思っております。

徳島に帰ってきて十六年余となります。高校時代にやっていた剣道のお陰でこの歳になってもまだ若い人と楽しめるものがあることはこの上ない喜びです。

多くの先生方のご指導があればこそ、の私ですが、これからも身体が動く限り充実した剣道を続けたいと思います。

今まで多くのご指導を頂いた先生方に厚く御礼申し上げるとともに、これからも引き続きご指導宜しくお願い申し上げます。



剣道七段に合格して

名西支部　泊　利治

令和六年四月三十日京都府において実施されました剣道七段審査会に於いて、無事合格することができました。これもひとえに、日頃からご指導いただいている木曜会の臼木崇先生、同会の先生方、高齢剣友会の美馬勝行先生、同会の先生方のおかげと心より感謝申し上げます。

七段審査は平成二十七年十一月から受験資格が有りました。九月に申請をし、七段目指して稽古に励んでいましたところ、肩に違和感を感じたまま稽古を続けていましたが、そのうち痛くて上がらなくなりました。検査の結果、腱板断裂となり、医師から「剣道は絶対むり」と言われ審査をあきらめることにしました。

その時、絶対に治して七段を取ると決心しました。それから三年間人並ならぬリハビリを続け、四年目にやっと竹刀が握れるようになり、稽古が出来るようになりました。体も大分できてきたので受けようと思い申請しましたが、今度はコロナで中止となりました。

ようやく令和三年四月京都で初めて七段審査を受けることになりました。久しぶりの審査で緊張と早朝からの出発と旅疲れと会場での待ち疲れで体が思うように動かず、結果不合格でした。私は体調管理が下手でいつも肝心な時には絶不調ということが多いです。

令和六年四月の京都審査数日前から足腰が抜けるようにだるく痛みます。家内や子供達は行かないでと言いましたが、行くことに決めました。病院へ行って痛み止めと栄養剤の入った点滴を打ってもらいました。もう後はない、この度取らなければ次はもう行けないと思いました。先生から「打って体当たりを避け、横へ出る癖があるので、体当たりを行け」と教わりました。又審査前には、出小手とすりあげ面を熱心に教えてくれました。この度の審査は今までとは違って、高齢の順から始めることになりました。従って私達は午前からの開始です。

前日十三時十五分の京都行きのバスに乗り十六時十九分に京都に着き、すぐホテルにチェックインし、夕食は早めにとり、ビールと焼酎の勢いを借り心地よい眠りにつくことが出来ました。翌朝気持ちよく目覚め体調もまあまあ、今日の目標をたてました。「気で攻め、相手に打たせる。打ったときは体当たりで行く。絶対下がらない。」を心に決め、会場へ移動しました。

会場へ着き七十歳から八十四歳までのところに並び頂いた番号は五〇一のBでした。一会場へ行くと何時もと雰囲気が違っていました。見かけた顔ぶれが一人もいないのです。そのときCの人が「七十二歳ですか」と声をかけてきました。いえ、「八十二歳です」というと若いですねとびっくりしていました。十歳年下の人と対戦するのかと思うとファイトがわいてきました。いよいよ立合いです。Aの人とは互いに攻め合い打ってきません。私も負けずに攻めていき

ますと、その時相手の体が浮いたように感じ、「きたっ」と思い、小手に行こうかと思ったけれど先生と稽古中小手打ちは失敗が多かったので、失敗したら遣られると思い、すりあげ面に変えました。その結果、見事きまりました。打った後も体当たりし、まっすぐ抜けました。

一本取った後は気持ちが楽になり相手がよく見えるようになり、さらに小手と面をとり、一人目は終わりました。二人目Cの人は十歳若いだけあって動きもよく積極的に攻めてきました。私も相手に合わせて動き、すりあげ面と出小手を決めましたが、三本目の合面は私のほうがちょっと不利かと思いました。相手の二人とも癖のない剣道でよかったです。

いよいよ審査発表です。胸踊らせて掲示表を見ますと一番に乗っていました。直ぐ形審査会場へと移動し、形審査が行なわれました。全員合格、全員が拍手しました。もうこれで審査に来なくていいと安堵しました。

現在、再び腱板断裂し、治療に努めています。いつ再開できるかわかりませんが、諦めず治療に専念しますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

七段に合格して

刑務所支部　川島誠右

はじめまして、私は一昨年、職場である高知刑務所から徳島刑務所へ異動となり、現在刑務所支部会員の一人としてお世話になっております。

この度、令和六年九月一日、福岡県で開催された剣道七段審査会において、無事、七段に合格することができました。

私が六段を取得したのは、平成二十五年の時であり、それからして、約十一年振りに全日本剣道連盟が主催する昇段審査に挑みました。

しかし、私が今回の七段審査を受験するまでの間には、新型コロナウイルス感染症の影響により、剣道界にも多大なる制限等が設けられ、一時期は稽古を行うのも禁止となり、私自身も剣道人生で初めて、長い月日の間、剣道をすることができませんでした。また、同感染症が第五類に移行し、同感染症対策が緩和されるや、今度は自身の仕事の業務にも大きく変化があったりし、稽古に励む心の余裕もない日々が続きました。

そのような日々が続いていく中で、私の学生時又は職場の後輩たちが、次から次へと七段に昇段され、私としては一人おいていかれる焦りがありました。

そして、令和六年五月頃、私の学生時代の同級生である友人から、次回九月に開催される福岡審査で、一緒に受験しないかと誘われました。しかし、当時私は受験できるほどの稽古量が足りておらず、その友人に受験することを断りました。

それから数日後、再びその友人から連絡があり、「俺、前回落ちたけど、また頑張るわ。」という言葉に、私はふと背中を押された感じがしました。今まで、稽古が出来ていないことを理由に、「いや、まだまだだ。」という思いで受験から遠ざかっていた自分が、何回も受験に挑もうとするその友人の言葉によって、チャレンジしなければならないという思いに切り替えてもらった感じでした。

私はその友人に対し、次は自分も受験する意思を伝え、ここから九月の審査に向け、自分なりの稽古がスタートしました。もちろん、七段合格はそう簡単にはいかないものと重々承知していましたが、受験するからには悔いのないようにという思いで、職場の勤務が忙しい中、出来る限りの稽古に励みました。

そして、審査当日。私を誘ってくれた友人とは、会場で待ち合わせし、いよいよ審査会が開始されました。

一次審査の立ち合いでは、緊張をほぐすため、精一杯の声を出そうと決めていました。一回目の立ち合いが始まり、精一杯の声を出し切れたためか体が軽く、相手の動きに対し、いい意味で自然と体が反応していました。

普段、小手打ちが苦手な私ですが、その時は、無意識に出ばな小手を打っていました。二回目の立ち合いもしっかりと声を出すことができ、相手の動きに応じつつ、先を取っての思い切った飛び込み面も打つことができており、二回目の立ち合いが終わっ

た後の手応えは、五分五分の思いでした。

そして一次の合格発表が掲示され、一次合格者がおよそ四人に一人という数少ない割合の中、なんと、私、そして、友人の受験番号もあったことに驚きました。友人とお互いにプチ喜び合った後、すぐさま二次審査会場に移動し、形審査に挑みました。

ここでの失敗は絶対に許されないと、今まで練習してきたことを頭の中で何回もイメージし、落ち着いて形審査を受けることができました。

そして、最終合格発表。

「〇〇番、〇〇番以外の方は、皆合格です。」という発表があり、無事、七段合格することができました。

もちろん、自身の合格も嬉しかったのですが、今回受験することに誘ってくれた友人と揃って合格できたことが大変嬉しく思ったものでした。そもそも、その友人から背中を押してもらっていなければ、この合格は掴めていなかったものです。チャレンジすることが、やはり大事であることを改めて教えられました。

剣道は、高段になるにつれ、もちろん高度な技術も必要でありますが、人としても人間形成された品のある人道も歩んでいかねばならず、剣道を通して更に向上していけるよう稽古に励み、まい進していきたいと思っております。しばらくの間、徳島県で生活することとなりますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

剣道七段に昇段して

徳島支部　小笠原　徹

令和六年九月一日、福岡市総合体育館で行われた審査会にて、剣道七段に合格する事ができました。

審査前日は、台風襲来の影響も少し残っていましたが、幸いにも福岡までの道中に支障なく、宿泊先に到着する事ができました。到着後は、審査会場の下見を兼ねて、ジョギングをして、少しでも緊張を和らげる事に努めました。

そして審査当日、審査会場入りすると、緊張感がグッと増しましたが、審査までの間は、これまで準備してきた事を振り返り、気持ちを落ち着かせました。

審査では、始めの礼はもちろんですが、まず「蹲踞」から意識しました。それというのも、稽古に励んでいる中で、「蹲踞で合否が決まる。」という話を聞いた事があったからです。

今までの審査では、緊張や有効打突を取りたいとの思いから、スッと立ち上がる事が自身の中でありました。しかし、その話を聞いてからは、「蹲踞」から気を溜めて、じっくりと立つ事で、自然と第一声から充実した気勢を持って臨む事ができるようになりました。

実技では、ゼッケンが「A」であった事から、一人目は相手の剣風がわからずも、焦らず落ちついて相手と対峙する事ができました。また二人目は、私も相手も互いに、相手の動きを確認している事もあり、双方決めてを欠く状況でしたが、終了間際に相手が面に出た所を、自然と体が反応して、甲手を押さえて、「止め」の声が掛かりました。

実技終了後は、最後の打突が意識せずとも出たという不思議な感覚と、少しの手応えを感じつつ、審査結果を待ちました。結果を記した紙が張り出され、自分の番号を見つけた時は、驚きと喜びと二つの感情が込み上げてきました。

形審査も終え、合格が告げられると、緊張から開放されると共に、徳島で剣道を再開してからの出来事が蘇ってきました。

思い起こせば、再開するにあたって、各支部長の名前や住所・電話番号がその頃の本誌に記載されており、仕事の関係で移ってきた私にとって、貴重な情報源となりました。

当時、徳島支部長であった馬場力先生に電話をさせていただき、入会手続きのため何回かお会いする中で、徳島錬心館長の大澤孝彰先生をご紹介いただき、道場に通うことになりました。それは、徳島に縁もゆかりもなかった私にとって、これ以上ない稽古環境であり、仕事の都合がつく限り、積極的に通いました。

道場に通う中で、ある日の稽古終了後に大澤先生が、「仕事もあり、稽古時間が限られてくると思いますが、最低でも二人と稽古できる時間をとれるよう心掛けてみて下さい。」と話されたことがありました。また別の日には、「剣道を稽古していると、ある日フワッと少し上達したと感じることがあり、その後暫く停滞する。その繰り返しです。」とも話され、これら二つの話を

今でも私の道標として、稽古に励んでいます。また、徳島錬心館や徳島支部で色々な先生方にご指導いただけたことで、今回の結果を出すことができました。

これからも、現状に甘んじることなく、チャレンジ精神を持ちつつ、精進して行きたいと思います。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いします。

大澤先生のご訃報に接し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

昇段するまでの道のり

徳島支部　清水英典

このたび令和六年十一月九日、愛知県にて開催された七段審査にて合格をしました。

私は昇段審査を受けるまでの六年間は常に「審査三ヵ月前」という心づもりで、理合を求めて相手にどの様な立合いを行えば良いのか、その時、自分の心境はどうなのか、自問自答を繰り返しながらの稽古を積み重ねてきました。

六年の歳月は早いもので、迷いながらの審査となり、その上仕事が多忙だった為に満身創痍の状態で受験となりました。内容はひいき目に見ても互角もしくはやや劣るかと思いましたが、緊張もせずに挑めた事が印象に残っています。

評価をいただけたのは、先生方のご指導のおかげだと感謝しております。

私の七段の門は開きましたが、師に言われた言葉が心に残っております。剣道の理想の形を円と例えると、自身にヒズミが有るとすれば少しずつ円に近づければ良い。

持論になりますが、ヒズミを修正するには、竹刀を合わせる事だけが稽古ではなく、日常の生活でどの様に身を置くかも稽古の一つだと感じる日々です。

これからの事になりますが、自身の稽古も大切ですが、少年剣道の指導により一層の貢献をしたいと思っております。

七段審査に合格して

徳島支部　福永康浩

令和七年二月一日、照葉積水ハウスアリーナ（福岡市総合体育館）での七段審査に合格することができました。これまでご指導いただけた徳島剣道連盟の先生方に感謝しております。厚く御礼申し上げます。

今回の審査申込を出した時点では、全国各地でインフルエンザの大流行、まだコロナも出ているとの事で審査前に感染しないよう外出も控え、気を付けて稽古していました。審査は前日から新幹線を利用し、お酒も飲まず乗り込みました。宿泊先のホテルは審査会場まで歩いて行く事の出来るTHE358 UMIを予約しました。このホテルは会場が近い為、審査員の先生方も沢山宿泊されるホテルです。今度福岡審査に挑戦される方にお勧めのホテルです。

今回の七段審査の内容は最初の相手に初太刀で出鼻を打つ事が出来ましたが、体当たりとなり、なぜか私の竹刀が飛んでしまいました。稽古でまかれて竹刀を飛ばした事はありましたが、自分で打って出て、竹刀が飛んだ事は初めてです。これで今回の審査は終わったと正直思いました。しかし、そこから気が楽になり、攻めて相手を動かし、出鼻面、返胴を決める事ができました。二人目の方にはすりあげ面と返胴が決まり、相手に打たれる事なく審査は終わりました。実技審査の発表で自分の番号があり、疲れがすっと無くなり、喜びに変わりました。

さあ次は剣道形の審査です。二年前に膝を痛め、現在は正座、蹲踞するのが非常に苦しい状態です。私は打太刀でした。仕太刀の七本目は苦しい状況でしたが、打太刀で助かりました。剣道形も合格し、これでやっと七段合格です。

六段審査も七段審査も福岡で合格。

審査で福岡が第三故郷となりました。今度はゆっくり福岡観光したいものです。余談ですが、剣道で新幹線を利用する時は座席のすぐ後ろに荷物を置ける座席があります。この座席を指定すると楽に移動できます。また、令和二年手術をし、もう剣道は辞めようと思い、一年ほど稽古を休んでいましたが、稽古が再開でき、目標であった剣道七段に合格できた事は先生方の励ましとご指導のお陰です。深く感謝しております。

剣道は一生修行です。これからは自分の事だけでなく、徳島の剣道に貢献できる様がんばって参ります。

剣道七段に合格して

徳島支部　湯村義喬

令和七年二月一日に福岡県で開催されました審査会におきまして、七段に合格いたしました。これもひとえに日頃よりご指導いただいております先生方、また稽古にお付きあいくださっている剣友、そして稽古に送り出してくれている家族のお蔭です。心より感謝申し上げます。

令和六年京都審査会より七段受験資格を有するためそれ以前より七段合格を目標に稽古を行ってまいりました。そして初受審となる京都に挑戦しましたが、内容としては全く合格にほど遠いものでした。その審査会より全日本剣道連盟の審査順などが変更となり、午前中に五十七歳以上、午後から五十六歳以下の受審者と変更となりました。また、以前は第一審査場より年齢の若い順にて、第二、第三と審査場が分けられていましたが、各審査場に年齢が均等になるように審査順が変更となっておりました。

自分の目標として、『第一審査場にて合格』と密かに掲げておりましたので、それが実現できない事実に心が少し揺らいだのを覚えています。ただ合格という目標は変わりませんので気持ちを切り替えようとしましたが、ドラマのようにうまくはいきませんでした。他の受審されている先生方の動きを見たときに『どう打つべきだろうか?』『このような素晴らしい動きが自分にできるだろうか?』そのような様々な雑念が頭をかすめ、いざ自分の審査順が回ってきたときには頭が真っ白になってしまいました。そのような状況で受かるはずもなく結果はもちろん『不合格』。現実を突きつけられました。そこから気持ちを改めまして、稽古量を増やし、福岡にて二度目の審査に挑戦するも『不合格』。

審査の厳しさを肌で感じ、またどうしたら合格できるのかという疑問が生じておりました。それまでは真っ直ぐな剣道をしていれば合格できると信じていたからです。しかし、そうではありませんでした。審査という相手もいる中で、いかに自分のいいところをだせるか。そこまでの自分は、一方的に自分がこうしたいからという気持ちが強すぎ、相手が見えていなかったと今考えれば思います。

剣道範士八段　真砂威先生のブログ『井蛙剣談』に審査について書かれた記事があります。その中に『審査の眼について』という記事があります。そこには若い受審者の立会いに対しての審査員の観点や気持ちが書かれています。そこに『理外の理』の剣道を模範にしてはいけないと書かれています。詳しいことはブログを見ていただければと思いますが、簡単に言いますと全日本選手権に出場するような選手の立ち合いを模範にするのではなく、この対極に位置する、高齢の合格者を模範とすることをお勧めすると書かれておりました。そして、審査の着眼点を践(ふ)んで修行される方が近道であるとも書かれていました。

私は三十代で七段審査の受審資格ができ

たとはいえ、全日本や実業団で活躍する選手には程遠いという自覚はありました。それを読んだときに何かもやもやしたものが吹っ切れた気がしました。そこからは色々な稽古会に参加させていただき、年齢、剣風も様々な方と稽古いたしました。そして三回目の名古屋審査で『不合格』だったものの、初めてA判定という結果となりさらに自分の中での方向性がはっきりとし、四回目の福岡審査にて『合格』という結果をいただくことができました。

剣道において誇れるような成績もない自分ですが、続けてきたことによってここまでくることができました。継続の重要性を改めて感じるとともに、目標をもってこれからも剣道愛好家として修練を積んでいきたいと思っております。今後もご指導ご鞭撻よろしくお願いいたします。

六段審査に合格して

富岡東高校教諭　白木　恒二郎

令和六年四月二十九日、京都府において実施された六段審査に合格することができました。これまでご指導いただいた先生方、そして共に志を持って稽古に取り組んだ仲間の支えのおかげであると感謝しております。心よりお礼申し上げます。

私は現在、高校の剣道部顧問として日々生徒と共に稽古に励んでいます。生徒に指導するようになり、剣道について考える時間が学生の頃よりも増えてきました。もちろん学生時代も自分なりにいろいろと考えてはいましたが、どちらかというと無我夢中で取り組みながら体で覚えるという感じでした。指導者になってからは、様々なことに疑問を持ち、なぜそれが必要なのか、もっといい方法はないかということを他の先生に助言をいただいたり、自問自答しながら指導や自分の稽古を行うようになりました。また、時には生徒から学ぶこともあり、生徒の良いところを自分の剣道に取り入れるようにもなりました。

平成三十一年十一月に五段審査に合格してから、次の六段審査を見据えて稽古を積み重ねてきました。令和六年四月からは富岡東高校に赴任し、新たな環境の中で、なかなか自分の稽古に時間をかけることができずにいました。審査に向けて不安はありましたが、稽古の方法を自分なりに工夫しながら取り組みました。

審査当日、私は午後からの審査でしたが、早めに会場に入り、ウォーミングアップをしたり、午前に行っている選手の立ち会いを見ながら準備をしました。また、普段私が生徒に指導していることを思い出しながら、「生徒に言っていることを自分ができなければ意味ない」と自分自身に言い聞かせました。

いよいよ午後の部が始まりました。私の順番は最後の方でしたので、気持ちを整え

るのに十分な時間がありました。そして、ようやく自分の立ち会いの順番になりました。この日の私は気持ちが落ち着いており、冷静に相手を見ることができました。蹲踞から立ち上がり、充実した気で攻め、相手が面に出ようとする起こりに面を打ち込むことができました。その後も、自分から仕掛け、相手を動かして打つことができました。こちらの気が充実していたためか、相手が何を狙っているかを感じ取ることができました。一人目を終え、二人目でも集中を切らすことなく、終始攻め続け、いい形で技に繋げることができました。実技・剣道形を終え、無事に六段に昇段することができました。

今回の審査を終え、改めて自分の剣道を見直すきっかけとなりました。これまで私は、様々な大会に参加させていただき、正しい剣道を意識しながらも、打たれたくないという思いから、崩れながら打突をすることもよくありました。試合となると、今回のような気持ちで行うことが簡単でないことは分かります。しかし、充実した気で攻め、相手を動かして打突することが必要だと感じました。これからまだまだ修行の日々が続きますが、生徒の模範となる剣道ができるよう日々精進してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

六段に合格して

板野東支部　田村健明

二度目の挑戦で、令和六年四月二十九日、京都府において実施された六段審査に合格することができました。

これもひとえに、日頃からお世話になっている誠武館道場の先生方を始め、各方面での稽古会などでご指導頂いた先生方、昇段審査におけるアドバイスを頂いた先生方のお陰です。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

私は、福岡県北九州市にて十歳の頃より剣道を学び始め、十八歳から今の職に就き、鹿児島県を主体として、途中ブランクはありながらも剣道を学んできました。

令和四年九月に人生初の四国での生活がスタートしました。また徳島県のことが右も左もわからない私に沢山の先生方が親切にして頂いたお陰で気がつけば剣道を通じた交友関係を広げさせて頂き、感謝の気持ちで一杯です。

さて最初にまず一度目の挑戦のお話からさせて頂きます。令和六年二月の福岡受験が私の一度目の六段挑戦でした。

一度目の受験時は、ほぼ毎日稽古を実施しており、身体も良く動き「打ってやる」という気持ちが全面に出すぎていました。その調子で福岡の会場に入り、私は今までの審査とは比べ物にならない張り詰めた空気を感じ一気に緊張をしてしまいました。

合格しなければならないという焦りの気持ちの中、試験は開始され、相手の方も緊張のためか開始早々に面を放ってきました。私は慌てて出小手を合わせましたが、有効打突は取れず、そのまま打ち合いとなってしまいました。そのようなバタバタした立ち合いを二人目も繰り返してしまい、結果は私のグループは全員不合格となりました。

その後、動画にて自身の剣道を省みましたが、想像以上に醜い内容で見ている私自身が恥ずかしくなりました。それからしばらくは落ち込んだりして、四月の京都審査を受けるか迷いましたが、「受けなければ受からないよ。」と背中を周囲の先生から押され、受験する決意を固めました。

二度目の挑戦時に気をつけた事は、自分勝手な剣道をしない、自分から相手の間合いに入り攻める、そして一番気をつけた項目は相手の心を動かすことでした。

四月の審査まで受験を決めてから二ヶ月しか無いので自身の技量の進歩はあまり無いものと判断し、精神面の強化を意識しました。とにかく落ち着いて構えることを大事にしました。そして、もし不合格だったとしても次また頑張れば良いと自身に言い聞かせていました。そうこうしている間に受験日を迎え京都へ向かいました。

審査当日はとにかく落ち着くこと、力まないことを念頭に置いていたためか、相手の目の動きが良く見えて打ち気を察知することができ、応じ技にて初太刀を取ることができました。

そこからは自分から相手に圧をかけ相手が出てくる所を押さえ、出てこないなら自

分から打つという流れを繰り返していたら、あっという間に二人目の立ち合いも終わっていました。

合格発表が始まり、ドキドキしながら見てみると私の番号があったと同時に頑張って来て良かった、という想いで胸が一杯になりました。そして形審査に向けて落ち着きを取り戻し、冷静に形審査会場へ向かいました。

相手との呼吸を合わせる事だけを意識し、教わってきた通りの事を全て出せました。形審査合格を知らされた時の興奮は今でも鮮明に覚えています。

この度、私が六段審査に合格する事ができたのは私一人の力でなく、諸先生方、同期、後輩、保護者会の皆様、剣道をさせてくれている家族のお陰です。これからもその感謝の気持ちを忘れずに次の目標である七段審査合格を目指し、精進していきますので、引き続きご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いします。

六段に合格して

小松島支部　原　知永

初めて六段の審査に行ったのは約十年前です。東京、香川…十回位を不合格になる度に何が悪いのかではなく、何故打ったのに落とされなければいけないんだと思っていました。

コロナで人と接触も避けるようになり、審査も受けずに何年もたった時に吉田茂生先生から「昇段審査を受けてはどうか」という言葉を頂き、悩んだ末に最後の一回ということで真剣に全力で挑戦してみようと思い、申込期日ギリギリに決意し、審査に臨む事になりました。

審査当日までの稽古内容は立ち合いを動画で撮影し、吉田茂生先生にアドバイスを頂きました。協力して頂いたのは立江剣道教室の青年の稽古会・羽ノ浦の稽古会・小松島支部の稽古会・振武館の稽古会の皆様です。本当に感謝しております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

動画を撮りはじめた時は、姿勢・構え・打つ機会などに課題があり、今から四月二十九日までには直らないかもしれないと思いました。私の同世代の人は当然のように持っている六段に私はこんなにも課題を抱えているのかと思うと気が重くなりました。

審査の十日前に振武館の井村先生に稽古をのお願いする旨の連絡をした時、審査に悩んでいる事を伝えると「皆さん同じように悩んでいます。審査とはそういうもので、悩んで最期に開き直り、挑んで行くものです。」というお言葉を頂き、「そうか、悩むのも大切な稽古なのか」と思うと、悩む事を受け入れる気持ちになり、「悩む」＝「修行」＝「成長」と思うようになりました。さらに「四月二十九日に間に合わなくても、受かるまでこの気持ちで稽古もする。審査も受け続ける。」という気持ちに変わりました。

審査当日は、京都まで森肥佐雄先生が運

転をして下さり、精神的に良い状態で審査会場に到着しました。会場内には自分より体の大きい人が多く、アップをされている人達も皆、動きがよく、過去の審査と明らかにレベルがちがうと正直に感じました。また、立ち合いもその通りであり、私はDで、一番目はA対B、二番目B対Cの立ち合いでBの方が立ち姿、溜め、技のキレ、何をとっても素晴らしく、相手のAとCの方も力強い印象を受けました。

私の番になり、最初はCの方との立ち合いです。「はじめ」の後、触刃の間でここの中心は絶対渡してはいけないとの思いで発声し、相手が強く入ってきて中心の外から打とうとしてきた所の面をとらえる事ができました。その瞬間は「どう評価されるのか」「相手は強い」と二つの事を思ってしまいました。そのせいでわずかに構えるのが遅れました。また相手Cの強い攻めがきました。必死で中心をとりましたがCの速い小手が来て「まずい」と思い、「不合格」が頭をよぎりました。しかし、不思議な事にその小手から逃げる選択を頭ではしているのに体は無関係に小手・面で合わせていました。悩みすぎた結果なのか、「まだあきらめるな」と体が勝手に技を出してくれました。

一人目も二人目も強い方でした。打った技も良いか悪いか分からなくなりました。

二人目も終え、合格発表になりました。一緒に来てくれた森先生には「先生、今回不合格でも受かるまで頑張ります」と言葉が自然に出たのを覚えています。この組の中での合格はBの方とDの私でした。

森先生に撮ってもらった自分の立ち合いを何回見ても、ギリギリ合格かなあという内容で、気持ちを変えずにこれからも稽古を頑張ろうと思いました。

今回の審査で御協力頂いた吉田茂生先生をはじめ、沢山の先生方にこの場をお借りしてお礼を申し上げさせて頂きます。引き続き稽古を頑張りますので、皆様今後とも宜しくお願い申し上げます。

六段審査合格に至るまで

阿南支部　大城幸子

私と剣道の出会いは小学三年生の時でした。通っていた小学校の体育館で剣道教室が新しく始まることとなり、一期生募集のチラシが配られたのです。見たことも聞いたこともなかった剣道を、なぜかやってみたいと言ったことが始まりでした。元来、運動音痴でしたので、人並みのことができるようになるまでには、人の何倍もの時間をかける必要がありました。案の定、剣道を始めてはみたものの、なかなか上達はせず、小学校時代の試合では一勝もすることはできませんでした。それでも自分で言い出した手前、辞めるというのは言い出せず、中学校でも続けたところ、県大会で団体戦三位に入賞することができ、とても嬉しかったことを覚えています。それまでは、ただ剣道を続けているというだけでしたが、そこから少しずつ、自分から考え求めて稽古に打ち込むようになったように思います。

熱心に指導してくださる先生方や楽しい愉快な先輩、仲間たちと出会えたことが、私にとっては本当に幸運なことでした。おかげで、この運動音痴の私が大学まで剣道を続けることができたのですから。ただ、その後は結婚・出産を経て、十年ほど剣道から離れてしまいました。さすがにもう竹刀を握ることはないであろうと思っていましたが、徳島至誠館にご縁があり、親子で剣道修業に励むことになりました。

剣道を再開してからは指導者として子供たちの良い手本となるべく精進する日々となりました。ただ、その間にコロナ禍があり、誰しもが剣道をする環境を制限され、不自由な思いをしました。それに便乗するかのごとく、自分の稽古を怠り、昇段に挑戦することから逃げていたわけですが、中山繁輝先生から背中を押され、何より至誠館の道場生たちが日々頑張っていることに勇気をもらい、夫婦で六段審査にチャレンジすることを決意したのです。とはいえ、稽古不足が明らかで、不安しかなかった私は、まずは夫に先に受審してもらい、その合格を奮闘材料にしつつ、じっくりゆっくり自分の剣道と向き合い、見直しながら稽古をしました。まず、指導していただいたことは、打ち急ぎすぎないということでした。心に余裕がない、相手が見えていない、自分勝手である。稽古をすればするほど、至らなさが次々と浮き彫りになり、本当に嫌になりました。しかし、幼少期より、人より時間をかけなければ身に付かないことは自覚しておりましたので、「相手を引き出して打つ」ということを意識し、体に浸み込ませていく稽古をするしかありませんでした。

迎えた審査当日。引き出して打つ技量をしっかり身に付け、自信満々で、とはいくはずもなく、早くこの場から逃げ出したい感情でいっぱいでした。救いは二組目のAであったことでした。人の立ち合いを見て緊張していく間もなく、あっという間に順番がやってきたことと、間でいったん休めたことは、私にとってはかなりラッキーなことでした。立ち合い自体はと言いますと、稽古でもなかなか出なかった有効打突が奇

跡的に数本決まり、相打ちになった時は相手の力強さに押された感はありましたが、動じることなく、立ち振る舞いができたのではないかと思います。稽古は嘘をつきません。身をもって実感できました。こうして、令和六年四月二十九日、京都審査会において、無事六段に合格することができたわけですが、これもひとえに、これまでご指導くださった諸先生方、切磋琢磨してくれた剣友、応援してくれた家族、そして徳島至誠館の子供たちのおかげであると感謝しております。本当にありがとうございました。

また、新たな修行が始まりました。人より流れる時間はゆっくりですが、粘り強く続けていきたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

六段審査に合格して

丹生谷支部　蛇目英樹

令和六年四月二十九日、京都での審査会において六段に合格することができました。これもひとえに、日頃からお世話になっている鷲敷振武館の諸先生方やこれまでに稽古、ご指導いただいた諸先生方のおかげであり、感謝しております。心よりお礼申し上げます。

私が剣道を始めたのは、小学一年生の時からです。上那賀町（現在の那賀町）の宮浜少年剣道教室、宮浜中学校で剣道をして参りました。中学卒業後、剣道をする機会はありましたが続ける事はなく、子供が鷲敷振武館でお世話になるまで自分が剣道をすることになるとは思ってもいませんでした。最初は付き添いに行くだけで興味が無かったのですが、見学をしているうちにもう一度してみたい気持ちが強くなり、三十三歳から剣道を再開しました。

それから一年後、二段審査に挑戦してから四十八歳で六段の審査資格が出来ました。しかし、体調を崩し入院、手術の繰り返しで一年半ほどまともに稽古ができておりませんでした。それに加え、コロナ禍で制限がかけられたことで剣道に取り組む気持ちが次第に薄れていきました。そして、鷲敷振武館での週二回の稽古も休みがちになり、六段審査はもう諦めていました。しかし、稽古をしているなかで中学校時代の恩師でもある富田正先生や井村雅人先生に審査を受けに行くよう後押しされたこともあり、令和五年十一月の名古屋審査を目標に稽古に取り組むようにしました。

はじめての名古屋審査では、さほど緊張すること無く落ちついていました。しかし、いざ立ち合いになると、一人目は初太刀で出遅れ面を打たれ、あまりいいところがなく終わりました。二人目は自分のなかでは悪くないように思いましたが、そんなに甘くはなく不合格でした。

それからは半年後の京都審査を目標に稽古に取り組みました。構えの姿勢や竹刀の握り方を修正し、時間があれば素振りを行い初太刀の一本を意識するようにしました。しかし、考えれば考えるほどわからなくなり不安しかありませんでした。

二回目の京都審査は、午前中の最終組でした。今回は凄く緊張しており、実技の内容については明確に覚えてはいません。一人目、二人目とも初太刀は無意識に出た感じがあり、立ち合い中も打たれたような感じもありませんでした。二人目に対しては、攻め勝っていたように思います。形審査では、鷲敷振武館での先生方との月一回の形稽古のおかげで緊張すること無く、落ち着いて取り組むことができました。そして、無事六段に合格することができました。

六段に昇段して思う事は、六段として恥じぬよう日々の姿勢、心構えを持ちたいと思います。そして、六年後の七段審査に向け精進して参ります。これからもご指導のほどよろしくお願いいたします。

剣道六段審査に合格して

警察支部　浅田光貴

令和六年五月、愛知県名古屋市枇杷島スポーツセンターにおいて行われた昇段審査で六段に合格させていただきました。これも日頃からご指導いただいている県警の先生方、剣道連盟の先生方のおかげであり、また日頃から同じ目標を持って汗を流している先輩、同僚のおかげであります。

私は同級生より二年ぐらい昇段が遅れていたので、今回が初めての六段審査になります。多くの同級生、後輩が六段に昇段していく中で、悔しさともどかしさがあり、「絶対に一発で合格してやる」という強い意思をもって稽古に望んでいました。

審査を意識し始めた時の稽古は崩れないことを意識しすぎて、攻めることも技を出すことも相手より遅くなることが多く、審査に対して不安ばかり高まりました。そんな中、普段の稽古中、先生方や先輩方に「浅田は意識しなくてもなかなか崩れないから自信もっていつも通り攻めてみろ」とアドバイスをいただき、前より審査のことを意識しないように稽古をしました。おかげでいつも通り体が動くようになり、審査二日前までの稽古に臨むことができました。

審査の前日は一人で愛知県に向けて車で出発しました。ホテルに到着後、真っ先に娘にテレビ電話してリラックスしたのを覚えています。

審査当日、会場入りすると人数と規模の大きさに驚きましたが、受付をしていると島根県の同級生に会い、一気に緊張がほぐれました。しかし、審査の順番はまさかの最終組でかなりの時間があり、再度緊張が私を襲ってきました。審査が始まると、試合の時のような気合いで緊張を吹き飛ばし、先をかけて出鼻面、小手、返し胴と自信をもって技を出すことができました。少し手数が少ないかなという思いもありましたが、今の自分を出し切ったので後悔はありませ

んでした。そして、一次（実技）、二次（剣道形）と無事合格することができました。

審査が終わり、県警の先生方、先輩、鳥取にいる両親に合格報告をすることができ、ほっとした気分になりました。

今回のこの合格は、小学一年生から剣道に歩ませてくれた両親、剣道のことを何も知らないにもかかわらず、支え続けてくれている妻のおかげでもあります。改めて感謝します。

これからは、次のステージに向けて日々精進していこうと思いますので、ご指導よろしくお願いします。

六段審査を振り返って

警察支部　鈴木千尋

令和六年八月三十一日、福岡市開催の剣道六段審査に合格することができました。私にとって二度目の挑戦であり、また五年越の合格でもありますので、心から嬉しく思っています。

初挑戦は、令和元年十一月の名古屋審査でした。この頃は、警察剣道特練生として、勝負に勝つことを目指した稽古の日々であり、男子と立ち会っても打ち負かすことを意識し過ぎていたことを反省しています。いくらか有効打はあったのですが、六段としての大切なところが不足していたのでしょう。見事不合格となりました。

この後、令和二年二月頃より新型コロナウイルス感染症が拡大し、その四月から警察官は剣道の稽古が中断されてしまいます。更にその後、二人の出産と育児でブランクは約五年間となっていました。

令和六年五月から職場に復帰するとともに、剣道の稽古も少しずつ始めることができました。稽古を再開して三ヶ月、まだまだ不安が残る中で受審を決断した理由には、剣道から離れる直前の初めての六段審査、出産前に果たせなかった思いがあり、この五年間は悶々とした気分と何か忘れ物をしているような思いがずっと心から離れませんでしたので、この復帰後早々の挑戦となったのかもしれません。

今回は稽古不足の上、体力不足も加わり、前回の審査のようには動けません。逆に相手と気を合わせて一つになるような攻防をしようと心掛けました。すると、自分も驚くほど落ち着いた気分になり技が自然と出せたように思いました。相手のことばかり見ないで、自分を整えること。そうすると自然と見えてくるものがある。そんな感じがしました。

コロナ禍や妊娠出産、そして育児を経て約五年の月日が流れたことで、今後の人生で仕事と育児と剣道はどうあるべきか、どんな生活スタイルがベストなのかを考えることができたことは大変意義深いことでし

た。

合格後の日々も、現実はそう甘くはなく、仕事に剣道、また家事に子育てと、目の前の穴を埋めていくことで精一杯の日々が続きます。

以前の自分に戻ろうという意識はひとまず置いといて、年齢には逆らえない現実を受け止め、現在の自分に見合った稽古方法や剣道スタイルを目指し、焦らない心と体を整えて、相手と攻防するという目標が見めてきたように思っています。

審査直前には、台風が審査当日に直撃するかもしれないという思わぬアクシデントもありましたが、強行突破で九州に向かったのもいい思い出です。まさに、今挑戦しなければ、またチャンスを逃すと思っての決心でした。

本番の立会いは、二人とも男性でした。二人目の途中で、私が竹刀を落とすというハプニングもありましたが、冷静に対応し、難なく対処することができました。無事に合格をいただくことができ、嬉しさよりもっと大きな安堵感が込み上げてきたのを覚えています。

私が考える昇段審査とは、決して段位そのものだけの問題でなく、その段位に見合った剣道を目指しながら、人として成長できる良い機会だと考えています。

仕事と育児、そして剣道を考えるとなかなか大変ですが、せめて竹刀を構えている空間では、この昇段の初心を忘れることなく精進していきたいと思っています。

最後に、ご指導いただいている先生、先輩方をはじめ職場の上司同僚、そして家族の協力と理解があってこその結果です。この場をお借りしまして心から感謝申し上げます。

今後とも引き続きご指導のほど、よろしくお願いいたします。

六段審査に合格して

板野東支部　梶　浩人

令和六年八月三十一日（土）、福岡市総合体育館「照葉積水ハウスアリーナ」での審査会において、六段審査に合格することができました。これもひとえに日頃から御指導いただいている先生方をはじめ、学校剣道連盟の先生方、板野東支部の先生方、共に稽古をしている徳島科学技術高校剣道部員、誠武館道場の皆さんのおかげだと感謝しております。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

初めて受審した際は、とにかく「初太刀」に全集中して立会に臨みました。その結果、初太刀も決め、良いところも打てたので、合格しただろうと思って剣道形の復習をしていたところ、不合格との知らせでしたので、大変ショックだったことを覚えています。しかし、このことで「何も分かっていない、自分勝手な剣道」をしていたことに気づくことができました。そして、先生方や先輩方に稽古をつけていただいた際に教えを請い、「カウンター剣道になっていて、攻め入ってから待ってしまっている。」との御指導をいただきました。出鼻で一本決めようと、打とう打とうとする気持ちが出てしまっていたのだろうと思います。そこで、構えから見直しました。カウンター狙いで足の幅が大きくなっていたのを狭め、前傾になっていた上半身を起こしました。また一本に拘り過ぎず、打ちに拘ろうと思い、「自分から先に打ち間に入る」「潜らずに上からのる」「開かず構えを崩さない」「打ち抜く」ということを念頭に稽古に励みました。

今回私は午後からの審査でしたので、審査当日、新幹線で現地に向かう予定でした。しかし、前日は四国付近を進む台風十号の影響で、九州や四国はもちろん、台風本体から離れた地域でも記録的な大雨となり、浸水等の被害が相次いでいるという状況でしたので、気が気ではありませんでした。結局当日は、瀬戸大橋線が運休していたため、岡山駅まで自動車で移動し、何とか審査会場に到着することができました。このように道中が不安だったので、会場入りして早々に始まりましたが、程よい緊張感を持って落ち着いて立会に臨めたと思います。初太刀は、自分から打ち間に攻め入り、合気になったところを攻め勝って面を打ちきることができました。打った後もしっかりと打ち抜き、縁を切らずに先に攻め入り、打ち間に入ることを続け、攻め勝ったところ、相手の起こりを捉え、崩れることなく面や小手を打ちきることができ、充実した気持ちでした。加えてコロナ禍が過ぎ、観覧もできるようになったため、家族の前で合格をいただけたことに、嬉しさもひとしおでした。

そもそも六段審査への挑戦は、子どもが剣道を始めなければ無かったと思います。そして、子ども達が頑張っている姿や、道場の先生方からの激励がなければ、合格を成しえなかったと思います。さらに、挑戦する中で自分自身の剣道への取り組みを見直し、改めて基本の大切さについて考えることができました。目標を持って研鑽を積

むと、さまざまな御指導・御助言の捉え方が変わり、結局それが基本の大切さに辿り着くのではないでしょうか。これまでも基本を大切にしてきましたが、私自身が目標を持って剣道に取り組むことで、高校生や道場の子どもたちの成長に還元したいと思っています。

高校卒業後、長い間剣道から遠ざかっていましたが、今こうして剣道ができるのも、高校の剣道部顧問であった福井軍二先生の「大きく正しい剣道」と、鎌田恵先生の「人には感謝の気持ちをもって接しなさい」という御指導のおかげだと思います。これからも、先生方から御指導いただいたことを忘れず、いただいた「流汗悟道」の言葉を胸に、自分自身、生徒、子どもの人間形成に関わっていきたいと思いますので、これからも御指導の程よろしくお願いいたします。

六段昇段を経て

阿南支部　鈴木　健太郎

私は、二〇二四年十一月十日、名古屋市枇杷島スポーツセンター開催の剣道六段昇段審査において合格することが出来ました。

コロナ期間中と子供の誕生が重なったこともあり、四年ほど剣道から離れた生活が続きました。そこから六段審査を目指す転機となったのは、妻が六段に昇段したことと、九月に行われた全国実業団剣道大会に出場したことが大きな動機となっています。

妻の剣道への向き合い方や昇段審査へかける思いを間近で見て感化された私は、ちょうど会社でメンバーの募集があった全国実業団大会へ出場することにしました。日本武道館で行われるということもあり、モチベーション高く稽古を重ね、大将として意気揚々と戦いましたが、結果は大将戦による一回戦敗退でした。久しぶりに込み上げる悔しい気持ちとメンバーに申し訳ない気持ちが入り混じりました。

正直、自分自身の中では実業団大会が終わったらまた暫く休もうと考えていましたが、帰りの飛行機の中でこのままでは終われないぞという感情が湧き上がり、奮起する気持ちに見事に切り替わっていたのです。そんなこともあり、前々から先輩に誘って頂いていた年内十一月の昇段審査への挑戦を改めて決意しました。

昇段審査までの稽古は仕事が終わってから会社の稽古会に参加するというパターンでしたが、子供がまだまだ小さいこともあり、思うように参加ができません。少ない稽古時間の中でどれだけ密度の濃い稽古内容に出来るかを意識して行うように心掛けました。また自分のことのように熱意を持ってご指導頂いた監督やコーチ、先輩、後輩の存在の大きさに改めて気づく機会にもなりました。

迎えた昇段審査当日、あまり緊張も臆することもなく立ち合いへと望むことが出来ましたが、二回の立ち合いと

も初太刀に相面を乗られてしまいますが、冷静に自分の剣道を表現する事が出来ました。撮影して頂いた立ち合いを見返すと、相手より先に一歩、半歩攻め込んで技を出せていたことが何より良かったのかなと感じました。これは稽古で指導頂き、自分が最も意識して取り組んだ箇所でもあったのでそれが審査で出せたことが嬉しく思いました。

自分が六段に挑戦することになるとは学生時代には思いも寄りませんでしたが、剣道仲間に恵まれ昇段することが出来ました。また、合格後には想像以上に祝福のお言葉を頂き、嬉しい反面、身が引き締まる思いも同時にあります。

今回の昇段を経て、昇段審査にむけてご指導頂いたことを自分の中で終わらせず、次挑戦する方や悩んでいる方にどんな形であれ繋いでいきたいと思うようになりました。自分自身についても六年後、七段を目指すと言って妻に笑われないような自分でありたいと思います。ご指導、ご協力頂いた皆様方、誠に有難う御座いました。

六段審査に合格して

警察支部　後藤田　萌　愛

この度、令和七年二月二日福岡県で開催されました六段審査会に合格することができました。私は地元愛媛を離れ、平成二十八年徳島県警察に採用され特練員として配属、剣道の技術だけでなく剣道を通して人との繋がり、日々努力することの大切さを学ばせていただいております。

コロナ禍で大変な中、結婚、妊娠、第一子出産と約四年間剣道ができない時期がありましたが、たくさんの方々に支えていただいたおかげで乗り越えることができました。剣道を再開し、目標としていた六段審査に挑戦し合格するという思いが益々強くなる一方仕事と剣道、子育てを両立していくことができるのかと不安に思うことも多々ありました。

しかし、「人生は一度きり」と思い、思い切って家族に相談すると、「特練で思い残すことなく頑張ってもらいたいし、試合や目標としている昇段も応援する」と背中を押してくれました。家族の応援もあり、もう一度特練で頑張ってみようと決心し、育児休暇後に復帰しました。

復帰後は、まず出産などで落ちていた体力と筋力を元に戻すことから始め、剣道の基本から見直しを図りました。そして六段昇段の目標をしっかりと定め、自分を鼓舞し毎日稽古に励みました。今の剣道では審査会に出ても受かることは難しいだろうと思い、自分の剣道を一から見直していきましたが、中々思うようにならない日々が続き「やっぱりダメかー」と挫折しそうになりました。

そんな時支えてくださったのが、平野先生をはじめ、山室先生、特練員の諸先輩方からの励ましの言葉や熱心なご指導により、自分はまだまだやれるとモチベーションをあげることができました。構え、攻め方、打ち方全てを見直し、日々変わっていく新

しい自分の剣道を感じることが楽しく、不安な気持ちがいつしか楽しさに変わっていきました。

そして挑んだ六段審査では、緊張感漂うなか集中し、一本一本を大切に打ち込み、今まで積み重ねてきたことを審査員の方々に見ていただこうと全力で立ち合いを行いました。

六段審査を受審し改めて感じたことは感謝の気持ちです。この一年間、限られた時間の中で様々な苦労がありましたが、諦めることなく目標達成にむけて日々鍛練に励むことができたのは、ここまでご指導してくださった方々、そして応援してくれた家族のおかげだと心から思っています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

このご恩を決して忘れる事なく何かの形でお返しできるように、これからも日々精進し剣道だけでなく人としても益々成長して参りたいと思います。この紙面で感謝の気持ちをお伝えすると共に、更なる徳島県剣道の発展に今後とも貢献させていただきたいと思います。

ありがとうございました。

教士号に合格して
―継続は力なり―

板野東支部　井川理之

私が初めて竹刀を握ったのは幼稚園年長でした。そこから小学校・中学校・高校・大学と続け、大学卒業時には四段を取得していました。しかし社会人になり剣道を再開する余裕もなく、数年が経ちました。ある時、北島町立武道館の二階で剣道の稽古を行なっているのを知り、押入れの奥から防具袋を出し、中身と竹刀を確認し、道場に行きました。当時の誠武館道場代表指導者の大野義則先生に「ここで剣道をさせてください」とお願いしたら、大野先生はニコッと笑って「はい。どうぞ、一緒に稽古をしてください」とおっしゃってくださったので、私の誠武館道場での稽古が始まりました。

それから数年経ち、段位も大学時代に取得した四段のままで、「もういいかなぁ、五段は無理だなぁ」と諦めていたのですが、大野義則先生の後を亀田秀雄先生が代表指導者を二年間されて、その後を私が平成二十一年四月から引き継ぐ事になり、自身の為では無く、道場の子供達の為に五段取得しようと志し、その年の九月に五段受審し取得することが出来ました。

これを機に、もう一つ上を目指そうと子供達と共に稽古、同じ志を持つ剣友との稽古を続け、平成二十六年に六段、平成二十七年に錬士、令和四年に七段取得、そしてこの度、令和六年五月に剣道称号の教士を受審しました。

教本は以前から持っていましたが、講習会時に持参し、必要であれば目を通すぐらいだったので、改めて称号・段位審査規則・細則・実施要項を読んでみました。

（付与基準）教士は、剣理に熟達し、識見優秀なる者。

（受審資格）錬士七段受有者で、七段受有後、別に定める年限（二年）を経過し、地方代表団体の選考を経て地方代表団体の長から推薦された者。

と書かれています。受審資格は大丈夫として、付与基準の二つは…だと自分では思います。そして称号審査方法も本来であれば、筆記試験が行われるのですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止や被害の減少に協力するため、試験会場での称号教士筆記試験を中止し、「剣道指導者としてのあり方」の小論文提出のみの審査で合格した私です。

剣道が好きという気持ちを今でも持ちながら稽古を続けてこられたのも、御指導頂いた先生方、学生時代苦楽を共にした仲間、十六年間道場長を務めさせてもらえた誠武館道場の先生方、子供達、保護者の皆さんのおかげだと思います。

令和七年四月から誠武館道場長を櫻木鉄也先生に引き継ぎますが、今まで通り子供達と共に稽古も継続しますし、これからが真の教士になる為の修行の始まり、精進してまいりますので御指導の程よろしくお願い致します。

剣道練士に合格するまで

板野東支部　安藝智子

令和六年五月、おかげさまで練士に合格することができました。これまでお世話になった先生方、共に稽古に励んできた仲間の皆様に深く感謝申し上げます。

令和四年四月に六段をいただいてから、思いのほか長い道のりとなりました。と申しますのも、令和五年五月に全剣連中高講習伝達講習会を控えた四月末に、突然歩行困難になり、数日後には入院することになってしまったからです。重い感染症にかかり、一ヶ月間寝たきり状態、二ヶ月リハビリの計三ヶ月間の長期入院生活を送ることになりました。寝たきり状態から車椅子、その後つたい歩きの訓練、自分の身体が思い通りに動かないもどかしさ、元の状態に戻れるのかという不安で気持ちも落ち込む日々でした。ただ、そんな中で献身的に支えてくれた家族、そして、度々お見舞いや差し入れ、励ましのメッセージをくださった職場の同僚や剣道関係の先生方、稽古仲間の存在があったおかげで、前向きに入院生活を送ることができました。私にたくさんの力をくださった剣道関係の先生方、皆様にこの紙面をお借りし、あらためて深く感謝申し上げます。

発症から四ヶ月、リハビリ通院をしながら仕事、剣道も再開することができるまでに回復することができました。

この長期の入院生活を経て、あたり前のように思っていた日常生活や健康であることの有難さを痛感しました。そして、自分がいかに多くの方々に支えられて生きているかということも。

その後、再び剣道ができるようになったことの喜びを噛み締め、微力ながら、少年剣道指導のお手伝いも再開させていただきつつ、練士審査に向けて稽古に励み、おかげさまで無事合格することができました。

余談ではありますが、入院中担当の医師から「目標を持っている人は、回復が早いなあ。」と言われました。入院中、思うように動かないもどかしさと向き合って、リハビリに励むことができたのは、少しでも早く日常生活と剣道に復帰したいという目標があったこと、そして、励まし支えてくださった方々の存在があったからこそでした。

これからも、あの時の思いを忘れることなく、次なる目標に向け精進していきたいと思います。今後ともご指導の程どうぞよろしくお願い致します。

令和六年度 ―剣道― 称号・段位合格者一覧

【剣道教士】

五月六日
井川理之
安藝智子

十一月二十六日
六條洋二
日和田慈海
大貝美治
桒野佳明
出口正春
島尾眞且

【剣道錬士】

五月六日
安丸孝生
西堀和文
泊　利治

十一月二十六日
山本義征
片山将志
玉田赳大
秋山雄治

【剣道七段】

四月三十日
庄嶋　亮
武蔵純郎
松本憲二
森本武夫

九月一日
川島誠右
小笠原　徹

十一月九日
清水英典

令和七年　二月一日
湯村義喬
福永康浩

【剣道六段】

四月二十九日
白木恒二郎
田村健明
原　知永
大城幸子
蛇目英樹

五月十二日
浅田光貴

八月三十一日
鈴木千尋
梶　浩人
篠　昭光

十一月十日
鈴木健太郎
鎌田克己

令和七年　二月二日
後藤田萌愛

【五段】

五月二十六日
岩本正尊

八月六日
松端佑一郎

十一月十七日
多川大智

令和七年　二月九日
瀬之口　翔
上田勇輝
藤島汐里
澤田菜摘

【四段】

五月二十六日
谷口拓馬
村中　郁
富田涼介
江口弘純

十一月十七日
紀田晋三
古波直人
植田章彦
鳥澤明未
三好優果利

令和七年　二月九日
西林篤志
藤本豪太
松本尊灯
四宮翔太
山添龍也
熊橋知晃

神﨑三華
美馬汐里
迎　美榛
川田純代
髙橋絵奈
玉置樹里

【三段】

五月二十六日

榎本悠
榎本茉音
宮田真吾
田代朔也
小坂泰心
須見政弘

八月四日

橘大晴
福多伊織
七條隼
入江空男
真田一輝
次原玄
本間佑太郎
堀口良太
廣瀬優里
井後恭子

十一月十七日

中川遥守
津島優生
川人陸
多田建人
平松政樹
前山陽紀
大石一真
冨増奎佑
小柏舞桜
佐藤優多
河部未羽
蛭田昭美
大前真由美

令和七年二月九日

天羽龍慎
野田宗佐
川原楓瑛
松本奏利

四宮大地
東海大地
村瀬絆
井上裕貴
小西遼
三角拓巳
萩賢明
岸上泰己
太田亮一
井上敏
米倉真央
殿川瀬里
眞貝幸音
近藤真桜
國見菜々
井上美穂
辻村鴻人
河地颯斗

【二段】

五月二十六日

原瑛大
美鳥桜佑
石川健人
大西琉聖
浦以織
金澤悠翔
森本哲太
須藤悠成
藤原遥真
藤崎悠
福島一然
浅野晄永
茨木里音
唐住繁
住友由子
榊泰誠
佐藤奏仁
本間千裕

普久原煌星
大西涼介
福本竜也
山岡悠人
栗本裕斗
亀代天斗
栗本翔太
赤瀬裕作
橋本佳央梨
鎌倉花凪
秋月祐子
宮本藍
富永さくら
河野彩芽
龍田彪
前山大翔
山名統也
天羽煌征
中野漣

八月四日

箕谷誠太
竹本侑土
中野叶翔
西村洸人
大西華
本庄媛鞠
久住凛
北條琴音
鈴江彩生
植松大翔
松本羽太
瀬戸晃人
日根啓輔
川口源太
堀口優生
東根悠
川原梓翔
井上健次郎
森啓輔
園田光織
髙瀬智菜
天満百華
増尾美織
天満椛
山出直樹
谷崎柊二郎
米澤周也
杉本博則
隅田葵
和泉元
藤井陽斗
近藤和真
西尾蒼空
東士稀
岡部誠也
中山丈太郎
吉田瑞希
福永颯太

十一月十七日

令和七年二月九日

廣瀬芽生

瀬尾　さくら
平田　妃奈
岩浅　花
奥畑　聖椰
高橋　夏之音
大原　実結
猪井　ひより
札場　琉葦
寺澤　美羽
元木　璃子
溝淵　さくら
白石　彩夏
加藤　光揮
湯浅　逢李

【初段】

四月二十九日

山本　恭大
殿川　鉄心
桑原　健造
六車　勇翔
蝶々　蓮
綾部　良太
日和田　碧
鹿島　大雅
髙木　啓輔
河田　蒼生
水口　新汰
住友　暖
松井　一真
石川　直樹
岡村　壮能
大栗　聡太
池本　海夢
大内　陽翔
梶　愛潤
植村　蓮大

黒川　琥太郎
秋山　光貴
近藤　司
日髙　康
岡﨑　颯真
西森　恭佑
大河内　崇基
福島　拓人
越野　瑞貴
山本　京
安友　悠乃
沖　弥月
澤田　瑞穂
玉垣　蘭
佐藤　百々花
柳生　夏希
鳥野　紗希
奥野　ましろ
牛田　早紀
大石　桜愛
河野　優子

岡田　麻里
菊澤　優香
新見　加奈
北村　めぐみ
溜　衛さくら
谷内　友美
木内　亮汰
射場　春光
古川　敢崇
西濵　秀真
山路　隆斗
平石　悠真
川手　虹輔
三好　斗翔
藤井　武士
坂東　珠里
松本　帆可
後藤田　みさと
野口　椎愛

六月三十日

糸谷　恵
西尾　葵
大森　春奈
松本　里愛奈
須藤　汰心
藤川　侑人
片岡　遼大
仁木　庸介
大野　剣伸
小倉　煌生
梶原　暁人
金澤　蒼
三好　琥珀
髙田　翔太郎
國原　一眞
髙橋　龍生
板東　拓海
蛭田　伊織
川添　大義
丹羽　壮祐
前田　柊吾
棚橋　爽斗
松井　悠真
重井　佑月
松岡　宏樹
松下　光志
川野　翔平
坂東　佑哉
廣瀬　将也
坂口　潤
坂本　圭吾
岩田　俊輔
池田　尚央
溝木　寛人
小原　陽斗
大泉　仁
北田　慎一郎
吉田　悠真
片田　蒼介
森本　太智
橋本　希
平尾　隆登
近藤　諒季
名田　圭佑
清重　武蔵
永井　瑛大

九月二十二日

三好　智也
橋本　愛実
小柏　結奈
敦賀　悠衣
山ノ井　夏希
稲木　美月
豊田　葉菜
西岡　和泉
樫本　蘭
後藤田　彩花

令和七年

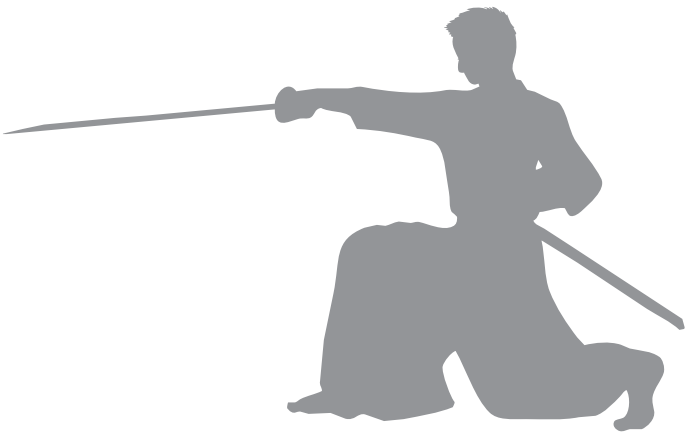
一月二十六日

楠本　知大

保出龍ノ佑
竹内壱秀
坂東青空
野村隼聖
久米怜煌
板東武蔵
平川唯人
宮本昂成
藤枝虹優輝
武田唯昊
表原優心
坂本真一
五島魁人
山本理瑚
蔭山歩結
西尾柚花
髙本沙凪
中川愛月
天野羽瑠
矢部心々
山本珠々

山口結翔
齋藤愛優美
大塚一穂
佐川仁衣菜
武知鈴夏
平田粋彩
坂本志保
松下りみあ
吉成美音
小峰心結
田村春果
豊田祐梨子
中田望未
西原詩葉
近藤優羽
吉田将樹

居合道部会コーナー



活動報告

居合道部会活動報告

居合道部会　満壽良史

居合道講習会

令和六年五月十二日、松茂町第二体育館において春季居合道講習会を開催し、坂本憲一先生を講師として全日本剣道連盟居合、一村昌和先生を講師として日本剣道形の講習を行いました。参加者は二十四名。

同年六月二十九日・三十日の両日、福岡県久留米市において、全日本剣道連盟主催の「第五十一回居合道中央講習会・地区講習会」が開催され、中央講習会には坂本憲一先生が、地区講習会には会員八名が参加いたしました。

講習会の内容については、同年七月二十八日に松茂町第二体育館で開催した伝達講習会において、坂本憲一先生を講師として会員に伝達しました。参加者は二十九名でした。

同年十一月十日、松茂町第二体育館において、秋季居合道講習会を開催し、原田　勝先生を講師として全日本剣道連盟居合、一村昌和先生を講師として日本剣道形の講習を行いました。参加者は三十二名でした。

四国四県合同稽古会

令和六年六月十九日、三好市池田総合体育館において、本県居合道部会の主管で「令和六年度第一回四国四県合同稽古会」を開催いたしました。四国四県及び兵庫県から七十三名が参加し、中央審査受審者や段ごとに分けた各班の講師を八段の先生にお願いし、全日本剣道連盟居合の研鑽に取り組みました。

令和七年二月二十四日に香川県観音寺市で開催された「令和六年度第二回四国四県合同稽古会」には積雪で徳島道が通行止めになるなか会員七名が参加し、他県の参加者と交流しながら全日本剣道連盟居合の研鑽に取り組みました。

四国四県強化練習会

令和六年八月十七・十八日の両日、全日本居合道大会都道府県対抗優勝試合に出場する四国四県の代表選手を対象とした強化練習会を吉野川市交流センターにおいて開催しました。

参加者は十八名で、初日は八段の講師から基本動作や技の確認を中心に指導を受け、二日目は試合形式の練習を行いました。

全日本居合道大会

第五十九回全日本居合道大会は令和六年十月十九日に東京武道館において開催されました。

本県からは五段の部に山田師正、六段の部に林　由美、七段の部に内海直弥の三選手と監督・満壽良史、補助監督・徳山　豊の五名が参加し、総合成績は四十二位でした。

県下居合道大会

令和七年二月十六日、令和六年度県下居合道大会を松茂町第二体育館で開催し（参加者二十五名）、次の皆さんが入賞されました。

優秀演武賞　木村志瑛　宮本響基　村中　郁　尾華裕貴
　　西岡悠天　西岡利治　山田師正　徳山　豊
敢闘賞　木村起真　宮本昂成
奨励賞　藤山泰成

居合道部会合同練習会

全日本剣道連盟居合と日本剣道形の技術向上を図るため、居合道部会の合同練習会を十九回開催し、延べ令和七年二月十六日一三七名が参加しました。

講習会報告

第五十一回居合道中央・地区講習会報告

居合道部会　坂本憲一

令和六年度の全剣連主催五十一回西日本中央講習会・地区講習会は、六月二十九日・三十日の二日間、福岡の久留米総合スポーツセンターで開催された。参加者は主に西日本（近畿・中国・四国・九州地区）の全剣連に所属する五段以上の居合人四四七名。中央講習会・地区講習会共に講習内容は同じ。講師陣は、審議員の小倉　昇・居合道委員長兼講師の草間純市・居合道委員の山崎明正・無津路博之・国方孝之・勝瀬文孝・粂田孝博・丸岡昭仁である。

一日目の開講式では、来賓・講師紹介の後、本間居合道委員長より本講習会の意義、開催県を代表して福岡剣連宮川副会長より歓迎の挨拶、役員講師の紹介に続き小倉審議員による「武士道」についての基調講演があり開講式は終了した。

十一時から始まった全剣連居合の「全体講習」では、「礼法」を含む一本目から六本目までを勝瀬文孝講師が、「野外での刀礼」を含めた七本目から十二本目までを粂田孝弘講師がそれぞれ演武し、草間純市講師が平成五年度改訂の「指導上の留意点」を活用しながら要点を踏まえた明瞭な説明が行われた。続いての「班別講習」では、講習生を段別に編成、それぞれに居合道委員二名が付き指導を行った。班別及び参加者数は次のとおり、（範士、八段四十三名、講師は草間純市・山崎明正）・（七段百五十名、講師は無津呂弘之・国方孝之）・（六段百三十九名、講師は勝瀬文考・粂田孝博）・（五段～四段百十五名、講師は丸岡昭仁）私は範士、八段の部に参加した。

午後から行われた「審判実技」では、草間講師による審判旗の表示方法、審判員の入退場方法について詳細な説明がなされた。審判実技に伴う「班別講習」では、八段一班・七段二班・六段二班の五班に分かれ、特に「判定」の発声後に行われる審判旗の上げ下げ、審判席への入退場について常に一致した動きをとるよう指示があった。中でも審判旗の巻き方は敏速さと正確さが要求されるため、その格差をなくすため、草間講師自らが模範となる動きを示された。その後、会場に設えた試合場において五段・四段が模擬試合を務め、班別で審判実務を行った。本県の大石雅生四段（十一月に五段昇段）は模擬試合の要員に選ばれた。

続いての「古流審判実技と古流の研鑽」は、古流における判定の判断基準を共通理解するのが目的で、審判員は範士を含む八段以上、内容は六流派（英信流・重信流・神伝流・田宮流・伯耆流・無外流）より選出された二名がそれぞれ自流の業を抜き八段が審判員を務める形で行われ、一日目を終了した。

二日目の午前中は、前日に続く「全体審判講習」となり、山崎

明正講師により、『居合道試合・審判規則』「細則第七条」の七つの判定基準を引用、具体例を示し審判員の心構えについて解説した。次の「審判実技」では、会場に二組の審判席を用意し、選出の二名がそれぞれ模擬試合と審判を行ったが、残りの陣容は只見守るのではなく審判席の後方に立ち、合図と共に判定を下し、判定のずれた人にその理由を聞くなどの方法がとられた。

その後は、全剣連居合の「班別講習」となり、範士一名・八段二名を一組とした講師編成で「指導上の留意点」に基づく全剣連居合の講習となり、私は五段の十一班を担当、他の講師二名と共に指導上の留意点を踏まえながら齟齬（そご）のない指導に務めた。

閉講式では、草間居合道委員長の挨拶に続き、受講代表者に修了証書が手渡され、最後に小倉審議委員、宮川福岡剣連宮川副会長の挨拶で全日程を修了した。

なお、本県の伝達講習会は、七月二十八日、会場は松茂町第二体育館、受講者は二十八名。午前中は全剣連居合、午後には審判講習等を行い、午後三時に全日程を終了した。

大会・行事所感

全日本居合道大会に出場して

居合道部会　満壽良史

令和六年十月十九日東京武道館に都道府県対抗優勝試合への出場選手百四十一名、個人演武者三百九十三名、計五百三十四名が集い、第五十九回全日本居合道大会が盛大に開催されました。

本県からも都道府県対抗優勝試合の県代表選考会で選出された五段・山田師正、六段・林由美、七段・内海直弥の三選手と監督・満壽良史、補助監督・徳山豊の五名が参加いたしました。

都道府県対抗優勝試合は、各流派の自由技二本と全日本剣道連盟居合十二本のなかから当日発表される指定技三本の計五本の技の演武で優劣を競います。

今大会一回戦から四回戦までの指定技は小笠原正幸審判長から「柄当て」、「三方切り」、「総切り」の三本が発表された後、三つの試合場で一斉に試合が開始されました。

試合会場は、中央に七段の第一試合場、正面に向かって右側が六段の第二試合場、左側が五段の第三試合場。

七段・内海選手と六段・林選手はともに第五試合で赤（正面に向かって左側）でしたので、七段の監督は徳山さんにお願いして、私は、両試合場が見える可能性が高い六段・林選手の監督席に着きました。

七段の試合がやや早く始まりましたが、両試合場の間にある掲示板に視界が遮られ内海選手の姿は見えませんでしたので、六段の試合に集中することにいたしました。

六段・林選手の対戦相手は、鳥取県代表の花田悠選手。全日本居合道大会に七回連続出場の強豪です。

片や、林選手は七年ぶりの大会出場。

久しぶりの大舞台に硬くならないかと心配しましたが、さすが強心臓の林選手、強化練習の成果を存分に発揮し、流れるような居合を見せてくれました。

途中、第一試合場から聞こえた「判定」の声で、視線を左に向けると、白旗が二本上がるのが見えました。

林選手も、百戦錬磨の強豪相手に臆することなく堂々と渡り合いましたが、惜しくも敗れました。

五段・山田選手の初戦は第十六試合で、対戦相手は、埼玉県代表の志村雄基選手。若手ながら完成度の高い居合を抜く、全日本居合道大会三年連続出場の精鋭です。

志村選手のメリハリのある居合に対し、

山田選手も力強い居合で善戦しましたが、最後まで集中力が途切れなかった志村選手に軍配が上がりました。

内海選手の戦いぶりについては何もわかりませんでしたので、監督を務めた徳山さんに尋ねると「内海さんが勝ったと思った」とのことでした。

同様の意見は観戦されていた他の先生からも伺いましたが、社交辞令だと思い、話半分に受け取っていました。

後日、全剣連が公開した動画で確認いたしましたが、気になる点は若干あるもののそれは対戦相手にも言えることであり、切れのある居合を抜いていた内海選手の方が相対的に優っているように思いました。

内海選手は、今回の敗戦で心に期するものがあったようですので、今後の飛躍が楽しみです。

以上、三選手とも、それぞれの持ち味を活かして健闘しましたが、いずれも初戦を突破することが出来ず、総合成績は四十二位という結果に終わりました。

本大会への出場に際しては、猛暑のなか原田、坂本両範士をはじめ、県内の先生方にご指導いただきましたのに、満足な結果を出すことが出来ず、監督としての責任を痛感いたしております。

今大会における本県チームの試合結果は以上のとおりですが、総合優勝は神奈川県、第二位は香川県、第三位は新潟県でした。

優勝した神奈川県と第二位の香川県との差は旗一本という僅差でした。

四国稽古会で一緒に稽古している香川県の躍進はたいへん喜ばしく、大きな刺激を受けました。本県においても、会員同士が切磋琢磨しながら、居合道の向上と振興を図っていこうと決意を新たにしました。

令和六年度 ―居合道― 称号・段位合格者一覧

【範士】

五月三日
坂本憲一

【六段】

令和七年
三月二日
鎌田貴

【五段】

十一月十日
大石雅生

【四段】

十一月十日
満壽利毅

【二段】

五月十二日
尾華裕樹
中西由美
樫地千恵美

十一月十日
宮本昂成
木村起真
髙田周一

【初段】

五月十二日
濱田博

十一月十日
村中郁
大前真由美

称号・段位合格者

居合道五段をいただいて

阿波居合道伝習会　大石雅生

令和六年十一月十日の居合道段級審査において、五段をいただきました。ありがとうございました。私は、十一月十日の時点で満七十歳。体の衰えとともに物覚えも悪く、ご指導頂いた先生方に唯々感謝です。本当に、ありがとうございました。

私が居合道に出会ったのは、昭和五十二年頃だったと思います。当時、脇町で故・滝下勝先生が剣道場「研心館道場」を開いており、剣道の教えを請いに伺っていた時に「居合をやらないか」とのお誘いを受け、先生にご指導を受けたのが始まりです。当時は、制定居合は七本しか無く、加えて無双直伝英信流の型を三～四本くらい教わっていました。その後、制定居合は三本が追加され十本となりました。その追加の三本を教わっている矢先に、昭和五十九年三月滝下先生が亡くなられ、その後、諸事情も重なり居合道から離れていました。今では、制定居合は新たに二本が追加され、十二本となっております。

時を経て、平成三十年十二月、ある会場において一村昌和先生（現県連副会長）に呼び止められ、手招きされました。見ると、そこには原田勝先生（範士八段）、坂本憲一先生（教士八段、現在は範士）、福井勝先生（当時、居合道部長）が居られました。挨拶もそこそこにお邪魔すると、一村先生から「いつ始めるんだ」と詰め寄られ、他の先生方からも「そりゃ、やらなあかん！」とのお誘いを受け、居合道を再開することになりました。稽古場所は、お誘いを受けた一村先生の所属する阿波居合道伝習会（会長・坂本先生）にお世話になることにしました。

さて、阿波居合道伝習会が稽古している

阿波市市場町の八幡小学校体育館に行ってみると、早速坂本先生から「制定居合を抜いてみろ」と言われました。しかしながら、三十五年ぶりの事。余り覚えていません。すると、坂本先生から「覚えているところでいいから」と促され、恐る恐る抜いてみますと、「ううん、懐かしい居合を見せてもらったなあ」と言われました。つまり、空白の三十五年間に大きなところは変わっていなくても、小さなところが少しずつ変わっていたのです。以来、坂本先生から懇切丁寧なご指導を頂き、加えて追加された五本並びに無双直伝英信流古流を教わっております。

また、当初は模造刀を使用していましたが、現在は真剣で稽古をしています。しかしながら、この真剣での抜刀・納刀が当初は怖くて、なかなか鞘の鯉口に左手が掛かりませんでした。今でも十分に出来ていませんが、抜刀・納刀が一番の課題だと思って稽古をしています。その他、剣道を何十年とやって来ましたので、その動きがつい出てしまうのも一つの課題です。居合道と剣道は車の両輪とよく言われますが、部分的にはその動きに違いがあるものです。そこのところを意識しつつ稽古をしているのですが、思わず出てしまいます。困ったものです。

居合は、剣道と同じく基本が大事です。特に制定居合においては、決められたとおりの動きができなければなりません。一挙手一投足に細心の注意を払いながらやっているのですが、なかなかうまく出来ません。この度の五段審査を受審するに当たり、坂本先生をはじめ阿波居合道伝習会の皆さん方、その他の先生方に沢山のご指導を賜り誠にありがとうございました。高齢になってくると、激しい動きの剣道よりも、動きの静かな居合道の方が私には向いているような気がします。今後は、剣道を続けながら居合道に重点を置き頑張っていきたいと思っています。今後とも、よろしくお願い致します。

居合道六段審査に合格して

居合道錬成会　鎌田　貴

令和七年三月二日に京都市武道センターで開催された居合道六段審査会にて、居合道六段に合格する事ができました。私にとっては今回が初めての挑戦となりました。ご指導していただいた先生方、いつも応援してくれる仲間や家族。多くの方々の支えのおかげと心より感謝しております。

まず私が六段審査会に挑戦しようと決心したのは、年が明けて間もない時でした。仕事の都合や私生活の都合、諸々の条件が整ったのがきっかけです。決心した時には、すでに締め切り間近でしたので、大急ぎでの申し込みとなりました。無事申し込みが完了した時点で、本番までの期間は残り一ヶ月半となっておりました。

残された期間が短い中、道場では制定居合十二本を一本づつ細かな部分を確認し、ご指導を受けた部分を修正していく稽古が主でした。その合間に本番を意識した稽古として、過去の審査会にて指定技になっていた技六本を初めの礼から終わりの礼まで自分で時間を計りながら時間配分の確認をしました。時間配分は問題なく指定時間内に収まっていましたので、後はとにかく各技の修正に多くの時間を費やしました。

一本目から十二本目までそれぞれ悪い部分があり、この時の気持ちは正直「このままでは合格は難しいな」と思いました。残りの期間必死で刀を振り稽古に汗を流しました。

そして最後の稽古日になりました。私の道場では毎週月曜日と金曜日が稽古日となっておりますので、最後の稽古日は京都への移動日の前日となります。最終日は、各技を一通り抜き、本番形式の稽古し、後は少し体を動かす程度にして稽古を終わりました。

そして翌朝の土曜日は、いよいよ京都へ向けてバスで移動しました。京都へはお昼頃到着し、一度ホテルに向かいチェックインを済ませ、会場となる京都市武道センターの下見に向かいました。その日会場では少年柔道の大会が開催中でした。会場に到着した私は、入り口の場所、会場内の動線、広さや雰囲気を確認し、明日の自分の姿を観覧席からイメージし「明日は必ず合格するぞ」と強く思い会場を後にしました。その日の夜は、食事も外で簡単に済ませ、早めに眠ることにしました。

いよいよ本番当日の朝を向かえました。朝食をしっかり食べ、出発までの時間ゆっくり準備をし、自分に気合を入れ会場へと出発しました。会場に到着すると、すでに七段審査が始まっていました。六段審査は七段審査が終わってからとなりますので、まだ受付も始まっていませんでした。受付が始まるまで一時間以上時間がありましたので、準備運動でもしておこうと思い場所を探しましたが、当日の会場では準備運動する場所が無く、審査を受ける方々みんな通路の端や邪魔にならないような場所を見つけて準備をしていました。私も通路の端で軽く腕を回したり、屈伸をしたり、各所

作の確認をしましたが、そこで問題がありました。普段私は、稽古を始める前に軽く素振りを行い、身体をほぐしてから各技の稽古に入るのですが、今回はそれができず、身体の調子を確認する事ができないまま本番を向かえる事に不安を感じました。

受付を済ませて会場に移動し、指定技の発表です。指定技は一本目、三本目、五本目、七本目、八本目、十一本目の計六本でした。審査は年齢の高い人から順番にブロック分けをし、四人一組づつ行います。私は最終ブロックの一組目となり、ブロックの一番初めの審査となりました。自分の順番までまだ時間があり、その間観覧席で他の方の審査を見学していました。その時の気持ちは、不安はありましたが、どこか落ち着いていました。開き直っていたのかもしれません。

自分の順番がきて待機席に着席し、開始を待ちます。自分の審査が始まりました。開始線まで進み合図を待ちます。落ち着いていた気持ちが、ここで一気に緊張へと変わり心臓はバクバクでした。合図があり、礼法から始めていざ緊張の一本目を抜きましたが、緊張のため切り下ろした刀がぶれていた事を今でも覚えています。続く三本目から後は無心で抜きました。全ての技を抜き終え、退場の合図で席に戻ってから、その日一番の汗が流れました。

他の方の審査が終わるのを待っている間、自分の審査を振り返ってみましたが、思うのは「あれダメだったな、これダメだったな」とダメな所ばかりでした。良い所が見つかりませんでした。この時点で自分の不合格を覚悟しました。

そして最後の審査が終わり、結果を待ちます。結果はすぐに発表されるとの事でしたので他の方と同じように私も発表場所で結果を待ちます。

発表の時がきました。少し遠くから発表を見ると、自分の番号らしき番号が見えました。半信半疑で近づきもう一度見ると、確かに自分の番号が書いてありました。まさか合格するとは思っていなかったのでビックリしました。と同時に嬉しさと安堵感がこみ上げてきました。

半信半疑の気持ちは自宅に帰ってからも消えることは無く、ようやく合格を実感できたのは、全剣連のホームページ上で六段審査合格者名に自分の名前を見つけた時でした。

なぜ私が合格できたのか考えたのですが、明確な理由は見つけられませんでしたが、結局の所「絶対に合格する」と言う強い気持ちが功を奏したのではないかと今となっては思っています。こうして私の居合道六段審査会は、なんとか合格という結果で終わりました。

人生でも、六十歳で還暦となるように、節目でもある六段合格後は、今一度、居合道を始めた時の気持ち、初心に戻り、居合道一つ一つの事をもう一度謙虚で真剣に学び直し、見つめ直していきたいと思います。「初心忘れるべからず」「日々是精進」この二つの言葉は私が大事にしている言葉です。慢心する事無く、人としても日々少しでも成長していけるよう修錬してまいります。引き続き、今後もご指導の程よろしくお願い申し上げます。

随想

「丁寧（ていねい）」ということ

居合道部　林　由美

令和六年、十二月に入りいろんなことが重なって、いつもの年より恐ろしいくらい忙しい日が続いた。あと一週間、今週が、来週が終わればと身体に鞭打って何とか迎えた新年。

稽古初めの演武と、今回初めて仰せつかった道場での四方祓いの大任を済ませた途端、体調を崩してしまった。咳が続き、発熱。このコロナとインフルエンザが蔓延している年末年始、まさかと何回か検査を受けたが陰性。結局普通の風邪ということでほっとした。

「丁寧に治して平熱になるまで仕事を休むように」普段から体調がとことん悪くなるまで受診しない私をご存知のかかりつけの先生はそう諫めた。

この時の「丁寧」と言う言葉が妙に心に張り付いて、熱と咳で眠れない時間にじっくりと考えてみた。普段何気なく使っている「丁寧」という言葉。なのにちゃんと考えるのはきっと恥ずかしながら初めてだろう。

居合道の稽古の中で、自分が指導をいただく時この言葉が出てくる。私も道場で子供達や初心者の方に指導をする時に使うことがある。神前の礼。袴捌き。帯刀。そして技に入る前から納刀まで、随所に散りばめられている。でもそれが単にゆっくりと確実にという事だけでないことに、分かったつもりでいたのだったと思う。

「丁寧」の二文字の中には、調べてみるともっと多くの意味が存在しているのだ。細かい所まで気を配る。注意深く入念にする。言動礼儀正しく配慮が行き届いていること。手を抜かずいい加減でないこと。そして相手に対して敬意を表す時。刀への礼儀が今更ながらこれら全てを心に置き留めて行なってきたと言えるだろうか。

私は稽古でご指導いただく中で「技を途中で端折っている」と注意を受ける時がある。技の最後にくるべき所には刀はあるのだが、途中それまでが言わば雑、という事なのだろう。私はなぜそうなってしまうのかずっと分からず、単に人の何倍も稽古が足らない事のせいにしていた。そして、よくよく思い起こしてみれば、自分の生活の中でもそういうことが多々ある、ということだ。どんなに多忙な毎日でも最後キチンと終わればいい。どうにかこなして終われば良いのだと。

居合道範士八段の原田先生は「居合道は生き様である。その人の技を見ればその人の生き様がわかる」と仰っていた。生き様。その人が生きていく態度。ありさま。ああ。困った。なんて恥ずかしい。自分に丁寧に出来なくて、毎年体調を崩したり、怪我したり。とりあえず、稽古が、試合が終わるまで頑張ろうとか。それでは人に対しても敬意が払えていない。丁寧ではないということだ。まさに、技を端折っている人生そのものではないか。

そんな人間が昇段や指導なんてよくして

これたものだと後悔というか懺悔というか。さぞかしこんな私は人様には滑稽に見えただろう。風邪の症状に苦しみながらその気付きを得て二日を過ぎ、熱が下がりはじめた朝。先ず。自分に丁寧に生きてみようと思った。少しづつ。意味を考えながら。もうそう若くはないが、今までとは違う残りの時間になるのではないだろうか。さすれば居合にもいつかそれが現れよう。そう願う。

道場紹介

修武館道場に於ける居合稽古

修武館道場　武田修典

今回事務局より居合についての執筆依頼ありましたが、中身が乏しく充分な内容とまではいきませんが、現在の当道場稽古状況について思い出しながら述べてみたいと思います。

当初、道場といっても物置小屋を少し大きくしたくらいの天井も内壁もトタン板だけのまさしくうさぎ小屋程度でした。当然空調設備もなく、夏場は四十度超え、冬場は零下以下になり過酷な状態だったので、さすがに辛抱たまらなくなり、天井・側壁の板張りを施し、空調設備も取付けることに。かなりの出費で痛手でしたが、なんとか並みの環境状態で稽古できる運びとなりました。

さて居合道の稽古についてですが、週一回木曜日に少年剣道の稽古場所として松茂剣道教室の剣士たちが汗を流していたのですが、稽古時間が十七時半から十八時半までの一時間であり、その後剣道されている方より「居合もやってみたい」また保護者の方より「杖道も興味ある」と言われ、私としては三道（剣道・杖道・居合道）の経験により、剣道稽古の後、杖道を十八時半から十九時半まで、その後二十一時前まで居合の稽古の時間帯としました。

まずは剣道経験者男女二名により令和五年九月後半より稽古となり、居合では女性は未経験者、男性は数十年前に居合経験ありの三段有段者であります。稽古内容ですが、指導する私自身体調も良くないことから、また経験も浅く腕前もよくないので全日本剣道連盟居合解説書を見ながらの稽古をしておりました。

その後、体調もますます悪化してきて、危険な状態となり、六月中旬に脊柱管の手術を行いました。七月中旬には稽古再開とはなりましたが、ここで剣道＆居合仲間である川人政利先生にサポートをお願いし、現在にいたっております。稽古における成果として、令和六年十一月に大前真由美初段の誕生です。現在稽古されている方々は成人六名、小学生二名の計八名ですが当道場としては作法（姿勢・礼）・術技（正座の部・居合膝の部・立ち居合の部）の最低限の振る舞いしか出来ないと自覚はしておりますので毎月開催される居合道部会合同稽古会ならびに定期講習会に参加されて上達されればと願っております。

（追記）全日本剣道連盟居合解説書に記載されている術技について、過去にわたしが指導されたこと（解説書以外の内容を含む）を勉強のつもりで記載しておきたいと思います。

一本目「前」

鞘引きとともに刀を抜き出し、両つま先を立ててとあるが、立て方は錬度によってとのこと。

二本目「後ろ」

正面の敵に向き直り同時に左足をやや左寄りに踏み込むとはわずかに正面左寄り、踏み込む程度は後ろの敵に正対する範囲まで。

三本目「受け流し」

受け流したとき両足は「イ」の字の形になるように。抜き上げとは剣先が鯉口から離れる前までの動作をいう。受け流して袈裟に切り下ろすまでの流れは受け流しをきちんと決め、剣先を振り回さないでそして「刀を止めることなく」一連の動き（流れ）となるようにする。

四本目「柄当て」

後ろの敵を突き刺した後、正面の敵に振り向き、刀を引きながらの振りかぶり方は左膝を軸に左足先を元にもどすこと。この時腰は敵に正対するので刀は自然に抜けて振りかぶることができる（あらためて引き抜く動作はしない）

五本目「袈裟切り」

切り上げた剣先が敵の左肩口から抜けないうちに刀を返す人が多い。剣先が敵の左肩口を切り抜けてから刀を返す。

六本目「諸手突き」

①中段におろすとは左手の位置は自分のへそ前約一握りのところとし、剣先は敵の喉の高さにつけるということ。

②中段の突きは間をおくことなく一連の動きで。

③三人の敵はほぼ同一線上に立つ。

七本目「三方切り」

①気攻めであるから正面に向かってあまり刀を抜き出さないように。

②剣先で上から下へ円を描くような抜き方をしないように。

八本目「顔面当て」

①踏みかえると後ろの敵の位置は身一つ左へずれる。

②刀を水平にして右上腰に当てた右こぶしは左手を後方へ強く引く力を伴いつつ手のうちを締めながら切っ先を正対した自分の正中線に向けて突き出す。

九本目「添え手突き」

血振りが他の横血振りと異なる点は刃先の向きに沿って右に開いての血振りで血振りをしたとき右こぶしの位置は右斜め前方にあってその高さは左手と水平にしない。

十本目「四方切り」

一重身になる理由として柄の平で右斜め前の敵の右こぶしを正対して打った体勢から左斜め後ろの敵の水月を突き刺すためには左足をわずか斜め左へ捌いた一重身にならざるをえない。

十一本目「総切り」

①左足をわずか後方へ退いてもよい。

②刀の抜き出し方は差しなりである。

③正対した自分の左上腰に刀を水平にして正面の敵の右腰腹部から左腰腹部をおよそ一八〇度まで水平に切る。

十二本目「抜き打ち」

身幅より外へでないように。

剣道と居合に出会って

剣道板野道場　川人政利

スポーツ少年団・剣道板野道場は、板野町体育センターで、日曜日の午前九時から十一時までと、火曜日の午後七時三十分から、九時までの週二回稽古をしています。

高橋栄先生と岡田良人先生により創立したもので、高橋先生が亡くなる五年程前の、平成十七年頃より、私と武田先生が参加するようになりました。

岡田先生と私が、居合の練習をしていると興味を持った子供たちが居合を習いたいというので、新しく剣道以外に時間を設けていただきました。日曜日の午前十一時から十二時まで、水曜日の午後七時三十分から九時三十分までです。場所は、板野町南公民館です。三年生から六年生までの五人の子供たちが、真面目に稽古をしてくれました。

岡田良人先生が九十一才で引退する二〜三年前から、剣道板野道場は、米崎信哉先生が引き継ぎ、居合道部は私が引き継ぎました。私自身まだまだ未熟で、多くの課題はありますが、岡田先生と高橋先生の基本を大切にし、何事も一所懸命にする事をモットーに、指導していきたいと思います。

現在は板野居合道部には、大人の方一名で日曜日の午前九時から十一時まで稽古をしています。修武館道場では、木曜日の午後七時三十分から八時三十分まで、小学生二人と、大人三人で稽古をしています。

興味のある方は、どなたでも、一度見学にお越し下さい。お待ちしています。

杖道部会コーナー

特別寄稿

私の杖道観

愛媛県剣道連盟　居合道部会顧問・中予杖道会会長
森　愼吾
（居合道・杖道教士七段）

世界に誇る日本の伝統文化「武道」は、生涯を通じ老若男女を問わず修行出来るものであるが、中でも杖道は居合道と共に、修行及び健康両面で最も適したものと思う。また近年特に女性の躍進が目覚ましい。

私は、昭和三十二年より四年間の学生時代を、折角杖道の本場福岡の地に学びながら、杖道を知ったのは社会人となって十年後の昭和四十六年、会社の本店（東京・日本橋）勤務になった時だった。この年、会社が居合道部師範に招聘していた恩師・居合道範士九段檀崎友彰先生（東京都文京区本郷二丁目「研修館」館長、戦前は大相撲　前頭筆頭「桂川」）より、居合道と同時に杖道の手解きを受けた。正師より、初手から真の居合を教わり、また杖道とのご縁も頂き、現在に至っていることを生涯の幸せと感謝している。一般に、仮想敵を相手としている居合道は、間合いを知るために必要と、杖道の教えも頂いたのは、先生の師、昭和の剣聖であり、剣道・居合道・杖道の三道範士である中山博道先生のご指導に沿ったものと今にして思う。

杖道は、長さ一二八㎝、直径二·四㎝の白樫の丸棒である杖を武器とし、古来より、杖（仕杖）は木刀（打太刀）に相対し、真剣形を打つことを修錬する。即ち、打太刀は真に打突し、杖は真にこれを受け、捌き、制する。この太刀（木刀）の規格は、長さ一〇一·五㎝（内、柄の長さ二四·二㎝）の白樫（鍔は革製）である。

杖道は、攻撃を主とせず、相手の攻撃に応じて変化し制圧するのが本旨であって、その指導精神は、

傷つけず　人をこらして戒むる　教えは杖の外にやはある

という古歌にある通り、形の多くは後の先で始まる。さらに「杖は（刀槍と異なり）人を殺さず傷つけず、しかも己の身を全うすることが出来る。それ故に武の大本である。」との趣旨が伝書に見られ、心技共に、神道の影響が色濃く感じられる。

打突も、柔術の当身とする個所を、手の内で打突し制するものであって、力いっぱい打ち込んで相手を打ち倒すとの考えはない。又杖道は、精神の修養と身体の鍛錬を第一義とし、決して手足の技でなく心の技で、その目的は精神修養にある。

そして、古流の伝書に

突かば槍　払えば薙刀　持てば太刀

杖はかくにも　はずれ　ざりけり

と歌われている通り、杖は、剣と槍と薙刀の総合武術と言うこと

ができる。

杖道で修行する技は、「神道夢想流杖術」（古流）六十四本の形及び十二本の剣術形（神道流）と、杖道の普及発展のため、古流を基に昭和四十三年に制定された「全日本剣道連盟杖道」基本十二本及び形十二本がある。

神道夢想流杖術は、飯篠長威斎家直を流祖とする天真正伝香取神道流の道統七代夢想権之助勝吉によって創始された。夢想権之助は神道流の奥義を究め、鹿島神流の「一の太刀」の極意も授かったと伝えられる。

慶長（一五九六～一六一五）の頃江戸に出、著名な剣客との多くの試合に負けを知らなかったが、宮本武蔵と立会って敗れた。以降、夢想権之助は艱難辛苦の修行に専念、筑前（福岡県）大宰府にある、古代よりの修験者の修行場、宝満山の宝満菩薩に祈願参籠し、満願の夜、夢枕に神童より「丸木をもって水月を知れ」との神託を得、権之助はこれを基にさらに工夫を重ね、ついに宮本武蔵の極意十字留めを破ったと口承されている。

その後、夢想権之助は棒術をもって筑前福岡藩(俗称黒田藩)に召し抱えられ、世に「黒田（藩）の杖」として畏れられた杖術が、この地に継承され現在に至った。夢想権之助の生存年代は、天正年間（一五七三～一五九二・安土桃山時代）から慶長年間（一五九六～一六一五・安土桃山、江戸時代）と考えられている。

二年前（令和五年一月）ＮＨＫ地デジ1チャンネルの古武道番組で、この、武蔵を破ったとされる神道夢想流杖術の仕合口（通称「奥」）にある「水月」と言う技が、福岡の、打太刀 福田博文、仕杖 冨永彰三 両範士により、演武、放映された。広げた両掌中に丁度収まる丸木の杖は、全身を大きく使って、杖先が杖尾となり杖尾が杖先となる、左右存分の打突が出来、打太刀は「エイッ」、「仕」杖は、打ち込みは「エイッ」突きは「ホオッ」と、力強く腹から発する気合も相俟って、稽古後の爽快感は格別のものがある。

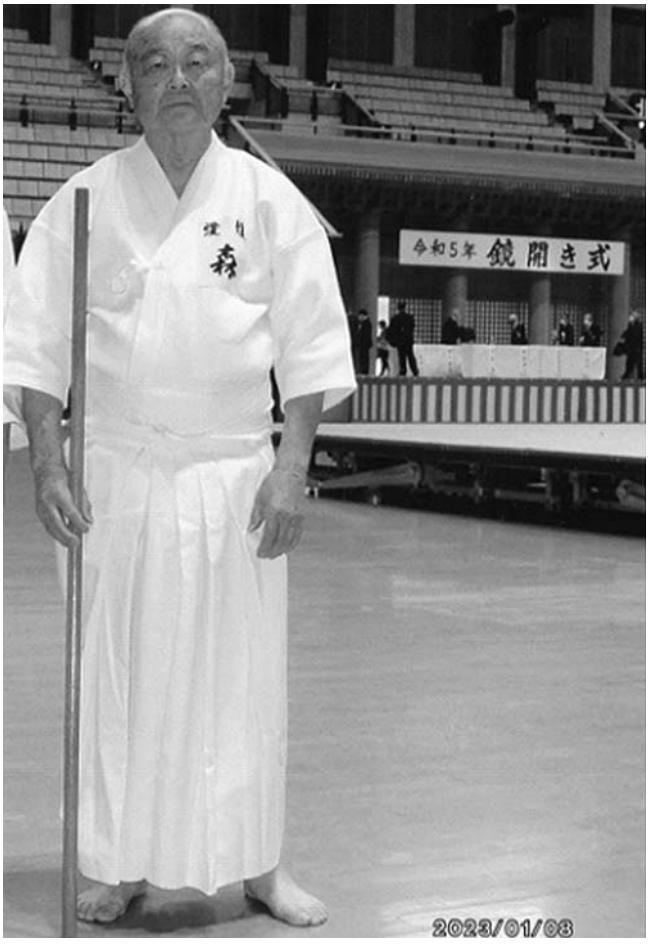
杖道は、このように簡素な武具によって相手を制する、徳育、体育両面で優れた日本固有の武道であり、学生、生徒、児童の武道教育には最適と思われ、是非とも、教育現場での採用を推奨致したい。

愛媛では、上甲一男（宇和島市）、青野徹（今治市）、大西富男（松山市）の、各先達の先生方が昭和九年から同十四年にかけ、福岡の農士学校で杖術を修めて愛媛に持ち帰り、現今の愛媛の杖道発展の礎を築かれた。徳井磐根先生（今治市）が平成十二年五月、続いて白石武志先生（今治市）が平成二十二年五月に、それぞれ最高位の杖道八段位を取得され、また全日本杖道大会では「七段の部」で、平成十六年第三十一回大会で岡部盛重・安野裕子先生（今治市）の組が優勝し、続く平成二十年第三十五回大会、及び翌二十一年第三十六回大会では、白石武志・河崎清二先生の組（今治市）が見事連覇されるなど、本県選手の躍進が目覚ましい。

全国転勤の中、昭和五十七年より八年間勤務した前述の武蔵の

郷、岡山は、当時杖道の空白地帯であった。県立岡山東商業高校体育館での居合道朝稽古に日参していた頃、杖道修行の希望があり、指導を始めさせて頂いたのが最初で、その後同県倉敷市の居合道の先生から、丁度赴任地の関西方面で杖道を学び帰ってきた坂本直哉先生と二人で、杖道を指導して欲しいとの要請を頂き、まだ四段ではあったが、二人で稽古に励みつつ初心者の方々にお教えし、また大阪より教士八段（当時七段）松田茂春先生を講師に招聘するなど、微力ながら杖道普及に努めさせて頂いた。四十年近くを経た今、当地杖道の隆盛に接し、感慨も一入（ひとしお）のものがある。

清新かつ真摯に斯道に精励されておられます、貴徳島県杖道部の先生方の御姿を拝し、今後愈々のご発展を衷心よりお祈り申し上げます。



（参考資料）

「天真正伝　神道夢想流杖術」乙藤　市蔵　監修　松井　健二　編著
壮神社　　平成十一年十二月十四日　初版　第三刷　発行

「全日本剣道連盟杖道（解説）」
全日本剣道連盟　平成二十九年四月一日　第三版　第一刷　発行

活動報告

杖道部会より

杖道部会　米倉武志

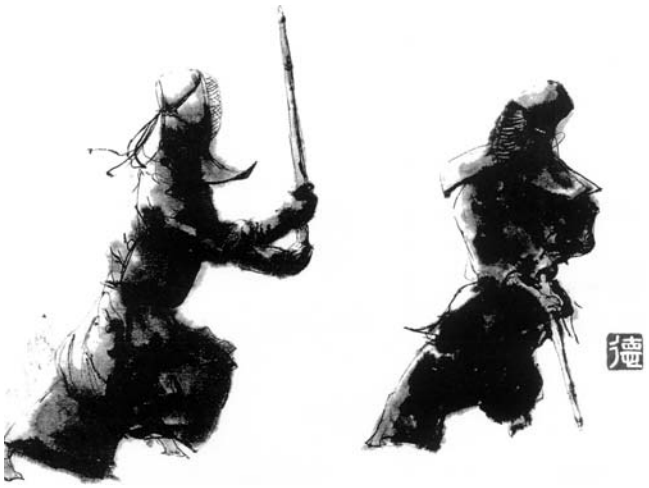
杖道部会の本年度の活動は、松茂町第二体育館にて月二回、稽古会を実施した他、左記の通り、審査会・講習会の開催、及び講習会・大会に参加しました。

八月十一日には愛媛県武道館にて、「令和六年度　杖道審査会」を開催し、四名が昇段審査を受審しました。また同月二十四日、二十五日に広島県で開催された「令和六年度　第三十六回杖道中央・地区講習会」に二名が参加しました。

十月二十六日、二十七日には、徳島県剣道連盟主催の「令和六年度　杖道秋季講習会」を開催しました。講師には杖道範士八段の黒郷源慈先生をお招きし、徳島県杖道部会から二十二名、愛媛県杖道部会から六名の、合計二十八名が参加しました。

十二月一日には「第十一回　広島杖道大会」に一名が参加し、惜しくも初戦敗退となりました。

来年度に関しましては、本年度と同様、講習会の開催の他、講習会や大会へ参加し、技量の向上と、杖道の普及と発展を目標に活動していきます。



講習会報告

令和六年度第三十六回杖道中央・地区講習会（広島）を受講して

杖道部会　筒井　勇

杖道の全国的普及と技能の向上を図るとともに、「全日本剣道連盟杖道」の的確な伝達と審判実技を行い、共通理解を得ることを目的とした標記講習会が令和六年八月二十四日（土）・二十五日（日）に広島県立総合体育館武道場にて開催され、徳島県杖道部会副部会長の徳山豊先生と一緒に受講させていただきました。私個人としては、令和四年八月の和歌山市、令和五年三月の東京、令和五年八月の姫路市、令和六年三月の東京に続く受講となりました。

初日の講習は、まず全体講習として、

・礼法について
・太刀の構えと操作法について
・基本単独動作と基本相対動作について

講師の先生方による実技を間近で拝見しながら、実技を演じる先生とは別の講師から注意すべき点などの解説を拝聴しました。解説書と照合してみると、解説書の文面だけでは解釈しづらい部分も実技や解説により理解度を深めることができました。

このあと、各段別のグループに分かれ、私の二段以下グループでは、前回の東京での講習会と同じく、上田花代子教士が講師を務められ、午前中いっぱい基本動作の実習が行われました。

午後からは、まず全体講習として全日本剣道連盟杖道形全十二本の実技を拝見しながらの要点解説を拝聴したあと、再び各段別のグループに分かれて形の実習が行われましたが、今回は形の一部改正もあったことから（三本目・七本目・九本目・十一本目における、太刀が間合に入ってくるのを制しての杖の太刀との合わせ方）その部分は入念に稽古しました。

二日目は、七段・八段の受講者は審判員・審査員の心構えの講義と審判実技講習に、六段以下は初日と同様に段別グループに分かれ、前日に引き続いて全日本剣道連盟杖道形の実技講習が行われました。

私のいる二段以下グループには初段・段外の受講者もいましたし、私を含めた何人かは形の十二本全てを稽古している者がいる一方、まだ六本目を稽古し始めたばかりという者もいて進捗状況にばらつきがありましたので、グループをさらに細かく分けての実技講習となり、私のグループは一応十二本目まで稽古しましたが、二段以下グループ全体としては七本目の「霞」までの実技講習でした。受講したことで解説書に書かれた文面をより深く理解できたり、再確認できた部分も多かったです。

現在私は、徳島県剣道連盟杖道部会の理事長という役を任され

ており、定例稽古会においても部会長の青木茂先生、副部会長の徳山豊先生と並んで稽古前後の互礼の際には上座に立たされていますし、指導に携わっている部分もあります。

講習会で習得できた道理・知識・技能を杖道部会の会員に正しく伝達していかなければなりませんし、さらには私自身のポリシーとして「稽古のＡＢＣ」というものを持っており、（稽古のＡＢＣについては後述）それを実行する為にも今後も中央・地区講習会は受講し続けたいと思います。

稽古のＡＢＣとは

Ａ　当たり前のことを
Ｂ　バカにしないで
Ｃ　ちゃんとやる
Ｄ　できるまで

修　了　証

徳島県　**筒　井　　勇**

あなたは本連盟主催の令和六年度杖道中央・地区講習会（広島）に参加し、その課程を修了したのでこれを証します

令和六年八月二十五日

全日本剣道連盟
会長　**網　代　忠　宏**

四国地区杖道講習会(高知)参加報告

杖道部会　徳山　豊

令和六年九月二十一日（土）、二十二日（日）の両日、高知県剣道連盟杖道部主催の四国地区杖道講習会が、高知市のセリーズ体育館で開かれ、徳島県から筒井勇先生と私の二名が参加しました。講習会の概要について報告します。

講師は、全日本剣道連盟杖道委員会委員長の森本訓史範士八段で、地元高知県をはじめ愛媛、岡山の各県から約三十名が参加していました。少人数で杖道委員長から直々にご指導いただけありがたい機会となりました。できるだけ多く学んで徳島の会員に伝えたいと思い、指導に集中しました。

講習では、基本と形の留意点を丁寧にご指導いただきましたが、実際に演武して指導してくれましたので、よく理解できました。しかし、それを後でメモしようとしても文章化が難しく、自分の未熟さを痛感しました。要点については、徳島の会員各位にお伝えしました。

今回の講習で、杖道の基本として全日本剣道連盟杖道（解説）をよく読むことが大切であるとの指示もありました。また、同じ形をするのにA先生とB先生でやり方が異なることがあります。そういう場合、どちらをやればいいのかと迷うことがありますが、森本先生は「全日本剣道連盟杖道（解説）に書いてあることは、書いてあるとおりにしてください。書いてないことは、それぞれの先生が創意工夫の上で見い出された方法なので、どれが正しいとか間違いとかはなく、やってみて自分に合ったものを取り入れるとよい」とアドバイスしてくれました。迷いが晴れて、スッキリしました。

講習の最後には、高段者が打太刀になり、仕杖は希望の形を六本申告し太刀と合わせ、太刀から指導をいただきました。私は、二回ほど合わせていただき、あとは森本先生が太刀になり次々と稽古をつけるのを見学しました。「百聞は一見にしかず」といわれますが、やはり講習会に参加して、体験を通して学ぶことが大切だと実感しました。

余談ですが、会場の近くに岡田衣蔵の墓があることを知り、帰りにお墓参りをしてきました。岡田衣蔵については、司馬遼太郎の「人斬り衣蔵」で知られるとおり、苛烈な人斬りで幕末の世を震撼させた人物です。坂本竜馬のようなヒーローとは対極にある人物で、評価は様々と思われます。墓は真宗寺山という小高い山の頂にあり、薄暗い急な細道を迷いながら、なんとかたどり着きました。「おまんよう来てくれたのう。我しゃうれしいぜよ」の案内板が迎えてくれ、来て良かったなと思いました。墓には、花が手向けられヒガンバナも咲いていました。

墓の案内板

岡田以蔵の墓

黒郷先生講習会

杖道部会　中尾幸雄

令和六年十月二十六日・二十七日の二日間、杖道秋季講習会が開催されました。講師には、今年も黒郷源慈範士をお招きしました。両日とも松茂第二体育館を会場に盛大に開催され、同じ四国の愛媛県・高知県からの先生方も参加されました。今回の講習会で四国の杖道が一つになり、交流を深めることができました。

初日は、開講式記念撮影が行われ、その後、黒郷範士からの講話があり、杖道の歴史を取り組んで行く大切なことを学びました。

講話の後、木刀（太刀）での所作・構え・素振りなど、大切なことを学びました。杖道においても剣道と同じように太刀がまず大切だと教わりました。太刀を理解することにより魅力ある杖さばきにつながっていくことを認識しました。その後、黒郷範士と愛媛県剣道連盟杖道部の藤田和男先生による杖道制定形の演武を全員で見取り稽古しました。昼食休憩を挟んで制定形一本目から五本目までの実技講習を行い、参加者それぞれがペアを組んで取り組みました。

初日の講習会を終えてからは黒郷範士を囲んでの懇親会が行われ、杖道談義に花を咲かせることが出来ました。

二日目は初心者組と有段者組に分かれ実技講習が行われました。初心者組は愛媛県や高知県の先生方からの指導、有段者組は黒郷範士から一つ一つの動作をきめ細かく反復して御指導頂きました。

「杖道」の魅力は、なんの変哲もない白樫の丸い棒が時に、槍、薙刀、太刀となり千変万化する多種多様な技を出せることです。また、杖道の理念は「傷つけず、人を凝らして、戒しむる」と平和的であり、現代武道として相応しいといえます。

杖道は形武道であるため、防具は一切使用せず、老若男女、身長、体重の区別無く一緒に行えるのも特徴です。全国的に、十代の学生から六十代のシニア層の方まで幅広い方が稽古をしています。

ここで私の個人的な考えになりますが、私はこれまで剣道一筋に修行して来ましたが、この杖道と出会ったおかげで幅広い観点で剣道にも活かせるようになってきました。その反対で剣道のおかげで杖道にも活かせております。

全日本剣道連盟は「剣道・居合・杖道」の三道で成り立っています。将来的には居合道の知識（初心者レベル）くらいは、勉強してみたいと思っております。これも杖道のおかげだと思っております。

今回の「黒郷範士講習会」ユーモアも兼ね備えた有意義な奥深い内容を御指導いただきました。

最後に黒郷範士先生始め各先生方、お忙しい中、私たち徳島県杖道部会員のために大変学びのある熱い御指導有り難うございました。今後の稽古においても教えて下さったことを徳島県杖道部会、全員で精進していく所存です。

今後は、もっと徳島に杖道文化を広めるための取り組みも工夫して企画していきたいと思っております。

これを機会に、『交杖知愛』今後とも御指導よろしくお願い申し上げます。杖道最高です。

第十一回広島杖道大会及び交流稽古会に参加して

杖道部会　筒井　勇

令和六年十一月三十日（土）～十二月一日（日）、一般財団法人広島県剣道連盟の主催で、広島県立総合体育館武道場を会場に標記大会・稽古会が開催され、第八回大会から四年連続で出場・参加しました。東京からの参加者が一人確認できましたが、近畿・中国・四国・九州圏から一八〇人余りの参加がありました。

初日の午後から随時自由参加の交流稽古会が行われました。交流稽古会の趣旨は「杖道の修練者が集い、自力の見極めと平素稽古する機会の少ない他県の修練者と稽古することにより、技能の向上と相互の交流を深めることを目的に実施する」とあり、翌日の試合での指定技の稽古が中心にはなりましたが、本当に多くの方から稽古をいただき、新たなご縁もいただきましたし、過去の大会や講習会で知り合った杖智との再開もありましたし、三時間程の稽古会は楽しくあっという間に過ぎました。

二日目の大会は、開会式に続いて四組の小学生の演武・六段以上の高段者による演武・全日本剣道連盟杖道に十一組・古流に六組が行われました。個人演武を終えると、段外の部から六段の部までの各段別の個人トーナメント戦が四つの試合場に分かれて一斉にスタートしました。

私のエントリーした部には昨年より二人増えた二十二人が参戦し、先の全日本杖道での入賞者もいましたし、大会の申込後に昇段を果たした人もいました。前日の交流稽古会でも誰が勝ちあがっていくか予想もつきませんでした。

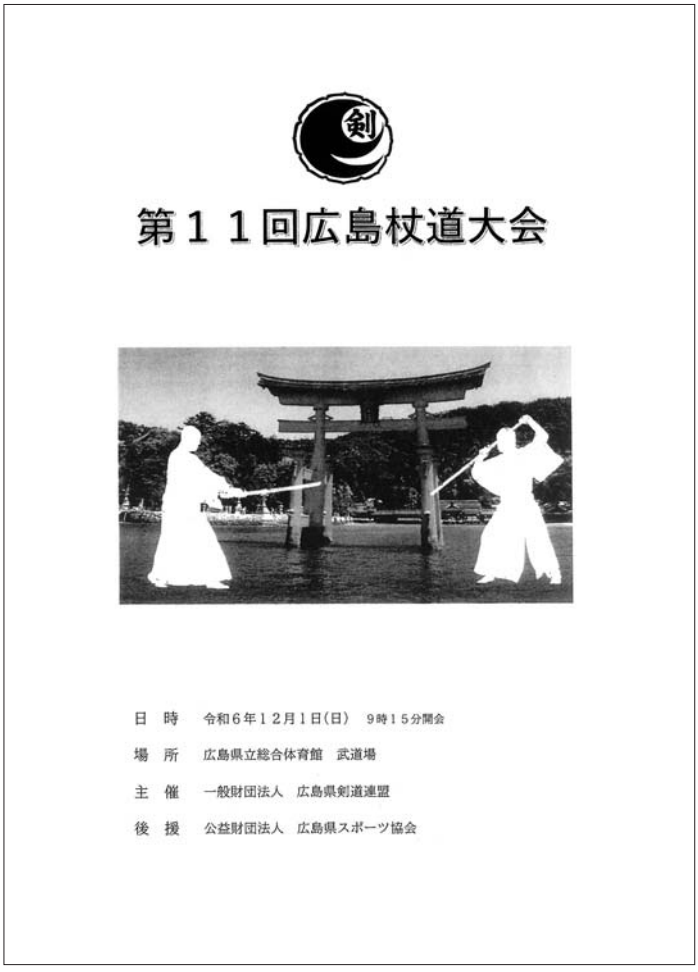
私の試合は七試合目、とにかくミスだけはしないようにと臨みました。全く緊張することもなく、ノーミスで丁寧に演武できましたが、あまりにも丁寧になりすぎて緩急強弱といったメリハリに欠けてしまったのか、準優勝まで勝ち進んだ相手に敗れてしまいました。

相手の方は、実は私が初めて試合参戦した第八回大会で、当時段外だった私が段外の部の試合が一試合しかなく、事実上の決勝戦になってしまうことからの特別措置として、初段の部の試合トーナメントにも出て対戦した相手のご子息でした。親子に負けてしまったという嬉しくないエピソードですが、こういうのが生まれてくるのも続けて試合参戦していればの産物かもしれません。

個人トーナメント戦のあとは、二十三チームのエントリーによる団体トーナメント戦が行われました。団体戦は三人制ですが、先鋒は二段以下・中堅は三段以下・大将は五段以下で低段位者順で構成することと決まっており、メンバーがいないためチームが組めないところがあります。逆に徳島杖道部会だと複数のチームが組めますし、「徳島はなぜ筒井しか試合に出ないのかな？団体戦のチームも組めるじゃないか」と周囲から言われるのはつらく感じており、杖道部会理事長という立場からしてもなんとかしな

ければと感じています。

　杖道のような形武道の試合というのは、勝つことは難しいように思います。指定された技を決められたとおりに演じるわけですから、ミスが出ればもちろん勝敗に直結しますが、ノーミスだった時にどこに勝敗の分かれ目があるか、目に見えている形や姿勢だけでなく、気位・風格といったものもあろうかと思います。技能の向上はもちろんのこと、目に見えない部分はどのように高めていくか、そのあたりも意識しながら稽古を積んでいこうと思いますし、次の大会では昇段したとなると更に厳しくなろうかと思いますが、勝利を目指して頑張っていく所存です。



令和六年度 ―杖道―

称号・段位合格者一覧

【二段】

八月十一日　久保隆司

【初段】

八月十一日　郡忠明
秦章代
荒井優子

称号・段位合格者

杖道会に入門して

杖道部会　久保隆司

二十数年以前に、徳島市立体育館で、開催された全日本剣道連盟主催で行われた居合道審査会に、審査員で福岡県宗像市からお越しになられた杖道範士八段・居合道範士八段（故）波止成徳先生（元郵便局局長代理）がお越しになられました。その際に青木茂生先生と共に阿波市土柱等観光案内と会食をして武道談議に華を咲かせ、是非とも徳島県で杖道を始める仲間を増やして欲しいと言われました。

そして、その頃、香川県観音寺市の玄武道場に毎週一回剣道の稽古に（故）森川龍一範士のご指導を受けに通っておりましたが、玄武道場は剣道週三回・居合道週一回・杖道週一回の内容でした。

青木先生は剣道稽古日以外杖道の稽古に玄武道場に通われ、私と佐藤吉邦先生は仕事上玄武道場に行けず、青木先生から伝達指導を月に一～二回市場町武道館で受けておりましたが、ある先生から剣道の目指す位を確立してからでも遅くないので剣道の修練にもっと邁進しなさいと助言をいただき中断しておりました。

そして毎年年賀状、電話をいただいておりました波止先生が、令和五年春にお亡くなりになられたと訃報があり、先生といつも電話やお手紙で居合道（昭和四十七年から昭和五十二年の間に三段取得、昭和五十五年に中止）の復活と杖道入門を決断いたしました。

青木先生、武田修典先生に相談し、毎週武田先生の修武館道場にお世話になることとなりました。

令和五年に初段、令和六年春から修武館道場に、香川県坂出市よりわざわざ筒井先生に来ていただき、熱烈な指導を賜り、武

田先生また同門の秦さんと優しい稽古のお陰様で、令和六年八月十日愛媛武道館の審査会で二段を拝受致しました。

感謝の気持ちでいっぱいです、ありがとうございました。

月に二回の杖道部会の合同稽古会は、先生・先輩方に優しくご指導頂き、初心者の仲間も徐々に増えて、正しく、楽しくお稽古出来て嬉しく思います。

杖道初段を受審して

杖道部会　郡　忠明

この度、令和六年八月十一日に愛媛県で実施された杖道審査会を受審し、初段に合格することができました。日頃よりご指導いただいた青木茂生杖道部会長をはじめ、杖道部会の諸先生方に心より感謝申し上げます。

私が杖道を知ったのは、令和三年十二月頃の杖道を紹介する新聞記事でした。威風堂々とした杖の構えに目を引かれ、武道経験や年齢に関係なく始められるという言葉がまるで自分に向けられているようで、心に深く刻まれました。

新型コロナウィルスの感染状況が落ち着いたタイミングで、令和五年四月から稽古に参加させていただきました。剣道や居合道などの各種武道を修めた錚々たる先輩方に交じり、見様見真似で杖を振るところからのスタートでしたが、最初は基本動作を号令に合わせて行うだけで息が上がり、形の所作も教わってはすぐに忘れることを繰り返していました。

一年を重ねるうちに、ようやく基本動作についていけるようになり、形も一本目の「着杖」から五本目の「左貫」までうろ覚えながら動けるようになった頃、青木茂生先生から「愛媛県で行われる杖道の審査を受けてみませんか」とお声がけをいただきました。未だ高いハードルに感じましたが、審査の日までは半年もあると考え、目標を掲げれば少しでもレベルアップできるかもしれないと前向きな気持ちで受審を決意し、稽古に励んでいました。しかし、その日はあっという間に訪れました。

審査当日は幸いにも米倉滋先生と武田修典先生に随行させていただき、道中で多くの貴重なお話を伺いながらモチベーションを高めることができました。また、会場となる愛媛県武道館では、同じく受審をされる徳島の杖道部会の先輩の皆様と合流できたうえ、いつも稽古をつけていただいてい

る筒井勇先生が審査のお相手をしてくださることとなり、心強い限りでした。

様々なサポートを周りに感謝しながらも、いざ審査が始まると、緊張から何度も形の途中で頭が真っ白になりましたが、筒井先生の普段の稽古通りの大きな気合のおかげで、そのたびに冷静さを取り戻し、どうにか最後までやり遂げられました。

実技審査後、審査委員長の森慎吾先生より四名全員の合格をお聞きし、ひとまず胸を撫でおろしました。そして、一つには全日本剣道連盟杖道解説書に記載された術技の内容を熟読し細部まで研究する必要があること、二つには仕杖だけでなく打太刀もさらに精進すべきであるとの講評を身の引き締まる思いで拝聴しました。

今回私自身の審査を振り返ってみますと、姿勢や動作、間合など正確性が欠けている数々の課題が浮かび上がりましたが、これからの稽古の中で少しずつでも改善していける可能性を見いだせたという意味では、かけがえのない経験ともなりました。

今や「人生百年」と言われる時代へと変遷しつつあります。高齢になっても熱中できるものを持ち続けることは、精神的な若さを保つだけでなく、生涯を通して自らを成長させ続ける大切な要素だと思います。すでに定年を迎えましたが、まだまだ体が動く限り、この杖道という素晴らしい学びや挑戦を、杖道部会の皆様と共に末永く楽しみたいと願っています。そしてその想いは、「高齢者」ではなく「幸齢者」としての充実した時間を過ごせることに繋がると確信しています。今後とも引き続きご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

随想

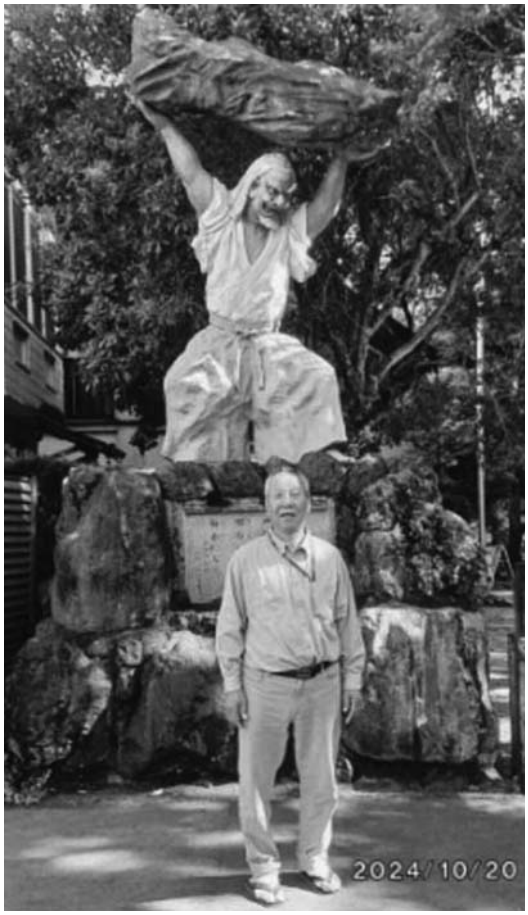
ぶらり九州　武道探訪の旅

杖道部評議員　一村昌和

青木茂生部会長から杖道部の総会時に執筆依頼があった。これといった構想が浮かばないうちに月日が過ぎた。秋になり九州旅行を思いついた。私は、計画性のない旅が好きだが、今回は行きたい場所を予定に入れての旅立ちである。目的地は未だ訪れたことのない宮崎県の高千穂、鵜戸神宮、福岡県の竈門神社内にある夢想権之助神社である。

十月十九日の早朝に妻と二人で家を出た。期間は、一週間から十日で気ままに回るつもりであった。八幡浜からフェリーで大分県臼杵に渡り、東九州自動車道で延岡を経由し、高千穂には明るい中に到着するはずであった。間違いの始まりは、八幡浜でナビの操作をしたことにある。乗船前に入力すると、しまなみ海道経由のルートが表示されたがあまり気に止めることなく九州上陸後も、気楽にナビのとおりに走行した。しかし、豊後大野市・竹田市から一部熊本県を通過する対向ができないような山道に入りこんだ。途中から雨脚が強まり、不安に駆られながらも夕方にようやく高千穂に到着できた。簡単な夕食後、高千穂神社の境内にある神楽殿で「高千穂神楽・夜神楽」を鑑賞した。当日券は十九時からの発売であり、幸運にも購入することができた。二十時の開演には約一五〇人収容の神楽殿は予約・当日客で満席となり、一時間にわたり天岩戸伝説にまつわる神楽を堪能した。

二日目は、前日からの雨も止み行楽日和となった。高千穂町の中心部には、剣道の強豪校の高千穂高校と千木が配された立派な武道館があり、車窓から羨望のまなざしで見ながら通過した。昨夜に続き、高千穂神社に参拝した。社務所では「剣道の町」として剣道の必勝祈願の小絵馬が置かれており、奉納を考えたが、宮本武蔵の『独行



天岩戸神社　手力雄

道』にある「仏神は貴し仏神をたのまず」を思い出し、見送ることにした。その代わりに境内にそびえる大樹「夫婦杉」の回りを作法どおりに妻と手をつなぎ三周し、夫婦円満を祈願してきた。

その後、高千穂峡を訪れた。前日の雨で増水し、貸しボートでの遊覧はできなかったが、壮大な景観は見応えがあった。続いて天岩戸神社で天照大神が隠れたとされる「天岩戸」を拝観し、その奥にある天安河原に参拝した。そこは、間口四十m、奥行き三十mの大洞窟であり天照大神が岩戸に隠れた際に、神々が集い神議したといわれる場所である。午後からは「高千穂あまてらす鉄道」に乗車し、天孫降臨の地・天岩戸伝説の高千穂観光を満喫した。

三日目は、宮崎市のホテルを出るときは小雨であったが、宮崎空港あたりから大雨となり青島神社では線状降水帯が発生し、台風並みの豪雨となった。安全のため青島神社前にある酒店で約一時間ほど雨宿りをした。店のおばあさんと世間話をしながら青島限定といわれる焼酎を勧められ購入することになった。

昼前には、雨脚が弱まったので第二の目的地である日南市の鵜戸神宮を目指した。日向灘に面した断崖の洞窟内に本殿は鎮座している。

ここは、「念流」の創始者相馬四郎義元（慈恩）や「陰流」を興した愛洲移香が参籠して、剣術の奥義を悟った剣法発祥の地である。

愛洲移香の「陰流」の起源は謎めいた伝説が多い。この巌屋に参籠し霊夢を蒙り、兵法を自得したという説、夢に神猿が顕れ奥秘を示されたという説、摩利支天の化身である蜘蛛（くも）が現れ出でて兵法の極意を授かり「陰流」と号すことを許されたという説もある。

剣術の聖地としては「天真正伝香取神道流」の香取神宮（千葉県）、「鹿島神流」の鹿島神宮（茨城県）が有名であり、古い道場の神座には両神宮が祀られている。知名度としては失礼ながらやや後れを取っている感はあるが、鵜戸神宮には「剣法発祥の聖地」の碑が建立されている。この碑文には「鵜戸山ヲ源流トスル剣法ハ漸次諸国ニ拡ガリ　様々ノ流派ヲ生ミ近世日本ノ剣道ヲシテ万朶ノ花ト栄エサセタ　誠ニ剣法発祥ノ霊地ト讃仰サレル所以デアル」と刻まれている。

この碑文のとおり愛洲移香の「陰流」は、上泉伊勢守信綱により「新陰流」に、続いて柳生但馬守宗厳によって「柳生新陰流」として継承され、さらに様々な流派が派生し、我が国の剣術の発展に多大な影響を与えている。

また、この神宮では毎年二月の例祭の奉祝事業として剣道大会が開催されている。大正八年に始まり、戦中・戦後の中断はあったものの令和七年には第七十回を数えるという。

宮崎県では最も古い剣道大会であり、小学生から社会人まで約千人の参加があるという。特筆すべきは、広い境内で行われる伝統の「野試合」である。徳島県でも同様の「野試合」が阿波支部管内で行われている。八幡神社奉納剣道大会である。規模も歴史も遠く及ばないが、全国的にめずらし

「剣法発祥の地」の碑

ている。我が国においても棒（杖は細い棒状のものをいう）は古くから武器として用いられてきた。手のひらサイズから身の丈の何倍もある長大なものまであり、身近にある棒状のものは全て活用された。戦場においては折れた槍なども立派な武器となる。武芸は、総合武術の流派が多く、剣術の他に弓・槍・棒・柔・砲・馬等十八般または百般に及ぶ。江戸期には棒術（杖）を取り入れた流派が多数あったと思われる。

しかし「神道夢想流」は杖術を表芸にもつ数少ない流派である。明治以降、多くの流派の杖術が消えていった中で、杖術に特化した流派故に現在まで伝わることができたのであろう。

この「神道夢想流杖術」から技と形を抽出して「全日本剣道連盟杖道」が制定された。古流として綿々と繋がってきた杖術のお陰で現代の我々が杖道を学ぶことができるのである。流祖並びに道統を偲びながら小雨の降る中、竈門神社に参拝し、続いて境内に建立されている夢想権之助神社と「杖道発祥の地」の碑に本県杖道の発展を江戸時代には山伏の修験の地として大いに栄えた。

夢想権之助もこの山に籠もって修行し、杖術の奥義を悟り「神道夢想流杖術」の祖となった。出発前に夢想権之助について予備知識を得るために吉川英治、司馬遼太郎、直木三十五の「宮本武蔵」を捲ってみた。史実的には不明の部分が多く、創作された時代小説として楽しむものであり、真実に近づく事はできなかった。

人類の最古の武器は、棒と石だといわれくなった露天で行う剣道大会の伝統の火を絶やさずに続けてもらいたいものである。

四日目は、福岡県太宰府市に向かった。宝満山竈門神社の境内にある夢想権之助神社への参拝である。宝満山竈門神社は学問の神様である菅原道真公を祀った太宰府天満宮から約二㎞北に位置する。この神社は、大宰府政庁の鬼門に当たる宝満山に大宰府鎮護のための神が祀られた。また、大宰府の平安だけでなく、遣唐使の航海安全や外敵からの守護の祈願がなされてきたという。

祈願してきた。さらに社務所で夢想権之助神社の護符を授かってきた。

帰りに失礼とは思ったが、太宰府天満宮にも参拝してきた。雨も強くなり、さらに本殿は改修中でシートに覆われており拝観がかなわず残念であった。

今回の旅行は高千穂観光を除いて集中豪雨や大雨に祟られたが、所期の目的は達することができた。豪雨がなければ都井岬や霧島神社等をゆっくり巡りたいと思っていた。また、雨天が続く予報がなければ、湯布院か別府の温泉で心身ともに癒やされてから帰宅するつもりであったが、そのまま別府港に向かった。深夜に無事帰宅したが、疲労困憊であった。

後日、鵜戸神宮社務所より郵便が届いた。封筒の中には、お礼状・鵜戸神宮の栞・鵜戸神宮御神符が入っていた。参拝の折、芳名簿に記帳し、気持ちだけの初穂料をお納めしてきたが、このような返礼があるとは考えもしなかった。

お礼状の文面には、私と妻の名前が記され、はるばるの参拝と初穂の奉納のお礼、芳名簿はご神前に奏上して我が家の繁栄を祈願し、芳名簿は永久保存のうえ、次回の参拝時に申し出れば閲覧でき、またもう一度御参拝くださるようお待ちしている旨の丁重なものであった。このようなことは今までに経験したことがない。鵜戸の神様に敬服するとともに身も心も晴れ晴れとした気持ちになった。今度は、雨天を避けて訪れたいし、できれば巌屋にて悟りが開けるまで参籠したいものである。

写真 3「杖道発祥の地」碑

杖道について

修武館道場　秦　章代

私が杖道を始めた経緯は、修武館道場の武田先生からお声がけを頂き、杖道の見学をさせて頂いて杖道を知りました。杖道を初めて見た私はカッコいいけど難しそうと思いましたが、体験をしてみて良い運動になるし、息子達も賛成してくれていたのが杖道を始めるきっかけになりました。普段、子供達の剣道を目にしているので武道に対して特に抵抗はありませんでしたが、私は武道の経験が全く無く、一人で始めるのは嫌だったので息子達と一緒に杖道を始める事にしました。

我が家は子供四人の六人家族で息子二人の上に姉が二人いて、この二人も短い間でしたが剣道経験者でした。今は姉達もそれぞれの道に進み日々精進しております。そして、主人は子供達の頑張っている姿を見て、息子達と一緒に剣道がしたいと二年ほど前から剣道を始めました。それをきっかけに剣道は家族共通の話題となり、今まで以上に熱い食卓になる事もあります。主人は剣道で、私は杖道で息子達にダメ出しと教えを頂き、とても助かっております。こういう時、息子達を頼もしく思い、成長を感じます。

息子達と剣道をしている主人は体力的にはきつそうですが、楽しそうで稽古終わりは清々しいように感じ取れます。私と主人が武道を始める前と今で変わった事といえば、稽古後、子供達とあの時はこう、この時はこうだったと稽古内容について話が弾みます。互いに経験して言葉に説得力が増し、わかりやすい説明ができ、励ます言葉もまっすぐ心に入ってきます。

武道を通して子供としっかりと向き合い同じ時間を共有する事は私達夫婦にとっては、とても楽しく貴重な経験だと思うと同時に私達が子供達を応援し、子供達も私たちを励まし応援してくれている関係を築けた事もありがたく嬉しく思います。子供が四人もいると本当に色んな経験が出来て、子供達には感謝しております。これからも家族みんなで精進していきたいと思います。

がんばろう徳島

専門部報告

事業部長　平尾満紀

1，第79回国民スポーツ体育大会　県予選

令和6年4月14日　ソイジョイ武道館

区　分		第1位	第2位	第3位	第4位
男子	先鋒	山室　和士 警察支部	弘田　悠人 刑務所支部	岩原潤哉 徳島支部	菅　朋輝 刑務所支部
	次鋒	本田　和将 警察支部	森　康二 徳島支部	猪野　翔太 刑務所支部	濱田　諒 阿南支部
	中堅	山本　義征 警察支部	玉田　赳大 警察支部	六條　洋二 警察支部	敦賀　晋平 阿南支部
	副将	山室　雅幹 警察支部	山名　信行 警察支部	原　知永 小松島支部	
	大将	玉田　晋作 徳島支部	吉田　茂生 徳島支部		
女子	先鋒	岩原　千佳 徳島支部	河野　菜々子 阿南支部	鳥澤　明未 海部支部	
	中堅	長谷川　愛実 阿南支部	後藤田　萌愛 警察支部		
	大将	前田　奈々枝 阿波支部			

2，剣道伝達講習会

令和6年5月6日　ソイジョイ武道館

参加者　　役員を含め　60名
講師　　教士七段　山室雅幹
内容　　審判法、木刀による剣道基本技稽古法、日本剣道形等

3，第3回徳島県少年剣道選手権大会
兼第19回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会県予選

令和6年7月28日　ソイジョイ武道館

区　分	優勝	準優勝	第3位	第3位
小学1.2年生の部	岩浅　晴 徳島剣清塾	山出　育弥 鴨島少年剣道教室	岩田　蒼介 渭東少年剣道教室	中川　照大 徳島少年剣道教室
小学3.4年生の部	野村　拓未 徳島剣清塾	高野　里絆 徳島剣清塾	武内　菜奈 日亜錬心塾	大野　紗奈 市場剣道教室
小学5年生の部	岩浅　詩 徳島剣清塾	清水　春香 徳島剣清塾	増尾　皐 和田島少年剣道クラブ	多川　華音 日亜錬心塾
小学6年生の部	宮武　颯詩 徳島至誠館	高野　愛叶 徳島剣清塾	山ノ井　雄一朗 阿南少年剣道教室	松浦　暖 日亜錬心塾

【県予選結果】　小学6年生の部優勝者　宮武　颯詩(徳島至誠館)
予選勝ち残り者　高野　愛叶(徳島剣清塾)、岩浅　詩(徳島剣清塾)
松浦　暖(日亜錬心塾)、清水　春花(徳島剣清塾)
※以上の5選手が第19回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会の徳島県代表選手に決定

4，第36回徳島県剣道選手権大会兼第72回全日本剣道選手権大会県予選会並びに
第27回徳島県女子剣道選手権大会兼第63回全日本女子剣道選手権大会県予選会

令和6年8月25日、ソイジョイ武道館

区　分	優勝	準優勝	第3位	第3位
男　子	岩原　潤哉 徳島支部	本田　和将 警察支部	山本　義征 警察支部	本田　将大 警察支部

女　子	岩原　千佳 徳島支部	河野　菜々子 阿南支部	横山　舞 富岡東高校	福岡　詩 富岡東高校

5，第51回 徳島県社会人剣道大会

令和6年9月15日、ソイジョイ武道館

区　分	優勝	準優勝	第3位	第3位
男子団体	名西支部	小松島D	小松島和田島	小松島A

女子個人	前田　奈々枝 阿波支部	井後　恭子 麻植支部	西崎　彩乃 小松島支部	六車　奈緒美 板野西支部

6，剣道秋季講習会

令和6年10月13日、ソイジョイ武道館

参加者　　役員を含め　67名
講師　　日本剣道形：教士八段　平野誠司　　試合審判法：教士八段　冨浦廣志
内容　　審判法、木刀による剣道基本技稽古法、日本剣道形等

7，第52回 徳島県少年剣道錬成大会　　令和6年11月5日、ソイジョイ武道館

区　分	優勝	準優勝	第3位	第3位
団体戦	日亜錬心塾	吉野川少年剣道教室	徳島剣清塾	那賀川少年剣道教室わかあゆ会

8，第42回 徳島県スポーツ少年団剣道交流大会　　令和6年12月1日、ソイジョイ武道館
第47回 全国スポーツ少年団剣道交流大会　（徳島県予選会）

小学生の部(団体)	第1位	第2位	第3位	第3位
郡市名	阿南市A	阿南市C	阿南市D	阿南市B

【第1位】阿南市A（先鋒:野村拓未、次鋒:髙橋明里、中堅:大西光、副将:岩浅詩、大将:宮武颯詩）

中学生の部(個人)	第1位	第2位	第3位	第4位
男　子	柏原　健人 養武館	篠原　瑛騎 佐古剣道クラブ	阿井　輝 阿南少年剣道教室	日和田　碧 石井少年剣道クラブ
女　子	茨木　里音 徳島少年剣道教室	橋本　愛生 小松島少剣クラブ	増尾　美織 和田島少年剣道クラブ	岩浅　花 徳島剣清塾

9，第73回　全日本都道府県対抗剣道優勝大会県予選会
第17回 全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会県予選会　　令和7年2月16日、ソイジョイ武道館

男　子	第1位	第2位	第3位	第4位
次　鋒 (大学生)	前田　優真 国士舘大学	内海　翔貴 日本体育大学	三好　健太 大阪体育大学	
五将 (18歳以上35歳未満)	弘田　悠人 刑務所支部	富永　涼介 名西支部	菅　朋輝 刑務所支部	
中　堅 (教職員)	白木　恒二郎 名西支部	森　康二 徳島支部		
三将 (警察職員)	山本 義征 警察支部	美馬　州一 警察支部	山室　和士 警察支部	
副　将 (35歳以上)	玉井　翔 刑務所支部	舛田　浩一 丹生谷支部	川上　友宏 刑務所支部	
大　将 (50歳以上教士七段以上)	山室　雅幹 警察支部	鳴川　善人 小松島支部		

女　子	第1位	第2位	第3位	第4位
次　鋒 (大学生)	岩原　千佳 筑波大学	才能　加稟 徳島文理大学	溝淵　さくら 徳島文理大学	
五将 (18歳以上)	西崎　彩乃 小松島支部	坂野　陽菜 警察支部		
中堅 (30歳代以上)	後藤田　萌愛 警察支部			
三将 (30歳代以上)	鈴木　千尋 警察支部			
副　将 (40歳以上50歳未満)	前田　奈々枝 阿波支部	井後　恭子 麻植支部		
大　将 (50歳以上)	山﨑　砂織 阿南支部			

10，第43回 徳島県女子剣道大会　　令和7年3月2日、ソイジョイ武道館

団　体　戦	優勝	準優勝	第3位	第3位
	教員剣美会	川島高校剣友会B	二千年会	藍

【優勝】教員剣美会(先鋒:竹内悠、中堅:山本千尋、大将:長谷川愛実)

個　人　戦	優勝	準優勝	第3位	第3位
35歳未満	大城　明裕奈 二千年会	川田　実央 二千年会	横尾　麻美 剣遊会ゆめ	伊丹　千尋 剣縁女子大
35歳以上(三段以下)	井後　恭子 麻植支部	舛田　さゆり 剣遊会ふく	大前　真由美 修武館	島袋　友香 剣遊会ふく
35歳以上(四段以上)	鈴木　千尋 警桜会A	山﨑　砂織 あななん笑	前田　奈々枝 藍	長地　千景 あななん光

参加者　団体戦16チーム、個人戦42名

審査部より

審査部長　生田浩章

令和六年度の行事につきましては、剣道の部では、初段以下審査会（四回）、二段以上審査会（四回）、四・五段講習会（一回）、全て無事終えることができました。

地元役員、審査員、剣道連盟関係者の方々には多大なるご協力を頂きまして心よりお礼申し上げます。

審査会の結果につきましては、剣道初段以下の部、受審者八八一名、合格者八〇〇名、合格率九九%、剣道二段～五段・称号の部、受審者一九六名、合格者一八一名、合格率九二%となりました。

六段以上の高段位合格者につきましては、剣道六段十二名、剣道七段十五名、剣道錬士六名、剣道教士七名という結果でありました。合格者の先生方は下記の通りです。

【剣道六段】

白木恒二郎（名西支部）
田村　健明（板野東支部）
原　知永（小松島支部）
大城　幸子（阿南支部）
蛇目　英樹（丹生谷支部）
浅田　光貴（警察支部）
鈴木　千尋（警察支部）
梶　浩人（板野東支部）
篠　昭光（警察支部）
鈴木健太郎（阿南支部）
鎌田　克己（名西支部）
後藤田萌愛（徳島支部）

【剣道七段】

庄嶋　亮（三好支部）
武蔵　純郎（小松島支部）
松本　憲二（小松島支部）
森本　武夫（麻植支部）
西堀　和文（板野東支部）
泊　利治（名西支部）
川島　誠右（刑務所支部）
小笠原　徹（徳島支部）

【剣道錬士】

安丸　孝生（阿波支部）
安藝　智子（板野東支部）
山本　義征（警察支部）
片山　将志（刑務所支部）
玉田　赳大（警察支部）
秋山　雄治（刑務所支部）

【剣道教士】

井川　理之（板野東支部）
六條　洋二（警察支部）
日和田慈海（麻植支部）
大貝　美治（徳島支部）
桒野　佳明（徳島支部）
出口　正春（阿波支部）
島尾　眞且（三好支部）

強化部より

強化部長　白木洋一

【本年の強化状況】

本年度も強化稽古会は国体や都道府県対抗大会などのメンバーを中心に毎週木曜日に中央武道館において強化稽古を行って参りました。

本年度の強化成果の報告としては、昨年度に比べ際立った成績を収めることができませんでしたが、強豪県と対戦しても決して引けをとらない内容であったと思います。差があるとすれば、必ず一本にする集中力ではないかと感じました。これらは、日々の稽古の中でいかに試合の気持ちで取り組んでいくかが重要だと思います。「稽古は試合のごとく、試合は稽古のごとく」だと思います。何事も一朝一夕に成し遂げることはできません。地道な日々の稽古の中に答えはあるものだと思います。今の稽古が未来の結果につながることを信じてこれからも強化に励みたいと思います。

一、令和六年度実施結果

（一）【剣道連盟強化稽古会】

期間：令和六年二月十五日～
　　令和六年十二月二十六日現在

実施回数　四十一回
延べ参加人数　五九一名
平均参加人数（約十四名）

（二）地区交流稽古会

十月十一日（金）南部交流稽古会
（阿南市総合スポーツセンター）
十一月十八日（金）西部交流稽古会
（脇町小学校体育館）

（三）長期育成強化訓練

開催日：令和七年一月十九日（日）
於　ソイジョイ武道館

強化委員会により選出された男女が中学生一年生二十六名、二年生二十九名、三年生二十八名。

高校生一年生十五名、二年生二十五名、三年生二十名　合計一四三名が参加予定

（四）強化遠征

国体剣道成年女子合同強化合宿訓練

開催日：令和六年六月二十九日（土）
～三十日（日）於　広島県
三人制、徳島A・Bの二チーム参加

二、大会結果

【令和六年の試合結果】

第二十二回全日本選抜剣道八段優勝大会

開催日：二〇二四年四月二十一日（日）
会場名：中村スポーツセンター（愛知県）

一回戦
玉田晋作　－　メ　本名和彦（茨城）
（延長）

第七十二回全日本都道府県対抗剣道優勝大会

開催日：二〇二四年四月二十九日（月）
会場名：エディオンアリーナ大阪
（大阪府立体育館）

二回戦
徳島県　0　－　2　沖縄県
（沖縄－山口の勝者）

第十五回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

開催日：二〇二四年七月十五日（日）
会場名：日本武道館
一回戦　徳島県　0　－　4　神奈川県

国民スポーツ大会第四十五回四国ブロック予選大会

開催日：二〇二四年八月十八日（日）
善通寺市民体育館
○少年男子　二位
徳島県　0　－　2　香川県
徳島県（本数勝）1　－　1　愛媛県
徳島県　2　－　1　高知県
○少年女子　四位
徳島県　1　－　2　高知県
徳島県　1　－　2　香川県
徳島県　1　－　2　愛媛県
○成年女子　二位
徳島県　2　－　0　香川県
徳島県　0　－　1　愛媛県
徳島県　0　－　1　高知県

第七十回記念全日本東西対抗剣道大会

開催日：二〇二四年九月十五日（日）
会場名：高松市総合体育館
24将　大石真也　－　コ　笠原孝輔（三重）
中堅　山名信行　メ　－　コツ　高鍋　進（神奈川）
※この試合は優秀試合賞を受賞しました
六将　玉田晋作　メコ　－　安達慶一（岩手）

第七十八回国民スポーツ大会剣道大会

開催日：二〇二四年九月二十八日（日）～三十日（月）
会場名：神埼中央公園体育館
【成年男子】
一回戦　徳島県　1　－　2　秋田県

第六十三回全日本女子剣道選手権大会・第七十二回全日本剣道選手権大会

開催日：二〇二四年十一月三日（日）
会場名：日本武道館
一回戦
岩原千佳　－　メド　松本智香（神奈川）
※今大会ベスト八
一回戦
岩原潤哉　－　メメ　竹ノ内佑也（東京）
※今大会優勝者

……七年度大会予選会結果……

第七十三回全日本都道府県対抗剣道優勝大会

（出場予定選手）
先鋒：高校生（高体連より推薦）
　平松　政樹（城北高校）
次鋒：大学生
　前田　優真（川島高→国士舘大）
五将：年齢18歳以上35歳未満の者
　弘田　悠人（刑務所支部）
中堅：教職員の者
　白木恒二郎（名西支部）
三将：警察職員の者
　山本　義征（警察支部）
副将：年齢35歳以上の者、警察職員・教職

員を除く。
玉井　翔（刑務所支部）
大将：50歳以上、剣道教士七段以上の者。
山室　雅幹（警察支部）

第十七回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会
先鋒：高校生（高体連より推薦）
伊藤　寛夏（富岡東高校）
次鋒：大学生
岩原　千佳（筑波大学）
五将：年齢18歳以上の者
西﨑　彩乃（小松島支部）
中堅：年齢30歳以上の者
後藤田萌愛（警察支部）
三将：年齢30歳以上の者
鈴木　千尋（警察支部）
副将：年齢40歳以上の者
前田奈々枝（阿波支部）
大将：50歳以上の者
山﨑　砂織（阿南支部）

三、令和七年度の目標

【基本方針】

「競技力向上と武の文化的伝承」

○剣の理法に即した正しい剣道の指導と心豊かなる剣心の養成

・強化体制の確立

・徳島スタイルというべき強化スタイルの確立

・一人一人が目標を設定し、自らの課題に取り組む稽古（基本を重視した、系統的な強化）

・剣道形の稽古を通じて自身の剣道観を育成し、刀法の原理、攻防の理合、作法の規範を身につける。

○審判と指導、審査と指導を連携させた徳島の剣道本体の向上

○全国大会入賞を目標にした競技力向上

・選手層の拡大（特に女子選手の選手確保）

・強化稽古（場や時間）の確保

・強化稽古に参加しやすい雰囲気作り

少年部より

少年部長　白木　崇

一、少年剣道指導者講習会

四月七日（日）（参加者三十三名）
講師　高島治療院　高島弘和先生
「少年剣道における怪我の予防法」
講師　教士八段　平野誠司先生
「木刀による基本稽古法・日本剣道形の活用」

二、全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会県代表選手選考会

七月二十八日（日）
※第三回少年剣道選手権大会終了後（上位選手による）
《徳島県代表選手》
宮武颯詩（六年生・徳島至誠館）
高野愛叶（六年生・剣清塾）
松浦　暖（六年生・日亜錬心塾）
岩浅　詩（五年生・剣清塾）
清水春花（五年生・剣清塾）

三、徳島県代表選手強化遠征

○岡山県剣連主催　都道府県対抗強化小学生交流錬成大会　八月三日（土）
○愛媛県剣連主催　四国小・中学生選抜剣道強化練成会　八月三十一日（土）
○大阪代表練習試合　九月八日（日）

四、第十九回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会　九月十五日（日）

予選リーグ
茨城県　一　－　〇　徳島県
福井県　〇　－　三　徳島県
予選リーグ敗退。（一勝一敗）

五、少年剣道強化訓練

各教室二名（登録数六十六名）
毎月一回実施（十一回）
四月六日（六十三名）
六月八日（五十七名）
七月六日（五十九名）
八月十七日（六十六名）
九月七日（五十二名）
十月十二日（四十七名）
十一月九日（五十六名）
十二月十四日（三十六名）
一月十一日（四十二名）
二月八日（三十七名）
三月八日（四十八名）
（延べ五六三名）出席率七十八％
（平均五十一人）

女子部より

女子部長　竹　内　佳代子

〈大会の結果〉

①全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会（七月十五日）会場　日本武道館

一回戦　徳島　一　－　四　神奈川

②国民スポーツ大会四国ブロック大会（八月十八日）会場　善通寺市民体育館

徳島　二　－　〇　香川

徳島　〇　－　一　高知

徳島　〇　－　一　愛媛

〔一勝二敗〕

③全日本女子剣道選手権大会（十一月三日）

会場　日本武道館

一回戦　岩原千佳　－　ド　松本智香

④徳島県女子剣道大会（三月二日）

会場　ソイジョイ武道館

〔団体戦〕参加チーム数　十六

優　勝　教員剣美会（竹内・山本・長谷川）

準優勝　川島高校剣友会B（正木・大塚・兼松）

第三位　藍（前田・井後・住友）

第三位　二千年会（橋本・川田・大城）

〔個人戦〕

三十五才未満の部　参加者二十六名

優　勝　大城明裕奈（二千年会）

準優勝　川田　実央（二千年会）

第三位　横尾　麻美（剣遊会ゆめ）

第三位　伊丹　千尋（剣縁女子大）

三十五才以上三段以下の部　参加者九名

優　勝　井後　恭子（藍）

準優勝　舛田さゆり（剣遊会ふく）

第三位　島袋　優里（剣遊会ふく）

第三位　大前真由美（修武館）

三十五才以上四段以上の部　参加者七名

優　勝　鈴木　千尋（警桜会A）

準優勝　山﨑　砂織（あななん笑）

第三位　前田奈々枝（藍）

第三位　長地　千景（あななん光）

〈女子稽古会〉

○毎週木曜日　一九：三〇～二〇：三〇

中央武道館で実施

○状況をみて

・土曜日　一四：〇〇～一五：〇〇

石井中学校で実施

・土曜日　一一：〇〇～一二：〇〇

大麻中学校で実施

※女子のラインで通知している。

〈都道府県剣道連盟の女子代表者による全国リモート連絡会議の報告〉二月七日

①日程

一、役員あいさつ

二、全体会（報告事項）

三、分科会

㈠発表

①昨年度以降の活動の経過、あるいは新しい取り組みについて

②幼少年普及や女子委員会活動等推進上の悩み・問題点について

③その他

㈡分科会での質疑応答

四、全体会

㈠発表（五分程度×八班）

㈡質疑応答

五、閉会のあいさつ

②おもな内容
全体会
①他地区からの参加可能な女子稽古会・大会などについての情報は、全日本剣道連盟のウェブに掲載されている。今後も更新していくこと。
②各剣道連盟の女子委員会及びそれらに準ずる組織設立状況については、これから設立予定もふくめ、九割程度に設置の状況である。
③幼少年の剣道活性化をめざす女子四国ブロック講習会主管県独自アンケート報告では、大変盛り上がった講習会になったとの報告があった。
分科会
㈠8ルームに分かれて議論。
㈡ルームでの発表（①～③のいずれかを選択して）
①昨年度以降の活動の経過、あるいは新しい取り組みについて
②幼少年普及や女子委員会活動など推進上の悩み・問題点について
③その他
・広報の工夫として、かわいいチラシの作成、グループラインを活用した連絡・情報発信。
・熊本県では、二月に「熊本女性剣道大会」を実施。目的は「生涯剣道」で、小学一年生から高校生までの個人戦の実施、高校卒業以降の一般の部、六十歳以上の部など、世代を超えた交流をめざしている。
・香川県では「幼少年と女性剣士の集い」の呼称で、子どもも含めた活動の広がりをめざしている。
・高知県では、環太平洋大学剣道部女子部員の活用によるイベントを開催し、初心者、幼少年、中学生の指導がなされ、充実した内容となった。
・滋賀県では、七十五歳から剣道をはじめ、現在七十八歳の女性剣士が活動されており一級を取得し、今は初段昇段をめざして稽古中だそうで、剣道は高齢者の生きがいとして価値あることが再認識された。
・富山県では、「オール富山女子剣道交流会」を開催、富山県剣道連盟とともに、市役所の子ども課にも協力をお願いし、キッチンカーも出店するイベントを行った。中体連・高体連をはじめ、それぞれの指導者から口頭伝達による周知もなされ、約三〇〇名が参加する大イベントを実施することができた。

〈令和七年度に向けて〉
①女子大会について
今年度は、たくさんのチームに参加していただき、盛大に大会が終了できたことに感謝しています。来年度もたくさんの選手の皆さんに参加していただけるよう、大会までの交流や剣道の普及に力をいれていきたいと考えています。
時間の関係で実施できなかった「審判講習会」は、剣道連盟主催の審判法講習会への参加に変えさせていただきましたが、女子稽古会の中でも、適宜実施できたらと考えています。
②女子稽古会について
女子部のＬＩＮＥを通じて随時連絡を

とりたいと思います。

③幼少年普及と女子部の連携について

一月に高知県で実施された「四国ブロック女子講習会」に徳島県からは、十名が参加しました。幼少年に楽しく剣道を指導する方法を、全剣連の先生方のご指導のもと教えていただき、参加した私たちも楽しく体験することができました。そこで、この体験を少年強化訓練の時にあわせて、何かの形で活用することができないかと考えています。少年部の先生方のお力をお借りして、女子部としては、剣道の普及を目的に活動していきたいと考えています。

今年度は、六段に大城幸子さん、鈴木千尋さん、後藤田萌愛さんが合格されました。おめでとうございます。

次年度も皆さんがそれぞれの目標に向かって剣道を続けられるために、そしてより多くの女性の皆様と一緒に剣道を楽しめるために活動していきたいと思います。今後もご協力よろしくお願いします。

審判部活動報告

審判部長　冨浦廣志

一　本年度の活動

○全剣連講習会受講者報告

①全日本剣道連盟中央講習会

四月六・七日　山室雅幹

②女子審判研修会

五月十八・十九日

平野悦子・金野裕美

③剣道審判法東西研修会（西日本）

六月十五・十六日

山名信行・六條洋二

④剣道指導者育成東西研修会（西日本）

七月二十七・二十八日　六條洋二

⑤女子審判法講習会

一月十一・十二日　玉田真理・金野裕美

○講習会報告

①全剣連中央講習会伝達講習会

五月六日　講師　山室雅幹

②秋季講習会「九月改定を受けて」

九月十三日　講師　冨浦廣志

③徳島県審判講習会

三月二十三日　講師　玉田晋作

○各大会での審判研修の実施

・暫定的な審判法（九月より恒久的なルールへと変更）の理解を深めるための研修を実施。

㈠昼食時や団体戦第一試合終了後、審判研修を実施

㈡開会式前など時間を利用して、暫定的な審判法を選手に対しての講習を行った。

○審判依頼

剣道連盟主催大会において審判依頼を行っている。

※全剣連主催研修に参加された先生におかれましては、有意義な研修内容を会員に広く範を示していただきますよう宜しくお願いします。

会員の方々には積極的に、連盟主催講習会に参加いただき、審判をする上で必要な知識や技能を身につけていただきたい

と思います。

二　来年度の活動について

○新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法は、九月一日から、『剣道試合・試合・運営要領の手引き』を改定することで恒久化が図られ、変更の内容が会員の皆様に周知徹底できるようにしていきたい。

○全剣連重点指導の徹底

ア）宣告、表示を正確、明確に行う。

イ）「有効打突」及び「反則行為」の見極め。

・適正公平に審判　私的な感情をなくし公平に（＝信頼性）審判員も見られている評価されている意識

・規則に載っていないことがおこったら第一条に照らし合わせて判断する。（剣道がより正しい方向に向かえるか判断する）

・成人は成人の、少年は少年の、それぞれの練度や適正を見極めて。

・鍔迫り合いの「空費」「不当」「受けてから入って鍔迫り合いに」意識がなくても 組み立てがそうなっているものも反則としてとっていく。（不当な行為として判断する）

「審判が良くなれば、試合が良くなる」という意識を高め、審判講習会や各種大会を通して、会員の皆様の審判技能の向上や、審判員としての資質向上を図っていきたい。

中体連より

中体連部長　松本真治

○令和六年度県内各種大会団体戦成績表

性別	男子				女子			
大会名	選手権	県総体	新人戦	強化錬成	選手権	県総体	新人戦	強化錬成
期日	6.5.11	6.7.13	6.11.16	7.1.25	6.5.11	6.7.13	6.11.16	7.1.25
会場	ソイジョイ武道館	ソイジョイ武道館	ソイジョイ武道館	ソイジョイ武道館	ソイジョイ武道館	ソイジョイ武道館	ソイジョイ武道館	ソイジョイ武道館
参加校	24校	28校	25校	26校	20校	23校	12校	16校
優勝	徳島	徳島	那賀川	那賀川	南部	徳島	南部	徳島
準優勝	那賀川	那賀川	鷲敷	徳島	小松島	小松島	那賀川	那賀川
第３位	徳島文理	徳島文理	徳島	徳島文理	那賀川	那賀川	徳島	徳島
第３位	鷲敷	鷲敷	徳島文理	鷲敷	徳島	南部	小松島	拠鳴門第一・大麻

県総体個人

令和六年七月十四日（日）
ソイジョイ武道館

男子

優　勝　坂井　蓮（徳島文理）
準優勝　中岡　亮仁（徳　島）
第三位　福永　颯太（鷲　敷）
第三位　大和　智哉（徳島文理）

女子

優　勝　多川　寧音（南　部）
準優勝　橋本　愛生（徳　島）
第三位　茨木　里音（徳　島）
第三位　山ノ井夏希（那賀川）

四国総体

令和六年八月七日（水）
愛媛県武道館

〈団体戦〉

男子

徳島中学校　第三位
（準決勝　松山北　2　－　0　徳島）
那賀川中学校　第三位
（準決勝　双海　2　－　0　那賀川）

女子

徳島中学校　第三位
（準決勝　龍雲　2　－　1　徳島）
小松島中学校　予選リーグ四位
（予選敗退）

〈個人戦〉

男子

大和　智哉（徳島文理）二回戦
中岡　亮仁（徳　島）二回戦
福永　颯太（鷲　敷）二回戦
坂井　蓮（徳島文理）二回戦
河田　蒼生（那賀川）二回戦
瀬戸　夏希（阿　南）二回戦
鹿島　大雅（那賀川）一回戦
中野　漣（鷲　敷）一回戦

女子

橋本　愛生（徳　島）準優勝
茨木　里音（徳　島）三回戦
多川　寧音（南　部）二回戦
福岡　鈴（木　頭）二回戦
坂東　真帆（徳　島）一回戦
増尾　美織（小松島）一回戦
柳生　夏希（南　部）一回戦
山ノ井夏希（那賀川）一回戦

全国中学校大会

令和六年八月十八（日）～二十日（火）
新潟県東総合スポーツセンター
〈団体戦〉
男子　徳島中学校　予選リーグ三位
女子　徳島中学校　予選リーグ二位
〈個人戦〉
坂井　　蓮（徳島文理）二回戦敗退
中岡　亮仁（徳　島）二回戦敗退
多川　寧音（南　部）一回戦敗退
橋本　愛生（徳　島）二回戦敗退

全国都道府県対抗少年剣道大会

令和六年九月十五日（日）
大阪府：おおきにアリーナ舞洲
監　督　西田　凌介（徳島文理）
コーチ　山本　千尋（徳　島）
先　鋒　多川　寧音（南　部）
次　鋒　橋本　愛生（徳　島）
中　堅　福永　颯太（鷲　敷）
副将　坂井　　蓮（徳島文理）
大　将　中岡　亮仁（徳　島）
〈予選リーグ〉
徳島　0　－　3　静岡
徳島　1　－　3　茨城（予選敗退）

四国新人

令和七年二月二十三日（日）
うだつアリーナ
〈団体戦〉
男子
那賀川中学校　予選リーグ二位
鷲敷中学校　予選リーグ四位
徳島中学校　予選リーグ二位
徳島文理中学校　予選リーグ三位
女子
南部中学校　予選リーグ二位
那賀川中学校　予選リーグ二位
徳島中学校　予選リーグ一位　第三位
小松島中学校　予選リーグ三位

県内行事

○徳島県中学校剣道一年生大会
十月十九日（土）ソイジョイ武道館
・男子団体　優勝　那賀川中学校
男子個人　優勝　陶久一翔（徳島文理）
・女子団体　優勝
拠鳴門市第一・大麻中学校
女子個人　優勝　山ノ井夏希（那賀川）

優秀選手

男子二十二名、女子十名（新聞発表済み）

令和六年度中学校剣道部員数

	1年生	2年生	3年生	合　計
男子	68人 （83人）	83人 （91人）	85人 （85人）	236人 （259人）
女子	48人 （45人）	44人 （65人）	61人 （59人）	152人 （169人）
合計	116人 （128人）	127人 （156人）	146人 （144人）	388人 （428人）

（　）は昨年度

高体連より

高体連剣道専門部委員長
河野寿仁

一、大会報告

○第二十四回四国高等学校剣道新人大会

・日時　令和六年二月三日～四日
・会場　西条市総合体育館
・男子団体　城北・徳島科技・阿南光・川島が出場
・女子団体　富岡東・城北・徳島文理・阿南光が出場　第三位：富岡東
・男女個人　前年の選手権大会ベスト八進出者が出場
　女子　ベスト八：中村莉音（富岡東）

○第三十三回全国高校剣道選抜大会

・日時　令和六年三月二十六日～二十八日
・会場　愛知県春日井市総合体育館
・男子　城北が出場　一回戦敗退
・女子　富岡東が出場　二回戦敗退

○第四十九回徳島県剣道連盟会長杯争奪高校剣道大会

・日時　令和六年四月二十一日
・会場　ソイジョイ武道館
・男子　参加校数十二校
　優　勝　城北
　準優勝　阿南光
　三　位　徳島文理・鳴門渦潮
・女子　参加校数八校
　優　勝　富岡東
　準優勝　城北
　三　位　徳島文理・阿南光

○第六十四回徳島県高等学校総合体育大会

・日時　令和六年六月一日～二日
・会場　とくぎんトモニアリーナ那賀
・出場数　団体　男子十二校・女子十校
　個人　男子一一四名・女子八十三名
・団体戦
　男子　優　勝　城北
　　準優勝　阿南光
　　三　位　徳島文理
　　四　位　鳴門渦潮
　女子　優　勝　富岡東
　　準優勝　城北
　　三　位　徳島文理
　　四　位　阿南光
・個人戦
　男子　優　勝　玉垣（阿南光）
　　準優勝　篠原（城北）
　　三　位　橋本（城北）
　　　四宮（徳島文理）
　女子　優　勝　中村（富岡東）
　　準優勝　森長（富岡東）
　　三　位　山田（富岡東）
　　　山﨑（富岡東）

○第七十回（男子）第五十八回（女子）四国高等学校剣道選手権大会

・日時　令和六年六月十五日～十六日
・会場　南国市立スポーツセンター
・男子団体　城北・阿南光・徳島文理・鳴門渦潮が出場
・女子団体　富岡東・城北・徳島文理・阿南光が出場　優勝：富岡東
・男子個人　八名出場

・女子個人　八名出場
　優勝：中村莉音（富岡東）
　ベスト八：鈴江海音（富岡東）

○全国高等学校総合体育大会

・日時　令和六年八月三日～六日
・会場　レゾナック武道スポーツセンター
・男子団体　城北が出場　予選リーグ三位で決勝トーナメント進出ならず
・女子団体　富岡東が出場　予選リーグ三位で決勝トーナメント進出ならず
・男子個人
　玉垣一樹（阿南光）：一回戦敗退
　篠原嵩也（城　北）：一回戦敗退
・女子個人
　森長未来（富岡東）：二回戦敗退
　中村莉音（富岡東）：準々決勝進出
　（ベスト八）

○第四十五回国体四国ブロック大会

・日時　令和六年八月十八日
・会場　善通寺市民体育館
・少年男子
　監　督　大石　真也
　コーチ　山本　義裕
　選　手　前田　優真（川　島）
　　和泉　皓大（阿南光）
　　橋本　和馬（城　北）
　　玉垣　一樹（阿南光）
　　篠原　嵩也（城　北）
　　本庄　創思（富岡西）
　　尾畑　涼月（富岡西）
　結　果　リーグ第二位（二勝一敗）で、国スポ本戦出場ならず
・少年女子
　監　督　岩原　靖人
　コーチ　白木恒二郎
　選　手　伊藤　寛夏（富岡東）
　　高島　桜子（富岡東）
　　森長　未来（富岡東）
　　福岡　詩（富岡東）
　　中村　莉音（富岡東）
　　横山　舞（富岡東）
　　山﨑　春菜（富岡東）
　結　果　リーグ第四位（三敗）で、国スポ本戦出場ならず

○第五十八回徳島県高等学校剣道選手権大会

・日時　令和六年十一月十日
・会場　ソイジョイ武道館
・男子　出場者数七十二名
　優　勝　平松　政樹（城北）
　準優勝　村瀬　絆（城北）
　三　位　多田　建人（城北）
　　辻村　鴻人（城北）
・女子　出場者数六十三名
　優　勝　伊藤　寛夏（富岡東）
　準優勝　西村　渚（富岡東）
　三　位　谷本真智子（富岡東）
　　鈴江　海音（富岡東）

○男子第六十九回・女子第五十九回徳島県高等学校剣道新人大会兼全国選抜大会県予選

・日時　令和六年十一月二十三日
・会場　とくぎんトモニアリーナ那賀
・男子　参加校数十校
　優　勝　城北
　準優勝　富岡西
　三　位　城ノ内・鳴門渦潮
・女子　参加校数九校

優　勝　富岡東
準優勝　城北
三　位　徳島文理・阿南光

二、強化事業

○令和六年度徳島県国体少年の部強化錬成会

・日時　令和六年十二月二十八日～二十九日
・会場　アミノバリューホール・城北高校
・県外参加校　近大和歌山（和歌山）・近大付属（大阪）・東海大仰星（大阪）・高砂南（兵庫）・東播工（兵庫）・白子（三重）・倉敷商（岡山）・津山工（岡山）・関西（岡山）・出雲西（島根）
・県内参加者　城北、富岡西、徳島文理、鳴門渦潮、徳島科技、徳島北、鳴門、徳島市立、城ノ内、城東、川島、脇町、板野

○令和六年度徳島県高等学校体育連盟剣道専門部春季錬成大会

・日時　令和七年三月十五日～十六日
・会場　阿南市スポーツ総合センター
・招待校　育英高校（兵庫）・菊池女子高校（熊本）
・県外参加校　桜丘（愛知）・鈴鹿（三重）・明石（兵庫）・履正社（大阪）・琴平（香川）・高松南（香川）・高松東（香川）・星槎国際（香川）・新田（愛媛）・高知（高知）・岡豊（高知）・明徳義塾（高知）
・県内参加者　富岡東、富岡西、阿南光、城北、鳴門渦潮、徳島文理、徳島科技、川島、徳島市立、徳島北、城ノ内、城東、鳴門、板野、城西、城西神山

三、高体連剣道人口調査

○令和元年度～令和六年度の人口推移

令和４年度	令和元年度
220名	242名
令和５年度	令和２年度
217名	219名
令和６年度	令和３年度
207名	230名

大学連より

部長　木原資裕

一、第七十一回中四国学生剣道選手権大会への出場（松山）

日時：令和六年五月十九日

○一回戦敗退

渡邊（徳大）前田（徳大）小林（徳大）
中越（徳文理）羽根（徳大）
橋本（徳大）島脇（徳大）

○二回戦敗退　松本（徳大）

○三回戦敗退　織田（徳文理）

二、第五十六回中四国女子学生剣道選手権大会への出場（松山）

日時：令和六年五月十九日

○二回戦敗退　北林（徳大）

三、第七十一回中四国学生剣道優勝大会への出場（岡山）

日時：令和六年九月十六日

○予選リーグ

徳島大　一勝一敗
決勝トーナメント進出

○決勝トーナメント一回戦

徳島大　○（一）－六（十）　高知工科大

四、第五十一回中四国女子学生剣道優勝大会への出場（岡山）

日時：令和六年九月十六日

○予選リーグ

徳島大　○勝二敗　予選リーグ敗退

五、第四十三回眉山杯剣道大会（徳島県学生剣道選手権大会）ならびに第十八回徳島県学生剣道東西対抗試合の実施

日時：令和六年十一月二十三日（祝）

場所：徳島文理大学体育館

参加者数：五十二名（選手四十三名・役員審判九名）

○選手権大会成績

男子　優勝　永濱聡良（蔵本）
　　二位　織田祐輔（文理）
　　三位　橋本青空（蔵本）
　　西條翔太（鳴教）

女子　優勝　吉野一花（蔵本）
　　二位　小畠理奈（四国）

○東西対抗優秀選手

男子　永濱聡良（蔵本）六人抜き
　　藤井翔太朗（常三島）五人抜き
　　羽坂颯真（蔵本）五人抜き

女子　吉野一花（蔵本）六人抜き
　　小畠理奈（四国）一人抜き・大将

六、第四十四回中四国学生剣道新人大会への出場（広島）

日時：令和六年十二月一日

○男子

一回戦

徳島大A　三（五）－○（二）　愛媛大
徳島大B　○（一）－三（五）　川崎医療大

二回戦

徳島大A　一（一）－○（○）　環太平洋大D

三回戦
徳島大A　一（一）－三（四）　岡山商大A
○女子
一回戦
徳島大　○（○）－二（二）　松山大B

七、大学連主催講習会（ワークショップ）

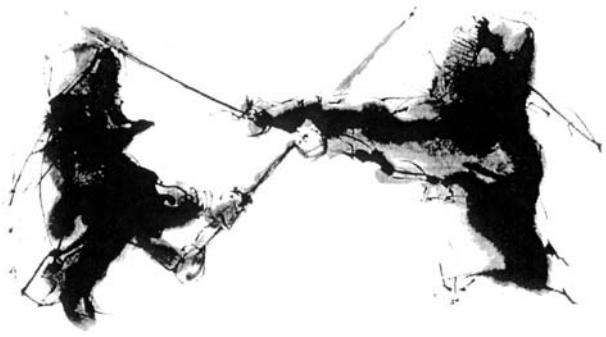
試合中心の技術指導ではなく、運動を行う意義や日常生活の質を高めることを意図した講習会（無料）を下記のように実施した。大学剣道部以外の一般参加も可とした。

テーマ：修験者に学ぶ心と身体の使い方
講師：長谷川　智
略歴：筑波大学大学院修了（スポーツ心理学）筑波大学剣道部出身
現職：山伏（羽黒派古修験道）一橋・上智・筑波大学非常勤講師
日時：令和六年七月十三日（土）
一四：〇〇～一六：三〇
七月十四日（日）
九：三〇～一二：〇〇
場所：鳴門教育大学剣道場
※講習内容は「徳島の剣道」四十一号に掲載

八、大学連総括

令和六年の大学連の部員調査では八十名（男子五十四名・女子二十六名）であり、昨年の七十六名より若干増えている。また、希望すれば出場できる眉山杯（徳島県大学選手権）出場者も昨年は三十二名（男子二十六名・女子六名）であり、令和六年は四十三名（男子三十四名・女子九名）となり、十一名の増加となった。

本年の新たな取り組みとして、試合中心の活動ではなく、剣道を行う意義や日常生活の質を高めることを意図した活動展開として、上記七の講習会（ワークショップ）を実施した。大学連の関係者は少なかったものの、一般参加者より次回も是非企画してほしいとの要望が多くあった。



令和六年度 徳島県高齢剣友会活動状況

高齢剣事務局　松　本　憲　二

令和六年度徳島県高齢剣友会会長美馬勝行以下会員一〇七名（準会員八名含む）で以下の活動を実施しました。

主な行事

五月　・第八回四国高齢者剣道交流大会（香川県）
・広島県合同稽古会（広島県尾道市）

六月　・第四十六回全日本高齢者武道大会（日本武道館）

七月　・西部稽古会（吉野川市）

九月　・第三十回徳島県健康福祉祭剣道交流大会（鳴門ソイジョイ武道館）

十月　・第十六回長野合宿稽古会（長野県）
・第三十六回全国健康福祉祭とっとり大会（鳥取県）
・兵庫高齢剣友会創立八周年記念（尼崎市）

十一月　・第二回綾部高齢者剣道大会（京都府綾部市）

十二月　・南部稽古会（牟岐町）

活動内容

定例稽古会

松茂町第二体育館、藍住武道館（十月、十一月第四土曜日）におきまして第二、第四土曜日午後二時から、会員等二十四～三十三名が参加しました。

鳴門教育大学稽古会

木原先生から定例稽古会以外の土曜日、午前十時から鳴門教育大学剣道場で稽古ができるようにしていただき、高齢剣等、鳴教大学生を含め十数名参加しました。

西部稽古会

令和六年七月十三日（土）午後二時から吉野川市ふるさとセンターにおいて西部稽古会を実施しました。稽古会は、高齢剣友会を中心に四十三名が参加、その中には香川県から石丸先生が参加してくださいました。稽古会後は会員等二十四名が、うどん亭八幡において懇親会を行い、剣道談義に花を咲かせました。

南部稽古会

令和六年十二月十四日（土）午後二時から牟岐町民体育館で実施、兵庫県から伊澤章先生の他八名の先生の参加を得て、四十五名が参加しました。その後民宿白木屋において兵庫の先生九名を交えて三十二名で忘年会を兼ねての懇親会を行い美味しい料理に舌鼓を打ち剣道談義に花を咲かせました。

総　括

今年度入会者六名と多くの先生が入会していただけました。また、年齢が若く正会員ではありませんが、八名の女性が入会していただけました。女性会員の方は稽古会参加の他、大会では大会運営に大いに活躍していただいております。特に大会において演武、日本剣道形を引き受けていただき、気迫のこもった素晴らしい演技は印象深いものでした。さらに、今年も松村先生から県外の試合、稽古会を申込みいただき県外で多くの試合、稽古会に参加ができた他、稽古会後の懇親会にも参加して他県との交流を深めることができた一年となりました。

徳島県剣道稽古場所一覧（令和７年度版）

支部名	教室および道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時 （少年・一般の区別明記のこと）
徳島支部	徳島少年剣道教室	生田浩章 088-626-2470	徳島剣道教室剣道場	少年（火・木）17:00－20:00 （土）16:00－
	蔵本少年剣道クラブ	福永　徳 088-631-0207	加茂名中学校武道場	少年（火・金）19:00－21:00 （日）18:00－21:00
	加茂名少年剣道教室	鈴江俊和 088-631-4753	加茂名小（木） 加茂名中（土） 加茂名南小（日）	少年（木・土）18:00－19:45 （日）17:20－19:30
	東内道場	東内　勉 088-631-3971	研修道場 東内会館	少年（木・土）18:00－20:00
	上八万剣道倶楽部	川人　護 088-668-1384	上八万小学校体育館	少年（水・土）17:00－19:00 一般（水・土）19:00－21:00
	宅宮（えのみや）剣道倶楽部	河野通宣 088-668-0167	えのみや睦会武道場	少年（土）19:00－21:00
	入田錬成会	佐藤佳宏 088-644-3124	入田中学校体育館	少年（火・土）19:30－21:30 一般（火・土）21:30－22:30
	北井上剣道教室	美馬勝行 088-642-3898	北井上中学校体育館	少年（火・金）19:00－21:00
	徳島清風館道場	久保隆司 088-633-0727	国府小学校体育館	少年（土・日）17:00－19:00
	養武館	米倉　滋 088-668-6650	八万中剣道場（火） 養武館道場（木・土）	少年（火）19:00－21:00 （木・土）19:30－21:00
	徳島親道館剣道場	矢武秀生 088-644-5171	親道館道場	少年（火・金）19:00－20:30
	佐古剣道クラブ	谷本浩志 088-637-2204	佐古小学校体育館	少年（火・木）17:00－19:00 （日）9:00－12:00
	渭東少年剣道教室	吉田昌彦 088-664-2153	城東中学校黎明館	少年（火・木・金）19:00－21:00
	徳島錬心館	大澤孝彰 088-654-6325	錬心館道場	一般（火・木・土）19:00－20:00
	松紀和会道場	松村和宏 090-8970-4863	松紀和会道場	少年（火・水・木・金） 19:00－20:30
	日亜錬心塾	山本泰史 090-3780-9813	大松小学校（月・土） セント歯科（木）	（月）18:10－19:30 少年（木）18:30－20:30 （土）13:00－15:00
鳴門支部	鳴門市光武館	寺西明弘 088-685-0703	光武館剣道場	少年（火・木）18:30－20:30 （土）17:30－19:30
	鳴門市少年剣道教室	石村行範 088-686-8923	鳴門ソイジョイ武道館	少年（月・水）18:00－20:00 （土）9:00－11:00 一般（月）20:00－21:00
	大麻錬成館	近藤敏晴 088-689-0857	大麻中学校剣道場	少年（火・土）18:30－20:00
板野東支部	北島少年剣道教室	伊賀雅人 088-698-4528	北島北小学校体育館	少年（月・木）19:00－20:30 一般（月）20:45－22:00
	誠武館道場	井川理之 090-4976-4477	北島町立武道館	少年・一般（木・金・土） 19:00－21:00
	松茂少年剣道教室	米田利彦 088-699-6176	松茂町第二体育館 （武道館）	少年・一般（火・金） 19:00－22:00
	修武館道場	武田修典 080-5664-2686	修武館道場	少年（月・水・木）18:30－20:00 一般（水）18:30－20:00

板野西支部	板野西稽古場	久次米繁興 088-692-7198	藍住町武道館	一般（火・木・土）21:00－22:00
	藍住剣道スポーツ少年団	久次米繁興 088-692-7198	藍住町武道館	少年（火・木・土）19:00－20:30
	剣道板野道場	米崎信弥 090-4972-4177	板野町体育センター	少年（火・水）19:30－21:00 少年（日）　9:00－11:00
	上板少年剣道教室	藤本辰夫 088-694-5031	神宅小学校体育館	少年・一般（月・木） 19:00－21:00
阿波支部	市場剣道教室	大野和則 090-2822-7715	市場武道館	少年（月・火・木・土） 19:30－21:00
	阿波支部稽古会	安田勝裕 0883-35-7111	市場武道館	少年・一般（月）20:00－21:00
美馬支部	脇町少年剣道教室	柴田宗忠 0883-53-2629	脇町小学校体育館	少年（火・金）19:00－21:00 一般は8:30－22:00
	徳島春風館道場	青木茂生 0883-53-7118	徳島春風館道場	少年・一般（月・木・土） 19:30－21:00
	半田剣道教室	大川　功 0883-64-2181	半田スポーツセンター	少年・一般（月・木） 19:00－21:00
	美馬市体協剣道部	中川　正 0883-53-0116	脇町中学校武道館	一般（月・水・土）19:00－22:00
三好支部	東みよし淳志館	増田和広 0883-79-3704	三好中学校体育館	少年・一般（月・木） 19:00－21:00
	佐馬地少年剣道クラブ	山田泰弘 0883-74-1932	馬路小学校体育館	少年・一般（水）18:30－20:00
	三野少年剣道クラブ	久保和雄 0883-77-3899	三野中学校体育館	少年（土）18:00－20:00
	山城町剣道修錬クラブ	島尾眞且 0883-86-1398	山城中学校武道館	少年・一般（水・土） 19:30－21:30
	奥祖谷剣道クラブ	中石　昭 0883-88-5802	旧 栃之瀬小学校 体育館	少年（火・金）19:30－21:00
	井川武道会	中川勝弘 0883-78-2115	三好市柔剣道場	少年（水）20:00－21:00
麻植支部	麻植支部稽古会	日野利之 090-2783-3416	川島中学校体育館	少年・一般（金）（20:00－21:30）
	上浦剣道教室	近久　寛 090-1329-7817	上浦小学校体育館	少年（水・土）18:30－20:00
	鴨島少年剣道教室	藤川和秋 090-2786-5975	鴨島第一中学校武道館	少年（火・木・土）19:15－21:00
	川島剣道スポーツ少年団	猪野和男 0883-25-6004	農村環境改善センター 市立川島中学校体育館	少年（火・木・土）19:00－21:00
	山川スポーツ少年団 修錬館	柳谷照男 0883-42-6936	山川中学校武道館	少年（水・土）19:00－21:00
	吉野川少年剣道教室	片山尊史 0883-25-6014	牛島小学校体育館 西麻植小学校体育館	少年（火・水・金・土） 20:00－22:00
	寶　壽　館	日和田慈海 0883-42-3605	醫　光　寺	随時利用可 ただし、事前確認のこと

阿南支部	阿南支部稽古会	村井正志 080-1992-2715	阿南第一中学校	小・中・高・大・一般 （第 2 木・第 4 木）19:30－21:00
	阿南少年剣道教室	中西　実 088-664-4879	阿南市武道館	少年（火・木・金）19:00－21:00 一般（火・金）　21:00－22:00
	新野少年剣道教室	馬見和秀 0884-36-2428	新野小学校体育館	少年（火・木・土）18:30－20:30
	大野小学校剣道部	西岡直彦 0884-22-6535	大野小学校体育館	少年（月・水・木）18:30－20:30 一般（水）　21:00－22:00
	徳島至誠館	中山繁輝 090-1002-8976	徳島至誠館道場	少年（月・水・金）19:00－21:00
	那賀川少年剣道クラブ	二反田和則 0884-21-2207	今津小学校体育館（火） 那賀川Ｂ＆Ｇ体育館（水・金）	少年（火・水・金）19:00－21:00
	那賀川剣道教室 わかあゆ会	山田耕司 0884-42-3381	平島小学校体育館	少年（月・水・金）19:00－21:00
	羽ノ浦少年剣道教室	森　眞一 0884-44-5415	羽ノ浦中学校武道館	少年（火・金）19:00－21:00 一般（水）　19:30－21:00
	徳島剣清塾	河田清実 090-1579-7001	阿南第一中学校剣道場	少年（月・水・金）19:00－21:00
丹生谷支部	振　武　館	奥田博志 0884－62－1134	那賀町Ｂ＆Ｇ 海洋センター武道場	少年（水・金）19:00－21:00 一般（水・金）21:00－22:00
	相生龍虎館	山下勝也 0884－62－0834	相生小体育館	少年（火・木・土）16:00－18:00
	木頭錬心館	小川大造 0884－68－2242	木頭中柔剣道場	少年・一般（月・水・金） 18:00－20:00
	北川小学校剣道クラブ	谷　次郎 0884－69－2430	那賀町北川体育館	少年（月・水）18:00－19:30 （金）　18:00－20:00
小松島支部	小松島支部稽古会	梅山寧史 0885-33-1251	小松島中学校武道場	一般（木）19:30－21:00
	小松島小剣クラブ	青木博志 0885-33-1251（梅山）	北小松島小学校体育館（月金） 小松島小学校体育館（水）	少年（月・水・金）19:00－21:30
	和田島少年剣道クラブ	園田慎吾 090-1572-3951	和田島小学校体育館	少年（火・金）19:00－21:00
	立江剣道教室	原　知永 0885-38-2121	立江小学校体育館	少年（火・土・日）18:30－20:00
海部支部	海部川剣道教室	丸岡偉人 0884-73-3175	海部小学校体育館	少年・一般（月・水・木） 19:00－20:45
	一心館道場	影山美雄 0884-79-3125	一心館剣道場	少年（月・木）16:30－18:00 一般（水・第 2 金・第 4 金） 18:00－20:00
名西支部	石井少年剣道クラブ	近藤正章 088-674-5288	石井町立高浦中学校武道場	水・土　19:30－21:30
	久　武　館	瀬部克好	久武館道場	水・土　19:30－21:30
県剣道連盟	徳島県剣道連盟稽古会		中央武道館	一般　木　19:00－20:30
	女子部稽古会		中央武道館	一般　第 1 日曜　18:00－19:00
	高齢剣稽古会	乾　清孝 090-4974-0107	ソイジョイ武道館	一般　土　14:00～ 開催日は毎月変更（要確認）

居合道　道場案内

日本古来の伝統武道である居合道。時代を超えて受け継がれてきた居合道をより多くの人に体験していただきたいと願っております。是非お問い合わせ下さい。　居合道部会

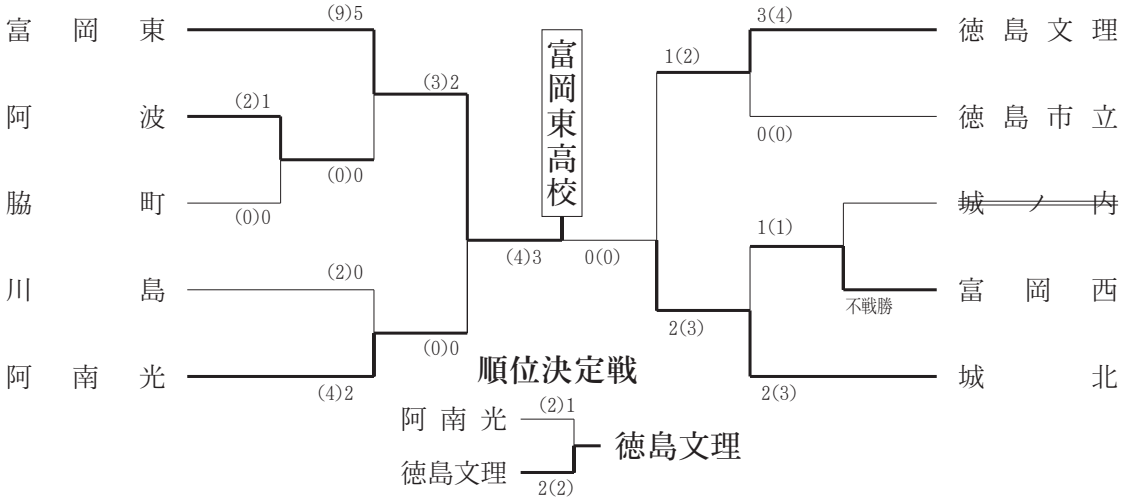
道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時
大和錬心館	錬士六段・西本 忠司 自宅　0884-69-2120 携帯　090-7143-0160	木頭中学校柔剣道場 那賀町木頭和無田	火曜日　19:00～21:00 木曜日　19:00～21:00
徹心道場	代表者 教士七段・吉岡 修一 0883-24-5341	鴨島第一中学校武道場	月曜日　19:30～21:30 水曜日　19:30～21:30 金曜日　19:30～21:30（少年）
大和養心館	範士八段・原田　勝 自宅　0885-33-0222 携帯　090-7141-8996	大和養心館 小松島市金磯町11番78号	月曜日　18:00～21:00 水曜日　18:00～21:00 金曜日　18:00～21:00
居合道錬成会	六段・鎌田 貴 携帯　080-5661-7133	徳島県立中央武道館	月曜日　19:00～21:00 金曜日　19:00～21:00
阿波居合道伝習会	範士八段・坂本 憲一 自宅　0883-36-3008 携帯　090-1576-4773	阿波市立八幡小学校体育館	火曜日　19:00～22:00
		徳島市農業環境改善センター	水曜日　19:00～21:00
		徳島県立中央武道館	月曜日　19:00～21:00 金曜日　19:00～21:00
大潟道場 （全日本剣道連盟）	教士七段・福井　勝 携帯　090-5143-3596	阿南市武道館	日曜日　10:00～12:00 （行事日を除く）
鳴門道場	錬士七段・満壽 良史 自宅　088-686-7115 携帯　090-9778-2350	鳴門市健康福祉交流センター 軽運動場	土曜日　10:00～12:00 月曜日　10:00～12:00
徳島春風館道場	錬士六段・青木 茂生 自宅　0883-53-7118 携帯　090-8693-4935	徳島春風館道場 （穴吹町三島）	水曜日　19:30～21:00
剣道・板野道場	五段・川人 政利 自宅　088-698-2970	南公民館	火曜日　19:30～21:00
		板野町体育センター	日曜日　11:00～12:00
修武館道場	武田修典 携帯　080-5664-2686	修武館道場	木曜日　19:30～21:00

令和６年度　大　会　記　録

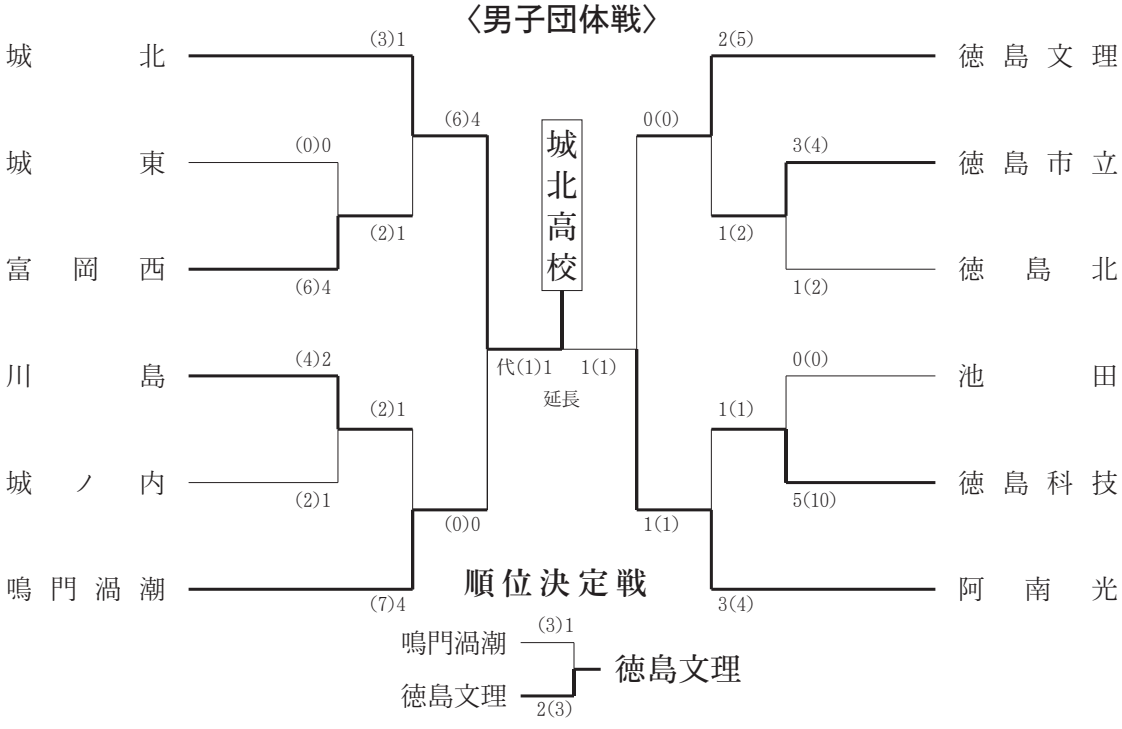
第64回徳島県高等学校総合体育大会剣道競技　団体戦

日　時　令和６年６月１日(土)
会　場　とくぎんトモニアリーナ那賀

〈女子団体戦〉



〈男子団体戦〉



〈男子団体戦〉

準　決　勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城北	多田	渡邉	橋本	藏本	篠原	4	6	
	㊁一本勝		㊁一本勝	㊃コ	㊂メ			
鳴門渦潮						0	0	
	石川	中根	大﨑	大原	中野			

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	桑田	佐藤	四宮	津島	片岡	0	0	
			▲					
阿南光					㊁一本▲勝	1	1	
	岩本	和泉	山下	西岡	玉垣			

順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
鳴門渦潮	石川	中根	大﨑	大原	中野	1	3	
		㊁	㊂メ	▲				
徳島文理		メ		一本㊃勝		2	3	
	桑田	佐藤	四宮	津島	片岡			

決　　勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城北	多田	渡邉	橋本	藏本	篠原	1	1	篠原
	▲一本㊂勝	▲						㊁
阿南光		一本㊂勝				1	1	
	岩本	和泉	山下	西岡	玉垣			玉垣

〈女子団体戦〉

準　決　勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	森長	福岡	横山	山﨑	中村	2	3	
	㊁メ		㊂一本勝					
阿南光						0	0	
	中野	森内	山﨑	樫原	上村			

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	秋山	中村	谷本	小田	後藤	1	2	
				㊂メ				
城北		メ㊂			一本㊂勝	2	3	
	赤池	小柏美	佐藤	國見	近藤			

順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
阿南光	中野	森内	山﨑	樫原	上村	1	2	
			▲	㊂メ				
徳島文理		一本㊁勝	一本㊁勝	▲		2	2	
	秋山	中村	谷本	小田	後藤			

決　　勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	森長	福岡	横山	山﨑	中村	3	4	
	㊁一本勝			㊂一本▲勝	㋑メ			
城北	▲					0	0	
	赤池	小柏美	佐藤	國見	近藤			

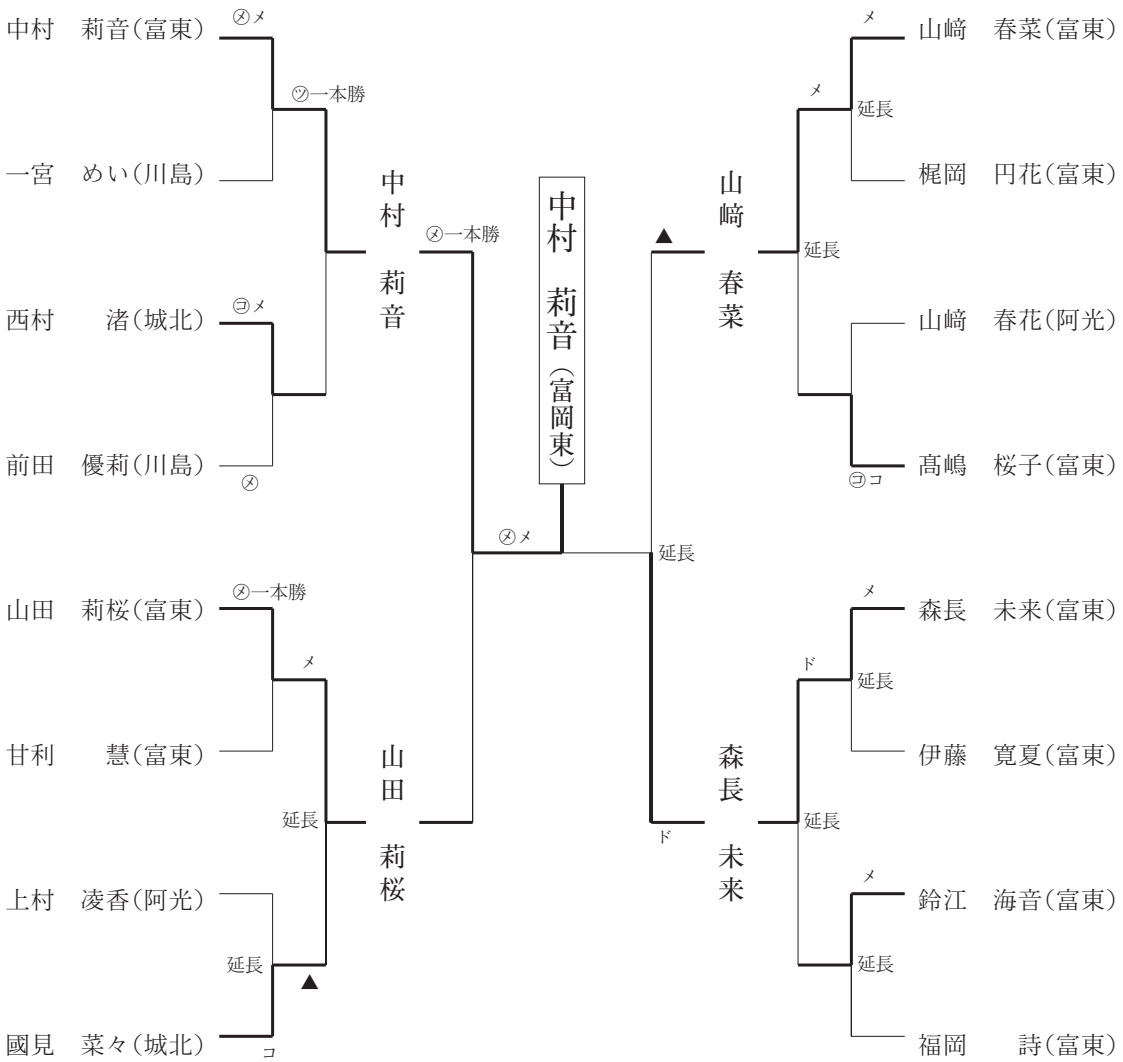
第64回徳島県高等学校総合体育大会剣道競技　個人戦

日　時　令和６年６月２日(日)
会　場　とくぎんトモニアリーナ那賀

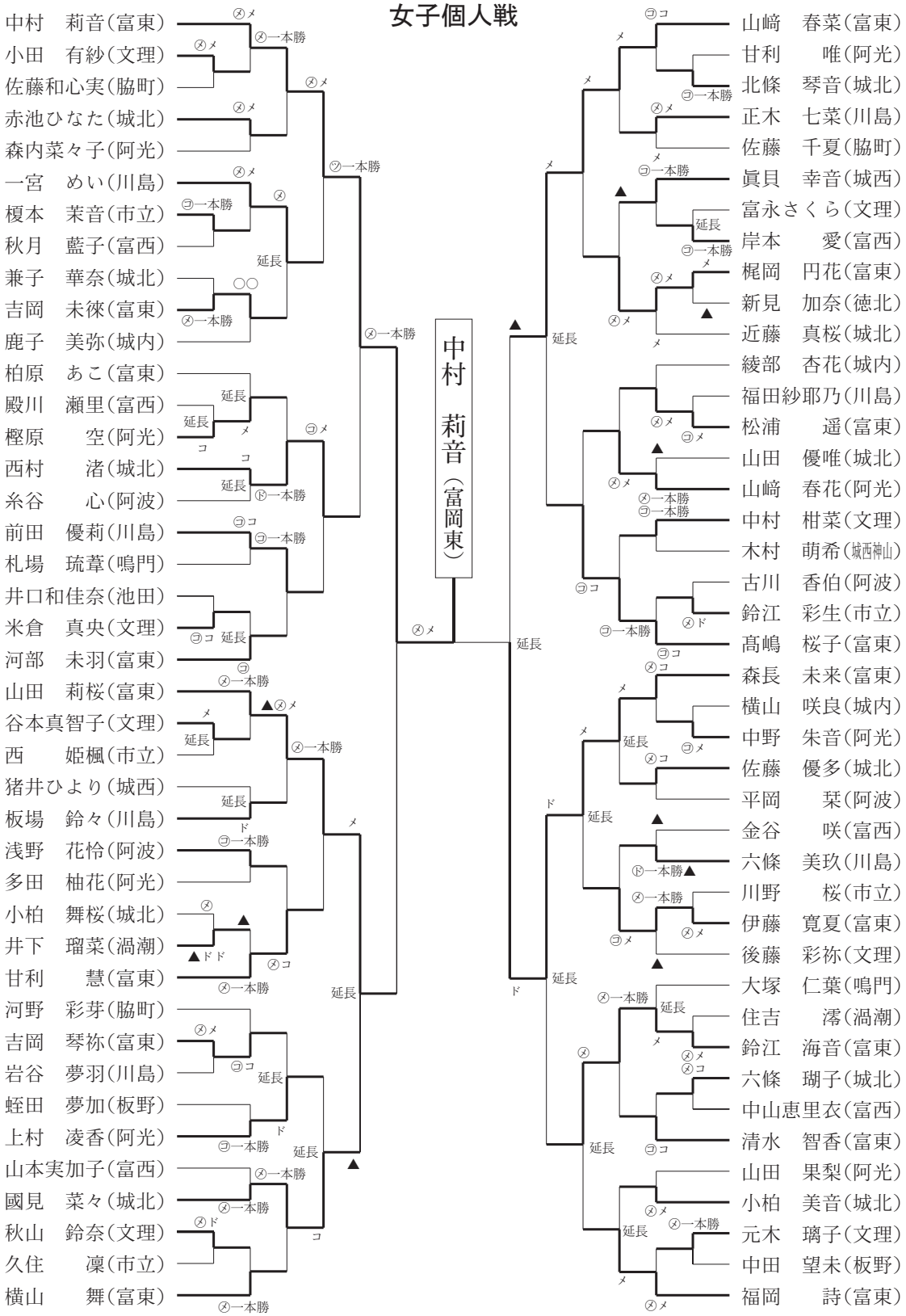
女子個人の部

優　　勝	中村　莉音	（富岡東）
準 優 勝	森長　未来	（富岡東）
第 3 位	山田　莉桜	（富岡東）
	山﨑　春菜	（富岡東）

女子個人戦



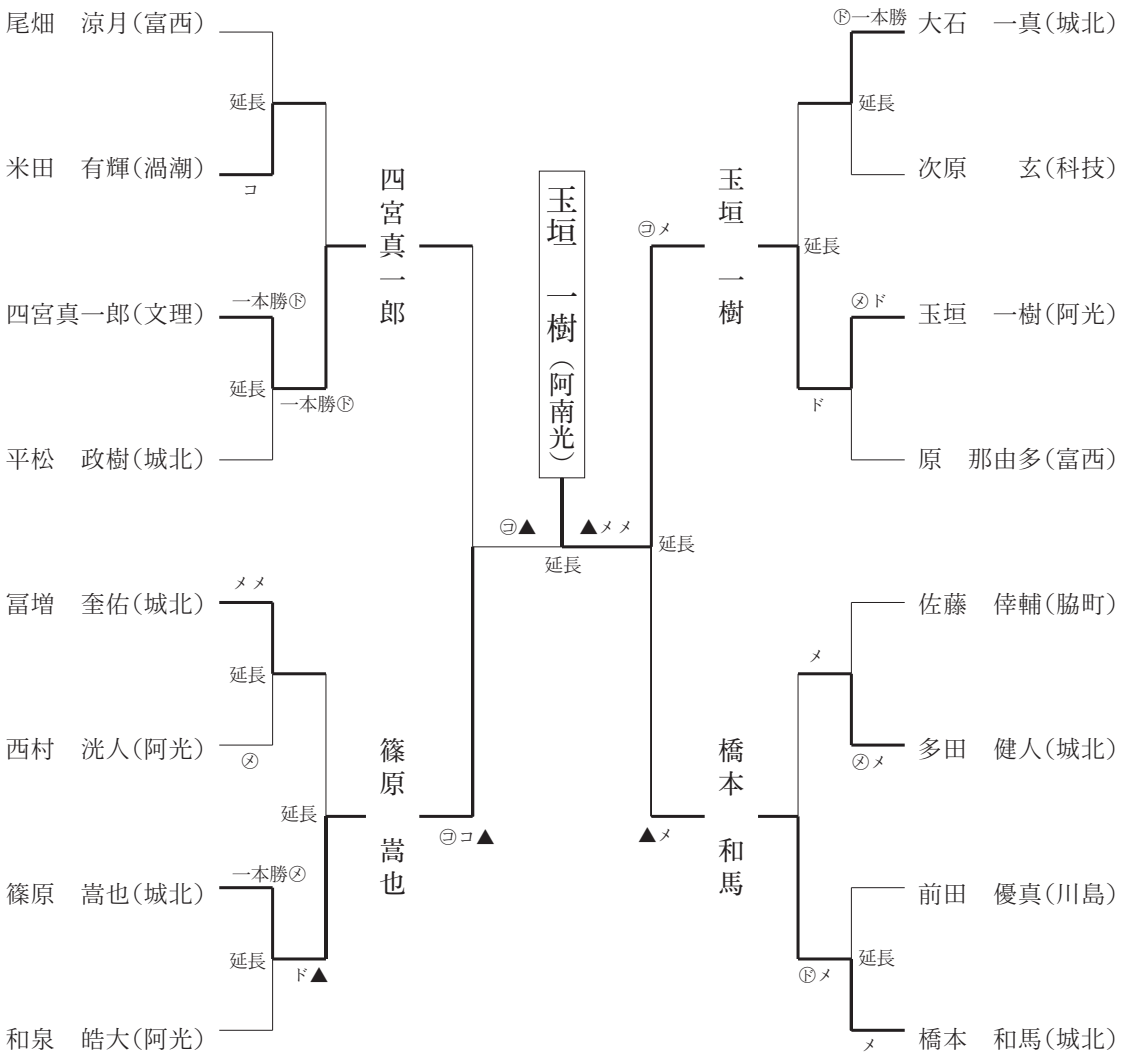
女子個人戦


中村　莉音（富岡東）
中村　莉音(富東)
小田　有紗(文理)
佐藤和心実(脇町)
赤池ひなた(城北)
森内菜々子(阿光)
一宮　めい(川島)
榎本　茉音(市立)
秋月　藍子(富西)
兼子　華奈(城北)
吉岡　未徠(富東)
鹿子　美弥(城内)
柏原　あこ(富東)
殿川　瀬里(富西)
樫原　空(阿光)
西村　渚(城北)
糸谷　心(阿波)
前田　優莉(川島)
札場　琉葦(鳴門)
井口和佳奈(池田)
米倉　真央(文理)
河部　未羽(富東)
山田　莉桜(富東)
谷本真智子(文理)
西　姫楓(市立)
猪井ひより(城西)
板場　鈴々(川島)
浅野　花怜(阿波)
多田　柚花(阿光)
小柏　舞桜(城北)
井下　瑠菜(渦潮)
甘利　慧(富東)
河野　彩芽(脇町)
吉岡　琴祢(富東)
岩谷　夢羽(川島)
蛭田　夢加(板野)
上村　凌香(阿光)
山本実加子(富西)
國見　菜々(城北)
秋山　鈴奈(文理)
久住　凛(市立)
横山　舞(富東)
山﨑　春菜(富東)
甘利　唯(阿光)
北條　琴音(城北)
正木　七菜(川島)
佐藤　千夏(脇町)
眞貝　幸音(城西)
富永さくら(文理)
岸本　愛(富西)
梶岡　円花(富東)
新見　加奈(徳北)
近藤　真桜(城北)
綾部　杏花(城内)
福田紗耶乃(川島)
松浦　遥(富東)
山田　優唯(城北)
山﨑　春花(阿光)
中村　柑菜(文理)
木村　萌希(城西神山)
古川　香伯(阿波)
鈴江　彩生(市立)
髙嶋　桜子(富東)
森長　未来(富東)
横山　咲良(城内)
中野　朱音(阿光)
佐藤　優多(城北)
平岡　栞(阿波)
金谷　咲(富西)
六條　美玖(川島)
川野　桜(市立)
伊藤　寛夏(富東)
後藤　彩祢(文理)
大塚　仁葉(鳴門)
住吉　澪(渦潮)
鈴江　海音(富東)
六條　瑚子(城北)
中山恵里衣(富西)
清水　智香(富東)
山田　果梨(阿光)
小柏　美音(城北)
元木　璃子(文理)
中田　望未(板野)
福岡　詩(富東)

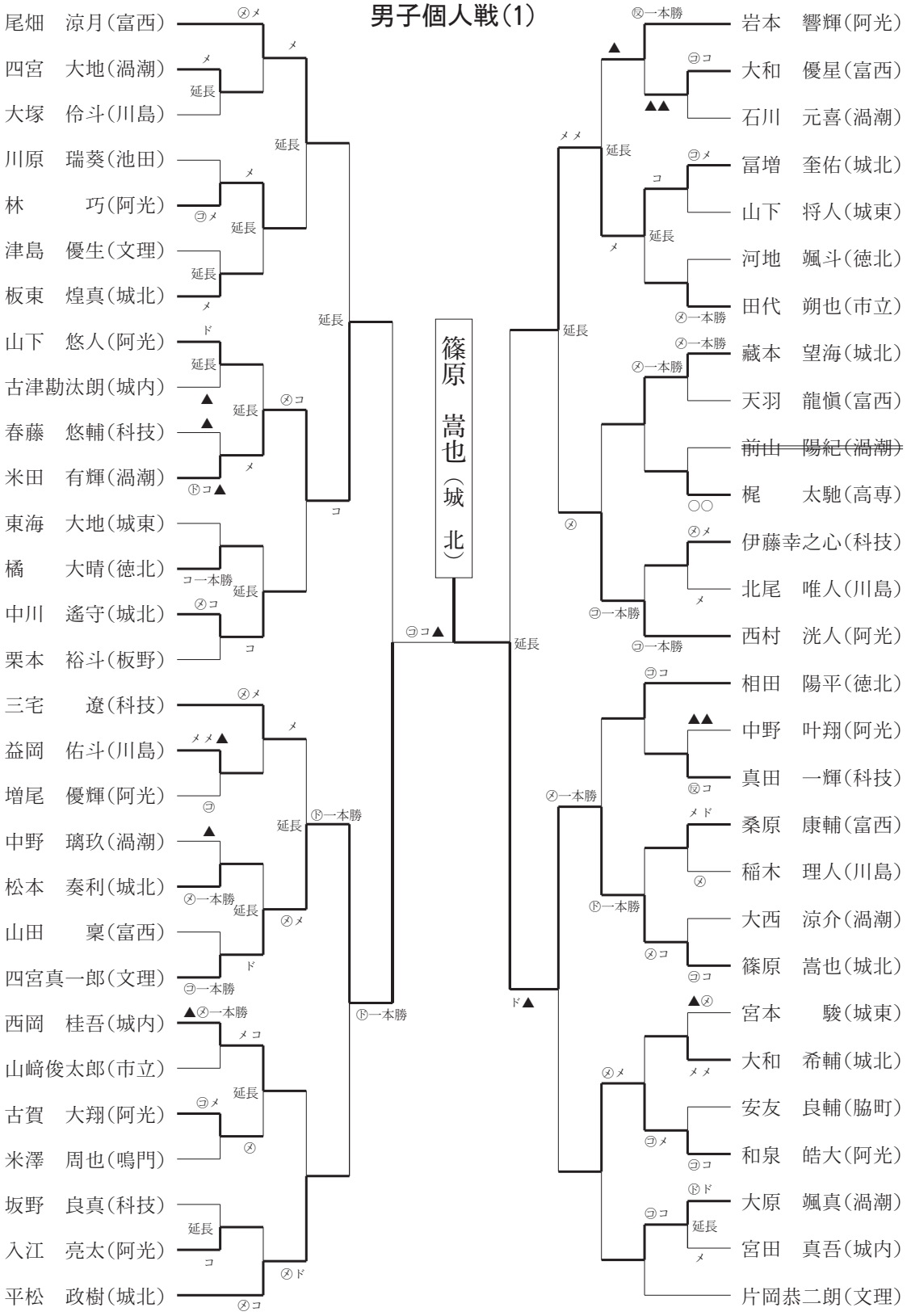
男子個人の部

優　　勝　玉　垣　一　樹　（阿南光）
準 優 勝　篠　原　嵩　也　（城　北）
第 3 位　四　宮　真一郎　（徳島文理）
　　橋　本　和　馬　（城　北）

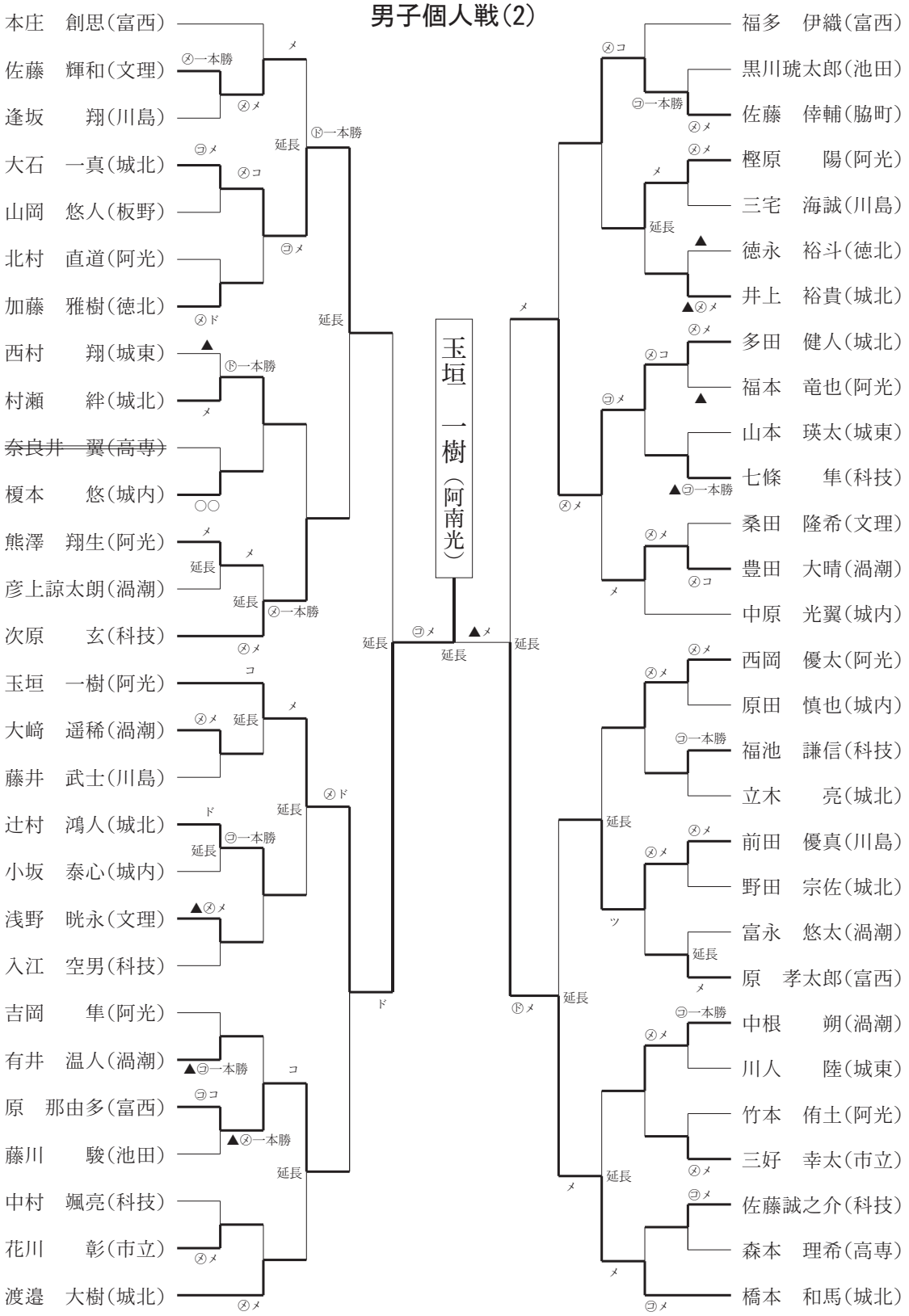
〈男子個人戦〉



男子個人戦(1)


尾畑　涼月(富西)
四宮　大地(渦潮)
大塚　伶斗(川島)
川原　瑞葵(池田)
林　巧(阿光)
津島　優生(文理)
板東　煌真(城北)
山下　悠人(阿光)
古津勘汰朗(城内)
春藤　悠輔(科技)
米田　有輝(渦潮)
東海　大地(城東)
橘　大晴(徳北)
中川　遙守(城北)
栗本　裕斗(板野)
三宅　遼(科技)
益岡　佑斗(川島)
増尾　優輝(阿光)
中野　璃玖(渦潮)
松本　奏利(城北)
山田　稟(富西)
四宮真一郎(文理)
西岡　桂吾(城内)
山﨑俊太郎(市立)
古賀　大翔(阿光)
米澤　周也(鳴門)
坂野　良真(科技)
入江　亮太(阿光)
平松　政樹(城北)
篠原　嵩也(城北)
岩本　響輝(阿光)
大和　優星(富西)
石川　元喜(渦潮)
冨増　奎佑(城北)
山下　将人(城東)
河地　颯斗(徳北)
田代　朔也(市立)
藏本　望海(城北)
天羽　龍愼(富西)
前山　陽紀(渦潮)
梶　太馳(高専)
伊藤幸之心(科技)
北尾　唯人(川島)
西村　洸人(阿光)
相田　陽平(徳北)
中野　叶翔(阿光)
真田　一輝(科技)
桑原　康輔(富西)
稲木　理人(川島)
大西　涼介(渦潮)
篠原　嵩也(城北)
宮本　駿(城東)
大和　希輔(城北)
安友　良輔(脇町)
和泉　皓大(阿光)
大原　颯真(渦潮)
宮田　真吾(城内)
片岡恭二朗(文理)

男子個人戦(2)


本庄　創思(富西)
佐藤　輝和(文理)
逢坂　翔(川島)
大石　一真(城北)
山岡　悠人(板野)
北村　直道(阿光)
加藤　雅樹(徳北)
西村　翔(城東)
村瀬　絆(城北)
奈良井　翼(高専)
榎本　悠(城内)
熊澤　翔生(阿光)
彦上諒太朗(渦潮)
次原　玄(科技)
玉垣　一樹(阿光)
大﨑　遥稀(渦潮)
藤井　武士(川島)
辻村　鴻人(城北)
小坂　泰心(城内)
浅野　晄永(文理)
入江　空男(科技)
吉岡　隼(阿光)
有井　温人(渦潮)
原　那由多(富西)
藤川　駿(池田)
中村　颯亮(科技)
花川　彰(市立)
渡邉　大樹(城北)
玉垣　一樹(阿南光)
福多　伊織(富西)
黒川琥太郎(池田)
佐藤　倖輔(脇町)
樫原　陽(阿光)
三宅　海誠(川島)
徳永　裕斗(徳北)
井上　裕貴(城北)
多田　健人(城北)
福本　竜也(阿光)
山本　瑛太(城東)
七條　隼(科技)
桑田　隆希(文理)
豊田　大晴(渦潮)
中原　光翼(城内)
西岡　優太(阿光)
原田　慎也(城内)
福池　謙信(科技)
立木　亮(城北)
前田　優真(川島)
野田　宗佐(城北)
富永　悠太(渦潮)
原　孝太郎(富西)
中根　朔(渦潮)
川人　陸(城東)
竹本　侑土(阿光)
三好　幸太(市立)
佐藤誠之介(科技)
森本　理希(高専)
橋本　和馬(城北)

第78回 徳島県中学校総合体育大会 剣道競技

【 団 体 戦 】

日 時 令和 6 年 7 月 13 日
場 所 ソイジョイ武道館

順 位	男 子	女 子
優 勝	徳 島 中 学 校	徳 島 中 学 校
準 優 勝	那 賀 川 中 学 校	小 松 島 中 学 校
第 3 位	鷲 敷 中 学 校	南 部 中 学 校
第 3 位	徳 島 文 理 中 学 校	那 賀 川 中 学 校

［男子決勝］

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗	代表戦
徳島中	川添	篠原	坂本	西尾	中岡	3/2	中岡
	▲メ メ	▲	✕		メ		メ
那賀川中		メ	✕	ド メ ▲	▲	3/2	
	鹿島	阿井	柏原	河田	西岡		西岡

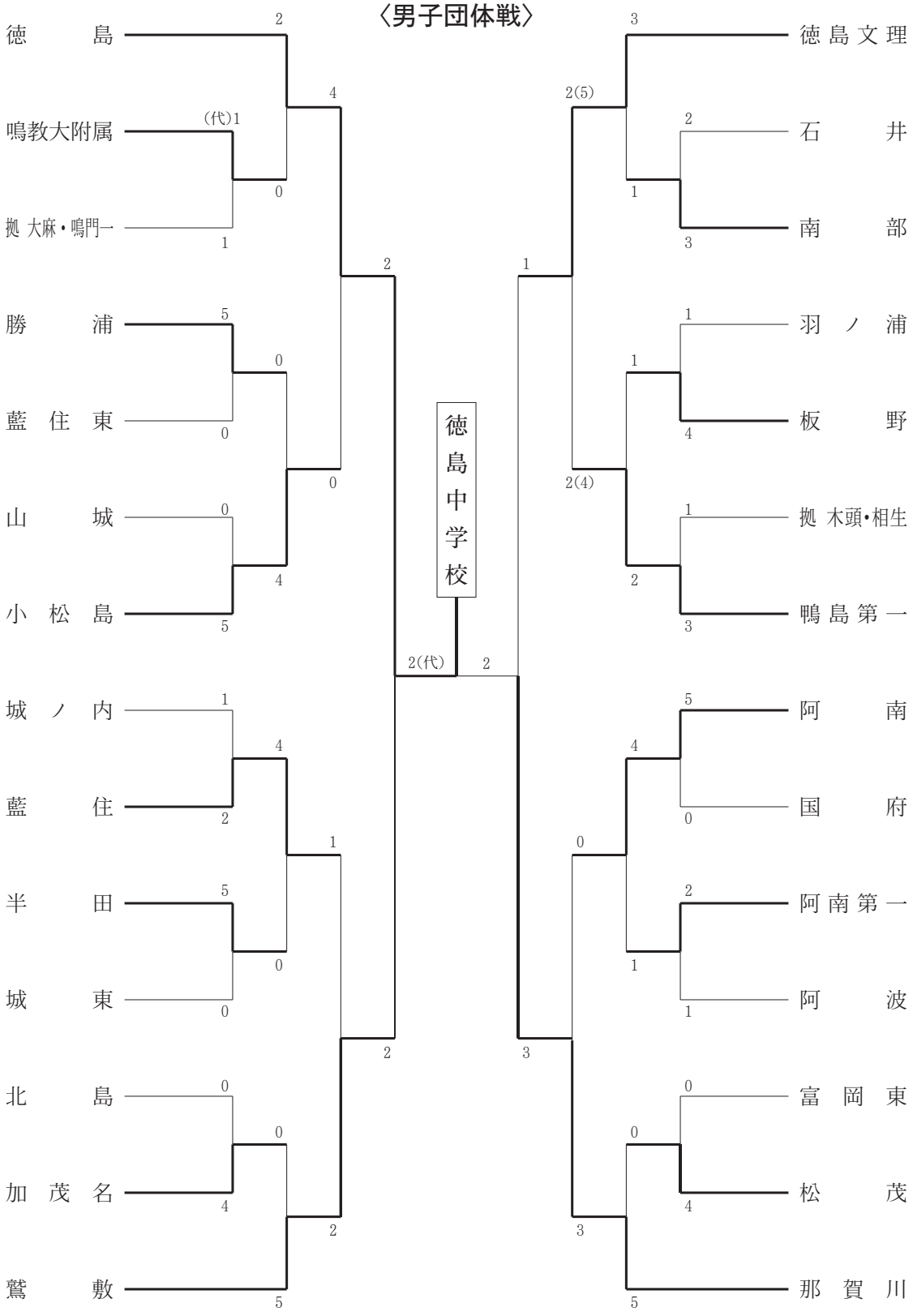
［女子決勝］

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗	代表戦
徳島中	茨木	清水	大原	坂東	橋本	5/3	
	メ コ	メ コ	メ	✕	✕		
小松島中	ド			▲	✕	1/0	
	増尾	鈴木	園田	澤口	桑田		

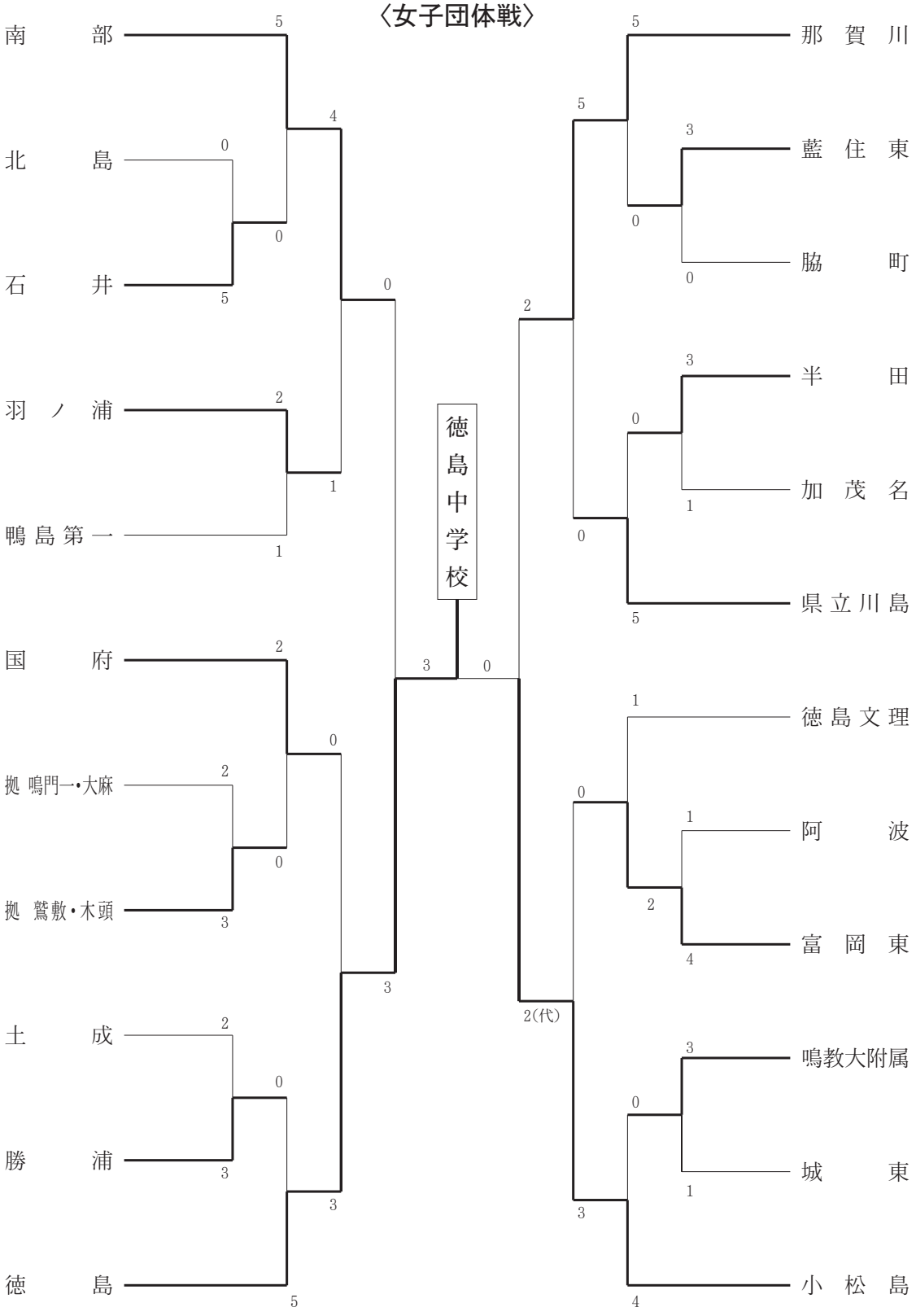
【 個 人 戦 】

順 位	男 子	学校名	女 子	学校名
優 勝	坂 井 蓮	徳島文理	多 川 寧 音	南 部
準 優 勝	中 岡	徳 島	橋 本	徳 島
第 3 位	大 和	徳島文理	山ノ井	那 賀 川
第 3 位	福 永	鷲 敷	茨 木	徳 島

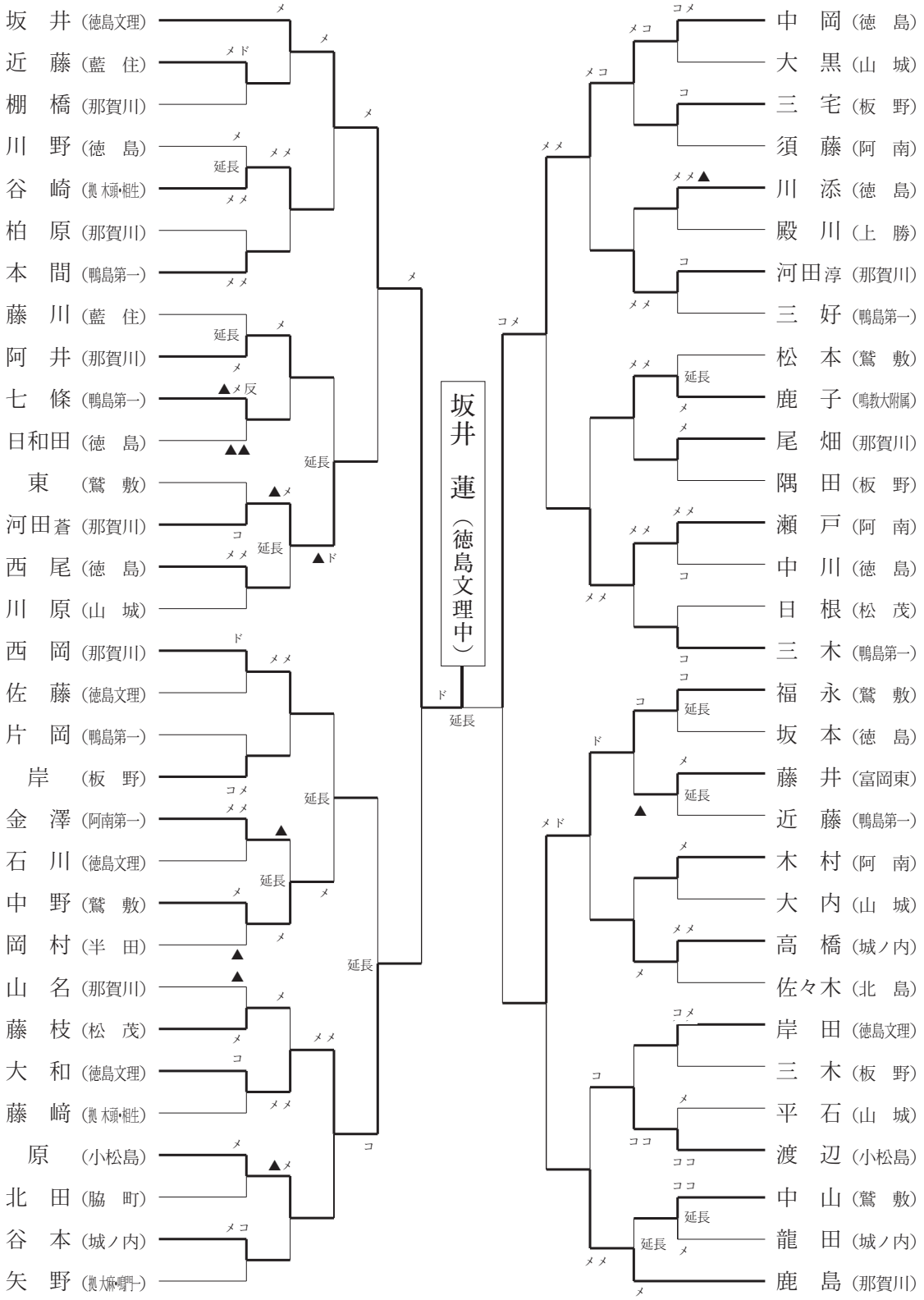
〈男子団体戦〉


徳島
鳴教大附属
拠 大麻・鳴門一
勝浦
藍住東
山城
小松島
城ノ内
藍住
半田
城東
北島
加茂名
鷲敷
徳島文理
石井
南部
羽ノ浦
板野
拠 木頭・相生
鴨島第一
阿南
国府
阿南第一
阿波
富岡東
松茂
那賀川
徳島中学校

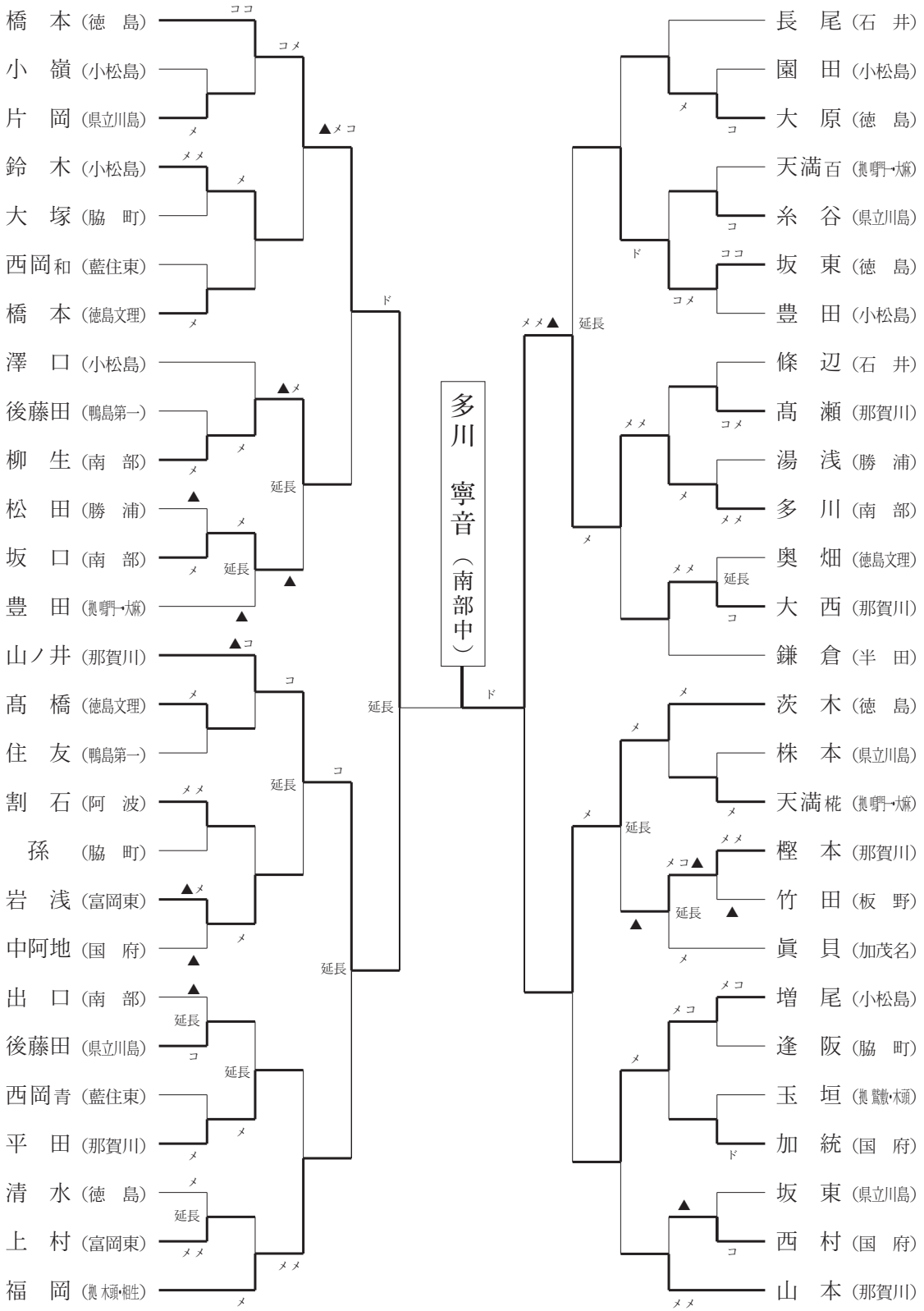
〈女子団体戦〉


南部
北島
石井
羽ノ浦
鴨島第一
国府
拠 鳴門一・大麻
拠 鷲敷・木頭
土成
勝浦
徳島
那賀川
藍住東
脇町
半田
加茂名
県立川島
徳島文理
阿波
富岡東
鳴教大附属
城東
小松島
徳島中学校
2(代)

個人戦〈男子〉


坂井 蓮（徳島文理中）
坂 井（徳島文理）
近 藤（藍 住）
棚 橋（那賀川）
川 野（徳 島）
谷 崎（眉 木頭・樫 性）
柏 原（那賀川）
本 間（鴨島第一）
藤 川（藍 住）
阿 井（那賀川）
七 條（鴨島第一）
日和田（徳 島）
東（鷲 敷）
河田蒼（那賀川）
西 尾（徳 島）
川 原（山 城）
西 岡（那賀川）
佐 藤（徳島文理）
片 岡（鴨島第一）
岸（板 野）
金 澤（阿南第一）
石 川（徳島文理）
中 野（鷲 敷）
岡 村（半 田）
山 名（那賀川）
藤 枝（松 茂）
大 和（徳島文理）
藤 崎（眉 木頭・樫 性）
原（小松島）
北 田（脇 町）
谷 本（城ノ内）
矢 野（眉 木岐・嚼 一）
中 岡（徳 島）
大 黒（山 城）
三 宅（板 野）
須 藤（阿 南）
川 添（徳 島）
殿 川（上 勝）
河田淳（那賀川）
三 好（鴨島第一）
松 本（鷲 敷）
鹿 子（鳴教大附属）
尾 畑（那賀川）
隅 田（板 野）
瀬 戸（阿 南）
中 川（徳 島）
日 根（松 茂）
三 木（鴨島第一）
福 永（鷲 敷）
坂 本（徳 島）
藤 井（富岡東）
近 藤（鴨島第一）
木 村（阿 南）
大 内（山 城）
高 橋（城ノ内）
佐々木（北 島）
岸 田（徳島文理）
三 木（板 野）
平 石（山 城）
渡 辺（小松島）
中 山（鷲 敷）
龍 田（城ノ内）
鹿 島（那賀川）

個人戦〈女子〉


橋　本（徳　島）
小　嶺（小松島）
片　岡（県立川島）
鈴　木（小松島）
大　塚（脇　町）
西岡和（藍住東）
橋　本（徳島文理）
澤　口（小松島）
後藤田（鴨島第一）
柳　生（南　部）
松　田（勝　浦）
坂　口（南　部）
豊　田（眞剪┣煬）
山ノ井（那賀川）
髙　橋（徳島文理）
住　友（鴨島第一）
割　石（阿　波）
孫　（脇　町）
岩　浅（富岡東）
中阿地（国　府）
出　口（南　部）
後藤田（県立川島）
西岡青（藍住東）
平　田（那賀川）
清　水（徳　島）
上　村（富岡東）
福　岡（眞木頑･樋生）
長　尾（石　井）
園　田（小松島）
大　原（徳　島）
天満百（眞剪┣煬）
糸　谷（県立川島）
坂　東（徳　島）
豊　田（小松島）
條　辺（石　井）
髙　瀬（那賀川）
湯　浅（勝　浦）
多　川（南　部）
奥　畑（徳島文理）
大　西（那賀川）
鎌　倉（半　田）
茨　木（徳　島）
株　本（県立川島）
天満椛（眞剪┣煬）
樫　本（那賀川）
竹　田（板　野）
眞　貝（加茂名）
増　尾（小松島）
逢　阪（脇　町）
玉　垣（眞鷺･木頑）
加　統（国　府）
坂　東（県立川島）
西　村（国　府）
山　本（那賀川）
多川　寧音（南部中）

第３回 徳島剣少年剣道選手権大会

日　時　令和６年７月28日(日)
場　所　ソイジョイ武道館

１・２年生の部

優勝	準優勝	三位	三位
岩浅　晴	山出育弥	岩田蒼介	中川照大
徳島剣清塾	鴨島少年剣道教室	渭東少年剣道教室	徳島少年剣道教室

３・４年生の部

優勝	準優勝	三位	三位
野村拓未	高野里絆	武内菜奈	大野紗奈
徳島剣清塾	徳島剣清塾	日亜錬心塾	市場剣道教室

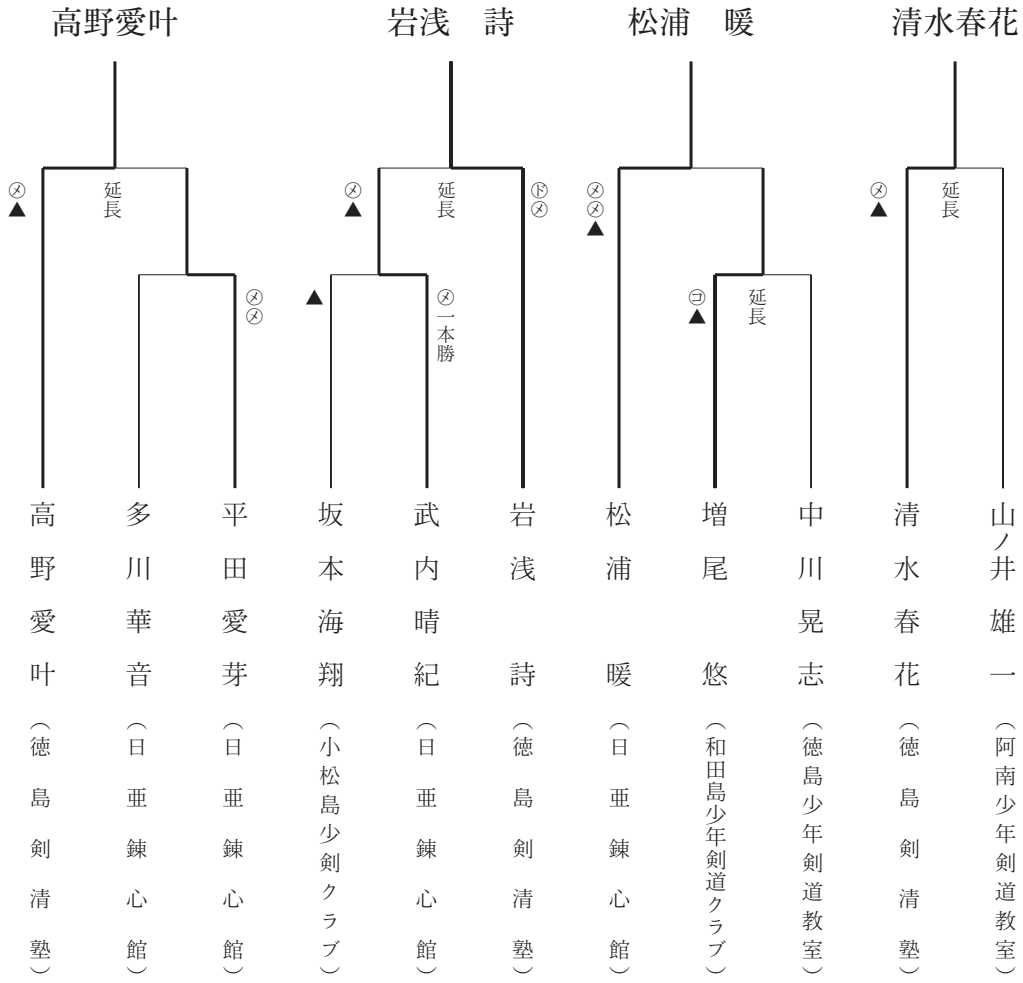
５年生の部

優勝	準優勝	三位	三位
岩浅　詩	清水春花	増尾　悠	多川華音
徳島剣清塾	徳島剣清塾	和田島少年剣道クラブ	日亜錬心塾

６年生の部

優勝	準優勝	三位	三位
宮武颯詩	高野愛叶	山ノ井雄一朗	松浦　暖
徳島至誠館	日亜錬心塾	阿南少年剣道教室	日亜錬心塾

第19回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会　県予選会



＊上記予選会で選出の 4 名と第 3 回徳島県少年剣道選手権大会 6 年生部門優勝者の**宮武颯詩（徳島至誠館）**を合わせた 5 名が、徳島県代表選手として 9 月15日大阪府で開催される第19回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会に出場する。（詳細はp88）

第55回　徳島県少年剣道錬成大会

予選リーグ（団 体 戦）

日　時　令和６年11月４日(日)
場　所　ソイジョイ武道館

A

A	徳島剣清塾	藍住剣道スポーツ少年団	大麻錬成館	東みよし淳志館	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
徳島剣清塾		(8/5)	(7/4)	(10/5)	3	14	25	3	1
藍住剣道スポーツ少年団	△0/0		△2/1	(8/4)	1	5	#	1	3
大麻錬成館	△0/0	(4/2)		(7/4)	2	6	11	2	2
東みよし淳志館	△0/0	△1/1	△2/1		0	2	3	0	4

B

B	和田島少年剣道クラブ	鳴門少年剣道教室	松紀和会道場	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
和田島少年剣道クラブ		(8/4)	(8/5)	2	9	16	2	1
鳴門少年剣道教室	△0/0		△2/1	0	1	2	0	3
松紀和会道場	△0/0	(2/2)		1	2	2	1	2

C

C	鴨島少年剣道教室	相生龍虎館	加茂名少年剣道教室	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
鴨島少年剣道教室		(6/3)	(9/5)	2	8	15	2	1
相生龍虎館	△0/0		(2/2)	1	2	2	1	2
加茂名少年剣道教室	△1/0	△2/1		0	1	3	0	3

D

D	徳島少年剣道教室	吉野川少年剣道教室	徳島至誠館	北井上・海部川・新野	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
徳島少年剣道教室		△0/0	△0/0	(4/2)	1	2	4	1	3
吉野川少年剣道教室	(9/5)		(3/2)	(8/4)	3	11	20	3	1
徳島至誠館	(2/1)	△1/1		(5/2)	2	4	8	2	2
北井上海部川・新野	△0/0	△1/0	△4/2		0	2	5	0	0

E

E	阿南少年剣道教室	誠武館道場	市場剣道教室	渭東少年剣道教室	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
阿南少年剣道教室		△2/1	△2/2	(8/4)	1	7	12	1	3
誠武館道場	(7/4)		(5/3)	(6/4)	3	11	18	3	1
市場剣道教室	(3/2)	△1/0		(3/2)	2	4	7	2	2
渭東少年剣道教室	△0/0	△0/0	△0/0		0	0	0	0	4

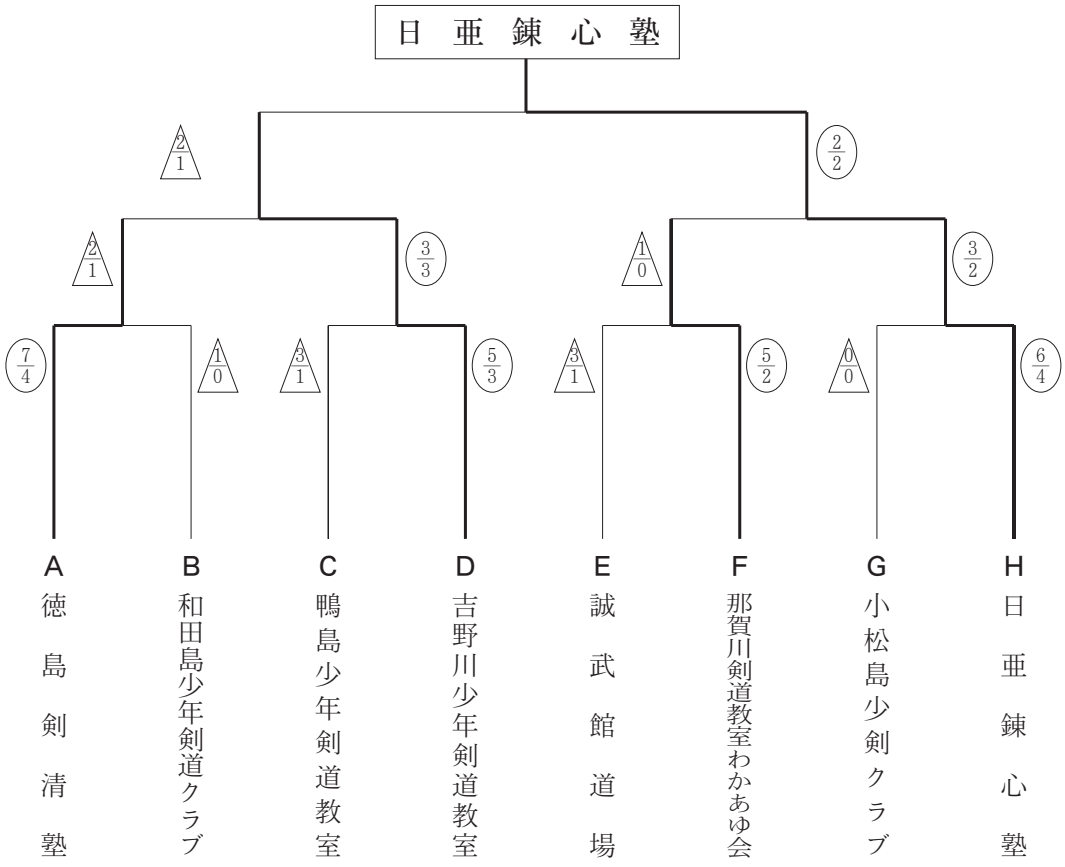
F

F	石井少年剣道クラブ	那賀川少年剣道教室わかあゆ会	松茂少年剣道教室	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
石井少年剣道クラブ		△3/1	(6/3)	1	3	7	1	2
那賀川少年剣道教室わかあゆ会	(9/4)		(10/5)	2	9	19	2	1
松茂少年剣道教室	△2/1	△0/0		0	1	2	0	3

G	鷲敷振武館	佐古少年剣道クラブ	小松島少剣クラブ	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
鷲敷振武館		△3/1	3/2	0	3	6	0.5	3
佐古少年剣道クラブ	(7/3)		△4/2	1	5	11	1.0	2
小松島少剣クラブ	3/2	(6/3)		1	5	9	1.5	1

H	日亜錬心塾	鳴門市光武館道場	大野小学校剣道部	山川スポーツ少年団修錬館	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
日亜錬心塾		(10/5)	△4/2	(9/5)	3	12	23	3	1
鳴門市光武館道場	△1/0		△2/1	△2/1	0	2	5	0	4
大野小学校剣道部	△0/0	(3/2)		△0/0	1	2	3	1	3
山川スポーツ少年団修錬館	△1/0	(3/2)	(2/2)		2	4	6	2	2

決勝トーナメント



準　決　勝　戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
徳島剣清塾	清水	高橋	岩佐	水口	高野		2/1
		㋻㋮					
吉野川少年剣道教室	一本勝㋻		一本勝㋮	一本勝㋮			3/3
	石井	仲野	佐藤叶	佐藤心	金山		

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
那賀川剣道教室わかあゆ会	仁志	大松谷	桑原	澤野	大西		1/0
				㋮			
日亜錬心館	一本勝㋮	▲	一本勝㋻	㋷			3/2
	平田	武内	羽坂	多川	松浦		

決　　勝　　戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
吉野川少年剣道教室	石井	仲野	佐藤叶	佐藤心	金山		2/1
			㋻㋻				
日亜錬心館				一本勝㋮	㋮一本▲勝		2/2
	平田	武内	羽坂	多川	松浦		

優　勝　日　亜　錬　心　塾

準優勝　吉野川少年剣道教室

第３位　那賀川剣道教室わかあゆ会

第３位　徳　島　剣　清　塾

第76回 四国四県剣道大会

日　時　令和６年５月19日(日)
場　所　ソイジョイ武道館

	香　川	愛　媛	高　知	徳　島	勝　数	勝者数	勝本数	順　位
香　川		6/5	6/5	7/5	2	15	19	2
愛　媛	12/6		17/8	7/3	2	17	36	1
高　知	2/2	5/2		9/5	1	9	16	4
徳　島	5/4	10/7	7/3		1	14	22	3

優勝	愛媛県剣道連盟
準優勝	香川県剣道連盟
第３位	徳島県剣道連盟
第４位	高知県剣道連盟

県名	順位	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	中堅	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
香川県	氏名	二神	藤原	河村	稲垣	林田	森本	井尻	今西	小川	安部	岡西	坂口	美濃	山内	玉浦	7/5
	取得部位								㊋㊋		㊐一本勝	㊋㊇	㊐一本勝		㊐一本勝		
徳島県	取得部位					一本勝㊋		㊇㊋		一本勝㊋		▲		一本勝㊐			5/4
	氏名	川田	長谷川	塚原	山室	濱田	浅田	玉井	玉田	六條	江口	日和田	山室	鳴川	吉田	平野	

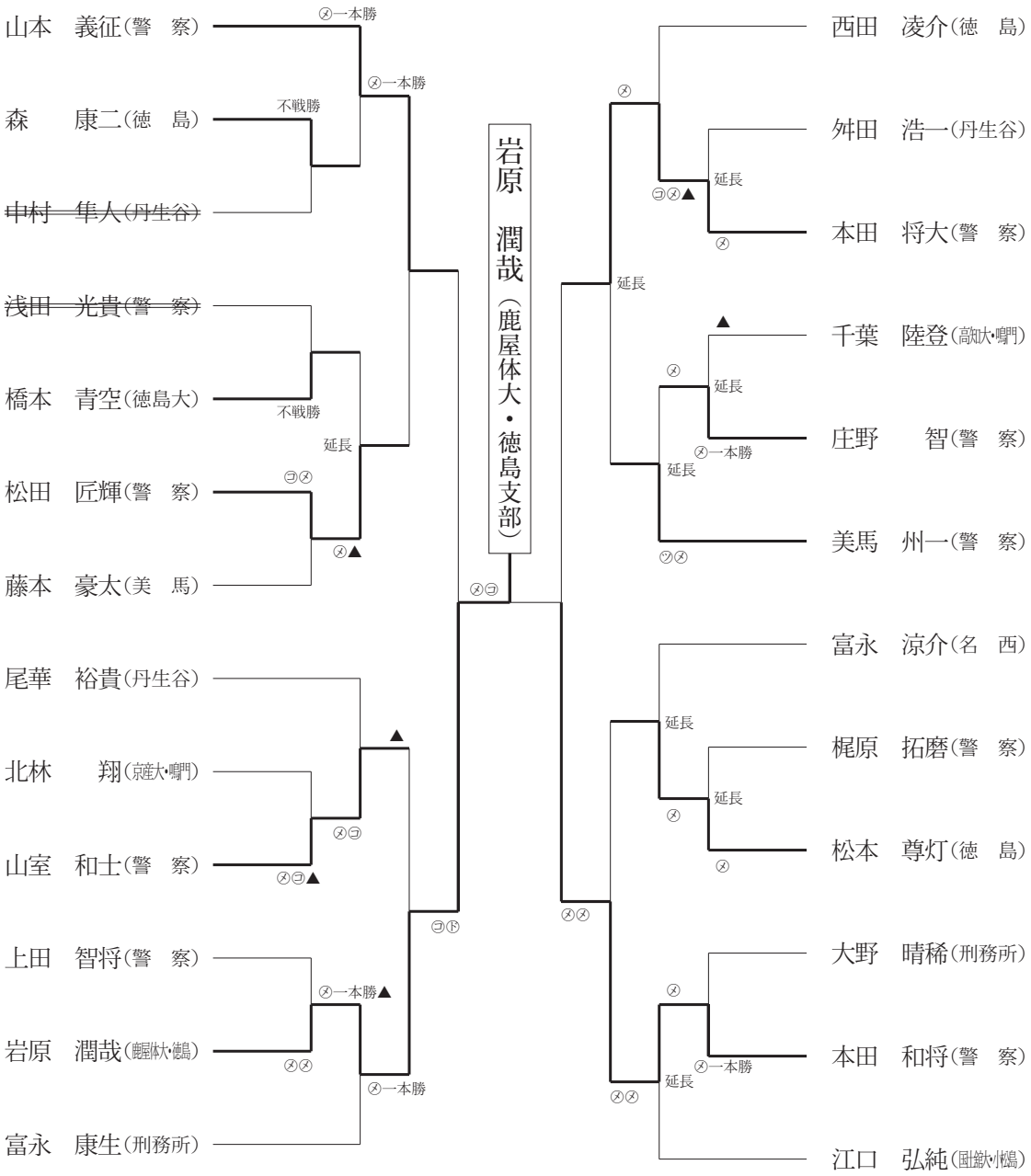
県名	順位	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	中堅	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
愛媛県	氏名	岩中	田中	川野	伊藤	竹内	竹政	花田	菅	白石	客野	片上	日野	井上	山﨑	久保田	7 3
	取得部位			㋕					▲		㋮一本勝	㋮㋮		㋮㋮		㋮	
徳島県	取得部位			㋮㋮			一本勝㋮		一本勝㋮	一本勝㋮			一本勝㋕		㋕㋒	㋮㋒	10 7
	氏名	川田	長谷川	塚原	山室	濱田	浅田	玉井	玉田	六條	江口	日和田	山室	鳴川	吉田	平野	

県名	順位	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	中堅	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
高知県	氏名	森岡	津野	松本	原	藤原	川澤	坂本	櫻木	西山	石川	髙木	山下	小野	山﨑	森岡	9 5
	取得部位	㋮一本勝		㋮㋮				㋬㋬		㋮㋬	㋬一本勝	▲	㋬				
徳島県	取得部位				㋮㋮								㋕		㋮㋮	㋬㋕	7 3
	氏名	川田	長谷川	塚原	山室	濱田	浅田	玉井	玉田	六條	江口	日和田	山室	鳴川	吉田	平野	

第36回 徳島県剣道選手権大会並びに 第72回 全日本剣道選手権大会県予選会

優　　勝　岩　原　潤　哉　（鹿屋体大・徳島支部）
準 優 勝　本　田　和　将　（警察支部）
第 三 位　山　本　義　征　（警察支部）
第 三 位　本　田　将　大　（警察支部）

日　時　令和6年8月25日(日)
場　所　ソイジョイ武道館



第27回 徳島県女子剣道選手権大会並びに
第63回 全日本女子選手権大会県予選会

優　　勝　岩　原　千　佳　（筑波大・徳島支部）
準 優 勝　河　野　菜々子　（日体大・阿南支部）
第 三 位　横　山　　舞　（富岡東高校）
第 三 位　福　岡　　詩　（富岡東高校）

日　時　令和6年8月25日(日)
場　所　ソイジョイ武道館

第51回 徳島県社会人剣道大会

予選リーグ

日 時 令和6年9月15日
場 所 ソイジョイ武道館

A	北井上剣道教室	蔵本剣道倶楽部鷹	三好A	小松島D	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
北井上剣道教室		(8/4)	(3/3)	△3/1	2	8	14	2	2
蔵本剣道倶楽部鷹	△1/1		△1/1	△0/0	0	2	2	0	4
三好A	△1/1	(7/4)		△1/0	1	25	9	1	3
小松島D	(4/2)	(5/3)	(3/1)		3	6	12	3	1

B	小松島立江	徳島支部A	阿南支部	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
小松島立江		(7/3)	△2/1	1	4	9	1	2
徳島支部A	△3/1		△1/0	0	1	4	0	3
阿南支部	(6/3)	(6/3)		2	6	12	2	1

C	小松島和田島	美馬支部A	阿波市A	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
小松島和田島		(8/5)	(5/3)	2	8	13	2	1
美馬支部A	△0/0		△1/0	0	0	1	0	3
阿波市A	△1/0	(3/1)		1	1	4	1	2

D	鷲敷振武館	小松島A	三好B	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
鷲敷振武館		△2/1	(10/5)	1	6	12	1	2
小松島A	(2/2)		(10/5)	2	7	12	2	1
三好B	△0/0	△0/0		0	0	0	0	3

E	徳島支部A	阿南支部羽ノ浦	阿波市A	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
徳島支部A		(6/3)	(3/2)	2	5	9	2	1
阿南支部羽ノ浦	△1/1		△1/1	0	2	2	0	3
阿波市A	△3/1	(6/3)		1	4	9	1	2

F	蔵本剣道倶楽部鷲	海部支部	小松島B	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
蔵本剣道倶楽部鷲		(6/2)	(3/2)	2	4	9	2	1
海部支部	△3/1		△3/2	0	3	6	0	3
小松島B	△1/1	(5/2)		1	3	6	1	2

予選リーグ

G	名西	麻植支部	美馬支部B	小松島C	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
名西		○5/3	○5/4	○6/3	3	10	16	3	1
麻植支部	△1/1		○3/3	△0/0	1	4	4	1	3
美馬支部B	△0/0	△1/1		△0/0	0	1	1	0	4
小松島C	△3/2	○5/3	○3/2		2	7	11	2	2

準決勝戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
小松島D	谷口 ㋮▲	高木勝 ㋭㋮	堀田 ㋭	鳴川 ㋮一本勝	高木壽		○5/2
小松島和田島	岩田 ㋮	上田	原 ㋭	園田	田村		△2/0

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
小松島A	福崎	正村	上田	有松 ㋭㋆	青木		△2/1
名西	西條	岩本	宮本 ㋮一本勝	柏木	白木 ㋮㋮		○3/2

決勝戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
小松島D	谷口	高木勝 ㋆一本勝	堀田 ▲	鳴川 ㋮一本勝	高木壽	堀田	△2/2
名西	西條 ㋮一本勝	岩本	宮本 ▲	柏木	白木 ㋮一本勝	宮本 ㋮	△2/2

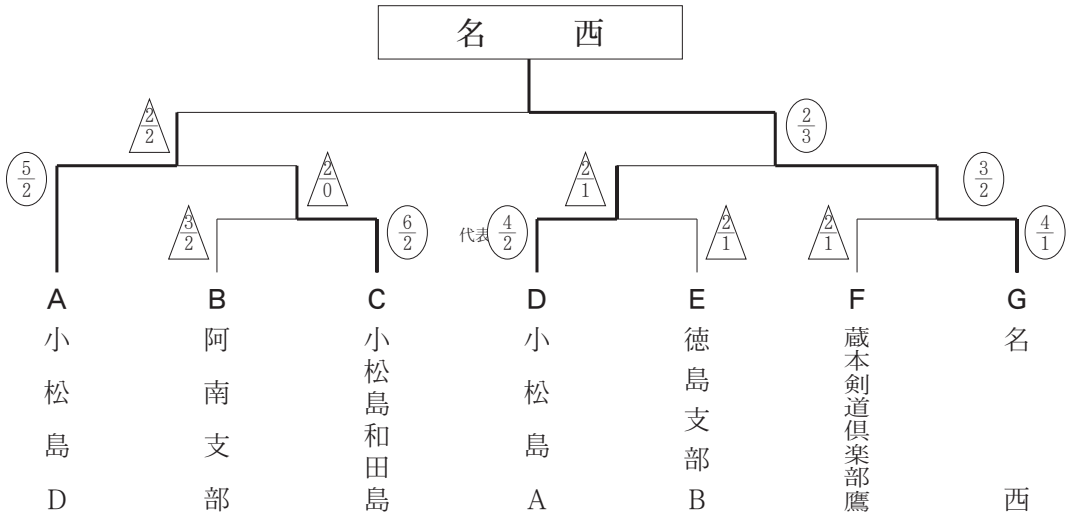
優勝　名西

準優勝　小松島D

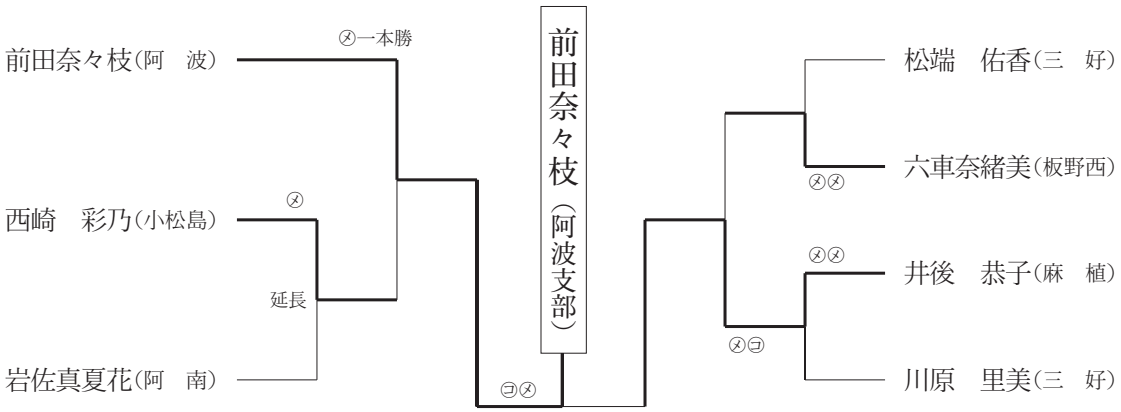
第3位　小松島A

第3位　小松島和田島

決勝トーナメント



〈女子個人戦〉



優　　勝　前　田　奈々枝　（阿波支部）

準 優 勝　井　後　恭　子　（麻植支部）

第 三 位　西　崎　彩　乃　（小松島支部）

第 三 位　六　車　奈緒美　（鳴門支部）

徳島新聞に見る戦いの跡

2024年(令和6年)5月12日 日曜E

南部女子 初優勝

徳島男子 3度目頂点

剣道

県中学選手権

剣道の第53回徳島県中学校選手権は11日、鳴門ソイジョイ武道館で男子24チーム、女子20チームが参加して団体戦が行われた。女子は南部が初優勝し、男子は徳島が2年連続3度目の頂点に立った。

【男子】1回戦 加茂名4―1鷲住、松茂3―2園瀬、富岡東1（本数勝ち）北島、山城3―1半田、勝浦4―0阿波、鳴教大付2（本数勝ち）2大麻・鳴門一、阿南5―0羽ノ浦、木頭・相生4―1石井▽2回戦 那賀4―1○坂本 西尾 ―メ 中岡 ―メ 西岡 小松島3―2松茂、鴨島―3―2園瀬東、鷲敷5―0山城、徳島文理3―0勝浦・城ノ内2（本数勝ち）2鳴教大付、阿南3―1坂野、徳島3―0木頭・相生▽準々決勝 那賀3―1小松島、鷲敷4―1鴨島一、徳島文理2（本数勝ち）2城ノ内、徳島3―0阿南▽準決勝 那賀3―1鷲敷、徳島3―1徳島文理▽決勝 徳島 2―1 那賀 ○川添 メメ 篠原 コメ 柏原 ―メ 阿井 ○坂本 コー 河田○

【女子】1回戦 鷲住東2（本数勝ち）2半田、鳴門一・大麻2―1阿波、勝浦4―0城東、土成―1鳴教大付▽2回戦 徳島5―0羽ノ浦、鷲住東、国府3―0羽ノ浦、鴨島2―0鷲敷・木頭、小松島4―0鳴門一・大麻、那賀5―0勝浦、徳島文理2（本数勝ち）2北島、県立川島2―1鳴門一・大麻、県立川島2―1鳴門東、南部5―0土成▽準々決勝 徳島5―0国府、小松島3―1鴨島一、那賀4―0徳島文理、南部5―0県立川島▽準決勝 小松島3―2徳島、南部1―0那賀▽決勝 南部 2―1 小松島 ○出口 ―メ 増尾 ○柳生 メド 豊田 坂口 ―メ 桑田 山本 ―メ 澤口○ 園田 ○多川 メメ

女子団体決勝・小松島対南部 メンを決める南部の大将・多川（右）＝鳴門ソイジョイ武道館（張未波撮影）

つなぐ意識で団結 南部

1―1で迎えた女子の大将戦。南部は技の取得本数では1本リードしていた。多川主将はさらに優位に立とうと気迫のこもった攻めを続けたが、焦りから逆に相手にメンを先取され、本数で並ばれてしまう。

それでも「自分が勝つ」と強い気持ちを持ち続けた。冷静に相手の動きを見極め、そこから得意のメンを連取。初の頂点が懸かった大一番に競り勝ち「プレッシャーもあったが、稽古の成果が出せた」と笑った。

出場した南部の5人は多川の父が指導者を務める市内の剣道教室の出身だ。全員2年生ながら、小学生の頃から切磋琢磨（せっさたくま）してきた間柄だけに、誰かが星を落としてもカバーし合おうという「つなぐ」意識は他校に負けないと自負する。

決勝前に円陣を組んで「ベストを出そう」と仲間に声を掛けた多川は「県総体もチーム一丸となって戦う」と力を込めた。

（越智浩子）

ライバルに雪辱

○…2年連続同一カードとなった男子決勝は、徳島が2年ぶりの王座返り咲きを狙う那賀川を退けた。

先鋒（せんぽう）・川添がつばぜり合いから引き

男子団体決勝・那賀川対徳島 果敢に攻める徳島の中堅・坂本（右）

メンを打ち込んで先勝し流れをつくった。中堅坂本は「体が勝手に動いた」と自分から動いて相手の隙を狙い、得意のコテでヤマ場の集中力と自信を培った。中岡主将は「相手が大将戦で中岡が引き分けて逃げ切った。昨年11月の県新人戦はことができた。2連覇できて良かった」と喜んだ。準決勝でライバルに屈した「気持ちで負けた」と反省し、毎日休まず何本も素振りを繰り返して1本勝ち。副将戦は敗れたが大将戦で中岡が引き

徳島新聞　2024年（令和6年）6月2日　日曜日

第64回徳島県高校総合体育大会（県教委、県高体連主催、徳島新聞社など後援）の第２日は１日、各地で26競技が行われた。柔道男子は阿波が11大会連続24度目、女子は生光学園が４大会連続５度目の優勝。剣道男子は城北が２大会連続７度目、女子は富岡東が10大会連続38度目の栄冠を手にした。空手道男子は城南が８大会ぶり４度目、女子は小松島西が２大会連続10度目の頂点に立った。テニス男子は城南が21大会連続26度目、女子は徳島商が７大会連続15度目の王座。レスリングはつるぎ男子が２大会連続２度目の制覇。重量挙げ男子は徳島科技が２大会連続８度目、女子は鳴門渦潮が２大会連続２度目の優勝を果たした。ライフル射撃ビームライフル女子は小松島西勝浦が６大会ぶり２度目のV。カヌーは那賀男子が25連覇した。フェンシングは城ノ内、アーチェリーは徳島科技、ローイングは徳島市立の各男女勢、なぎなたは鳴門女子が個人で争い、少林寺拳法も個人種目が行われた。第３日の２日は水泳、ホッケーなど23競技が行われる。

第64回 県高校総体 第２日

城北 ２大会連続優勝

富岡東 38度目の女王

剣道

（とくぎんトモニアリーナ那賀）

【男子】団体１回戦 富岡西４―０城東、川島２―１城ノ内、徳島市立３―１徳島北、徳島科技５―０池田▽準々決勝 城北１（本数勝ち）１富岡西、鳴門渦潮４―１川島、徳島文理２―１徳島市立、阿南光３―１徳島科技▽準決勝 城北４―０鳴門渦潮、阿南光１―０徳島文理▽順位決定戦 徳島文理２―１鳴門渦潮▽決勝

城北 1 1 阿南光
○多田 メ 岩本○
渡邉 メ 和泉○
橋本 山下
蔵本 西岡
篠原 玉垣

○篠原 コ 玉垣

【女子】団体１回戦 阿波１―０脇町、富岡西 不戦勝 城ノ内▽準々決勝 富岡東５―０阿波、阿南光２―０川島、徳島文理３―０徳島市立、城北２―１富岡西▽準決勝 富岡東２―０阿南光、城北２―１徳島文理▽順位決定戦 徳島文理２―１阿南光▽決勝

富岡東 3 0 城北
○森長 コ 赤池
福岡 小椋○
横山 佐藤
○山崎 メ 國見
○中村ツ メ 近藤

集中力保ち代表戦制す

城北

息詰まる攻防に終止符を打ったのは、篠原が打った鋭いコテだった。男子団体で代表戦までもつれ込んだ熱戦を制した城北。２年連続で勝ち名乗りを受けた。

幸先は良かった。「絶対に勝ってチームを波に乗せる」とチーム唯一の２年で先鋒（せんぽう）の多田が開始約30秒でメンを奪い１本勝ち。しかし次鋒・渡邉が１本負けを喫してしまう。ここから中堅、副将、大将が引き分ける我慢の展開となり、勝負は代表戦に託された。

現チームが初めて経験する代表戦で、選ばれたのは大将・篠原。「誰が行くかは決まってなかったけど、自分が出るつもりだった」。大将戦のときから代表戦も視野に入れ、無理な攻めはせず、確実に１本取れるところを狙っていたという。

代表戦も白熱した。４分で勝負がつかず、延長戦の２分30秒過ぎ、篠原が放った決め技のコテで決着がついた。篠原は「集中して疲れは感じなかった。仲間の顔を見てやる気が出た」と殊勲を振り返った。

昨年１勝もできなかった雪辱を期す全国総体が待つ。蔵本主将は「全国の悔しさを晴らせるのは全国しかない」。接戦をくぐり抜けた自信を竹刀に込める。（矢三芳宏）

男子団体決勝・城北対阿南光　代表戦を制した城北の篠原（右）＝とくぎんトモニアリーナ那賀（張未波撮影）

重圧はねのける

○：10連覇の富岡東女子。礼を終え戻ってきた選手は涙で抱き合い喜びを分かち合った。主将の中村は「プレッシャーがあったけど力は出し切れた」。

先鋒（せんぽう）の森長が「チームに勢いをつけたかった」と開始わずか数秒でコテを決め、そのまま１本勝ち。次鋒、中堅は引き分け、勝てば優勝が決まる副将戦に臨んだ山崎は強気に１本を奪い「大将まで回さない。自分で決めると思っていた」と振り返った。

大将戦も中村主将が気を緩めず２本勝ち。全国総体へ向け「攻め合うところでもっと稽古を積み、絶対日本一になる」と言い切った。

女子団体決勝・富岡東対城北　先鋒戦で激しく打ち合う富岡東の森長（左）（張未波撮影）

富岡東女子 14大会ぶり栄冠

剣道

(高知・南国市立スポーツセンター)

【男子】団体予選リーグA組③鳴門渦潮1勝2敗▽B組③城北1勝1分け1敗▽C組②阿南光1勝1分け1敗▽D組③徳島文理1勝2敗▽決勝　星槎国際3―1新田星槎国際は初優勝。

【女子】団体予選リーグA組④阿南光3敗▽B組①富岡東3勝▽C組②城北2勝1敗▽D組③徳島文理1勝2敗▽決勝トーナメント準決勝　富岡東2―0済美　福岡―樋口　○伊藤　メコー　若松　中村―宇和川　○森長　メメーメ　増田　横山―吉井　富岡東2―1高松商

富岡東は14大会ぶり14度目の優勝。

14大会ぶりに優勝旗を手にした剣道女子の富岡東（提供写真）

3年生冷静な試合運び

1年伊藤が、白木監督から先鋒（せんぽう）起用を伝えられたのは、試合当日の朝だった。

「常に本番を想定して練習しているので緊張はしなかった」と伊藤。開始30秒はじっと相手の出方を探り、得意の飛び込みメンとコテで白星。「絶対勝って先鞭につなげたかった」。富岡東女子の14大会ぶりの頂点へ、堂々と口火を切った。

決勝メンバーの他の4人は今夏が最後となる3年生。次鋒森長は引きメンで先行されたが慌てなかった。相手を懐深く引き込み、メンを連取。鮮やかな逆転勝ちで「次鋒次第で流れが変わる。役割を果たせてよかった」と汗を拭った。

勝負を決めたのは4番目に登場の副将福岡だ。この時点で富岡東の2勝1分け。「勝ちがない相手は前に出てくるしかない」と読んでいた。自分から攻めていく積極派だが、相手の攻撃をいなしながら冷静に試合を運び、価値ある引き分けに持ち込んだ。

昨年は代表戦の末、優勝を逃しただけに喜びもひとしお。ルーキーの勢いと3年生の落ち着きがかみ合った栄冠に、福岡は「いい感じで全国総体に臨める」と終始笑顔だった。

（平尾貴宏）

2024年(令和6年)7月14日　日曜日

徳島 男女とも制す

剣道

（鳴門ソイジョイ武道館）

【男子】団体1回戦 鳴教大付1（代表勝ち）1（拠）大麻・鳴門一、勝浦5―0藍住東、小松島5―0山城、藍住2―1城ノ内、半田5―0城東、加茂名4―0北島、南部3―2石井、板野4―1羽ノ浦、鴨島1―3―1（拠）木頭▽準々決勝 徳島4―0小松島、鷲敷2―1藍住、徳島文理2（本数勝ち）2鴨島一、那賀川3―0阿南▽準決勝 徳島2（代表勝ち）2鷲敷、那賀川3―1徳島文理

女子団体決勝・徳島対小松島　先鋒戦で積極的に攻める徳島の茨木（右）＝鳴門ソイジョイ武道館（山田旬撮影）

前回決勝の雪辱果たす 女子

昨年の県総体と同じメンバーで臨んだ徳島が、5年ぶりに女王の座をつかんだ。前回の決勝で敗れた小松島と再び決勝で対戦。3―0で快勝し、選手たちは「雪辱を果たせた」と目を赤くはらして喜んだ。

先鋒（せんぽう）の茨木の攻めの意識が流れを引き寄せた。序盤でドウを先行されても焦らない。直後、相手が受け身になった隙を逃さず、得意の飛び込みメンで追い付いた。終了間際には出ゴテを決めて逆転し先勝した。

茨木の勝利が昨年敗れた次鋒清水、中堅大原の気持ちを軽くした。清水が開始1分以内に2本勝ちを収め、優勝に王手を懸けると、続く大原が開始30秒でメンを打ち込みそのまま逃げ切った。大原は「前の2人の勝利で落ち着いて臨めた」と振り返った。

5人は昨年の敗戦の悔しさをばねに、心技を鍛え直した。昨年11月の県新人大会は優勝、5月の県選手権はベスト4と結果を出した。さらに全国大会での戦いを見据え、県外遠征で格上相手に実戦も積んだ。その結果、優勝決定後も副将坂東、大将橋本と気を緩めることなく戦い抜いた。それでも橋本主将は「最後まで強い気持ちで臨めるよう、もう一度鍛え直す」と、表情を引き締め直した。

（南志郎）

2鷲敷、那賀川3―1徳島文理▽決勝 徳島2―2那賀川（代表勝ち）○川添 メメー 鹿島×坂本 篠原 ―メ 阿井○西尾 ―ドメ 柏原○中岡 メー 河田○▽代表戦 ○中岡 メー 西岡×【女子】団体1回戦 石井5―0北島、（拠）鷲敷・木頭3―2（拠）鳴門一・大麻、勝浦3―2土成、藍住東3―0脇町、半田3―1加茂名、富岡東4―1阿波、鳴教大付3―1城東▽2回戦 南部5―0石井、羽ノ浦2―1鴨島一、国府2―0（拠）鷲敷・木頭、徳島5―0勝浦、那賀川5―0藍住東、県立川島5―0半田、富岡東2―1徳島文理、小松島4―0羽ノ浦、徳島3―0国府、那賀川5―0県立川島、小松島3―0富岡東▽準決勝 徳島3―0南部、小松島2（代表勝ち）2那賀川

男子団体決勝・徳島対那賀川　代表戦で優勝を決めた徳島の中岡（右）

▽決勝 徳島3―0小松島 ○茨木 メコード 増尾 ○清水 メコー 鈴木 ○大原 メー 園田 ×坂東 ―ドウ 澤口 ×橋本 ―ドメ 桑田

エースが決める

○…徳島男子はエース中岡が勝負を決めた。1―2で迎えた大将戦終了間際。中岡はコテ狙いの相手より速く飛び込みメンを決めてタイに持ち込むと、代表戦も粘り強く攻めてメンを奪った。「全国に行きたい一心で攻めた」と表情を崩した。

チームは5月の県選手権で2連覇した勢いを持ち込んだ。「1本1本を確実に取る練習を続けてきた」という中岡に加え、先鋒（せんぽう）で勝利した川添も得意のメンで2本勝ちを収めて「練習の成果を出せた」。一方、次鋒戦から副将戦までは1本を取れず、中堅坂本は「攻勢を緩めない相手に押され、攻めきれなかった。全国では勝つ」と気持ちを切り替えた。

県高校総体 写真コンクール 上位8点紹介

青春の輝きこの一枚に

特選

「刹那」

徳島科技2年　桑原　杏奈

2024年(令和6年)7月21日 日曜日

輝く夏へ 挑む県勢

全国高校総体 あすから九州など

力結集 初の日本一狙う

剣道女子・富岡東

全国高校総合体育大会（インターハイ）が22日から8月20日にかけて北部九州4県（福岡、佐賀、長崎、大分）を舞台に開かれる。全国47都道府県の総体やブロック予選を勝ち抜いたチーム、選手が31競技で熱戦を繰り広げる。一部競技は北海道、福島、和歌山の3道県で行われる。徳島県からは30競技に489人（男子286人、女子203人）が出場。団体は、剣道女子の富岡東の躍進に期待がかかる。個人種目では陸上のトラック、フィールド、投てきのほか、重量挙げなどで上位入賞が見込まれる。注目チーム・選手の抱負や決意を紹介する。

インターハイで活躍が期待される富岡東女子剣道の選手たち＝同校（張未波撮影）

6月の四国高校選手権を14大会ぶりに制した剣道女子団体の富岡東。選手権初の日本一に総合力で挑む。

中村は1年秋の新人戦から大将を任されている。相手の動きや状況に応じてコテやメン、突きが打てる万能剣で、試合中も冷静な判断ができるのが強みだ。「中村が大将にいたら安心して戦える」と言われるほど仲間からの信頼は厚い。

技術のある福岡は先鋒（せんぽう）や思い切りの良さなどから次鋒を務めることが多かったものの、白木恒二郎監督に実直さや責任感を認められ、四国選手権では全試合で副将を担当。決勝でチームの優勝を決めた。「先に戦う仲間が負けても自分が取り返すという気持ちで臨む」とチームのために戦う気概を強調する。

中堅の横山は「好不調の波が少なく、ここ一番の集中力がある」（白木監督）。チームの勝敗を左右する重要なポジション。冷静に流れを引き寄せる役割を担う。

次鋒の森長は県総体と四国選手権で無敗だった白星の稼ぎ頭。上段の構えからカウンター攻撃を繰り出す。選手権の決勝で先鋒を務めた1年の伊藤は、相手に息をつく間を与えない連続攻撃で主導権を握る。

勝ち抜き方式ではなく勝敗数を競う団体戦は、エース以外の選手の奮起が欠かせない。選手たちは素振りや切り返しといった基本動作の反復練習や試合形式の稽古に励む。

8月4日からの本番を前に、中村主将は「チームの状態は良くなっている。各自が培ってきた練習の成果を発揮すれば夢はかなう」と力強く語った。（越智佑子）

インターハイに向けて練習に励む富岡東女子剣道の選手たち＝同校

2024年（令和6年）8月5日

女子団体予選リーグ・富岡東対中村学園女子　果敢な攻めで次鋒戦を制した富岡東の森長（左）＝大分市のレゾナック武道スポーツセンター（鈴江宗一郎撮影）

北部九州インターハイ

剣道（大分県レゾナック武道SC）

富岡東女子 予選敗退

【男子】個人1回戦
坪内優（長野）―玉垣一樹（久留米・阿南光）
向井崇章（三重・鈴鹿）―篠原嵩也（城北）

【女子】団体予選リーグKブロック
中村学園女（福岡）2―1富岡東
○川田メー伊藤
萩原―コ森長○
吉松―横山
○福岡コー―福岡中村
健大高崎（群馬）3―0富岡東
橋本―中村
○塩谷メメー伊藤
木村―森長
飯島ドーメ横山
○福田メコー福岡
○相田ココー中村
▽同予選リーグKブロック順位（1位は決勝トーナメント）③富岡東2敗

強豪校を崩せず

○…春の全国選抜大会に出場し、四国チャンピオンとして挑んだ剣道女子の富岡東だが、予選リーグ2敗で決勝トーナメント進出を逃した。中村主将は「全員が悔しい気持ちでいっぱい」と声を絞り出した。

1試合目の中村学園女（福岡）戦。先鋒（せんぽう）、副将、大将が敗れた。次鋒森長が上段の構えから積極的に攻めてコテで1本勝ちし、中堅横山も引き分けるなど粘ったが、副将福岡、大将中村は、インターハイ優勝経験もある強豪校の隙のない攻めに手こずり、崩しきれなかった。

続く健大高崎（群馬）戦も0―3で敗れ、中村主将は「惜しい場面もたくさんあったが、取り切れなかった」と話した。

2024年（令和6年）8月6日

剣道（大分県レゾナック武道SC）

中村（富岡東）8強

女子個人

（1位は決勝トーナメント）③城北2敗

【女子】個人1回戦
森長未来（富岡東）メー中瀬綾乃（鳥取・鳥取西）
▽2回戦
中村莉音（富岡東）メー大塚愛莉（三重・三重）
伊東萱コー森長未来（富岡東）
（東京・淑徳巣鴨）
▽3回戦
中村莉音（富岡東）コー藤田日心（大分・金沢）
▽4回戦
身吉里桜（大分・柳ケ浦）メー中村莉音（富岡東）

富岡東・中村莉音（女子剣道個人戦で6日の準々決勝に進出）「先の団体戦で敗れた悔しさをばねに、チーム全員の思いを乗せて臨んだ。インターハイで日本一になるという夢を絶対に叶えられるように頑張る」

城北・藏本望海主将（昨年優勝の九州学院に逆転負け）「相手の攻撃に気後れしてしまうところもあった。強豪チームは一人一人がやるべきことをやっていてレベルの高さを感じた。選手全員がチームのことを考えて戦えたことは良かった」

九州学院（熊本）2―1城北
近本―ド大石○
竹本―渡辺
○山元メー橋本
大平―藏本
○森メコー篠原
四天王寺東（大阪）3―1城北
橋本―板東
伽羅―メ渡辺○
○金丸コー橋本
○今井メー藏本
○石塚メー篠原
▽予選リーグKブロック順位

2024年(令和6年)8月7日　水曜日

北部九州インターハイ

第16日

中村（富岡東）4強逃す　女子個人

全国高校総体第16日は６日、大分県のレゾナック武道ＳＣなどで８競技が行われた。徳島県勢は、剣道女子個人戦で８強入りした中村莉音（富岡東）が準々決勝で敗退。アーチェリーの団体予選は徳島科技の男子が46位、女子が39位で、決勝ラウンドに進めなかった。カヌーはカナディアンフォアで那賀が予選１組７位で通過したが、準決勝で姿を消した。７日は福岡県北九州市立総合体育館での新体操など６競技が行われる。

剣道

（大分県レゾナック武道SC）

【男子】団体決勝

九州学院（熊本）3―0（大分）明豊

九州学院は2年連続11度目の優勝。

▽個人決勝

山下剣希（大分・明豊）メドーメ 森凰介（熊本・九州学院）

【女子】団体決勝

中村学園女（福岡）4―0 八代白百合学園（熊本）

中村学園女は2年ぶり7度目の優勝。

▽個人準々決勝

橋本陽菜（福岡・中村学園女）メー 中村莉音（富岡東）

▽個人決勝

橋本陽菜（福岡・中村学園女）ツー 川田莉子（福岡・中村学園女）

剣道女子個人準々決勝　果敢に攻め込む富岡東の中村＝大分市のレゾナック武道スポーツセンター（日下彩撮影）

積極的な攻め実らず

女子個人準々決勝で中村莉音（富岡東）が対戦したのは、4日の団体予選リーグの大将戦で引き分けた橋本（中村学園女）。勝利を目指し積極的に攻めたが一瞬引いて守った隙を突かれ、メン2本で敗れた。「一つでも多く勝ち進みたかったので悔しい。攻め返せる力が足りなかった」

中学卒業後に地元の兵庫県を離れ、寮生活をしながら仲間と技を磨いた。気付いた課題や反省点をノートに書いて監督にコメントをもらい、自分の剣道を見直した。ノートは3年間で10冊以上になる。

「富岡東を選んで良かった」。前日の初戦2回戦から3試合を勝って8強入りは果たせた。「きょうの試合を忘れず、大学に進学しても努力して日本一になりたい」と、向上心を口にした。（越智浩子）

徳島女子は準優勝

四国中学校総合体育大会　最終日

ムが出そろった。

剣道

（愛媛県武道館）

第62回四国中学校総合体育大会（四国中体連など主催）最終日は7日、愛媛県武道館で剣道の個人・団体戦が行われた。徳島県勢は女子団体の徳島が決勝で龍雲（香川）に敗れ準優勝だった。17競技全てが終了し、8月17日に北信越ブロックで開幕する全国中学校体育大会（全中）の出場チー

【男子】団体予選リーグA組①双海（愛媛）2勝1分け②徳島2勝1分け③土佐塾（高知）1勝2敗④満濃（香川）3敗＝1、2位は勝者数による▽B組①松山北3勝②那賀川2勝1敗③白峰（香川）1勝2敗④高知3敗＝各組上位2校が決勝トーナメントへ。

▽決勝トーナメント1回戦

双　海　2―0　那賀川
濱田―山名
○魚見響メー阿井
○和気メー柏原
関木メーメ河田
魚見連―西岡
○片上メー川添

○白石メー川野
中島―坂本
高橋メーコ西尾
後藤―中岡

▽決勝　松山北2―0双海

松山北は初優勝。

▽個人準々決勝　大和（徳島文理）メー魚見連（双海）▽準決勝　神野（愛媛・東予東）メード大和▽決勝　神野コー後藤（松山北）

【女子】団体予選リーグA組①宇和（愛媛）1勝2分け②高知1勝2分け③満濃（香川）2分け1敗④小松島2分け1敗▽B組①龍雲（香川）2勝1分け②徳島2勝1分け③双海1勝2敗④春野（高知）3敗＝同勝敗の順位は勝者数と総本数による。各組上位2校が決勝トーナメントへ。

▽決勝トーナメント1回戦

徳　島　1―0　宇　和
○茨木メーメ三好
清水―井上
大原―土居

坂東―脇本
橋本―黒田
龍雲1―0高知

▽決勝

龍　雲　2―1　徳　島
○環メー茨木○
上原―清水
矢萱―大原
松本―坂東
○林コメー橋本

龍雲は2大会ぶり3度目の優勝。

▽個人準々決勝　橋本（徳島）メー竹崎（高知）、成川（愛媛・久万）メー茨木（徳島）▽準決勝　橋本メメーコ成川

▽決勝

近　藤（愛媛・勝メー橋本山）

小中学生剣士　警察官と稽古

阿南署

阿南署は、管内の小中学生ら13人に剣道の技術や礼儀作法を指導する合同稽古会を署の道場で開いた。地域課所属で全国的にも珍しい二刀流で8段を持つ山名信行警部補、7段の川添義仁警備課長、県警OBで7段の敦賀晋平さん＝阿南富岡東郵便局長＝ら5人が指導した。

稽古会では「左足でしっかり踏み込んで」「おなかや背中に力を入れて、体全体を使って移動しよう」と助言。胴や小手などの基本技を手ほどきした後、実戦形式で小中学生の技を受ける指導稽古を行った。

署には高段者が多く、剣道に励む小中学生の競技力向上や育成につなげようと初めて企画した。那賀川中2年で剣道部主将の大西華さん(13)は「普段の練習よりも詳しく教えてもらえた。また参加したい」と汗をぬぐった。

南谷雅彦署長は「稽古を通して礼儀や人を敬う心を学び、心技体を磨いてほしい」と語った。7月30日にあった。（富士佳輝）

川添警備課長（右端）や山名警部補（左端）から指導を受ける子どもたち＝阿南署

2024年（令和6年）8月25日

月刊
第3種郵便物認可

居合道最高位「範士」に

阿波市の坂本さん

普及への貢献評価 生涯現役へ意欲

阿波市市場町八幡の坂本憲一さん（76）が居合道で最高位の称号「範士」を、全日本剣道連盟から授与された。名実ともに認められなければ与えられないもので、県内では現在、坂本さんを含め２人しかいない。坂本さんは「責任の重さをひしひしと感じている」と話している。

居合道で「範士」の称号を授与された坂本さん（本人提供）

居合道の範士の審査は、8段取得から8年以上が経過し、各都道府県の剣道連盟の会長から推薦された人が対象。全日本剣道連盟が指導者としての実績や人格などを総合的に判断する。審査会は5月に京都市であり、合格したのは39人中、坂本さんら3人という狭き門だった。

坂本さんは國學院大を卒業後、県郷土文化会館（現あわぎんホール）に就職。歴史と民俗部門、舞台芸術を担当し、展覧会などの企画、資料集の編集に携わった。長時間のデスクワークで腰痛を患ったのをきっかけに、運動不足解消のため36歳で居合道を始めた。

20代の頃から徳島の郷土刀を研究し、実際に刀を扱うことへの関心もあったことから、昇段するにつれてのめり込んでいった。

1982年には道場「阿波居合道伝習会」（阿波市市場町）の創部に関わり、現在は会長を務めている。城西高校（徳島市）や鳴門教育大学といった教育現場でも指導するなど、居合道界の普及・発展に貢献してきた実績が認められた。

坂本さんは「追求すればするほど奥深さを感じる。生涯現役で居合道の発展をお手伝いしていきたい」と語った。

全日本剣道連盟によると、居合道の競技人口は約20万人。居合道の範士は6月1日時点で全国に51人いる。（福壽美結）

2024年(令和6年)8月28日　水曜日

全国わずか2人 二刀流 剣道8段

阿南署 山名警部補

阿南署員と研さんに励む山名警部補（右）＝同署

山名警部補

阿南署地域課に所属する山名信行警部補(49)＝徳島市国府町＝が、剣道で全国に2人しかいない「二刀流」での最高段位8段として、後進の育成に励んでいる。警察官の業務をこなす傍ら、日本代表選手らの強化に尽力するなどしており「剣道の魅力を伝えていきたい」と意欲を示す。

山名さんは右手に太刀、左手に小太刀を持って戦う。昨年11月に都内であった審査会で、合格者30人（合格率0・6%）の狭き門を突破し、8段への昇段を果たした。

全日本剣道連盟（東京）によると、二刀流剣士の8段昇段は7年ぶり。過去25年間では2人しか合格者がおらず、現役で活躍する剣士も2人だけという。

連盟の要請を受け、イタリアで行われた7月の世界選手権に出場した男子日本代表チームの強化合宿（今年2月15～18日、奈良市）に参加。海外チームに多い二刀流選手対策の指南役として実戦形式で剣を交え、代表選手から「二刀流の国内トップと対戦できた経験は大きい」と感謝されたという。対策の効果もあって、日本代表は団体戦で優勝した。

京都市出身の山名さんは小学3年で剣道を始めた。国際武道大（千葉県）在学中に約400人が在籍していた剣道部でレギュラーを勝ち取ろうと、二刀流の練習を独学で開始。剣豪・宮本武蔵らが残した古い書籍を読むなどして構えや基本技を習得し、小太刀で相手の竹刀をはじき、太刀で攻撃を仕掛ける独自のスタイルを構築した。二刀流の指導者は当時からほとんどおらず「毎日竹刀を振って何が自分に合っているか試行錯誤した」と振り返る。

1998年に徳島県警に採用された後、国体など数々の全国大会に県代表として出場。2001年の全国警察剣道大会で団体優勝するなど実績を重ねている。

現在は署の道場で自らの技術を磨きながら、実戦形式で後輩署員らからの打ち込みをさばく指導稽古などに汗を流す。二刀流を学びたい国内外の有段者を対象にした講習会を今年10月に山口県で計画するなど後進の育成に余念がない。「まだまだ未熟。武の道に終わりはなく、今後も研さんを積んでいく」と表情を引き締めた。

（冨士佳輝）

独自で習得 後進育成に尽力

富岡東女子 11連覇

城北男子 10度目優勝

剣道

県高校新人大会

剣道の全国高校選抜大会徳島県予選を兼ねた第69回男子、第59回女子県高校新人大会は23日、男子10校、女子9校が参加して、那賀町のとくぎんトモニアリーナ那賀で団体戦が行われた。男子は城北が3年連続10度目の優勝を飾り、女子は富岡東が11年連続36度目の頂点に立った。男女の優勝校が全国選抜大会（来年3月26～28日・愛知県春日井市総合体育館）、上位4校が四国新人大会（同2月1、2日・高松市総合体育館）に出場する。

【男子】1回戦 徳島北2（本数勝ち）1徳島科技▽準々決勝 城北4―0徳島北、鳴門渦潮5―0川島、城ノ内3―0徳島文理、富岡西2（代表勝ち）2阿南光▽準決勝 城北3―0鳴門渦潮、富岡西1―0城ノ内▽順位決定戦 城ノ内2―1鳴門渦潮

▽決勝 城北2―0富岡西
多田―大和
井上―天羽
○平松メ福多原
○富増―コ尾畑
○天石―

【女子】1回戦 川島2―0徳島市立▽準々決勝 富岡東2―1川島、阿南光3―1鳴門、徳島文理2―0富岡西、城北5―0徳島北▽準決勝 富岡東2―0阿南光、城北2―1徳島文理▽順位決定戦 徳島文理2―0阿南光

▽決勝 富岡東2―0城北
梶岡―山田
○高嶋メ小柏
山田―佐藤
○鈴江コメ六條
伊藤―西村

女子決勝・富岡東対城北　次鋒戦で1本勝ちし、優勝に貢献した富岡東の高嶋（右）＝とくぎんトモニアリーナ那賀（張未波撮影）

個々の力 十分に発揮

富岡東

個々の力で上回った富岡東女子が、宿敵城北を決勝で退けた。11連覇を達成し、大将の伊藤はプレッシャーはあったけれど、自分たちの仕事をすることだけを考えていた」。重圧から解放され、笑みがこぼれた。

次鋒（じほう）の高嶋がチームを勢いづけた。開始わずか17秒で飛び込みメンを決め、そのまま1本勝ち。「先鋒が引き分けていたので、いい流れを持ってきたかった。自分から技を狙った」と納得の表情だった。

勝負を決めたのは副将の鈴江。開始10秒のコテで幸先良くリードした。メンを奪い返されたが「普段の積極的な攻めを見せることができなかったのが課題。自信を持って攻めたい」と高嶋。前回1勝だった選抜大会に照準を合わせ、さらなるレベルアップを口にした。

（矢三芳宏）

中堅 流れつくる

○…城北男子は、決勝の中堅戦で飛び出した平松の劇的な1本が流れを呼び込んだ。先鋒（せんぽう）と次鋒は引き分け。平松もなかなか1本が奪えない。しかし残り1秒、狙い澄ましたメンが見事に決まった。「自分の攻めで相手が引く場面があったので、そこをついた」。

1―0で迎えた大将戦は大石が常に先を取ることを意識して臨み、「体が反応した」と、コテを決めて勝利を確定させた。先鋒からの流れをつないでの3連覇。副将を務めた富増主将は「ほっとした」と安堵（あんど）の表情を見せ、大石は「一人一人がレベルアップしてチーム力を上げる。まずは四国新人大会で優勝する」と意気込んだ。

男子決勝・城北対富岡西　大将戦を制した城北の大石（張未波撮影）

剣道

男女6区分 代表決まる

都道府県対抗県予選

剣道の第73回全日本都道府県対抗優勝大会（男子）と第17回全日本女子優勝大会の出場権を懸けた徳島県予選会が16日、鳴門ソイジョイ武道館で行われ、男女各7区分のうち既に決まっている先鋒（せんぽう）を除く6区分の県代表が決まった。

男子は次鋒（じほう）・前田優真（川島高）、5将・弘田悠人（刑務所支部）、中堅・白木恒二郎（名西支部）、3将・山本義征（警察支部）、副将・玉井翔（刑務所支部）、大将・山室雅幹（警察支部）。女子は次鋒・岩原千佳（筑波大）、5将・西﨑彩乃（小松島支部）、中堅・後藤田萌愛（警察支部）、3将・鈴木千尋（警察支部）、副将・前田奈々枝（阿波支部）、大将・山﨑砂織（阿南支部）。

男女とも先鋒は昨年11月の県高校選手権個人戦の優勝者が務める。男子は平松政樹（城北高）、女子は伊藤寛夏（富岡東高）が県高体連から推薦された。

男子の全日本大会は4月29日に和歌山市で開催。女子は7月13日に日本武道館で開かれる。（越智浩子）

男子次鋒戦・決勝　果敢に攻め込む前田（右）＝鳴門ソイジョイ武道館

【男子】次鋒（大学生）準々決勝 前田（川島高）コ一 松本（徳島大）、三好（大体大）メメ一 篠原（城北高）、勝間（環太洋大）コ一 橋本（城北高）、内海（日体大）ドコ一 板東（城北高）▽準決勝 前田コ一 三好、内海メ一 勝間◎3位決定戦 三好メ一 勝間▽決勝 前田 棄権 内海

▽5将（18歳以上35歳未満）準決勝 富永涼（名西支部）メ一 馬コ一 浅田◎3位決定戦 山室メコ一メ庄野、山室メ一 松田、美馬メ一 本田和、浅田メ一 熊谷（刑務所支部）メコ一 富永 山本メコ一 美馬 康（刑務所支部）、弘田（刑務所支部）メツーメ矢野（板野東支部）▽準決勝 富永涼ツ一 貴、弘田メ一 岩谷◎3位決定戦 貴コ一 岩谷▽決勝 弘田メ一 富永涼▽中堅（教職員）リーグ戦①白木（名西支部）2勝②森（徳島支部）1勝1敗③福﨑（小松島支部）2敗▽3将（警察職員＝所属はいずれも警察支部）準々決勝 山本コメ一メ庄野、山室メ一 松田、美馬メ一 本田和、浅田メ一 熊谷（刑務所支部）メコ一 富永 山本メコ一 美馬▽副将（35歳以上）1回戦 弁田（丹生谷支部）メ一 江口（刑務所支部）、東（刑務所支部）コ一 古波（海部支部）、川上（刑務所支部）メコ一 原（小松島支部）、玉井（刑務所支部）コメ一 佐野（美馬支部）▽準決勝 弁田メメ一メ東、玉井コメ一 川上◎3位決定戦 川上メ一 東▽決勝 弁田 玉井メ一 弁田▽大将（50歳以上、教士7段以上）リーグ戦①山室（警察支部）2勝②鳴川（小松島支部）1勝1敗③中尾（徳島支部）2敗

【女子】次鋒（大学生）リーグ戦①岩原（筑波大）2勝②才能（徳島文理大）1勝1敗③濱淵（徳島文理大）2敗▽5将（18歳以上）決勝 西﨑（小松島支部）メメ一 坂野（警察支部）▽中堅（30歳以上）後藤田（警察支部）＝認定優勝▽3将（30歳以上）鈴木（警察支部）＝認定優勝▽副将（40歳以上）決勝 前田（阿波支部）メ一コ 井（麻植支部）▽大将（50歳以上）山﨑（阿南支部）＝認定優勝

高校生 初出場V

○…最多の18人が出場した男子次鋒の代表争いは、前田（川島高）が全4試合で大学生を破って初出場初優勝した。「1、2回戦は緊張で動きが硬かった」というが、相手の動きをしっかり見極め、突きやコテを決めた。

決勝の相手は1学年上で徳島文理高時代は一度も練習試合で勝てなかったという内海（日体大）。「気持ちで負けないように」と果敢に攻めて突きで先取すると、その後に相手が左脚を傷めて棄権し、優勝が決まった。

両親の影響で八幡小2年から竹刀を振ってきた。母親で中学校の保健体育教諭の奈々枝さんも女子副将を制して代表に決まり、親子で全国大会に臨む。前田は「母に負けないよう技を磨かなければ」と意気込んだ。

男子5将・弘田悠人（初出場ながら12人の争いを制し代表に）＝2回戦で先取されたが、下がらずに前に出て取り返せた。優勝するという気持ちで力を出し切れた。全国では自分の役割を果たして1勝でも多く勝つ」

女子5将・西﨑彩乃（参加2人の一発勝負を制し代表入り）「相手の体の中心を目がけて真っすぐメンを打つことを意識した。全国大会までに力んでしまう癖を直すことと、引き技などを使えるようにしたい」

2025年（令和7年）1月20日
朝日新聞　月刊
第3種郵便物認可

人生100年時代
幸せの道しるべ ⑬

小松島で高齢者パソコン教室主宰 澤井勝之さん（83）

「楽しく、ゆっくり」授業

「クリックして、エクセルのファイルを開いてください。画面を移動させるときは、ここ。右端の三角、スクロールバーで動かせますよ」。元喫茶店内の白い壁に、プロジェクターでパソコンの画面が大きく投影される。指示棒で示しながら教えるのは、小松島市で高齢者対象の無料教室「ロダン・パソコン・スクール」を主宰する澤井勝之さん（83）＝同市堀川町＝だ。

教室兼自宅の屋根には、フランスの彫刻家・ロダンの銅像「考える人」のレプリカが飾られている。喫茶店名にちなみ、亡父が手がけたものだ。銅像を目印にして、毎週火、水、金曜、それぞれ10人ほどが集まる。生徒は全員60歳以上で、中には90歳近い人もいる。

ある日の授業は、万年カレンダー作成を通したエクセルの勉強。「WEEKDAY（ウイークデー）関数というものがあって、自動的にうるう年も計算して、数字を入れてくれる。こういう便利な機能があるんですよ」。本格的に関数を学ぶ前に、便利さを実感してもらうステップだ。

教室では、インターネットやメールのほか、ワード、エクセルといった基本的な使い方を指導。写真をパソコンに取り込んで水彩画風や絵手紙風に仕上げたり、クリスマスや新年のメッセージ動画を作成したりもする。単に技術を教えるのではなく、生徒の希望も聞きながら、できることを増やしていくスタイルだ。

モットーは「楽しく、ゆっくり、分かりやすく」。スクール卒業生の2人が補助講師としてサポートしながら、丁寧な口調で進めていく。

生徒から何度同じ質問をされても、笑顔で答える。「『さっきも言ったよ』と答えたら、途端に嫌になってしまう。100回聞かれても笑って答えますよ」。

教室は終始和やかな雰囲気に包まれている。休憩がてら、途中で音楽に合わせた軽い体操をすることもある。「体を動かしたので、さっきやったこと忘れてないで？」と冗談を飛ばせば、笑い声がはじける。

元高校教師で保健体育を担当してきた。今ほどパソコンが使われていなかった時代から、教材作成や成績管理に活用。40代で鳴門教育大大学院で学び直した際も、自らプログラムを組んで論文用データをまとめるなど愛用していた。

退職後も県シルバー大学院や徳島文理大で教壇に立った。そんな折、高齢者が情報化の時代に取り残されないよう、地域貢献の一環としてスクール開校を決心。自宅の一角で営んでいた喫茶店スペースを改装し、教室を構えた。

指導教材は手作り。さらに生徒が持ち込むパソコンの相談や修理も請け負う。

一方、作業机に向かうばかりではない。研鑽を積み重ねてきた武道家で、剣道7段、柔道4段、空手5段、棒術4段の腕前を誇る。今でも各地の剣道場に赴き、自らを鍛えて健康を維持している。

「おかげさまで、病気が寄りつく暇がない生活。これからも生徒の皆さんが生きがいを感じ、楽しく交流できる場を続けたい」。いくつになっても生き生きと輝く人々の姿を、「考える人」が見守り続けている。

（佐藤陽香）

生徒にパソコンの使い方を教える澤井さん（右）＝小松島市堀川町のロダン・パソコン・スクール

剣道スポーツ少年団大会

阿南チーム全国制覇

剣道の第47回全国スポーツ少年団交流大会で、徳島県代表の「阿南市A」チームが団体戦で優勝した。県剣道連盟と県剣道道場連盟によると、県勢が小学生世代の全国大会で団体優勝するのは初めて。(25面に関連記事)

大会は3月28～30日に大分市であり、全国から48チームが参加した。

阿南市Aは、先鋒に南小松島小5年野村拓未さん(10)、次鋒に羽ノ浦小6年高橋明里さん(11)、中堅に那賀川中1年大西光さん(12)、副将に富岡小6年岩浅詩さん(11)、大将に那賀川中1年宮武颯詩さん(12)という布陣。予選リーグを1位通過し、16チームで争う決勝トーナメントに進んだ。北海道代表との決勝戦では、2分け1敗から逆転した。

宮武さんは「苦しい試合が続いたけど、全員が自信を持って試合に臨めた」と振り返った。県剣道連盟の藤川和秋会長は「歴史的な快挙。他の選手にとっては徳島のような小さな県からでも優勝できるという目標にもなる」と話した。

(富士佳輝)

【紙面編集】滝本昇

スポ少剣道全国優勝 阿南市A

強豪との実戦練習奏功

剣道の全国スポーツ少年団交流大会で、県勢初の日本一に輝いた阿南市Aチーム。大会に向けて県外遠征などを精力的にこなし、磨いた技術や接戦に競り勝つ精神力を発揮した。(1面参照)

チームは市内の3道場に所属する5人で構成。監督を担った徳島剣清塾の河田清実代表(70)＝同市那賀川町上福井＝は個々の能力を高めようと、合同練習や県外遠征を実施した。

今年1月から岡山、兵庫両県の錬成会に計4回出向き、中四国や近畿の強豪と試合を重ねたほか、2月には阿南市内に滋賀、和歌山など4県の代表チームを招いて腕を磨いた。合同練習では技術や体格で勝る中学生との実戦練習を積極的に取り入れた。

全国大会ではこうした練習の成果を発揮した。副将の富岡小6年岩浅詩さん(11)は「強い選手との対戦でコテのよけ方など自分の弱点を克服でき、実際に全国大会ではコテを1本も取られなかった」と上達を実感する。

精力的に県外遠征 腕磨く

鹿児島県代表との準々決勝。2勝1敗1分けで迎えた大将戦に臨んだ那賀川中1年宮武颯詩さん(12)は残り5秒でメンを取られて敗れたものの、代表決定戦では気持ちを切り替え、冷静にコテを決めて雪辱を果たした。「体が反射的に動いた。練習の成果かな」と振り返る。

中学生となった2人を除き、3人は連覇を目標に掲げる。羽ノ浦小6年の高橋明里さん(11)は「まずは再び代表に選ばれるよう練習に励んでいく」と決意を語った。

(富士佳輝)

剣道の全国スポーツ少年団交流大会で優勝したメンバーと河田監督(右から3人目)＝阿南市長生町西方

【掲載希望をお寄せください】チーム名、申込者の氏名、住所、電話番号を書いて、郵便番号770-8572（住所不要）徳島新聞社社会部「頑張れスポーツ少年団」係へ。ファクス〈088（655）7458〉でも受け付けます。

頑張れ スポーツ少年団

市場剣道教室

◆1976年発足、阿波市
◆大野和則監督、選手15人（男子9人、女子6人、こども園～中学1年）
◆在籍校　市場かもめ、はやし各こども園、市場、大俣、御所、林、八幡各小学校、市場中学校
◆練習　週4回
◆阿部透真主将のチーム自慢　仲が良く、とにかく声が大きい元気のあるチーム
◆目標　県大会優勝
◆入部希望などの問い合わせは大野監督、電話090（2822）7715

剣　道

【掲載希望をお寄せください】チーム名、申込者の氏名、住所、電話番号を書いて、郵便番号770-8572（住所不要）徳島新聞社社会部「頑張れスポーツ少年団」係へ。ファクス〈088（655）7458〉でも受け付けます。

頑張れ スポーツ少年団

新野少年剣道教室

◆1983年発足、阿南市
◆馬見和秀監督、選手7人（男子3人、女子4人、保育園年長～中学1年）
◆在籍校　お山保育園、桑野、新野、新野東各小学校、新野中学校
◆練習　週2回
◆廣瀬剛生主将のチーム自慢　みんな仲良く、大きな声を出して練習している
◆目標　日頃の練習の成果を発揮できるよう前に攻める試合をする
◆入部希望などの問い合わせは馬見監督、電話090（5143）9890

剣　道

2025年（令和7年）1月23日

剣　道

石井少年剣道クラブ

◆1981年発足、石井町
◆近藤正章監督、選手16人（男子7人、女子9人、年長、小学1～6年）
◆在籍校　高越こども園、高原、石井、高川原、藍畑、山川、入田各小学校
◆練習　週2回
◆切東光主将のチーム自慢　学年関係なく仲が良く、アドバイスし合える
◆目標　3月に町内である大会で優勝する
◆入部希望などの問い合わせは近藤監督、電話090（3227）7115

2025年（令和7年）3月13日

海部川剣道教室

◆1981年発足、海陽町
◆鳥澤武志代表指導者、選手6人（男子5人、女子1人、小学1～3、5年、中学2年）
◆在籍校　海部、海南、宍喰、牟岐各小学校、海陽中学校
◆練習　週2回
◆古波凌一主将のチーム自慢　学年関係なく仲良しで、練習中は活気がある
◆目標　団体・個人両部門で一つでも多く勝つ
◆入部希望などの問い合わせは鳥澤代表、電話090（1570）0735

（23） 地域総合 2025年（令和7年）3月20日 木曜日 徳島

【掲載希望をお寄せください】チーム名、申込者の氏名、住所、電話番号を書いて、郵便番号770-8572（住所不要）徳島新聞社社会部「頑張れスポーツ少年団」係へ。ファクス〈088（655）7458〉でも受け付けます。

頑張れ スポーツ少年団

徳島剣清塾

◆2018年６月発足、阿南市
◆河田清実代表、32人（男子19人、女子13人、保育園～中学３年）
◆在籍校　お山保育園、富岡、横見、羽ノ浦、長生、桑野、今津、見能林、中野島、相生、南小松島、新開各小学校、富岡東、那賀川各中学校
◆練習　週３回
◆水口萌香主将のチーム自慢　基本を大事に稽古する。声をかけ合い、チームワークを高めて試合に臨んでいる
◆目標　大会の団体戦は全て優勝し、個人戦も上位入賞を果たす
◆見学希望などの問い合わせは河田代表、電話090（1579）7001

剣　道

（25） 地域総合 2025年（令和7年）3月27日 木曜日 徳島

【掲載希望をお寄せください】チーム名、申込者の氏名、住所、電話番号を書いて、郵便番号770-8572（住所不要）徳島新聞社社会部「頑張れスポーツ少年団」係へ。ファクス〈088（655）7458〉でも受け付けます。

頑張れ スポーツ少年団

淳志館

◆1983年発足、東みよし町
◆庄嶋亮道場長、選手15人（男子11人、女子4人、小学1～6年）
◆在籍校　昼間、足代
◆練習　週2回
◆湯岑悠生主将のチーム自慢　みんな楽しく、協力し合って練習している
◆目標　いろんな大会で優勝する
◆入部希望などの問い合わせは庄嶋道場長、電話090（2457）8140

剣　道

2024年（令和6年）4月8日

あわースポーツ

剣道

◆全国選抜成武館道場創立35周年記念大会（3月24日・愛媛県武道館）◇徳島県関係の上位▽個人戦小学1年生③岩浅晴（徳島剣清塾）▽同6年生②河田淳紀（徳島剣清塾）▽団体小学1、2年生①徳島剣清塾（岩浅晴、祖川結人、高野里緯）

（左から）岩浅、祖川、高野、河田

◆第28回藤花杯争奪少年大会（3月2日・石井中学校）【団体】①誠武館道場（蔭山実結、村瀬いろは、梶光甫、梶榮甫、坂本圭吾）②南井上剣道教室③大麻錬成館剣道教室【個人】1年生①森本芙実（養武館）②山田育弥（鴨島少年剣道教室）③森本康太（鴨島少年剣道教室）吉野川少年剣道教室▽2年生①喜口颯々（誠武館道場）②住友想（阿波少年剣道教室）③池田權（石井少年剣道クラブ）③高志佳乃（徳島清風館道場）▽3年生①矢野陽希（誠武館道場）②川綾仁（誠武館道場）③森本万智（養武館）③山朋弥（鴨島少年剣道教室）▽4年生①瀬尾ひより（市場剣道教室）②山本瑚侑（誠武館道場）③大條琴那（石井少年剣道クラブ）③六車友希（一宮伴剣道スポーツ少年団）▽5年生①高橋知湧（松紀和会道場）②川野太雅（北井上剣道教室）③山田直弥（鴨島少年剣道教室）③美鳥颯佑（加茂名少年剣道教室）▽6年生①三好琥珀（上浦剣道教室）②森本太智（養武館）③國原一眞（北井上剣道教室）③安友悠乃（阿波少年剣道教室）

団体優勝の誠武館道場（左から）
蔭山、村瀬、坂本、梶光、梶榮

個人（左から）１年～６年の優勝者

2024年（令和6年）4月22日

剣道

◆第46回全国スポーツ少年団交流大会（3月29～31日・ALSOKぐんま総合スポーツセンター）▽順位③徳島県（岩浅詩、山ノ井夏希、棚橋爽斗、山本京、河田淳紀）全国3位は徳島県勢で初。

◆2023年度誠武館道場錬成会（3月31日・北島YGKドーム）▽6年生①孝③義③悌▽高学年①那賀川剣道教室わかあゆ会②東生駒剣道クラブ③日亜錬心塾③たからづか剣道会▽低学年①新金岡親子剣道クラブ②誠武館道場A③徳島少年剣道教室③鴨島少年剣道教室

（右から）河田、山本、棚橋、山ノ井、岩浅

剣道

◆第45回山家争奪県下大会【団体】中学男子①徳島②那賀③徳島文理④鷲敷▽同女子①徳島②那賀川③石井④小松島▽高校男子①阿南光A②城北A③鳴門渦潮A▽同女子①富岡東A②徳島文理【個人】10人以上勝抜賞＝河部未羽（富岡東高・10人）▽5人以上勝抜賞＝三宅遼（徳島科学技術高・7人）渡邉大樹、篠原篤也（以上城北高・5人）

2024年（令和6年）5月14日

2024年（令和6年）7月8日

剣道

◆第59回宮本武蔵顕彰小中学生大会（岡山県美作市宮本武蔵顕彰武蔵武道館）◇徳島県関係の上位▽小学生団体③日亜錬心塾（松浦暖、武内晴紀、平田愛琴、多川華音、武内菜奈）▽中学生女子③日亜錬心塾（多川寧音、坂口凛、柳生夏希）

（左から）武内菜、武内晴、松浦、平田、多川華

（左から）柳生、多川寧、坂口

◆阿南少年教室錬成会（阿南市武道館）◇徳島県関係の上位▽順位①日亜錬心塾（松浦暖、武内晴紀、中西進治郎、平田愛琴、多川華音）②誠武館

優勝の日亜錬心塾（前列左から）
多川、武内、松浦、平田、中西

◆第6回徳島県道場少年大会（鳴門ソイジョイ武道館）【団体・小学生】①徳島剣清塾（清水、岩浅、水口）②日亜錬心塾③徳島至誠館③佐古剣道クラブ▽中学生①徳島剣清塾（鹿島、河田、水口）②養武館③鳴門市光武館③日亜錬心塾

小学生の徳島剣清塾、日亜錬心塾、徳島至誠館と中学生の徳島剣清塾、養武館は全国大会（7月30、31日・東京都）に出場

中学生団体優勝の徳島剣清塾
（左から）鹿島、河田、水口

小学生団体優勝の徳島剣清塾
（右から）清水、岩浅、水口

【個人】小学生男子①武内晴紀（日亜錬心塾）②高橋知湧（松紀和会）③平野大翔（佐古剣道クラブ）③高尾勇太（徳島至誠館）▽同女子①松浦暖（日亜錬心塾）③岩浅詩（徳島剣清塾）③平田愛琴（日亜錬心塾）▽中学生男子①篠原瑛騎（佐古剣道クラブ）②大和智哉（養武館）③柏原健人（養武館）③鹿子陽史（日亜錬心塾）▽同女子①出口絢葉（日亜錬心塾）②岩浅花（徳島剣清塾）③坂口凛（日亜錬心塾）

個人の優勝者は全国大会（10月・神奈川県）に出場

個人優勝の（左から）松浦、武内、出口、篠原

2024年（令和6年）7月22日

剣道

◆第4回徳島板野防犯少年大会（6月2日・松茂町第一体育館）▽小学生①村瀬いろは（誠武館）②梶栄甫（誠武館）③梶光甫（誠武館）③畠口航十朗（誠武館）▽中学生①坂本圭吾（誠武館）②鍵夕蓮（鳴佳剣道スポーツ少年団）③日根啓輔（松茂中）

上位入賞者

◆第51回鳴門市戦没者追悼少年大会（6月9日・鳴門市剣道場）▽小学生低学年①河村実怜（大麻錬成館）②矢野陽向（大麻錬成館）③吉田百加（大麻錬成館）▽高学年①橋本心実（鳴門市光武館道場）②中村華人（大麻錬成館）③南後志穏（大麻錬成館）③大塚颯大（鳴門市光武館道場）▽中学生男子①大谷蒼真（鳴門第一）②松井悠真（鳴門第一）③石川直樹（大麻）③板東武蔵（大麻）▽女子①橋本愛実（鳴門第一）②豊田蛍菜（鳴門第一）

上位入賞者

2024年（令和6年）8月12日

あわースポーツ

剣道

◆第27回徳島中央防犯少年大会（6月22日・徳島中央署）
【小学生】①武内晴紀（日亜練心塾）②中川晃志（徳島少年剣道教室）③中崎正造（日亜練心塾）④西進治郎（日亜練心塾）
【中学生】①中川旺亮（徳島少年剣道教室）②多川寧音（日亜練心塾）③出口絢巣（日亜練心塾）

（前列左から）中川晃、中西、中崎、武内（後列左から）多川、中川旺、出口

上位入賞者ら

◆2024年度小松島署管内防犯少年大会（6月29日・小松島署）
▽小学生①坂本海翔（小松島少年剣クラブ）②川人大輝（小松島少年剣道クラブ）③吉田圭吾（和田島少年剣道クラブ）▽中学生①吉田瑞希（和田島少年剣道クラブ）②川口源太（和田島少年剣道クラブ）③殿川鉄心（上勝中）③増尾美織（和田島少年剣道クラブ）

◆2024年度板野郡スポーツ少年団予選会（6月23日・北島町武道館＝所属はいずれも誠武館道場）
▽先鋒の部①矢野陽希②樫木新大▽次鋒・副将の部①村瀬いろは▽中堅・大将の部①梶榮甫②梶光甫③姫田京杜

上位入賞者ら

2024年（令和6年）8月20日

剣道

◆徳島名西署防犯大会（6月30日・徳島名西署）
▽小学生①宮本美奈（石井少年剣道クラブ）②高橋知湧（松紀和会道場）③切東光（石井少年剣道クラブ）③川野太雅（北井上剣道教室）▽中学生①篠原瑛騎（佐古剣道クラブ）②龍田彪（城ノ内中）③國原一眞（北井上剣道教室）

上位入賞者ら

◆第18回若武者杯争奪少年大会（6月30日・高知県立青少年センター）
◇徳島県関係の上位
▽団体戦小学生低学年③徳島剣清塾（高野里緒、岩浅晴、野村拓未）

（右から）高野、岩浅、野村

2024年（令和6年）8月26日

剣道

◆第3回徳島県少年選手権・第19回全日本都道府県対抗少年優勝大会県予選（7月28日・鳴門ソイジョイ武道館）
▽小学1、2年生①岩浅晴（徳島剣清塾）②山出育弥（鴨島少年剣道教室）③岩田喜介（渭東少年剣道教室）③中川照大（徳島少年剣道教室）▽3、4年生①野村拓未（徳島剣清塾）②高野里緒（徳島剣清塾）③武内菜奈（日亜練心塾）③野紗奈（市場剣道教室）▽5年生①岩浅詩（徳島剣清塾）②清水春花（徳島剣清塾）③増尾悠（和田島少年剣道クラブ）③多川華音（日亜練心塾）▽6年生①宮武颯詩（徳島誠館）②高野愛叶（日亜練心塾）③山ノ井雄一朗（阿南少年剣道教室）③松浦暖一（日亜練心塾）
高野愛叶、岩浅詩、松浦暖、清水春花、宮武颯詩と選会選出の4人が徳島県代表として全日本都道府県対抗少年優勝大会（9月・大阪府）に出場

2024年(令和6年)9月10日　火曜日

剣道

◆第58回全国道場少年大会（7月30日・日本武道館）
◇徳島県関係の上位
▽小学生②徳島剣清塾（清水春花、岩浅詩、水口萌香）

（手前左から）清水、岩浅、水口

◆第24回堀金旗争奪・小松島少剣クラブ創立50周年記念少年大会（7月21日・とぐぎんトモニアリーナ那賀）
▽高学年①徳島剣清塾A（清水、岩浅、水口）②徳島剣清塾B③吉野川剣道教室A③石井少年剣道クラブA▽低学年①徳島剣清塾A（岩浅、野村、高野）②徳島剣清塾B③那賀川剣道教室わかあゆ会C③誠武館道場A

低学年（左から）岩浅、野村、高野

2024年(令和6年)9月10日

剣道・居合道

◆第19回吉野川市民体育祭大会（8月4日・美郷ふるさとセンター体育館）
◇剣道
【団体】小学生低学年①鴨島少年剣道教室②吉野川少年剣道教室▽高学年①吉野川少年剣道教室A②吉野川少年剣道教室B③山川スポーツ少年団修錬館③吉野川少年剣道教室D
【個人】木刀による基本稽古法①佳友由子②秋月佐代③兼子かおり③木内茂美▽小学2年生以下①山出育弥②森本康大③井上藝子③佐藤璃々奈▽3、4年生①山出朋弥②一宮碧③稲垣健悟③山本紗帆▽5、6年生①金山恵大②山出直弥③白川琥太郎④佐藤叶人▽中学女子①佳友乃々愛②後藤田みさと③片岡穂香▽同男子①近藤瑠太②宮本昂成③三木琉真③三好琥珀▽高校女子①板場鈴々②前田優莉③岩谷夢羽③福田紗那乃▽同男子①佐藤幸輔②逢坂翔稲木理人③三宅海誠▽一般①高永涼介②鳴滝朝希③原田敏也③片山聖也
◇居合道
▽小学生①宮本愛真②木村恋瑛③北川心都▽中学生①宮本昂成②黒川翔太朗③木村紀真▽高校生①大森春奈②日和田慧③長谷川亜寿美▽五段以下①山田師正②小野和敏③日和田慈海▽六段以上①徳山夢②林由美③中尾鑑一

▶上位入賞者ら◀

2024年(令和6年)9月23日

剣道

◆第50回記念岡土少年錬成大会（8月31日・木頭体育館）
◇徳島県関係の上位
【団体】小学生②徳島剣清塾（岩浅、亀井、水口）③小松島少剣クラブ▽3和田島少年剣道クラブ▽中学生①徳島剣清塾（鹿島、河田、水口）②鷲敷中学校③小松島中学校③和田島少年剣道クラブ
【個人】小学1、2年生①岩浅晴（徳島剣清塾）②唐子慶泰（目亜錬心塾）③寒山杏（徳島至誠館）
◆少年大会（9月8日・徳島市Bs&G海洋センター）
【団体】①目亜錬心塾②佐古剣道クラブ③徳島少年剣道教室、敢闘賞＝松紀和会
【個人】1年生以下①近藤治雄（加茂名）②笹倉孝允（松紀和会）③友成ふう（徳少）、敢闘賞＝石川晴人（養武館）▽2年生①中川照大（徳少）②岩田蒼介（勇東）③山田琥々（目亜）、敢闘賞＝鹿子慶泰（目亜）▽3年生①並田紗愛（目亜）②多田晴菜（目亜）③小松泰徳（松紀和会）、敢闘賞＝佐藤千冬（養武館）▽4年生①高橋秀（徳少）②加納大翔（清風館）③武内菜奈（目亜）、敢闘賞＝坂東真（徳少）▽5年生①多川華音（目亜）②平野大翔（佐古）③島輝翔（勇東）、敢闘賞＝武田純加（茂名）▽6年生①高橋知湧（松紀和会）②松浦暖（目亜）③中嶋志（佐古）、敢闘賞＝武内晴紀（目亜）

◆第58回全国道場少年大会（7月30日・日本武道館）
◇徳島県関係の上位
▽小学生②徳島剣清塾（清水春花、岩浅詩、水口萌香）

◆第24回堀金旗争奪・小松島少剣クラブ創立50周年記念少年大会（7月21日・とぐぎんトモニアリーナ那賀）
▽高学年①徳島剣清塾A（清水、岩浅、水口）②徳島剣清塾B③吉野川剣道教室A③石井少年剣道クラブA▽低学年①徳島剣清塾A（岩浅、野村、高野）②徳島剣清塾B③那賀川剣道教室わかあゆ会C③誠武館道場A

◆第19回吉野川市民体育祭大会（8月4日・美郷ふるさとセンター体育館）
◇剣道
【団体】小学生低学年①鴨島少年剣道教室②吉野川少年剣道教室▽高学年①吉野川少年剣道教室A②吉野川少年剣道教室B③山川スポーツ少年団修錬館③吉野川少年剣道教室D
【個人】木刀による基本稽古法①佳友由子②秋月佐代③兼子かおり③木内茂美▽小学2年生以下①山出育弥②森本康大③井上藝子③佐藤璃々奈▽3、4年生①山出朋弥②一宮碧③稲垣健悟③山本紗帆▽5、6年生①金山恵大②山出直弥③白川琥太郎④佐藤叶人▽中学女子①佳友乃々愛②後藤田みさと③片岡穂香▽同男子①近藤瑠太②宮本昂成③三木琉真③三好琥珀▽高校女子①板場鈴々②前田優莉③岩谷夢羽③福田紗那乃▽同男子①佐藤幸輔②逢坂翔稲木理人③三宅海誠▽一般①高永涼介②鳴滝朝希③原田敏也③片山聖也
◇居合道
▽小学生①宮本愛真②木村恋瑛③北川心都▽中学生①宮本昂成②黒川翔太朗③木村紀真▽高校生①大森春奈②日和田慧③長谷川亜寿美▽五段以下①山田師正②小野和敏③日和田慈海▽六段以上①徳山夢②林由美③中尾鑑一

◆第50回記念岡土少年錬成大会（8月31日・木頭体育館）
◇徳島県関係の上位
【団体】小学生②徳島剣清塾（岩浅、亀井、水口）③小松島少剣クラブ▽3和田島少年剣道クラブ▽中学生①徳島剣清塾（鹿島、河田、水口）②鷲敷中学校③小松島中学校③和田島少年剣道クラブ
【個人】小学1、2年生①岩浅晴（徳島剣清塾）②唐子慶泰（目亜錬心塾）③寒山杏（徳島至誠館）
◆少年大会（9月8日・徳島市Bs&G海洋センター）
【団体】①目亜錬心塾②佐古剣道クラブ③徳島少年剣道教室、敢闘賞＝松紀和会
【個人】1年生以下①近藤治雄（加茂名）②笹倉孝允（松紀和会）③友成ふう（徳少）、敢闘賞＝石川晴人（養武館）▽2年生①中川照大（徳少）②岩田蒼介（勇東）③山田琥々（目亜）、敢闘賞＝鹿子慶泰（目亜）▽3年生①並田紗愛（目亜）②多田晴菜（目亜）③小松泰徳（松紀和会）、敢闘賞＝佐藤千冬（養武館）▽4年生①高橋秀（徳少）②加納大翔（清風館）③武内菜奈（目亜）、敢闘賞＝坂東真（徳少）▽5年生①多川華音（目亜）②平野大翔（佐古）③島輝翔（勇東）、敢闘賞＝武田純加（茂名）▽6年生①高橋知湧（松紀和会）②松浦暖（目亜）③中嶋志（佐古）、敢闘賞＝武内晴紀（目亜）

◆第58回全国道場少年大会（7月30日・日本武道館）
◇徳島県関係の上位
▽小学生②徳島剣清塾（清水春花、岩浅詩、水口萌香）

◆第24回堀金旗争奪・小松島少剣クラブ創立50周年記念少年大会（7月21日・とぐぎんトモニアリーナ那賀）
▽高学年①徳島剣清塾A（清水、岩浅、水口）②徳島剣清塾B③吉野川剣道教室A③石井少年剣道クラブA▽低学年①徳島剣清塾A（岩浅、野村、高野）②徳島剣清塾B③那賀川剣道教室わかあゆ会C③誠武館道場A

◆第19回吉野川市民体育祭大会（8月4日・美郷ふるさとセンター体育館）
◇剣道
【団体】小学生低学年①鴨島少年剣道教室②吉野川少年剣道教室▽高学年①吉野川少年剣道教室A②吉野川少年剣道教室B③山川スポーツ少年団修錬館③吉野川少年剣道教室D
【個人】木刀による基本稽古法①佳友由子②秋月佐代③兼子かおり③木内茂美▽小学2年生以下①山出育弥②森本康大③井上藝子③佐藤璃々奈▽3、4年生①山出朋弥②一宮碧③稲垣健悟③山本紗帆▽5、6年生①金山恵大②山出直弥③白川琥太郎④佐藤叶人▽中学女子①佳友乃々愛②後藤田みさと③片岡穂香▽同男子①近藤瑠太②宮本昂成③三木琉真③三好琥珀▽高校女子①板場鈴々②前田優莉③岩谷夢羽③福田紗那乃▽同男子①佐藤幸輔②逢坂翔稲木理人③三宅海誠▽一般①高永涼介②鳴滝朝希③原田敏也③片山聖也
◇居合道
▽小学生①宮本愛真②木村恋瑛③北川心都▽中学生①宮本昂成②黒川翔太朗③木村紀真▽高校生①大森春奈②日和田慧③長谷川亜寿美▽五段以下①山田師正②小野和敏③日和田慈海▽六段以上①徳山夢②林由美③中尾鑑一

▶上位入賞者ら◀

◆第50回記念岡土少年錬成大会（8月31日・木頭体育館）
◇徳島県関係の上位
【団体】小学生②徳島剣清塾（岩浅、亀井、水口）③小松島少剣クラブ▽3和田島少年剣道クラブ▽中学生①徳島剣清塾（鹿島、河田、水口）②鷲敷中学校③小松島中学校③和田島少年剣道クラブ
【個人】小学1、2年生①岩浅晴（徳島剣清塾）②唐子慶泰（目亜錬心塾）③寒山杏（徳島至誠館）
◆少年大会（9月8日・徳島市Bs&G海洋センター）
【団体】①目亜錬心塾②佐古剣道クラブ③徳島少年剣道教室、敢闘賞＝松紀和会
【個人】1年生以下①近藤治雄（加茂名）②笹倉孝允（松紀和会）③友成ふう（徳少）、敢闘賞＝石川晴人（養武館）▽2年生①中川照大（徳少）②岩田蒼介（勇東）③山田琥々（目亜）、敢闘賞＝鹿子慶泰（目亜）▽3年生①並田紗愛（目亜）②多田晴菜（目亜）③小松泰徳（松紀和会）、敢闘賞＝佐藤千冬（養武館）▽4年生①高橋秀（徳少）②加納大翔（清風館）③武内菜奈（目亜）、敢闘賞＝坂東真（徳少）▽5年生①多川華音（目亜）②平野大翔（佐古）③島輝翔（勇東）、敢闘賞＝武田純加（茂名）▽6年生①高橋知湧（松紀和会）②松浦暖（目亜）③中嶋志（佐古）、敢闘賞＝武内晴紀（目亜）

◆第58回全国道場少年大会（7月30日・日本武道館）
◇徳島県関係の上位
▽小学生②徳島剣清塾（清水春花、岩浅詩、水口萌香）

◆第24回堀金旗争奪・小松島少剣クラブ創立50周年記念少年大会（7月21日・とぐぎんトモニアリーナ那賀）
▽高学年①徳島剣清塾A（清水、岩浅、水口）②徳島剣清塾B③吉野川剣道教室A③石井少年剣道クラブA▽低学年①徳島剣清塾A（岩浅、野村、高野）②徳島剣清塾B③那賀川剣道教室わかあゆ会C③誠武館道場A

◆第19回吉野川市民体育祭大会（8月4日・美郷ふるさとセンター体育館）
◇剣道
【団体】小学生低学年①鴨島少年剣道教室②吉野川少年剣道教室▽高学年①吉野川少年剣道教室A②吉野川少年剣道教室B③山川スポーツ少年団修錬館③吉野川少年剣道教室D
【個人】木刀による基本稽古法①佳友由子②秋月佐代③兼子かおり③木内茂美▽小学2年生以下①山出育弥②森本康大③井上藝子③佐藤璃々奈▽3、4年生①山出朋弥②一宮碧③稲垣健悟③山本紗帆▽5、6年生①金山恵大②山出直弥③白川琥太郎④佐藤叶人▽中学女子①佳友乃々愛②後藤田みさと③片岡穂香▽同男子①近藤瑠太②宮本昂成③三木琉真③三好琥珀▽高校女子①板場鈴々②前田優莉③岩谷夢羽③福田紗那乃▽同男子①佐藤幸輔②逢坂翔稲木理人③三宅海誠▽一般①高永涼介②鳴滝朝希③原田敏也③片山聖也
◇居合道
▽小学生①宮本愛真②木村恋瑛③北川心都▽中学生①宮本昂成②黒川翔太朗③木村紀真▽高校生①大森春奈②日和田慧③長谷川亜寿美▽五段以下①山田師正②小野和敏③日和田慈海▽六段以上①徳山夢②林由美③中尾鑑一

▶上位入賞者ら◀

◆第50回記念岡土少年錬成大会（8月31日・木頭体育館）
◇徳島県関係の上位
【団体】小学生②徳島剣清塾（岩浅、亀井、水口）③小松島少剣クラブ▽3和田島少年剣道クラブ▽中学生①徳島剣清塾（鹿島、河田、水口）②鷲敷中学校③小松島中学校③和田島少年剣道クラブ
【個人】小学1、2年生①岩浅晴（徳島剣清塾）②唐子慶泰（目亜錬心塾）③寒山杏（徳島至誠館）
◆少年大会（9月8日・徳島市Bs&G海洋センター）
【団体】①目亜錬心塾②佐古剣道クラブ③徳島少年剣道教室、敢闘賞＝松紀和会
【個人】1年生以下①近藤治雄（加茂名）②笹倉孝允（松紀和会）③友成ふう（徳少）、敢闘賞＝石川晴人（養武館）▽2年生①中川照大（徳少）②岩田蒼介（勇東）③山田琥々（目亜）、敢闘賞＝鹿子慶泰（目亜）▽3年生①並田紗愛（目亜）②多田晴菜（目亜）③小松泰徳（松紀和会）、敢闘賞＝佐藤千冬（養武館）▽4年生①高橋秀（徳少）②加納大翔（清風館）③武内菜奈（目亜）、敢闘賞＝坂東真（徳少）▽5年生①多川華音（目亜）②平野大翔（佐古）③島輝翔（勇東）、敢闘賞＝武田純加（茂名）▽6年生①高橋知湧（松紀和会）②松浦暖（目亜）③中嶋志（佐古）、敢闘賞＝武内晴紀（目亜）

2024年（令和6年）10月21日

剣道

◆第21回製薬大会（9月14日・とくぎんトモニアリーナ）◇徳島県関係の上位＝所属はいずれも大塚製薬【団体】①大塚製薬A

優勝の大塚製薬

大塚製薬は連覇

【個人】成年男子②中村隼人③富田将太郎③富田哲平

◆鳴敷市少年錬成大会（9月14日・水島緑地福田公園体育館）◇徳島県関係の上位▽小学生低学年①徳島剣清塾A（岩浅晴、高野里純、湯村雅治、亀井結之心、野村拓未）▽中学生③徳島剣清塾（鹿島大雅、河田淳紀、水口新汰、藤井陽斗、河田蒼生）

小学生低学年（左から）湯村、岩浅、野村、高野、亀井

中学生（左から）鹿島、河田淳、水口、藤井、河田蒼

2024年（令和6年）11月4日

剣道

◆第50回阿北地区大会（9月29日・石井中学校）【中学校】男子①徳島A（日和田碧、蝶々颯、中川駈亮、六車崇汰、篠原琉騎、湯川千暉）②徳島B③徳島文理③石井▽女子①南部（出口綺菜、柳生夏希、坂口凛、山本珠々、多川寧音）②石井③鳴門第一・大麻③徳島【高校】男子①城北A（多田健人、平松政樹、冨増凌祐、井上裕貴、大石一真）②城北B③徳島科学技術③鳴門渦潮A▽女子①徳島文理A（中村柑菜、元木璃子、谷本真尋子、小田有紗、秋山鈴奈）②城北③鳴門・板野③川島

中学校優勝の南部と徳島A

高校優勝の徳島文理Aと城北A

2024年（令和6年）11月25日

剣道

◆第2回綾部高齢者剣道大会（10月27日・京都府あやべ日東精工アリーナ武道館）
◇徳島県関係の上位
▽団体①徳島県高齢剣友会B（藤本、吉田、柴田、高木、岩本）

優勝の徳島県高齢剣友会B

2024年（令和6年）12月10日

剣道

◆第55回徳島県少年錬成大会（11月4日・鳴門ソノショイ武道館）
▽順位①日亜錬心塾（平田紗弥、武内晴紀、羽坂空那、多川華音、松浦暖）②吉野川少年剣道教室③那賀川剣道教室わかあゆ会③徳島剣清塾
◆清原杯争奪第69回県下大会（11月3日・阿南市しんきんサンアリーナ）
【小学校】①徳島剣清塾A（清水春花、高橋明里、岩浅詩、水口萌音、高野愛叶、橋本美優、祖川穂花）②日亜錬心塾③那賀川剣道教室わかあゆ会A③徳島少年剣道教室誠館
【中学校】【男子】①那賀川（鹿島大雅、棚橋爽斗、水口新依、河田淳紀、河田蒼生、佳友暖、川野翔平）②鴨島B③徳島A▽女子①南部（出口紗菜、柳生夏希、坂口凛、山本珠々、多川寧音）②鴨島第一・県立鴨島③徳島③鳴門第一・大麻
【高校】【男子】①城北A（多田健人、井上裕貴、平松政樹、富増奎佑、力石一真、野田崇佐）②阿南光A③富岡西③城北B▽女子①富岡東A（山田莉桜、堀内花、高嶋桜子、伊藤寧夏、鈴江海音）②富岡東B③城北③阿南光
【一般男子】①徳島刑務所A（弘田悠人、山崎広貴、岡田佑介、菅朋輝、玉井翔、片山将志、三角拓巳）②徳島支部③小松島支部A③松島支部B▽女子①川島高剣友会A（野崎まひろ、堀井乃々花、篠原若菜、三笠志織）②あなんA③佐古剣道クラブ③小松島稽古会

小学校の上位入賞チーム

中学校女子の上位入賞チーム

中学校男子の那賀川

2024年（令和6年）10月14日

剣道

◆第50回記念阿土少年錬成大会（8月11日・木頭体育館）
◇徳島県関係の上位
【団体小学生】②徳島剣清塾（岩浅、亀井、水口）③小松島少剣クラブ③和田島少年剣道クラブ▽中学生①徳島剣清塾（鹿島、河田、水口）②鴨敷中学校③小松島中学校③和田島少年剣道クラブ
【個人】小学1、2年生①岩浅晴（徳島剣清塾）②鹿子慶泰（日亜錬心塾）③寒山杏（徳島誠館）③森本美夏（養武館）、敢闘賞＝森本康太、山出育弥（以上鴨島少年剣道教室）、花野幹太（和田島少年剣道クラブ）▽3、4年生①湯村雅治（徳島剣清塾）②祖川結人（徳島剣清塾）、敢闘賞＝野村拓未、高野里紗、亀井結之心（以上徳島剣清塾）▽5、6年生②高野愛叶（徳島剣清塾）、敢闘賞＝大松谷凛太郎、清水春花（以上徳島剣清塾）松本心眞（木頭錬心館）
山ノ井雄一朗（阿南少年剣道教室）
▽中学1年生①坂口澗（日亜錬心塾）②河田浮紀（徳島剣清塾）、敢闘賞＝泉仁（日亜錬心塾）棚橋爽斗（徳島剣清塾）諏美結（那賀川剣道教室わかあゆ会）▽2年生②東根悠（立江剣道教室）③廣瀬芽生（新野少年剣道教室）、敢闘賞＝宮本弟成（麻植少剣クラブ）高瀬智菜（新野少年剣道教室）平川唯人（木頭中学校）

◆少年大会（9月8日・徳島市B&G海洋センター）
【団体】①日亜錬心塾②佐古剣道クラブ③徳島少年剣道教室、敢闘賞＝松紀和会
【個人】1年生以下①近藤治雄（加茂名）②徳倉孝允（松紀和会）③友成ふじの（徳少）、敢闘賞＝石川睦人（養武館）▽2年生①中川照大（徳少）②岩田奏介（南東）③山田瑚々（日亜）、敢闘賞＝鹿子慶泰（日亜）▽3年生①平田紗愛（日亜）②多田晴菜（日亜）③小松泰徳（松紀和会）、敢闘賞＝佐藤千冬（養武館）▽4年生①高橋秀（徳少）②加納大翔（清風館）③武内菜奈（日亜）、敢闘賞＝東翼（徳少）▽5年生①多川華音（日亜）②平野大翔（佐古）③島輝翔（南東）、敢闘賞＝武田純（加茂名）▽6年生①高橋知満（松紀和会）②松浦暖（日亜）③中江颯志（佐古）、敢闘賞＝武内晴紀（日亜）

2025年（令和7年）1月13日

あわースポーツ

剣道

◆第42回徳島県スポーツ少年団交流大会・第47回全国スポーツ少年団交流大会徳島県予選会（12月1日・鳴門ソイジョイ武道館）【団体】小学生▽阿南市A（野村拓未、高橋明里＝以上徳島剣清塾、大西光＝那賀川剣道教室わかあゆ会、岩浅詩＝徳島剣清塾、宮武颯詩＝徳島至誠館）②阿南市C③阿南市B④阿南市D【個人】中学校男子①柏原健人（養武館）②篠原瑛騎（佐古剣道クラブ）③阿井輝（阿南少年剣道教室）③日和田碧（石井少年剣道クラブ）▽同女子①茨木里音（徳島少年剣道教室）②橋本愛生（小松島少年剣クラブ）③増尾美織（和田島少年剣道クラブ）③岩浅花（徳島剣清塾）

2025年（令和7年）1月27日

剣道

◆2024年度鳴門市スポーツ祭（11月24日・鳴門市剣道場）【小学生】低学年▽団体戦＝鳴門市剣道場②矢野陽向（大麻錬成館）③斎藤咲斗（鳴門市光武館道場）③中村航太（大麻錬成館）▽高学年①橋本実（鳴門市光武館道場）②中村翔（大麻錬成館）③多賀花時人（鳴門少年剣道教室）③神野佑海（鳴門市光武館道場）【中学生】男子①近藤晴季（大麻）②板東武蔵（大麻）③大谷蒼真（鳴門第一）▽女子①豊田菜（鳴門第一）②天満日華（大麻）③天満椛（大麻）

◆第20回美馬市文化祭協賛事業少年大会（脇町小学校）【小学校】1、2年生①藤田結菜（春風館）②井上喜心（脇町）③佐野想和（脇町）③藤甲一世（春風館）▽3、4年生①上田新（春風館）②山口泰誠（春風館）③鎌倉歩生（半田）③河野心哉（脇町）▽5、6年生①遠藤大志（脇町）②八木瑛大（脇町）③富田櫻子（脇町）③八木翔大（脇町）【中学生】男子①秋岡金太郎（春風館）②北田慎一朗（脇町中）③南輝幸（脇町中）③東尾陽介（半田中）▽女子①大塚美結（脇町中）②植村心稀（半田中）【一般】①三浦誠一②八木理恵

上位入賞者

脇町剣道教室の上位入賞者ら

徳島春風館の上位入賞者ら

2025年（令和7年）2月11日

剣道

◆第12回中国四国地区少年錬成大会（12月14、15日・岡山市総合文化体育館）◇徳島県関係の上位【団体】小学生低学年①徳島剣清塾A（野村拓未、水口柑奈、湯村雅治）、敢闘賞＝徳島剣清塾B（岩浅晴、相川結人、相川穂花）【個人】小学1、2年生男子③岩浅晴（徳島剣清塾）▽4年生女子①相川穂花（徳島剣清塾）▽5年生女子②岩浅詩（徳島剣清塾）▽3年生男子敢闘賞＝相川結人（徳島剣清塾）▽4年生男子敢闘賞＝野村拓未、湯村雅治（以上徳島剣清塾）▽5年生女子敢闘賞＝多川華音（白亜練心塾）▽6年生女子敢闘賞＝水口朋香（徳島剣清塾）▽中学2年生男子敢闘賞＝水口新汰（徳島剣清塾）

◆第17回坂本龍馬旗全国少年錬成大会（12月22日・高知県青少年センター）◇徳島県関係の上位▽小学生低学年敢闘賞＝徳島剣清塾A（野村拓未、高野黒絆、湯村雅治）、徳島剣清塾B（岩浅晴、相川結人、亀井結之心）▽中学生③徳島剣清塾A（鹿島大雅、水口新汰、河田蒼生）

上位入賞チームのメンバーら

2025年（令和7年）2月3日

剣道

◆第3回三木杯争奪少年大会（12月22日・日本ライフネンアリーナ）
◇徳島県関係の上位
▽小学2年生以下①鴨島少年剣道教室（森本康太、椙原結菜、山出育弥）②養武館▽3、4年生①吉野川少年剣道教室A（一宮碧、林大洋、稲垣健悟）②誠武館道場③徳島少年剣道教室③小松島少剣クラブ▽5、6年生①誠武館道場A（村瀬いろは、梶光南、梶光南）

上位入賞チームのメンバーら

2025年（令和7年）2月24日

剣道

◆第28回東みよし町近県大会（1月19日・ふれアリーナみよし）
◇徳島県関係の上位
【団体】小学生①吉野川少年剣道教室A②市場剣道教室A③鴨島少年剣道教室A▽中学生男子①鴨島第一中③市場・土成中▽同女子①拗阿波・山川B②土成中A③拗阿波・山川A
【個人】小学2年生以下①山出育弥（鴨島少年剣道教室）②森本康太（鴨島少年剣道教室）③佐藤璃々奈（吉野川少年剣道教室）▽3年生①住友想（市場剣道教室）②金山陽奏（吉野川少年剣道教室）▽4年生①山出朋弥（鴨島少年剣道教室）②稲垣健悟（吉野川少年剣道教室）③大野紗奈（市場剣道教室）▽5年生②原田恵史（山川スポーツ少年団修練館）③仲野祥太（吉野川少年剣道教室）▽6年生①金山恵大（吉野川少年剣道教室）②佐藤心人（吉野川少年剣道教室）③井後七海（鴨島少年剣道教室）▽中学生男子①宮本昌成（鴨島第一）②三好琥珀（鴨島第一）▽同女子①坂東珠里（阿波）②新石叶愛（阿波）③住友乃々愛（鴨島第一）

2025年（令和7年）3月17日

剣道

◆第1回みなと小松島社会人大会（2月24日・小松島市立体育館）
▽順位①城北OB・A②蔵本黒蛇③徳島刑務所A③わかあゆ龍

優勝の城北OB・A

2025年（令和7年）3月25日

剣道

◆第29回藤花旗争奪少年大会（3月1日・石井中学校）
【団体】①吉野川少年剣道教室②石井少年剣道クラブ③佐古剣道クラブ④鴨島少年剣道教室
【個人】1年生①佐藤璃々奈（吉野川少年剣道教室）②笹倉孝允（松紀和会）③森山礼桜（藍住剣道スポーツ少年団）③藤本倫馬（鴨島少年剣道教室）▽2年生①山出育弥（鴨島少年剣道教室）②櫛木心晴（誠武館）③阿部結人（誠武館）③梶耀甫（誠武館）▽3年生①露口寧々（誠武館）②小倉悠翔（北井上剣道教室）③小川内琥惺（鴨島少年剣道教室）③住友想（市場剣道教室）▽4年生①山出朋弥（鴨島少年剣道教室）②稲垣健悟（吉野川少年剣道教室）③矢野陽希（誠武館）③櫻木新大（誠武館）▽5年生①姫田京杜（誠武館）②佐藤叶人（吉野川少年剣道教室）③仲野祥太（吉野川少年剣道教室）③六車友希（藍住剣道スポーツ少年団）▽6年生①佐藤心人（吉野川少年剣道教室）②川野太雅（北井上剣道教室）③阿部透真（市場剣道教室）③金山恵大（吉野川少年剣道教室）

団体優勝の吉野川少年剣道教室

個人（右から）１年生から６年生の優勝者

剣道

◆第30回徳島市スポーツ少年団交流大会（2月9日・とくぎんトモニアリーナ）

【団体】小学生低学年①徳島少年剣道教室②養武館A③養武館B▽高学年①徳島少年剣道教室②佐古剣道クラブA③渭東少年剣道教室

【個人】小学1年生①近藤治雄（加茂名少年剣道教室）②石川睦人（養武館）③山ノ井亮輔（渭東少年剣道教室）③友成ふじの（徳島少年剣道教室）▽2年生①中川照大（徳島少年剣道教室）②森本美実（養武館）③佳吉里宇（徳島少年剣道教室）③岩田真介（渭東少年剣道教室）▽3年生①小倉悠聖（北井上剣道教室）②佐藤千冬（養武館）③石川輝哲（加茂名少年剣道教室）③吉田陽輝（徳島清風館道場）▽4年生①坂東真（徳島少年剣道教室）②藤川慎太朗（佐古剣道クラブ）③湯川実千琉（徳島少年剣道教室）③加統大翔（徳島清風館道場）▽5年生①平野大翔（佐古剣道クラブ）②越智映斗（加茂名少年剣道教室）③佐藤隼太（養武館）③生田新（佐古剣道クラブ）▽6年生①川野太雅（北井上剣道教室）②中川晃志（徳島少年剣道教室）③島陽輝（渭東少年剣道教室）③北島弘暉（徳島少年剣道教室）▽中学生男子①大和智哉（養武館）②中岡亮仁（徳島少年剣道教室）③岸田敏春（佐古剣道クラブ）③佐藤奏仁（徳島少年剣道教室）▽女子①茨木由香（徳島少年剣道教室）②橋本佳央梨（徳島少年剣道教室）③矢野羽瑠（徳島清風館道場）

団体戦優勝の徳島少年剣道教室

◆遠藤旗争奪第41回少年錬成大会（2月2日・那賀川スポーツセンター）

【団体】①徳島剣清塾A（野村拓未、高野里絆、岩浅詩、清水春花、水口朗香）②徳島剣清塾B③徳島至誠館③小松島少剣クラブ

【個人】幼年・小学1年①太田京佑（立江）②佐藤璃々奈（吉野川）③河田遥真（剣清塾）③亀井心緑（剣清塾）▽2年生①中川照大（徳島）②須見咲月（鷲住）③

団体の上位入賞チーム

個人・3年生以下の上位入賞者

森本美実（養武館）③近藤優衣人（北井上）▽3年生①相川結人（剣清塾）②水口相奈（剣清塾）③澤田蒼（至誠館）③露口寧々（誠武館）▽4年生①中川慧亮（剣清塾）

個人・4年生以上の上位入賞者

②矢野陽希（誠武館）③櫻木新大（誠武館）③祖川穂香（剣清塾）▽5年生①松本蒼生（振武館）②上原穂香（剣清塾）③本間宗次郎（吉野川）③小山一翔（剣清塾）▽6年生①金山恵大（吉野川）②山ノ井雄一朗（阿南）③鈴木望（振武館）③濱田竜飛（至誠館）

◆誠武館道場錬成会（2月9日・北島町武道館）

◇徳島県関係の上位▽順位②誠武館道場A

上位入賞チームのメンバーら

2025年（令和7年）3月17日

居合道

◆徳島県剣道連盟2024年度県下大会（2月16日・松茂町第二体育館）

▽優秀演武賞　木村志瑛、宮本響基、村中郁、尾華裕貴、西岡悠天、西岡利治、山田師正、徳山夏▽敢闘賞　宮本昌成、木村起真▽奨励賞　藤山泰成

優秀演武賞の受賞者

令和七年度 剣道・居合道・杖道昇段審査 学科試験問題・解答例

徳島県剣道連盟の段位審査における学科問題ついて

この解答にあたっては、適語選択については名称等、正確に記憶しておかねばならない事項もあるが、記述式の問題においては、今の自分のレベルで考え、自分の言葉で表現することを求めている。

【剣　道】

剣道段位学科問題について

剣道の学科問題は、日本剣道形についての設問を初段から四段は必修とし、空欄に適切な語句を語群から選択して解答する適語選択形式とした。

問題数については、各段四問より二問を出題することとした。初段から四段については、必修問題として日本剣道形が出題されるので、残りの三問から一問の出題となる。

五段については、全四問中から二問の出題とする。

初段と二段については、従来の記述式だけではなく、適切な語句を語群から選択して解答する適語選択を多く取り入れた。

三段・四段・五段の記述式の問題は、解答例に箇条書き形式を一部取り入れた。

初段の部

1　日本剣道形太刀の形の一本目・二本目・三本目について説明した文の（　）に適語を語群から選び記入なさい。

〔一本目〕

打太刀は諸手（①）、仕太刀は諸手（②）で、打太刀は左足、仕太刀は右足から、互いに進み、間合に接したとき、打太刀は機を見て右足を踏み出し、仕太刀の（③）を打つ。

仕太刀は左足から体を少し後ろに自然体でひくと同時に、諸手も後ろにひいて、打太刀の剣先を抜き、右足を踏み出し、打太刀の（③）を打つ。打太刀が剣先を下段のまま送り足で一歩ひくので、仕太刀は、十分な気位で打太刀を圧しながら、剣先を（④）の中心につけ、打太刀がさらに一歩ひくと同時に、左足を踏み出しながら、諸手（①）に振りかぶり残心を示す。

〔二本目〕

打太刀、仕太刀相（⑤）で、互いに右足から進み、間合に接したとき、打太刀は機を見て仕太刀の（⑥）を打つ。

仕太刀は、左足から右足をともなって左斜め後ろにひくと同時に、剣先を下げて、打太刀の刀の下で半円をえがく心持ちで打太刀の打ち込んでくるのを抜いて、大きく右足を踏み出すと同時に打太刀の（⑥）を打つ。

〔三本目〕

打太刀、仕太刀相（⑦）で互いに右足から進み、間合に接したとき、互いに気争いで自然に相中段になる。そこで打太刀は機を見て、刃先を少し仕太刀の左に向け、右足から一歩踏み込みながら、鎬ですり込み、諸手で仕太刀の（⑧）を突く。仕太刀は、左足から一歩大きく体をひきながら、打太刀の刀身を物打ちの鎬で軽く入れ突きになやすと同時に打太刀の（⑨）へ突き返す。

打太刀はこの時、右足を後ろにひくと同時に、剣先を仕太刀の刀の下から返して、諸手をやや　伸ばし、左自然体の構えとなり、剣先は仕太刀の（⑩）につけて仕太刀の刀を物打ちの鎬で右に押さえる。

《語群》中段　下段　左上段　右上段
水月　正面　咽喉部　右小手
顔　胸部

①	⑥
②	⑦
③	⑧
④	⑨
⑤	⑩

{解答} ①左上段　②右上段　③正面　④顔
⑤中段　⑥右小手　⑦下段　⑧水月
⑨胸部　⑩咽喉部

2　「気剣体一致」について説明した文の（　）に適語を語群から選び記入しなさい。

主に打突動作に関する教えであり、気とは（①）、剣とは（②）、体とは（③）と体勢のことである。これらがタイミングよく（④）がとれ、一体となって働くことで（⑤）となり得る。

《語群》有効打突　気力　体さばき
調和　竹刀操作

①
②
③
④
⑤

{解答} ①気力　②竹刀操作　③体さばき
④調和　⑤有効打突

3　全日本剣道連盟が制定した「剣道の理念」の（　）に適語を語群から選び記入しなさい。

『剣道は（①）の（②）の（③）による（④）の（⑤）である』

《語群》人間形成　理法　道　剣
修錬

①
②
③
④
⑤

{解答} ①剣　②理法　③修錬
④人間形成　⑤道

4「切り返しの目的」について説明した文の（　）に適語を語群から選び記入しなさい。

切り返しは、正面打ちと、連続左右面打ちを組み合わせ、基本動作を総合的に練習するためのものである。切り返しのなかで、姿勢や（①）、打ちの（②）や手の内の作用、足さばき、（③）の取り方、（④）、さらに体力や気力を養い、（⑤）の打突の習得を目的とする。

《語群》間合　刃筋　気剣体一致
構え　呼吸法

①
②
③
④
⑤

{解答} ①構え　②刃筋　③間合
④呼吸法　⑤気剣体一致

二段の部

1　日本剣道形太刀の形四本目と五本目について説明した文の（　）に適語を語群から選び記入しなさい。

〔四本目〕

打太刀は、（①）、仕太刀は（②）で、互いに左足から進み間合に接したとき、打太刀は機を見て（①）から、諸手左上段に、仕太刀もすかさず（②）から、諸手左上段に変化して、互いに右足を踏み出すと同時に、十分な（③）で相手の（④）に打ち込み、切り結んで相打ちとなる。

相打ちとなってからは、双方同じ気位で互いの刀身が鎬を削るようにして、自然に相中段となり、打太刀は機を見て刃先を少し仕太刀の左に向け、右足を（左足もともなって）進めると同時に、諸手で仕太刀の（⑤）を突く。

仕太刀は、左足を左前に、右足をその後ろに移すと同時に大きく巻き返して打太刀の（④）を打つ。

打太刀は左足から、仕太刀は右足から十分に（⑥）の気位を示しながら相中段になりつつ、抜き合わせた位置にもどり、剣先を下げて元の位置にかえる。

〔五本目〕

打太刀は（⑦）、仕太刀は（⑧）で、打太刀は（⑨）から仕太刀は（⑩）から、互いに進み、間合いに接したとき、打太刀は機を見て右足を踏み出すと同時に（⑦）から、仕太刀の（④）を打つ。

仕太刀は、左足からひくと同時に左鎬で打太刀の刀をすり上げ、右足を踏み出して（④）

を打ち、右足をひきながら（⑦）に振りかぶって残心を示す。
　打太刀が剣先を（⑧）につけ始めるので、同時に仕太刀も左足をひいて剣先を（⑧）に下ろし、相（⑧）になる。打太刀は左足から、仕太刀は右足から小足三歩で、刀を抜き合わせた位置にもどり、剣先を下げて元の位置にかえる。

《語群》中段　下段　諸手左上段
脇構え　諸手右上段　八相の構え
正面　残心　気勢　右肺
右足　左足　胸部　咽喉部

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

〔解答〕①八相の構え　②脇構え　③気勢
④正面　⑤右肺　⑥残心
⑦諸手左上段　⑧中段　⑨左足
⑩右足

2「打突の好機」について五つあげなさい。

〔解答〕以下の基本的な項目から答えること。
・相手の動作の起こり（出ばな）
・技の尽きたところ（動作や技が終わったところ）
・居ついたところ（身体の緊張がゆるんだ瞬間、気持ちで圧倒されたとき）
・退がるところ（引きはな）
・受け止めたところ（受け止めた時に隙が生じる）
・息を深く吸うところ（息を吸う時は、相手の動作が止まる）

3「稽古で心がけなければならないこと」について述べた文の（　）に適語を語群から選び記入しなさい。

（1）竹刀の（①）、準備運動、整理運動をはじめとした（②）に留意する。
（2）大きな目標や（③）をもって取り組む。
（3）（④）を重んじる。
（4）立会いの「（⑤）」を大事にして、一本一本をおろそかにしないように、常に旺盛な（⑥）で、精魂を込めて稽古をする。
（5）（⑦）に忠実な稽古をする。
（6）（⑧）を積極的に使って稽古をする。
（7）稽古後は（⑨）し、（⑩）・研究をおこたらない。

《語群》研究心　初太刀　点検　気力
工夫　反省　安全面
しかけていく技　基本　礼儀作法

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

〔解答〕①点検　②安全面　③研究心
④礼儀作法　⑤初太刀　⑥気力
⑦基本　⑧しかけていく技
⑨反省　⑩工夫

4　全日本剣道連盟が制定した「剣道修錬の心構え」について、（　）に適語を語群から選び記入しなさい。

「剣道修錬の心構え」
剣道を正しく（①）に学び
心身を（②）して旺盛なる（③）を養い
剣道の（④）を通じて（⑤）をとうとび
（⑥）を重んじ（⑦）を尽くして
常に自己の（⑧）に努め
もって（⑨）を愛して
広く人類の（⑩）に
寄与せんとするものである
昭和五十年三月二十日制定

《語群》国家社会　気力　信義
平和繁栄　錬磨　誠
修養　真剣　特性　礼節

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

〔解答〕①真剣　②錬磨　③気力
④特性　⑤礼節　⑥信義　⑦誠
⑧修養　⑨国家社会　⑩平和繁栄

三段の部

1　日本剣道形太刀の形六本目と七本目について説明した文の（　）に適語を語群から選び文を完　成させなさい。

〔六本目〕

打太刀は、（①）、仕太刀は（②）で、互いに右足から進み、間合に接したとき、仕太刀は機を見て（②）から打太刀の両拳の中心を攻める気勢で、（①）に上げ始めるので、同時に打太刀も、これに応ずる心持ちでやや剣先を下げて、仕太刀の刀と合おうとする瞬間、右足をひいて（③）に振りかぶる。

仕太刀はすかさず（①）のまま大きく右足から（左足もともなって）一歩進む。打太刀は直ちに左足をひいて（①）となり、機を見て仕太刀の（④）を打つ。

仕太刀はその刀を、左足を左にひらくと同時に、小さく半円を描く心持ちで、右鎬ずり上げ、右足を踏み出し、打太刀の（④）を打つ。

打太刀は剣先を下げて、左足から左斜め後ろに大きくひくので、仕太刀は左足を踏み出しながら、（③）に振りかぶり（⑤）を示す。

〔七本目〕

打太刀、仕太刀相（①）で、互いに右足から進み、間合に接したとき、打太刀は機を見て、一歩軽く踏み込み、刃先をやや仕太刀の左斜め下に向けて、鎬ですり込みながら、諸手で仕太刀の（⑥）を突く。仕太刀は、打太刀の進む程度に応じて、左足から体をひくと同時に、諸手を伸ばし、刃先を左斜め下に向け、物打ちの鎬で打太刀の刀を支える。

互いに相（①）になり、打太刀は、（⑦）を踏み出し、右足を踏み出すと同時に、体を捨てて諸手で仕太刀の（⑧）に打ち込む。

仕太刀は右足を右前にひらき、左足を踏み出して体をすれ違いながら諸手で、打太刀の（⑨）を打ち、右足を踏み出し左足の右斜め前に軽く右膝をついて、爪先を立て左膝を立てる。諸手は十分に伸ばし、刀は手とほぼ平行に右斜め前にとり、刃先は右に向ける。その後、刀を返して（⑩）に構えて、（⑤）を示す。

《語群》諸手左上段　諸手右上段　中段
下段　脇構え　八相の構え
右小手　左小手　右胴　左胴　正面
胸部　咽喉部　残心　右足
左足

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

〔解答〕①中段　②下段　③諸手左上段
④右小手　⑤残心　⑥胸部
⑦左足　⑧正面　⑨右胴
⑩脇構え

2　「平常心」について説明しなさい。

〔解答例〕

物事（事象）の変化に対し動揺することなく、日頃の気持ちで冷静に対応できる磨かれた心の状態をいう。事に臨んで心を動かすことなく、ふだんと変わらない平常の心で対処することは非常に難しいことである。剣道では、この平常と変わらない心を持たねばならないことを強く求めている。

3　「三殺法」について説明しなさい。

〔解答例〕

相手を制するための手だてとして、相手の剣、技、気の三つを封ずること。
剣を殺す＝相手の剣を押さえ、払うなどして剣の働きを制する。
技を殺す＝先手先手と攻め、相手に技を仕かける余裕を与えない。
気を殺す＝気力で相手を圧倒し、相手が攻撃しようとする機先を制する。

4　互格稽古で注意することを書きなさい。

〔解答例〕

①修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した気勢で真剣に行う。
②相手と対等の気持ちで行う。

③立ち会いの「初太刀」を大切にし、一本一本に精魂込めて打突する。
④間合のとり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくり方、技の出し方などを工夫する。
⑤相手を選り好みしないで、多くの人と稽古する。

四段の部

1　日本剣道形　小太刀の形について（　）に適語を語群から選び回答欄に記入しなさい。

〔一本目〕
打太刀は（①）、仕太刀は（②）の構えで、打太刀は左足から、仕太刀は右足から、互いに進み間合いに接したとき、仕太刀が入身になろうとするので、打太刀は右足を踏み出すと同時に、（①）から、仕太刀の（③）に打ち下ろす。
仕太刀は右足を斜め前に、左足をその後ろに進めて、体を右にひらくと同時に、右手を頭上に上げ、刃先を後ろにし、左鎬で受け流して打太刀の（③）を打ち、左足から一歩ひいて上段にとって残心を示す。

〔二本目〕
打太刀は（④）、仕太刀は（②）の構えで、互いに右足から進み間合に接したとき、打太刀は、守る意味で、（④）から中段になろうとする瞬間、仕太刀は、打太刀の刀を制して入身になろうとするので、打太刀は、右足を後ろにひいて（⑤）にひらくのを、すかさず、仕太刀が、再び中段で入身になって攻めてくるので、打太刀は（⑤）から変化して（①）に振りかぶり、右足を踏み出すと同時に仕太刀の（③）に打ち込む。
仕太刀は左足を左斜め前に、右足をその後ろに進めて、体を左にひらくと同時に、右手を頭上に上げ、刃先を後ろにし、右鎬で受け流して面を打ち、打太刀の（⑥）を押さえて腕の自由を制すると同時に、右拳を右腰にとり、刃先を右斜め下に向け、剣先を（⑦）につけて残心を示す。

〔三本目〕
打太刀は中段、仕太刀は（⑧）の構えで、打太刀は立ち会いの間合から、右足、左足と進み、次の右足を踏み出すとき、仕太刀が入身になろうとするのを中段から（⑨）に振りかぶって、仕太刀の（③）に打ち下ろす。仕太刀は、その刀をいったんすり上げて打太刀の右斜めにすり落とす。
打太刀は、直ちに左足を踏み出し、仕太刀の（⑩）を打つ。仕太刀は左足を左斜め前に踏み出し、体を右斜めにひらくと同時に、胴を打ってくる打太刀の刀を、左鎬ですり流し、そのまま左鎬で、打太刀の鍔元にすり込み、小太刀の刃部のはばきで打太刀の鍔元を押さえて、入身になり、打太刀の（⑥）を押さえる。
打太刀がひくので、仕太刀はそのまま攻めて、二三歩進み右拳を右腰にとり、刃先を右斜め下に向けて、剣先を（⑦）につけ、残心を示す。

《語群》諸手左上段　諸手右上段
中段半身　下段半身　下段
脇構え　八相の構え　二の腕
右小手　右胴　左胴　正面
胸部　咽喉部

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

〔解答〕①諸手左上段　②中段半身　③正面
④下段　⑤脇構え　⑥二の腕
⑦咽喉部　⑧下段半身
⑨諸手右上段　⑩右胴

2　有効打突について説明しなさい。

〔解答例〕
有効打突は、剣道試合・審判規則に、充実した気勢、適正な姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し、残心あるものと規定されている。このような諸条件を満たした一本が有効打突となる。
言いかえれば、気剣体一致の打突である。
有効な打突は理合と残心からなっており、理

合を要素と要件に分けると、要素には、間合・機会・体さばき・手の内の作用・強さと冴えが含まれる。要件には、姿勢・気勢（発声）・打突部位・竹刀の打突部・刃筋が含まれる。残心は、打突後の身構え・気構えである。

3　残心の重要性について述べなさい。

〔解答例〕

打突した後でも相手に心を留めて、もし相手が再び反撃しようとしたら、直ちにこれを制し得る油断のない身構えと気構えになっていなければならない。もし、打突した後に油断していたならば逆に相手に反撃されてしまう。また、打突した後に心を残そうとすれば、かえって残そうとするところに心が止まってしまうとされている。心を残さず、思い切って捨て身で打突することによってこそ、自然と相手に対する油断のない心が生まれ、これが相手の反撃に備える身構えと気構えになる。

4　剣道における熱中症の予防と対処方法について述べなさい。

〔解答例〕

熱中症とは、高温環境に高湿度が加わると、うつ熱によって、体温上昇が助長されて体温調節機能が障害される。このような状態を総称して熱中症と言う。

〔熱中症の予防〕　熱中症を防ぐためには

①剣道場の換気、風通しに十分注意すること。

②稽古の前にはコップ1～2杯の水分を摂取すること。

③急に暑くなったときには、稽古量を少なめから始め、暑さに慣れるまでは徐々に増やしていくこと。

④稽古は長時間続けずに、面をはずして定期的な休息をとること。

⑤稽古の合間には十分量の水分を補給すること。スポーツドリンクや食塩水（水1ﾘｯﾄﾙに1～2ｇの食塩）が望ましい。

〔対処方法〕熱中症になったら

①ただちに涼しいところに運び、防具を外して袴のひもをゆるめ、頭を低くして寝かせる。

②冷たいタオルで全身の汗をぬぐいつつ、首の周囲や太ももの付け根などを、氷を包んだタオルなどで冷やす。

③水分補給をスポーツドリンクや食塩水で行う。

④三十八度以上熱があるとき、けいれんが起こったとき、意識がもうろうとしたり、意識がないときは危険なので、すこしでもおかしいときは、体温を下げる応急処置を行いながら救急車を呼んで病　院にて治療を行う。

五段の部

1　審判員の心得について「一般的要件」と「留意事項」を述べなさい。

〔解答例〕

一般的要件

①公正無私であること。

②剣道試合・審判規則、運営要領を熟知し、正しく運用できること。

③剣理に精通していること。

④審判技術に熟達していること。

⑤健康体で、かつ活動的であること。

留意事項

①服装を端正にすること。

②姿勢・態度・所作などを厳正にすること。

③言語が明晰であること。

④数多くの審判を経験し、反省と研鑽に努めること。

⑤よい審判を見て学ぶこと。

2　「指導者としての心構え」について述べなさい。

〔解答例〕

①確固たる信念と情熱、愛情と誠意をもって指導する。

②指導を受ける者の人格と個性を尊重しなが

ら指導する。
③自らの人格を養い、信頼される指導者となるように努力する。
④指導を受ける者とともに修練に励み、技能の向上に努める。
⑤能率的・合理的な指導法の研究を心がけ、指導を受ける者が理解しやすい指導の方法を研究する。
⑥指導を受ける者の健康や安全に留意する。

3　「互格稽古」について説明し、「指導上の留意点」を述べなさい。

〔解答例〕
技能や気力の同等の者、あるいは同等に近い者が、互いに気をはかり、相手の変化に対して互格の態度や対等の気持ちで有効打突を競い合うなかで、総合的な能力を養う稽古法である。
①修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した気勢で真剣に行わせる。
②相手を恐れず侮らず、相手と対等の気持ちで行わせる。
③立会いの「初太刀」を大事にし、一本一本に精魂込めて打突させる。
④間合のとり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくり方、技の出し方などを工夫させる。
⑤相手をより好みしないで、多くの人と稽古をさせる。

4　剣道形を実施するときの留意点について述べなさい。

〔解答例〕
剣道形は、一定の形式と順序に従って行う一連の約束動作であるが、形を形骸化させない生きたものにするために、お互いが寸分の緩みのない気の働きをもって行わなければならない。
①立会前後の作法、立会の所作、刀の取り扱いを適切に行う。
②五つの構えと小太刀の半身の構えを正しく行う。
③目付けや呼吸法を心得て、終始、充実した気勢、気迫をもって合気で行う。
④打太刀（師の位）、仕太刀（弟子の位）の関係を理解し、原則として打太刀が先に動作を起こす。
⑤「機を見て」「入身になろうとする」といった打突の機会を理解して行う。
⑥打太刀は一足一刀の間合いから打突し、仕太刀は物打ちで打突部位を正確に打突する。
⑦振りかぶりは、剣先が両こぶしより下がらないようにし、一拍子で打つ。
⑧足さばきはすり足で行い、打突するときは後ろ足を前足に引き付ける。
⑨残心は十分な気位をもって行う。

【居 合 道】

初段の部

1 全日本剣道連盟が昭和50年3月20日に制定した「剣道の理念」を記せ

剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である。

2 「居合道と礼」について記せ

礼は、対人関係や社会の秩序を円滑に維持し、平和で充実した社会生活を送るために必要なことであるが、世代を超えて学び合い、生涯にわたる人間形成の道である居合道においても同じことがいえる。居合道は道場での稽古を始め、講習会や大会など様々な場で互いに学び、修練を積み重ねることによって自己の錬磨と修養につなげることができるのであり、ともに居合道を学んでいる人々に対しては常に敬意と感謝の念を持ち、礼儀正しく接していくことが大切である。

3 「柄の持ち方」について記せ

右手は鍔元近くを持ち、左手は「巻き止め」に小指がかからぬように「柄頭」を余して持つ。

両腕とも上筋より下筋を強くし、小指と薬指を締めて他の指をゆるめ、ちょうど鶏卵を握るように柄に手のひらが全部さわるように柔らかく持つ。

4 全日本剣道連盟が昭和50年3月20日に制定した「剣道修錬の心構え」について穴埋め式による問題を10項目出題する。

二段の部

1 「居合道の目付け」について記せ

実際には見えない敵を相手とする居合道において「目付け」はとても大切である。居合道における「仮想敵」は常に動いているため、敵の位置や動きを意識して演武する必要がある。居合道の「仮想敵」は自分と同じくらいの背丈とし、仮想敵の顔の中心を見るようにするが、一点を注視するのではなく、敵の全体を見るようにする。また、敵を倒した後の目付けは倒れた敵を見越したところとし、気は四方にくばる。

2 「居合道の呼吸」について記せ

各技に移るときは原則として三呼吸目を吸い込んだときに動作を始める。各技を一呼吸で終えることが望ましいが、息継ぎする場合は敵に悟られないように行う。

3 「演武の心得」について記せ

演武はすべて充実した気勢、正確な刀法、適法な姿勢、「気・剣・体の一致」を心がけ、全身全霊を打ち込んで真剣勝負の心境で「行ずる」心がけが大切である。

4 「一本目・前」、「二本目・後ろ」、「三本目・受け流し」の「全日本剣道連盟居合審判・審査上の着眼点」について穴埋め問題を10項目出題する。

三段の部

1 「残心」について記せ

敵を倒した後も油断せず、どんな反撃にも直ちに対応できるような身構えと気構えのことである。居合道においては倒した敵に心を残すことではなく、四方いずれの方向からの新たな攻撃にも対処できる気を配ることが最も重要であり、新たな敵に対する気構え、体構えのことである。

2 「気剣体の一致」について記せ

「気」とは気勢、「剣」とは刀の操作、「体」

とは体さばきと体勢のことで、これらがタイミングよく調和がとれ、一体となって働くことにより、効果的な斬突が可能となる。

3 「中段の構え」及び「諸手左上段の構え」について記せ

「中段の構え」は右足を前に左こぶしをへそ前より約一握り前にして両手で刀を持ち、剣先の延長が敵の両眼の間の方向に向くように刀を保持した構え。

「諸手左上段の構え」は両手で刀を頭上に上げた構えで、中段の構えから左足を前に出し、左こぶしを左額の前上一握りのところとし、剣先は約45度後ろ上方に向け、やや右に寄せる。

4 「四本目・柄当て」、「五本目・袈裟切り」、「六本目・諸手突き」における「全日本剣道連盟居合審判・審査上の着眼点」について穴埋め問題を10項目出題する。

四段の部

1 「試合における勝敗の決定」について記せ

正しい礼法・作法による充実した気勢と適正な姿勢をもって、正確な技術と刀法に基づいた気・剣・体一致の技前と心構えの優劣によって勝敗の判定を決定する。勝敗の判定基準は次のとおり

①修行の深さ、②礼儀、③正確な抜きつけと切りつけ、④正確な鞘離れと刃筋、⑤正確な血振りと角度、⑥正確な納刀、⑦心の落着き、⑧目付け、⑨気迫・残心・間と間合い、⑩気・剣・体の一致、⑪武道として合理的な居合であることとし、「全日本剣道連盟居合（解説）」の審判・審査上の着眼点を参考とする。

2 「守破離」について記せ

剣道や居合道における修行上の段階を示す教えで、「守」は指導者の教えに忠実に従って学び、それを確実に身につける段階。「破」は「守」の段階で学んだことについて工夫を凝らし、技術を高める段階、「離」は「守」・「破」といったことを超越して、技術をさらに深め、新しい境地を開いて確立していく段階のことである。

3 「八相の構え」及び「脇構え」について記せ

「八相の構え」は「諸手左上段の構え」から、そのまま右拳を右肩のあたりまで下ろした形で、刀をとる位置は鍔を口の高さにし、口からほぼ拳ひとつ離す。左拳の位置はほぼ正中線とし、刀身の傾きは後ろ上方約45度とし刃先は敵に向ける。

「脇構え」は右足を後ろにし、左半身となり、刀を右脇に剣先を後ろにし、刃先は右斜め下に向ける。剣先は下段の構え（膝頭より約3～6センチメートル下）より少し下げた位置にとり、刀身が相手から見えないように構える。

4 「七本目・三方切り」、「八本目・顔面当て」、「九本目・添え手突き」における「全日本剣道連盟居合審判・審査上の着眼点」について穴埋め問題を10項目出題する。

五段の部

1 全日本剣道連盟が平成19年3月14日に制定した「剣道指導の心構え」をもとに「居合道指導の心構え」について記せ

居合道の正しい伝承と発展のために、剣の理法に基づく刀の扱い方の指導に努める。

相手の人格を尊重し、心豊かな人間の育成のために礼法を重んずる指導に努める。

ともに居合道を学び、安全・健康に留意しつつ、生涯にわたる人間形成の道を見出す指導に努める。

2 「自信と慢心」について記せ

〔解答例〕

修練を重ね居合が上達してくると、おのずと自信がついてくる。自信をもつことにより平常心を保つことができ、いかなる場合にも確かな技前を発揮することができる。また、そこには気位も備わってくるものである。

しかし、行き過ぎた自信は慢心となり、修行の妨げとなる。このため、居合道の修行においては常に謙虚な気持ちで向上心を持ち続け、反省と工夫を怠らないことが肝要である。

3 居合道段位審査における五段以下の実技審査について「全日本剣道連盟居合（解説）」の「審判・審査上の着眼点」のうち、「特に留意すべき項目」について記せ

初段から三段までの特に留意すべき項目は①正しい着装と作法、②正確な抜付け、切付け、③正確な血振り・角度、④正確な納刀の4項目であり、四段及び五段では三段までの4項目に①心の落ち着き、②目付け、③気迫、④気・剣・体の一致の4項目を加えた8項目である。

4 「十本目・四方切り」「十一本目・総切り」「十二本目・抜き打ち」における「全日本剣道連盟居合審判・審査上の着眼点」について穴埋め問題を10項目出題する。

【杖　道】

初段の部

1　流祖、流名について記せ。

流祖は、夢想権之助勝吉、流名は、神道夢想流杖術である。

権之助は、寛永の頃の人と言われ、筑前の国（今の福岡県）宝満山に祈願参籠し、御神託を授かり、独自の杖術を創始されたのである。以来、今日まで永々として伝えられている。

2　形一本目「着杖」について解説せよ。

正面から切り下ろす太刀を、体を右斜め後ろにかわして左小手を打ち、さらに、退きながら上段に構えるその左小手を本手打する形である。

（打）

1　八相に構えてから間合に進み、右足を踏み出して正面を水平まで切り下す。
2　右足から退きながら左上段に構える。
3　右足から退きながら太刀を右脇下におろす。
4　左足を右足の後ろに退き、構えを解く。

（仕）

1　常の構えから右手を正面に伸ばし、すべらせて、杖尾を床につけて立て、杖先を握る。
2　右足から右斜め後ろに大きく退きながら体をかわし、右手を持ち替え腰にとり、左手で杖を握る。杖先を右に半円を描くように回すと同時に、左足から踏み出して左本手で左小手を打つ。
3　を両手いっぱいにとり、右足を踏み出し、左小手を本手打する。
4　杖先を顔面につけて残心を示す。
5　左手を後ろに引き、杖を両手いっぱいにとり、左手を肩の高さにし右手を右膝上につける。
6　右手を上から持ち替え、杖を右手の内にすべらせながら左足を右足に揃え、常の構えとなる

3　杖道を学ぶ目的とその効果について記せ。

杖道は精神の修養と身体の鍛錬を第一義とする。決して手足の技ではなく心の技で、その目的は精神修養にある。

杖道修練の効果は数多いが、主として次の5点をあげることができる。

1　礼儀、信義、誠実、忍耐等の精神が養われる。
2　身体を強健にし、活動を敏活にする。
3　姿勢態度がよくなる。
4　判断力、決断力が養われ、自信をもって事に当たれるようになる。
5　対人関係がよくなり、社会生活に必要な協調性が養われる。

二段の部

1　基本技の修得について記せ。

基本は、杖の操法の基礎となるものであって、これを修得することによって杖道形が自由かつ円滑に行われるようになるものである。

1　正しい姿勢と気位を高める。
2　間合がわかり、打突が確実となる。
3　動作が正確、機敏、活発となる。
4　個癖がなくなり、打筋が正しくなる。
5　目付け、眼が明らかとなり、気合が充実してくる。

2　形二本目「水月」について解説せよ。

太刀で正面を切りかかるところを、右斜め前に体をかわして水月を突き、さらに引落打する形である。

（打）

1　八相に構えて間合に進み、振りかぶりながら右足を踏み込み正面を切る。
2　右足から大きく退きながら八相に構える。
3　右足から踏み込み切り付けるように中段に構える。

4　太刀を右後方に打ち落とされると同時に右足から退く。
5　左足を右足に引きつけ、構えを解く。
（仕）
1　常の構えから右足を右斜め前に踏み出し、左足をわずかに移動させて体をかわしながら左手は腰にとり、右手は杖の中央を握ったままで水月を突く。
2　右足から後ろに退くと同時に杖を右後ろに引き、左手を杖先にかけ、右手を持ち替え引落に構える。
3　太刀を引落打すると同時に、右足から踏み出し「打」の顔面を攻める。
4　残心を示す。
5　左手を後ろに引き、右手を肩の高さにし、杖を両手いっぱいにとり、左手を肩の高さにし右手を右膝上につけ、右手を上から持ち替え、杖を右手の内に押し込みながら左足を右足に引きつけ、常の構えとなる。

3　杖道の稽古のあり方について述べよ。

稽古とは、古を稽えることであって、師の教えを忠実に守って、これを繰り返し繰返し修行し、正しい技を修得し体得することである。
稽古を行うためには、上達をする最も大切な条件がある。
「汗の出る分量だけ強くなる」といわれるが、時間の許す限り、精進の続く限り稽古することによって、技術が向上する。そして始めて杖道の目的である心身の練磨と人間性が、次第に養成されていくのであり、自分のためにも、社会貢献のためにも、充分肝に銘じて稽古に励まねばならない。

三段の部

1　杖の構え方について記せ。

構え方は、体勢を正しく相手を威圧する如く正々堂々の構えでなくてはならない。杖道における構え方は非常に多いが、その主なるものは、次の4つにわけられる。
1「常の構え」
自然体のまま右手で杖の中央を握り、右体側に軽くつけ、杖先をほぼ「へそ」の高さにし、両足を揃えて立つ。
2「本手の構え」
①右本手の構え
常の構えから、右手、右足を前に出し、左手で杖尾を握り、右手をすべらせて、全長のほぼ4分の1の手幅にとり、杖先を相手の目の高さにし、「やや半身」となって構える。
②左本手の構え
右本手の構えの左右逆となる。
3「逆手の構え」
①右逆手の構え
常の構えから、杖先を左手で逆に握り、右足を1歩踏み出すと同時に、右手は持ち替えることなく、杖尾を右後ろ上から回して前に出しつつ、右手をすべらせて、全長のほぼ4分の1の手幅にとり、杖先を相手の目の高さにし、「やや半身」となって構える。
②左逆手の構え
いったん右逆手に構えてから、左手を引いて杖を両手いっぱいにとり、左足を出すと同時に杖を左後ろ上から回して前に出しつつ、左手をすべらせて、全長のほぼ4分の1の手幅にとり、杖先を相手の目の高さとし、「やや半身」となって構える。
4「引落の構え」（右左）
①右引落の構え
常の構えから、左足を前に出すと同時に杖先に左手をかけ、左手親指の付け根を左乳部に軽くつけ、四指を揃えて上に伸ばし「真半身」となり、右手を順に持ち替え、杖を下から握る。
②左引落の構え
右本手の構えから、左親指をはずし、左手掌を返しながら杖を後ろ下に引落とし、右手を持ち替えて右乳部に右手親指の付け根を軽くつけ、四指を揃えて上に伸ばし真半身に構える。

2　形五本目「左貫」の理合いについて記せ。

太刀で水月を突いてくるのを、体を退きながら杖で受け流し、突外打の要領で、太刀を打ち、さらに引落打する形である。

3　杖道修練の心構えについて述べよ。

杖道は、精神の修養と心体鍛錬を目的とし、精神を根本とする心の技である。

この観点から、日常の心構えが大切である。

1　杖道は、一生が修行である。一時的に猛練習しても途中で中止するようでは効果がない。杖道を正しく真剣に学ばなければならない。

2　心身を錬磨して旺盛なる気力を養うことが大切である。

3　杖道の特性を通じて礼節をとうとび信義を重んじ誠を尽して常に自己の修養に努めること。

4　師の教えを守り、自ら稽古に励み、更に向上の道を求めなければならない。

5　国家社会を愛して広く人類の平和繁栄に寄与することである。

四段の部

1　太刀の構え方について記せ。

基本的なものとしては、次のような構えがある。

1　「中段の構え」

右足を前に、左拳はへそ前より約ひと握り前にして、左手親指の付け根の関節をへその高さにする。剣先の延長は、両眼の中央または左目とする。

（一足一刀の間合を前提とする）

2　「諸手左上段の構え」

中段の構えから左足を前に出し、左拳を左額の前方約ひと握りのところとし、剣先は約45度後ろ上方に向け、やや右に寄せる。

3　「諸手右上段の構え」

中段の構えから左拳を額の前上約ひと握りのところとし、剣先は45度上方に向け、正中線上とする。

4　「下段の構え」

中段の構えから、そのまま剣先を相手の膝頭より約3～6センチ下とする。

5　「八相の構え」

中段の構えから左足を出し、太刀を大きく諸手左上段に振りかぶる気持ちで構え、刃先は相手に向ける。

諸手左上段の構えから、そのまま右拳を右肩のあたりまで下ろした形で、太刀をとる位置は鍔を口の高さにし、口から約ひと握り離す。

左拳の位置はほぼ正中線上とし、刀身の傾きは後ろ上方約45度とする。

右足先はやや外側に向け、かかとが床に着かないように注意する。

6　「脇構え」

中段から右足を後ろに退きながら、太刀を右拳がおおむね口の高さを通るくらいに大きく右脇にとり、左半身となる。

右足先はやや外側に向け、かかとが床に着かないように注意する。

剣先は後ろに、刃先は右斜め下に向け、特に刀身が相手から見えないようにする。

左拳は、「へそ」の右斜め下約ひと握りのところにおく。この時、左手首は曲げない。

剣先は下段の構えより少し下げた位置にとる。

2　形八本目「太刀落」の理合いについて記せ。

中段に構えている「打」に対して、体をかわして頭部を打ち、ついで繰り付け、後退するところを返し突きし、さらに引落打する形である。

3　杖道上達の要点について述べよ。

武道の向上は、一にも二にも数多く練習をすることである。いかに理論だけかわしても、身体の運用が伴わなければ、上達するものではない。武道は、人が十回すれば、自分は百回するという信念のもとに、積極的に稽古に取り組まなければ上達しない。あわせて、良き指導者を師とし、基本を充分に練習し、しっかりした土台をつくり、理論と一つ一つの基本技がともなってはじめて進歩がはやまるものである。師や先輩の教えを守り、自ら鋭意の研究と工夫をもって、継続した稽古をすることが上達の秘訣と言えよう。

五段の部

1　掌中の働き（手の内）とその効果について記せ。

杖道には、打突と構えの杖の持ち方と力の入れ方が重要である。何れも、もっとも合理的状態において打突技の効果が最高度に発揮されるのである。即ち、両手の持ち方、力の入れ具合、打突時の両手の力関係が充分把握され、体の運用が自然である場合はじめて、打突の冴えがあらわれるのである。特に注意しなければならないことは、手先だけの打突ではなく、全身の力関係を集中して打突することである。

2　形十本「正眼」の理合いについて記せ。

「打」が柄に手をかけたところ、機先を制して水月を打ち、退くところの脾腹を突き、さらに水月を打つ形である。

3　指導者としての心構えについて述べよ。

指導者は、人の手本と言われるよう平素より自覚を持って努力精進しなければならない。指導者として重要な点を具体的に述べてみよう。

1　指導者は、自身の修行と人間性の向上をはかり、尊敬される人間にならなければならない。

2　権威と自信を持って忍耐強く、公平に和の精神をもって合理的な指導を行う。

3　実態を把握し、興味をもたせるには如何に導くかを念頭におき、魅力ある指導法を研究する。自主性を育て楽しく稽古ができる指導法を研究する。

4　基本訓練をおろそかにせず、技術の向上にしたがって、術理面も指導し、上達の喜びを味あわせるようにする。

5　常に道場の整備、武具の点検、健康管理等の危険防止に留意し、稽古内容にも安全を第一とし、事故のないよう心がける。

令和７年度 徳島県剣道連盟行事予定

県内行事						
月	日	曜日	行事		場所	主催
4	5	土	第1回少年強化訓練	9:00～	中央武道館	県剣連
	6	日	少年剣道指導者講習会	9:00～	中央武道館	〃
	12	土	四国四県高齢者剣道大会	10:00～	中央武道館	高齢剣友会
	13	日	令和7年度 総会	13:30～	アミノバリュー視聴覚室	県剣連
	19	土	第50回会長杯争奪高等学校剣道大会	9:00～	松茂総合体育館	高体連
	26	土	第80回国スポ予選	9:00～	中央武道館	県剣連
	29	火・祝	第1回審査会（剣道 初段以下）	9:00～	中央武道館他	〃
5	6	火・祝	中央伝達講習会	9:00～	中央武道館	県剣連
	10	土	第54回中学校剣道選手権大会	9:00～	那賀町ドモニアリーナ	中体連
	11	日	居合道春季講習会・第1回審査会	9:00～	松茂町第二体育館	県剣連
	17	土	第2回少年強化訓練	9:00～	中央武道館	〃
	25	日	第1回剣道 審査会（二段以上）	8:30～	松茂第二体育館	県剣連
			臨時理事会	16:00～	アミノバリュー視聴覚室	〃
	31	土	第65回徳島県高等学校総合体育大会	9:00～	松茂総合体育館	高体連
6	1	日	第65回徳島県高等学校総合体育大会	9:00～	松茂総合体育館	高体連
	7	土	第3回少年強化訓練	9:00～	ソイジョイ武道館	県剣連
	29	日	第49回中四国医科学生剣道大会	9:00～	徳大常三島	大学連
			第2回審査会（剣道 初段以下）	9:00～	ソイジョイ武道館他	県剣連
7	6	日	第4回徳島県少年剣道選手権大会	9:00～	ソイジョイ武道館	〃
	19～20	土～日	第79回徳島県中学校総合体育大会	9:00～	ソイジョイ武道館	中体連
	24～26	木～土	剣道連盟土用稽古	18:30～	中央武道館	県剣連
	27	日	居合道伝達講習会・第2回審査会	9:00～	松茂町第二体育館	〃
8	2～3	土～日	第63回四国中学校総合体育大会	9:00～	アミノバリューホール	中体連
	9	土	第4回少年強化訓練	9:00～	ソイジョイ武道館	県剣連
	10	日	第2回剣道審査会（二段以上・称号）	9:00～	ソイジョイ武道館	〃
	16～17	土～日	国スポ大会第46回四国ブロック大会	9:00～	ソイジョイ武道館	〃
	18	月	四国教職員剣道大会	9:00～	中央武道館	学剣連
	31	日	第73回全日本剣道選手権大会県予選会 第64回全日本女子剣道選手権大会県予選会	9:30～	中央武道館	県剣連
9	6	土	第5回少年強化訓練	9:00～	ソイジョイ武道館	県剣連
	14	日	第52回徳島県社会人剣道大会	9:30～	ソイジョイ武道館	〃
	20	土	授業協力者講習会	13:30～	ソイジョイ武道館	〃
	21	日	第3回審査会（剣道 初段以下）	9:00～	ソイジョイ武道館他	〃
	23	火・祝	長期育成強化訓練	9:00～	ソイジョイ武道館	〃
	27	土	第30回徳島県健康福祉祭剣道交流大会	9:00～	ソイジョイ武道館	高齢剣友会
10	4	土	第6回少年強化訓練	9:00～	ソイジョイ武道館	県剣連
	13	月・祝	剣道秋季講習会	9:00～	ソイジョイ武道館	〃
	18	土	第1回徳島県中学生新人剣道大会	9:00～	ソイジョイ武道館	中体連
	24	金	南部交流稽古会	19:00～	未定	〃
	25～26	土～日	杖道秋季講習会	9:00～	松茂第二体育館	県剣連
	26	日	第55回徳島県少年剣道錬成大会	9:00～	ソイジョイ武道館	〃
11	1	土	第7回少年強化訓練	9:00～	ソイジョイ武道館	県剣連
	7	金	西部交流稽古会	19:00～	脇町小学校体育館	〃
	8	土	第59回高等学校剣道選手権大会	9:00～	ソイジョイ武道館	高体連
	9	日	居合道秋季講習会・第3回審査会	9:00～	松茂第二体育館	県剣連
	15	土	第50回中学校新人剣道大会	9:00～	ソイジョイ武道館	中体連
	16	日	第3回剣道 審査会（二段以上）	9:00～	ソイジョイ武道館	県剣連
	22	土	第70回県高等学校新人大会兼全国選抜大会県予選会	9:00～	ソイジョイ武道館	高体連
	23	日	眉山杯大学剣道大会	9:00～	徳島文理大学	大学連
12	6	土	中四国地区剣道合同稽古会	14:00～	ソイジョイ武道館	全剣連後援
	7	日	第48回全国スポーツ少年団剣道交流大会県予選会	9:30～	ソイジョイ武道館	県スポーツ協会
	13	土	第8回少年強化訓練	9:00～	ソイジョイ武道館	県剣連
	14	日	令和6年度眉山ﾗｲｵﾝｽﾞｸﾗﾌﾞ少年剣道大会	9:00～	徳島市立体育館	眉山ﾗｲｵﾝｽﾞｸﾗﾌﾞ
1	4	日	令和8年 稽古始め	9:30～	徳島市立体育館	県剣連
	10	土	新年役員会、互礼会	13:30～	サンシャイン徳島	〃
	17	土	常任理事会	13:00～	アミノバリュー視聴覚室	〃
			第9回少年強化訓練	9:00～	ソイジョイ武道館	〃
	18	日	長期育成強化訓練	9:00～	ソイジョイ武道館	〃
	24	土	第35回県中学校剣道強化錬成大会	9:00～	ソイジョイ武道館	中体連
	25	日	第4回審査会（剣道 初段以下）	9:00～	ソイジョイ武道館	県剣連
	31	土	令和7年度四国高等学校剣道新人大会	9:00～	松茂総合体育館	四国高体連
2	1	日	令和7年度四国高等学校剣道新人大会	9:00～	松茂総合体育館	四国高体連
	7	土	第10回少年強化訓練	9:00～	ソイジョイ武道館	県剣連
	8	日	剣道四、五段受審者講習会	9:30～	中央武道館	〃
	12～14	木～土	剣道寒稽古	18:30～	中央武道館	〃
	15	日	第74回全日本都道府県対抗剣道優勝大会県予選会 第18回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会県予選会	9:30～	ソイジョイ武道館	〃
			県下居合道大会、第4回審査会	9:00～	松茂町第二体育館	〃
	21～22	土～日	第21回四国中学校新人剣道大会	9:00～	脇町うだつアリーナ	四国中体連
	23	月・祝	第4回剣道審査会（二段以上、称号）	9:00～	ソイジョイ武道館	県剣連
3	1	日	第44回女子剣道大会	9:30～	ソイジョイ武道館	県剣連
	7	土	第11回少年強化訓練	9:00～	ソイジョイ武道館	〃
	15	日	令和7年度 理事会	13:30～	アミノバリュー視聴覚室	〃
	14～15	土～日	春季錬成会	9:00～	阿南スポーツ総合センター	高体連
	22	日	令和7年度審査員・審判員講習会	9:30～	ソイジョイ武道館	県剣連

令和7年度 全剣連（主催・共催・後援）行事予定

月	日	曜日	≪全剣連 剣道審査会≫	場所	主催
4	29	火・祝	六段審査会	京都市	全剣連
	30	水	七段審査会		
5	1～2	木・金	八段審査会	京都市	全剣連
	6	火・祝	称号（範士・教士・錬士）		
	10	土	七段審査会	名古屋市	
	11	日	六段審査会		
8	2	土	七段審査会	福岡県	全剣連
	3	日	六段審査会		
	9～10	土・日	八段審査会	名古屋市	
	30	土	七段審査会	宮城県	
	31	日	六段審査会		
11	8	土	七段審査会	名古屋市	全剣連
	9	日	六段審査会		
	14	金	七段審査会	八王子市	
	15	土	六段審査会		
	20	木	称号（教士・錬士）	千代田区	
	20～21	木・金	八段審査会		
2	14	土	七段審査会	山梨県	全剣連
	15	日	六段審査会		
	28	土	六段審査会	福岡県	
3	1	日	七段審査会		

月	日	曜日	≪全剣連 居合道審査会≫	場所	主催
5	1	木	八段審査会	京都市	全剣連
	3	土・祝	称号（範士・教士・錬士）		
6	27	金	七・六段審査会	土浦市	
11	20	木	称号(教士・錬士)	東京都	
	29	土	八段審査会	東京都	
	30	日	七・六段審査会	東京都	
3	8	日	七・六段審査会	京都市	

月	日	曜日	≪全剣連 杖道審査会≫	場所	主催
5	3	土・祝	八段審査会	京都市	全剣連
			称号（範士・教士・錬士）		

月	日	曜日	≪県外行事≫	場所	主催
4	5～6	土～日	第60回中央講習会（剣道）	勝浦市	全剣連
	19	土	中四国合同稽古会(広島県)	福山市	〃
	20	日	第23回全日本選抜剣道八段優勝大会	名古屋市	〃
	29	火・祝	第73全日本都道府県対抗剣道優勝大会	和歌山市	〃
5	2～5	金～月	全日本剣道演武大会	京都市	全剣連
	10～11	土～日	第30回剣道女子審判研修会	静岡市	〃
	18	日	四国四県剣道大会	香川県	四国剣連
	24～25	土～日	第18回女子剣道指導法講習会	静岡市	全剣連
6	2	月	第45回全日本高齢者武道大会	東京都	後援 全剣連
	6～8	金～日	第63回 中堅剣士講習会	奈良市	全剣連
	8	日	第63回西日本勤労者剣道大会	高知市	後援 全剣連
	13～15	金～日	四国高等学校選手権大会	愛媛県	全剣連
	21	土	中四国合同稽古会（愛媛県）	松山市	後援 全剣連
	28～29	土～日	居合道 第52回中央講習会・地区講習会	土浦市	全剣連
7	5	土	中四国合同稽古会（岡山県）	岡山市	後援 全剣連
	5～6	土・日	剣道指導者育成東西研修会(西日本)	山口県	全剣連
	5～6	土・日	居合道 第52回中央講習会・地区講習会	福山市	〃
	13	日	第17回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会	日本武道館	〃
	19～20	土・日	剣道審判法東西研修会(西日本)	奈良県	〃
	26～27	土～日	令和7年度全日本少年少女武道(剣道)錬成大会	千代田区	全剣連共催
8	1	金	第67回全国教職員剣道大会	小牧市	全剣連共催
	7～10	木～日	第72回全国高等学校剣道大会(総合体育大会)	広島県	〃
	23～25	土～月	第55回全国中学剣道大会(総合体育大会)	宮崎県	〃
9	6	土	中四国合同稽古会（香川県）	高松市	後援 全剣連
	7	日	第71回全日本東西対抗剣道大会	石川県	全剣連
	14	日	第20回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会	おおきにアリーナ	後援 全剣連
	29～30	月・火	第79回国民スポーツ大会剣道競技会	滋賀県	主管 全剣連
10	1	水	第79回国民スポーツ大会剣道競技会	滋賀県	主管 全剣連
	11	土	中四国合同稽古会（広島県）	広島市	後援 全剣連
	11	土	第60回全日本居合道大会	東京都	〃
	18～20	金～日	第37回全国健康福祉祭剣道交流大会	岐阜県関市	全剣連後援
11	3	月・祝	第73回全日本剣道選手権大会	東京都	全剣連
			第64回全日本女子剣道選手権大会		
	8～9	土～日	第73回全国青年剣道大会	足立区	全剣連共催
	14～16	金～日	全国剣道指導者研修会(西日本ブロック)	福岡県	全剣連
1	31	土	中四国合同稽古会（岡山県）	岡山市	後援 全剣連
3	8	土	中四国稽古会（高知県）	高知市	後援 全剣連
	26～28	木～土	第35回全国高等学校剣道選抜大会	春日井市	全剣連共催
	27～29	土～月	第48回全国スポーツ少年団剣道交流大会	富山県	〃

☆徳島県剣道連盟 稽古会 《中央武道館》
木曜日 19：00～19：30(基本稽古)
19：30～20：30(地稽古)
毎月第１木曜日 19：00～19：30（日本剣道形）
19：30～20：30（地稽古）
※稽古会休みのお問い合わせは、事務局またはホームページでご確認下さい。

徳島県剣道連盟（執務時間 平日午前10時～午後4時）
（休業日 火、土、日、祝日）
〒770-0861 徳島市住吉3丁目9-6 栗本ﾏﾝｼｮﾝ106号
TEL 088-652-2337・FAX 088-652-2360

令和7年度　審査会実施計画表

【 剣　道 】

＊　初　段　以　下

審 査 日		4月29日(祝火)	6月29日(日)	9月21日(日)	1月25日(日)	初段以下審査会の申込先 (西部の申込先が変更になりました)
申込期日		4月15日(火)	6月 15日(日)	9月7日(日)	1月11日(日)	
審査会場	中部	中央武道館 (徳島支部担当)	ｿｲｼﾞｮｲ武道館 (鳴門支部担当)	ｿｲｼﾞｮｲ武道館 (板野東支部担当)	ｿｲｼﾞｮｲ武道館 ＊申込は剣道連盟事務局まで	〒770-0861　徳島市住吉3丁目9-6　栗本ﾏﾝｼｮﾝ106 徳島県剣道連盟　事務局　宛　TEL　088-652-2337
	西部	土成農業者 ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞｾﾝﾀｰ	美郷ふるさと ｾﾝﾀｰ体育館	三野体育館		〒771-1701　阿波市阿波町字大原93-1 安田　勝裕　宛　TEL　090-7577-7738
	南部	阿南市武道館	小松島武道館	美波町日和佐 総合体育館		〒774-0021　阿南津乃峰郵便局　留 馬見 和秀　宛 [阿南市新野町宮ノ北13]　TEL　090-5143-9890

＊　二　段　以　上

審 査 日	5月25日(日)	8月10日(日)	11月16日(日)	2月23日(祝月)	二段以上審査会の申込先
申込期日	5月11日(日)	7月27日(日)	11月2日(日)	2月9日(月)	
審査種目	二～五段	二～五段・称号	二～五段	二～五段・称号	〒770-0861　徳島市住吉3丁目9-6　栗本ﾏﾝｼｮﾝ106
審査会場	松茂第二体育館	ｿｲｼﾞｮｲ武道館	ｿｲｼﾞｮｲ武道館	ｿｲｼﾞｮｲ武道館	徳島県剣道連盟事務局　宛 TEL　088-652-2337
◇ 四・五段講習会		2月8日(日)	9:30～15:00	中央武道館	・携行品 … 剣道具・木刀・筆記用具・受講料　1,000円

※ 称号・四・五段受審者の講習会について

① 四・五段受審予定者は、「四・五段講習会」または伝達講習会(5月)、剣道秋季講習会(10月)のいずれかを受講すること。
受講から1年以内に2回の審査を受審できるものとする。

② 全剣連の称号受審者は、伝達講習会(5月)または、剣道秋季講習会(10月)を受講のうえ1年以内に上記称号推薦選考会を受ける

【 剣　道 】 初段以下審査会

	中　央	西部・南部
開　場	8:30	9:00
審査受付	8:40～9:10	9:10～9:40
受審者稽古	8:40～9:30	9:10～9:50
開 会 式	9:40～	10:00～

10:10～ 学科審査（初段）
木刀による基本稽古法(3級～1級)、実技審査
日本剣道形審査(初段)を順次行う

木刀による基本稽古法	3級	1本～4本まで
	2級	1本～6本まで
	1級	1本～9本まで
日本剣道形	初段	1本目～3本目

【 剣　道 】 二段以上審査会

開　場	8:30～
審査受付	8:40～9:10
受審者稽古	8:40～9:30
開会式	9:40～

＊開会式終了後、学科・実技・形の順で審査を行う

日本剣道形	二段	1本目～5本目
	三段	1本目～7本目
	四段	1本目～7本目 小太刀　3本
	五段	
	称号	

【 居合道 】

審査日	5月11日(日)	7月27日(日)	11月9日(日)	2月15日(日)
申込期日	4月27日(日)	7月 13日(日)	10月26日(日)	2月1日(日)
審査種目	級・段	級・段・称号	級・段	級・段・称号
講習会他	春季講習会	伝達講習会	秋季講習会	居合道県下大会
審査会場	松茂第二体育館	松茂第二体育館	松茂第二体育館	松茂第二体育館

申　込　先

〒772-0014　鳴門市撫養町弁財天字派名34-31
居合道部会事務局　満壽　良史　宛
TEL　090-9778-2350

【 杖　道 】

審 査 日	8月　予定
申込期日	杖道部会事務局の指定日
審査種目	初段　～　五段
審査会場	愛媛県剣道連盟 杖道審査会場

申　込　先

〒770-8070　徳島市八万町馬場山43-2
杖道部会事務局　米倉　武志　宛
TEL 088-668-6650

【 審査申込み時の注意 】

① 審査申込書の全ての項目を正確に記入すること。(この申込書は全剣連への登録に必要となります)

② 審査申込書の「申込責任者」欄は次に記載する責任者の署名・捺印とする。

所 属 場 所	申 込 責 任 者
小　学　生	所属する道場・教室・クラブ等の代表者
中学生・高校生	学校の部活動顧問または、所属する道場・教室・クラブの責任者
大学生(県内大学に在籍)	大学剣道部の責任者
大学生(県外大学に在籍)	所属支部の支部長
剣道連盟会員	所属支部の支部長

③ 現級・段位を徳島県以外で取得した場合、申込時に段位証明書又は証書のコピーを添付すること。

④ 審査申込期日（上記一覧表）までに、各申込先へ審査料を添えて申し込むこと。

⑤ 徳島県剣道連盟の審査会を初めて受審する場合、審査料と合わせて初回手数料(1,000円)を納入すること。

⑥ 申込締め切り後においては、審査会欠席時の審査料の返金は行わないものとする。

⑦ 申込書を郵送または、事務局郵便受けに直接投函した場合は、申込書が届いているか必ず確認すること。

徳島県剣道連盟　審査資格

令和７年４月１日改定

級・段位	資格
６～８級	小学１年～３年生は、認定により技倆相当の級位を与える。
５　級	小学４年生以上は、５級より受審できる。
４　級	中学生以上は、４級より受審できる。
３　級	高校生（相当年齢）以上は、３級より受審できる。
２　級	３級受有者で小学５年生以上を受審資格とする。
１　級	２級受有者で小学６年生以上を受審資格とする。 大学生、一般（大学生相当年齢以上）は1級より受審できる。 居合道・杖道受審者の大学生・一般（大学生相当年齢以上）は、１級を認定とする。
初　段	１級受有者で、13歳以上（審査日基準）を受審資格とする。
二　段	初段受有後、１年以上修業した者。
三　段	二段受有後、２年以上修業した者。
四　段	三段受有後、３年以上修業した者。指定講習会を受講済みであること。
五　段	四段受有後、４年以上修業した者。指定講習会を受講済みであること。 社会体育指導者資格初級の認定を受けた者については、五段の学科審査を免除するものとする。
六　段	五段受有後、５年以上修業した者。**ただし、65歳以上の者は五段受有後、２年で受審可能。**
七　段	六段受有後、６年以上修業した者。**ただし、65歳以上の者は六段受有後、３年で受審可能。**
八　段	七段受有後、10年以上修業し、かつ、満46歳以上である者。**ただし、65歳以上の者は七段受有後、５年で受審可能。**
錬　士	六段取得日より１年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
教　士	七段取得日より２年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。

審査料・登録料（消費税含）一覧表

令和７年４月１日現在　　〈単位＝円〉

	初回手数料	審査料（消費税10%含）	再審査料	登録料（消費税10%含）
３級以下	1,000	1,000	──	2,500
２　級	〃	1,500	──	3,500
１　級	〃	2,000	──	3,500
初　段	〃	3,000	3,000	6,950
二　段	〃	4,000	4,000	9,120
三　段	〃	5,000	5,000	12,390
四　段	〃	6,000	6,000	17,820
五　段	〃	8,000	8,000	23,280
六　段	〃	11,000	──	46,000
七　段	〃	15,400	──	57,000
八　段	〃	19,800	──	79,000
錬　士	〃	18,700	──	46,000
教　士	〃	27,500	──	79,000
範　士	〃	──	──	167,000

令和６年(2024)はこんな年でした

徳島新聞 12/27・28より

2024年 十大ニュース 国内

1. 衆院選で自民・公明連立与党が過半数割れ
2. 能登で震度7、死者500人超える、豪雨被害も
3. 被団協にノーベル平和賞、核威嚇に「憤り」
4. 裏金で引責、首相が岸田氏から石破氏へ
5. 袴田巌さん再審無罪、検察控訴せず確定
6. 斎藤兵庫県知事、告発文書問題で失職も再選
7. 初の「南海トラフ地震臨時情報」発表
8. 日銀がマイナス金利解除、17年ぶり利上げ
9. 「闇バイト」事件相次ぐ、仮装身分捜査へ
10. 羽田で日航機と衝突、海保機の５人死亡

次点 37年ぶり円安161円台、政府・日銀が為替介入

番外 ホンダと日産、経営統合へ

2024年 十大ニュース 国際

1. 米大統領選、有罪評決のトランプ氏圧勝
2. ガザの戦闘続く、死者4万人超、レバノンへも戦火拡大
3. 大リーグ・大谷翔平が史上初の50−50、3度目のMVP
4. ウクライナ侵攻が1000日に、米欧はロシア領攻撃容認
5. 口朝が相互支援条約、ウクライナ侵攻で北朝鮮が派兵
6. トランプ氏暗殺未遂、続く分断と暴力
7. パリ五輪・パラリンピック
8. バイデン氏が異例の大統領選撤退、民主党はハリス氏に
9. イスラエル、イランが初の直接攻撃
10. 中国で日本人学校の児童刺殺

次点 英14年ぶりに労働党政権

番外

1. 非常戒厳で尹錫悦韓国大統領を弾劾訴追
2. 内戦のシリアでアサド政権が崩壊

2024年 読者が選んだ
県内10大ニュース

上位投票結果	（票数）
①四国で大規模停電、県内11万戸超に被害	277
②徳島市長選で遠藤氏返り咲き	263
③初の南海トラフ地震臨時情報	257
④最低賃金、徳島84円増980円	256
⑤流通量不足でコメ高騰、品薄に	240
⑥記録的猛暑で徳島市８月平均気温初の30度超	210
⑦新ホール藍場浜整備で知事と徳島市長合意	206
⑧衆院選で仁木、山口、高橋の３氏が当選	188
⑨徳島阿波おどり空港に初の国際定期便就航	177
⑩阿南光が選抜大会で８強	155
⑪県立校タブレット端末、故障率５割超	152
⑫日航機炎上、Ｕターンラッシュ直撃	142
⑬県立近代美術館所蔵作品、贋作家「私が描いた」	96
⑭プロ野球ドラフト、過去最多９選手指名	89
⑮小松島航空基地の海自ヘリ墜落事故	88
⑯大鳴門橋で自転車道起工式	74
⑰マチ★アソビ、春開催見送り	70
⑱内藤徳島市長、再選出馬断念	65
⑲サイバー攻撃で県民情報14・4万件流出	61
⑳ＪＡ徳島県が発足、県内５ＪＡに	59

徳島新聞　令和６年12月29日

編集後記

本誌初校が上がり、校正作業を進めていた三月末にうれしい知らせが届き、誌面の大幅変更となった。本県代表チームが大分県で開催されていた全国スポーツ少年団剣道交流大会（三月二十八日～三十日）で見事に団体優勝を成し遂げた。少年の徳島県代表チームが全国大会で団体優勝するのは、平成四年と平成十九年の全国中学校剣道大会での女子団体優勝・那賀川中学校以来である。また、小学生での全国優勝は徳島県初の快挙である。選手の努力とチームワーク、さらに河田清実監督（教士八段）の指導力の賜であろう。これに続く、多くの徳島県代表選手の奮起を大いに期待したいところである。

本年度からの全剣連における大きな変更点として、六十五歳以上の昇段審査（六段以上）修業期間の短縮が行われる（詳細はP299）。高齢者の剣道・居合道・杖道昇段審査への活性化がなされ、これまで以上に高齢者剣道・居合道・杖道の発展につながるものと思われる。時流を見通した全剣連の英断であり、本誌「徳島の剣道」にもさらに多くの合格手記が寄せられるであろう。

『徳島の剣道』第四十一号

編集委員会

木原資裕　藤川和秋　三木毅一　西谷肇　米倉滋　一村昌和　福多雅英　白木洋一　平野誠司　玉田晋作　中村稔裕　木下裕康　満壽良史　青木茂生　別宮憲治　谷口順二　網本誠司

『徳島の剣道』第41号

令和７年６月１日発行

編集・発行　徳島県剣道連盟

代表者　藤　川　和　秋

〒770-0861　徳島市住吉三丁目9-6
栗本マンション106号室
TEL 088－652－2337
FAX 088－652－2360